国文学演習 I（古代） a ・ b

久保朝孝

【授業の概要】
平安時代の日記文学作品『かげろふ日記』を輪読する。

【授業の目標】
古代文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成する。

【授業計画】
a　毎回、以下の手順に従って『かげろふ日記』を精読する。
第一回　　テキスト55頁<上巻>
第二回　　テキスト56頁
第三回　　テキスト57頁
第四回　　テキスト58頁
第五回　　テキスト59頁
第六回　　テキスト60頁
第七回　　テキスト61頁
第八回　　テキスト62頁
第九回　　テキスト63頁
第十回　　テキスト64頁
第十一回　テキスト65頁
第十二回　テキスト66頁

b　毎回、以下の手順に従って『かげろふ日記』を精読する。
第一回　　テキスト67頁
第二回　　テキスト68頁
第三回　　テキスト69頁
第四回　　テキスト70頁
第五回　　テキスト71頁
第六回　　テキスト72頁
第七回　　テキスト1頁（以下中巻）
第八回　　テキスト2頁
第九回　　テキスト3頁
第十回　　テキスト4頁
第十一回　テキスト5頁
第十二回　テキスト6頁

【評価方法】
出席状況、担当範囲についての研究発表（半期に三回程度）、授業中の発言（質問・批判等）、そして課題レポート等を総合して評価する。

【テキスト】
笠間影印叢刊『桂宮本蜻蛉日記<上>（宮内庁書陵部蔵）』（笠間書院）

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

国文学演習 II（中世） a ・ b

岩下紀之

【授業の概要】
中世文学研究に必要な大学院レベルでの写本解読能力を育成する。

【授業の目標】
『賦物連歌』を講読する。

【授業計画】
出席者に調査発表を課する（前期範囲）。
第一回　第一句から第七句
第二回　第八句から第十四句
第三回　第十五句から第二十一句
第四回　第二十二句から第二十八句
第五回　第二十九句から第三十五句
第六回　第三十六句から第四十二句
第七回　第四十三句から第四十九句
第八回　第五十句から第五十六句
第九回　第五十七句から第六十三句
第十回　第六十四句から第七十句
第十一回　第七十一句から第七十七句
第十二回　第七十八句から第八十四句
第十三回　第八十五句から第九十一句
第十四回　第九十二句から第九十八句
第十五回　第九十九句から第百五句

出席者に調査発表を課する（後期範囲）。
第一回　第一句から第七句
第二回　第八句から第十四句
第三回　第十五句から第二十一句
第四回　第二十二句から第二十八句
第五回　第二十九句から第三十五句
第六回　第三十六句から第四十二句
第七回　第四十三句から第四十九句
第八回　第五十句から第五十六句
第九回　第五十七句から第六十三句
第十回　第六十四句から第七十句
第十一回　第七十一句から第七十七句
第十二回　第七十八句から第八十四句
第十三回　第八十五句から第九十一句
第十四回　第九十二句から第九十八句
第十五回　第九十九句から第百五句

【評価方法】
宮内庁書陵部蔵本を用いる

【テキスト】
適宜、授業中に指示する。

【参考文献・資料】
発表の成果による。

国文学演習 III（近世） a ・ b

阿部一彦

【授業の概要】
『世間胸算用』を影印本で解読し、鑑賞して行く。

【授業の目標】
近世文学の研究能力を養成するとともに、教員としての調査・研究・発表能力を高める。

【授業計画】
第一回　西鶴の文学的生涯について（俳諧師時代概説）
第二回　巻一の一「問屋の寛活女」（1）
第三回　巻一の一「問屋の寛活女」（2）
第三回　巻一の二「長刀は昔の鞘」（1）
第四回　巻一の二「長刀は昔の鞘」（2）
第五回　巻一の三「伊勢海老は春紅葉」（1）
第六回　巻一の三「伊勢海老は春紅葉」（2）
第七回　巻一の四「芸鼠の文づかい」（1）
第八回　巻一の四「芸鼠の文づかい」（2）
第九回　巻二の一「銀壱匁の講中」
第十回　巻二の二「うそも只はきかぬ宿」（1）
第十一回　巻二の二「うそも只はきかぬ宿」（2）
第十二回　各自の研究テーマについての発表（1）
第十三回　各自の研究テーマについての発表（2）
第十四回　各自の研究テーマについての発表（3）

第一回　西鶴の文学的生涯について（浮世草子時代）概説
第二回　巻二の三「もっとも始末の意見」（1）
第三回　巻二の三「もっとも始末の意見」（2）
第四回　巻二の四「門松も皆かりの世」（1）
第五回　巻二の四「門松も皆かりの世」（2）
第六回　巻三の一「都の顔見世芝居」（1）
第七回　巻三の一「都の顔見世芝居」（2）
第八回　巻三の二「餅ばなは年の内の詠め」（1）
第九回　巻三の二「餅ばなは年の内の詠め」（2）
第十回　巻三の三「小判は寝姿の夢」（1）
第十一回　巻三の三「小判は寝姿の夢」（2）
第十二回　『世間胸算用』の研究史と論点（報告と討論）（1）
第十三回　『世間胸算用』の研究史と論点（報告と討論）（2）
第十四回　『世間胸算用』の研究史と論点（報告と討論）（3）

【評価方法】
出席・発表とレポートによる。

【テキスト】
影印本　『世間胸算用』（興津要編著・おうふう）

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

国文学演習 IV（近代） a ・ b

小倉 斉

【授業の概要】
〈物語の変容と行方〉
近代日本の怪談・奇談の系譜をたどることを通して、近代における「物語」の変容を考察する。基本的な観点は、「近代（モダン）」を「プレ・モダン」の側から眺めることにあり、眺めるわれわれは「ポスト・モダン」の立場に立っているということにも意識的・自覚的でありたい。そのために、テキストとして『怪談牡丹燈籠』『夜窓鬼談』『ねむり姫』『倫敦塔』『高野聖』『夜啼きの森』などを取り上げて輪読する。

【授業の目標】
近代日本における「物語」の変容の行方について考察するとともに、物語分析の方法を実践的に身につける。

【授業計画】
〈前期〉
第１回　序章
第２回　<牡丹燈籠>物語の系譜と三遊亭圓朝の「近代」（1）
第３回　<牡丹燈籠>物語の系譜と三遊亭圓朝の「近代」（2）
第４回　<牡丹燈籠>物語の系譜と三遊亭圓朝の「近代」（3）
第５回　「神経」の成立（1）
第６回　「神経」の成立（2）
第７回　「神経」の成立（3）
第８回　ラフカディオ・ハーンの「物語」（1）
第９回　ラフカディオ・ハーンの「物語」（2）
第10回　ラフカディオ・ハーンの「物語」（3）
第11回　「夜窓鬼談」の世界（1）
第12回　「夜窓鬼談」の世界（2）
第13回　「夜窓鬼談」の世界（3）
第14回　「夜窓鬼談」の継承者たち―田中貢太郎・澁澤龍彦―（1）
第15回　「夜窓鬼談」の継承者たち―田中貢太郎・澁澤龍彦―（2）
〈後期〉
第１回　怪異譚の時空間―漱石・科学・時間―（1）
第２回　怪異譚の時空間―漱石・科学・時間―（2）
第３回　怪異譚の時空間―漱石・科学・時間―（3）
第４回　妖異の絵図―泉鏡花の物語世界―（1）
第５回　妖異の絵図―泉鏡花の物語世界―（2）
第６回　妖異の絵図―泉鏡花の物語世界―（3）
第７回　幸田露伴と怪談（1）
第８回　幸田露伴と怪談（2）
第９回　幸田露伴と怪談（3）
第10回　芥川龍之介と怪談（1）
第11回　芥川龍之介と怪談（2）
第12回　現代のホラー小説ブームの意味（1）
第13回　現代のホラー小説ブームの意味（2）
第14回　日本的近代と「物語」（1）
第15回　日本的近代と「物語」（2）

【評価方法】
レポート、授業への参加状況、レジュメの内容、発表の様子などを総合して評価する。

【テキスト】
〈前期〉：怪談牡丹燈籠（三遊亭圓朝　岩波文庫）、怪談・奇談（小泉八雲　講談社学術文庫）、夜窓鬼談（石川鴻斎著　小倉斉・高柴慎治訳註　春風社）、田中貢太郎　日本怪談事典（東雅夫編　学研M文庫）、日本怪談大全　Ⅱ・幽霊の館（田中貢太郎　国書刊行会）、ねむり姫（澁澤龍彦　福武文庫）
〈後期〉：倫敦塔・幻影の盾（夏目漱石　岩波文庫）、高野聖・眉かくしの霊（泉鏡花　集英社文庫）、鏡花短編集（泉鏡花　岩波文庫）、観画談・怪談・土偶木偶（幸田露伴　プリント）、妖婆アグニの神（芥川龍之介　プリント）、夜啼きの森（岩井志麻子　角川ホラー文庫）

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

国文学演習 V（現代） a ・ b

都築久義

【授業の概要】
現代作家の著名な作品を毎回取りあげて輪読する。現代文学史的に重要な作品や履修者の研究テーマの周辺の作家を取りあげる。

【授業の目標】
現代文学の研究能力を実践的に身につける。特に資料調査能力や作家・作品に対する自己の見解が持てる能力を修得する。

【授業計画】
履修者の発表、出席者の質疑、討議を中心に授業を展開する。
毎時間ごとに発表者を予め決め、発表要旨、関連資料などを用意させる。取りあげる作品は年度によって異なるが、次の作家を一人につき、二～三回授業をする。
第一回　夏目漱石（1）
第二回　夏目漱石（2）
第三回　夏目漱石（3）
第四回　島崎藤村（1）
第五回　島崎藤村（2）
第六回　島崎藤村（3）
第七回　志賀直哉（1）
第八回　志賀直哉（2）
第九回　志賀直哉（3）
第十回　谷崎潤一郎（1）
第十一回　谷崎潤一郎（2）
第十二回　谷崎潤一郎（3）
第十三回　芥川龍之介（1）
第十四回　芥川龍之介（2）
第十五回　芥川龍之介（3）

履修者の発表、出席者の質疑、討議を中心に授業を展開する。
毎時間ごとに発表者を予め決め、発表要旨、関連資料などを用意させる。取りあげる作品は年度によって異なるが、次の作家を一人につき、二～三回授業をする。
第一回　川端康成（1）
第二回　川端康成（2）
第三回　川端康成（3）
第四回　横光利一（1）
第五回　横光利一（2）
第六回　横光利一（3）
第七回　太宰治（1）
第八回　太宰治（2）
第九回　太宰治（3）
第十回　三島由紀夫（1）
第十一回　三島由紀夫（2）
第十二回　三島由紀夫（3）
第十三回　女性作家（1）
第十四回　女性作家（2）
第十五回　女性作家（3）

【評価方法】
授業への出席状況、研究発表の内容、質疑応答における発言状況などを総合的に評価する。

【テキスト】
年度初めに、取りあげる作品を決めてテキストとする。

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

国文学演習 VI（日中比較） a ・ b

寺尾 剛

【授業の概要】
日本文学が中国文学をどのように消化・摂取しつつ新たな文学を作り上げていったのか、その具体的様相について、古典文学を中心に中国文学の側から考察する。

【授業の目標】
漢文読解能力、資料調査能力の向上。和漢比較の視点に立った研究法の育成。

【授業計画】
『史記』『漢書』『白氏文集』『蒙求』『貞観政要』などの中国漢文、『菅家文草』『本朝文粋』『和漢朗詠集』などによる。
第一回　日本における漢籍受容史（1）
第二回　日本における漢籍受容史（2）
第三回　日本における漢籍受容史（3）
第四回　『史記』とその受容（1）
第五回　『史記』とその受容（2）
第六回　『史記』とその受容（3）
第七回　『漢書』『三国志』とその受容（1）
第八回　『漢書』『三国志』とその受容（2）
第九回　『漢書』『三国志』とその受容（3）
第十回　『蒙求』『千字文』とその受容（1）
第十一回　『蒙求』『千字文』とその受容（2）
第十二回　『蒙求』『千字文』とその受容（3）
第十三回　『白氏文集』とその受容（1）
第十四回　『白氏文集』とその受容（2）
第十五回　『白氏文集』とその受容（3）

『史記』『漢書』『白氏文集』『蒙求』『貞観政要』などの中国漢文、『菅家文草』『本朝文粋』『和漢朗詠集』などによる。
第一回　日本漢文史の流れ（1）
第二回　日本漢文史の流れ（2）
第三回　日本漢文史の流れ（3）
第四回　上古から平安時代の漢文・漢詩（1）
第五回　上古から平安時代の漢文・漢詩（2）
第六回　上古から平安時代の漢文・漢詩（3）
第七回　中世における漢文・漢詩（1）
第八回　中世における漢文・漢詩（2）
第九回　中世における漢文・漢詩（3）
第十回　江戸時代の漢文・漢詩（1）
第十一回　江戸時代の漢文・漢詩（2）
第十二回　江戸時代の漢文・漢詩（3）
第十三回　明治時代の漢文・漢詩（1）
第十四回　明治時代の漢文・漢詩（2）
第十五回　明治時代の漢文・漢詩（3）

【評価方法】
出席状況、発表内容及びレポートによって総合的に判断、評価する。

【テキスト】
プリント

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

国語学演習 a ・ b

増井典夫

【授業の概要】
近代日本語研究のありかたを考える。まずは「国語」と「日本語」の問題を考える所から始めていく。

【授業の目標】
日本語研究の水準をよく理解する。

【授業計画】
第一回～第十五回　講義及び出席者の調査発表で進める。
第一回　ガイダンス
第二回　＜「国語」を話すということ＞1
第三回　＜「国語」を話すということ＞2
第四回　＜「国語」のつくり方＞1
第五回　＜「国語」のつくり方＞2
第六回　＜「国語国字問題」とナショナリズム＞1
第七回　＜「国語国字問題」とナショナリズム＞2
第八回　＜「国語」と国語学＞1
第九回　＜「国語」と国語学＞2
第十回　＜植民地にとっての「国語」＞1
第十一回　＜植民地にとっての「国語」＞2
第十二回　＜「国語」と「日本語」のあいだ＞1
第十三回　＜「国語」と「日本語」のあいだ＞2
第十四回　＜「日本語」の誕生＞1
第十五回　＜「日本語」の誕生＞2

第一回～第十五回　講義及び出席者の調査発表で進める。
第一回　＜国語学についての概説＞
第二回　＜「日本語」の普及＞1
第三回　＜「日本語」の普及＞2
第四回　＜「国語」と「日本語」の衝突＞1
第五回　＜「国語」と「日本語」の衝突＞2
第六回　＜日本語学の登場＞1
第七回　＜日本語学の登場＞2
第八回　＜国語学の退場＞1
第九回　＜国語学の退場＞2
第十回　＜日本語学の隆盛＞1
第十一回　＜日本語学の隆盛＞2
第十二回　＜新たな「国語」の構築＞1
第十三回　＜新たな「国語」の構築＞2
第十四回　＜回帰する「国語」＞1
第十五回　＜回帰する「国語」＞2

【評価方法】
授業への参加態度、提出物の内容等によって総合的に評価。

【テキスト】
「国語」の近代史（安田敏朗・中公新書）

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

国文学特講 I（古代） a ・ b

久保朝孝

【授業の概要】
平安時代の物語文学作品『大和物語』を輪読する。

【授業の目標】
古代文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成する。

【授業計画】
a　毎回、以下の手順に従って『大和物語』を精読する。
第一回　第七十段～第七十一段
第二回　第七十二段～第七十五段
第三回　第七十六段～第七十八段
第四回　第七十九段～第八十二段
第五回　第八十三段～第八十五段
第六回　第八十六段～第八十八段
第七回　第八十九段
第八回　第九十段～第九十二段
第九回　第九十三段～第九十四段
第十回　第九十五段～第九十七段
第十一回　第九十八段～第百段
第十二回　第百一段～第百二段

b　毎回、以下の手順に従って『大和物語』を精読する。
第一回　第百三段①
第二回　第百三段②
第三回　第百四段～第百五段
第四回　第百六段
第五回　第百七段～第百十段
第六回　第百十一段～第百十三段
第七回　第百十四段～第百十七段
第八回　第百十八段～第百十九段
第九回　第百二十段～第百二十一段
第十回　第百二十二段～第百二十四段
第十一回　第百二十五段
第十二回　第百二十六段～第百二十八段

【評価方法】
出席状況、担当範囲についての研究発表（半期に三回程度）、授業中の発言（質問・批判等）、そして課題レポート等を総合して評価する。

【テキスト】
新編日本古典文学全集　大和物語・平中物語・竹取物語・伊勢物語（小学館）

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

国文学特講 II（中世） a ・ b

岩下紀之

【授業の概要】
中世文学の研究能力を養成する。

【授業の目標】
『雨夜の記』を講読する。

【授業計画】
出席者に調査発表を課する。
第一回　第一丁表裏
第二回　第二丁表裏
第三回　第三丁表裏
第四回　第四丁表裏
第五回　第五丁表裏
第六回　第六丁表裏
第七回　第七丁表裏
第八回　第八丁表裏
第九回　第九丁表裏
第十回　第十丁表裏
第十一回　第十一丁表裏
第十二回　第十二丁表裏
第十三回　第十三丁表裏
第十四回　第十四丁表裏
第十五回　第十五丁表裏

【評価方法】
版本を用いる

【テキスト】
適宜、授業中に指示する。

【参考文献・資料】
発表の成果による。

国文学特講 III（近世） a ・ b

阿部一彦

【授業の概要】
『連句文芸の流れ』を使用し、以下の授業計画に従って、「連句文芸」の変遷と本質について学んで行く。

【授業の目標】
近世文学の研究能力を養成するとともに、教員としての調査・研究・発表能力を高める。

【授業計画】
第一回　連歌の発生（1）
第二回　連歌の発生（2）
第三回　短連歌から長連歌へ（1）
第四回　短連歌から長連歌へ（2）
第五回　初期の長連歌（1）
第六回　初期の長連歌（2）
第七回　地下の連歌（1）
第八回　地下の連歌（2）
第九回　つくば集から新撰つくば集へ（1）
第十回　つくば集から新撰つくば集へ（2）
第十一回　室町俳諧（1）
第十二回　室町俳諧（2）
第十三回　芭蕉七部集『猿蓑』の解釈と鑑賞（1）
第十四回　芭蕉七部集『猿蓑』の解釈と鑑賞（2）

第一回　連歌の固定（1）
第二回　連歌の固定（2）
第三回　貞門俳諧（1）
第四回　貞門俳諧（2）
第五回　守武流の流行（1）
第六回　守武流の流行（2）
第七回　漢詩文調の流行と芭蕉（1）
第八回　漢詩文調の流行と芭蕉（2）
第九回　蕉風俳諧と元禄俳壇（1）
第十回　蕉風俳諧と元禄俳壇（2）
第十一回　雑俳の成立と展開（1）
第十二回　雑俳の成立と展開（2）
第十三回　芭蕉七部集『猿蓑』の解釈と鑑賞（3）
第十四回　芭蕉七部集『猿蓑』の解釈と鑑賞（4）

【評価方法】
出席・発表とレポートによる。

【テキスト】
連句文芸の流れ（櫻井武次郎著・和泉書院）

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

国文学特講 IV（近代） a ・ b

小倉 斉

【授業の概要】
〈小説の方法―文学テクストをどう読み、どう論ずるか―〉
日本の近・現代を代表する短編小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

【授業の目標】
テクストの精読と丹念な調査、演習における討論を通して、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

【授業計画】
〈前期〉
第１回　『にごりえ』精読（1）
第２回　『にごりえ』精読（2）
第３回　『少女病』精読（1）
第４回　『少女病』精読（2）
第５回　『半日』精読（1）
第６回　『半日』精読（2）
第７回　『サラサーテの盤』精読（1）
第８回　『サラサーテの盤』精読（2）
第９回　『百萬圓煎餅』精読（1）
第10回　『百萬圓煎餅』精読（2）
第11回　『馬』精読（1）
第12回　『馬』精読（2）
第13回　『風流夢譚』精読（1）
第14回　『風流夢譚』精読（2）
〈後期〉
第１回　『だらだら坂』精読（1）
第２回　『だらだら坂』精読（2）
第３回　『阿久正の話』精読（1）
第４回　『阿久正の話』精読（2）
第５回　『陽気な夜回り』精読（1）
第６回　『陽気な夜回り』精読（2）
第７回　『幼児狩り』精読（1）
第８回　『幼児狩り』精読（2）
第９回　『木の箱』精読（1）
第10回　『木の箱』精読（2）
第11回　『樹影譚』精読（1）
第12回　『樹影譚』精読（2）
第13回　『レキシントンの幽霊』精読（1）
第14回　『レキシントンの幽霊』精読（2）

【評価方法】
レポート、授業への参加状況、レジュメの内容、発表の様子などを総合して評価する。

【テキスト】
〈前期〉：にごりえ（樋口一葉　プリント）、少女病（田山花袋　プリント）、半日（森鷗外　プリント）、サラサーテの盤（内田百閒　プリント）、百萬圓煎餅（三島由紀夫　プリント）、馬（小島信夫　プリント）、風流夢譚（深沢七郎　プリント）
〈後期〉：だらだら坂（丸谷才一　プリント）、阿久正の話（長谷川四郎　プリント）、陽気な夜回り（古井由吉　プリント）、幼児狩り（河野多恵子　プリント）、木の箱（金井美恵子　プリント）、樹影譚（丸谷才一　プリント）、レキシントンの幽霊（村上春樹　プリント）

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

国文学特講 V（現代） a ・ b

都築久義

【授業の概要】
現代作家の著名な作品を毎回取りあげて輪読する。現代文学史的に重要な作品や履修者の研究テーマの周辺の作家を取りあげる。

【授業の目標】
現代文学の研究能力を実践的に身につける。近代文学史、現代文学史の通史を学び、研究テーマと関連づけた作品評価のできる能力をつける。

【授業計画】
近代文学・現代文学の通史について数回に分けて発表者を決めて、研究発表を行い、後半は重要作品数点を取りあげて、担当者が発表し、全員で質疑応答をする。
文学通史は五回程度、個別の重要作品や時代の流れについては二～三回の授業をあてる。
第一回　現代日本文学史（明治・大正・昭和・戦前）1
第二回　現代日本文学史（明治・大正・昭和・戦前）2
第三回　現代日本文学史（明治・大正・昭和・戦前）3
第四回　現代日本文学史（明治・大正・昭和・戦前）4
第五回　現代日本文学史（明治・大正・昭和・戦前）5
第六回　プロレタリア作家について（1）
第七回　プロレタリア作家について（2）
第八回　新興文学派作家について（1）
第九回　新興文学派作家について（2）
第十回　新興文学派作家について（3）
第十一回　戦争文学について（1）
第十二回　戦争文学について（2）
第十三回　戦時下の作家について（1）
第十四回　戦時下の作家について（2）
第十五回　戦時下の作家について（3）

近代文学・現代文学の通史について数回に分けて発表者を決めて、研究発表を行い、後半は重要作品数点を取りあげて、担当者が発表し、全員で質疑応答をする。
文学通史は五回程度、個別の重要作品や時代の流れについては二～三回の授業をあてる。
第一回　現代文学史（戦後を中心）1
第二回　現代文学史（戦後を中心）2
第三回　現代文学史（戦後を中心）3
第四回　現代文学史（戦後を中心）4
第五回　現代文学史（戦後を中心）5
第六回　第一次戦後派について（1）
第七回　第一次戦後派について（2）
第八回　第三の新人について（1）
第九回　第三の新人について（2）
第十回　第三の新人について（3）
第十一回　学生運動と文学について（1）
第十二回　学生運動と文学について（2）
第十三回　戦後文学の統括（1）
第十四回　戦後文学の統括（2）
第十五回　戦後文学の統括（3）

【評価方法】
授業への出席状況、研究発表の内容、質疑応答における発言状況などを総合的に評価する。

【テキスト】
現代日本文学史（笠間書院）、作品は文庫本を使用

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

090760501_0130　掲載順 :0130　MASTER ★

国文学特講 VI（日中比較） a ・ b

寺尾 剛

【授業の概要】

日本文学が中国文学をどのように消化・摂取しつつ新たな文学を作り上げていったのか、その具体的様相について、古典文学を中心に日本文学の側から考察する。

【授業の目標】

国文学研究に必要な漢文知識を養う。日中比較の視点を養う。中国文献の取り扱い方を養う。

【授業計画】

受講者の関心の高い文献を取り上げる。
第一回　日本漢文と中国文学の関係について（1）
第二回　日本漢文と中国文学の関係について（2）
第三回　日本漢文と中国文学の関係について（3）
第四回　担当者の発表（例：『文選』について）1
第五回　担当者の発表（例：『文選』について）2
第六回　担当者の発表（例：『文選』について）3
第七回　質疑応答
第八回　担当者の発表（例：『蒙求』について）1
第九回　担当者の発表（例：『蒙求』について）2
第十回　担当者の発表（例：『蒙求』について）3
第十一回　質疑応答
第十二回　担当者の発表（例：『菅家文草』について）1
第十三回　担当者の発表（例：『菅家文草』について）2
第十四回　担当者の発表（例：『菅家文草』について）3
第十五回　質疑応答

受講者の関心の高い文献を取り上げる。
第一回　日本漢文と中国文学の関係について（1）
第二回　日本漢文と中国文学の関係について（2）
第三回　日本漢文と中国文学の関係について（3）
第四回　担当者の発表（例：『新撰万葉集』について）1
第五回　担当者の発表（例：『新撰万葉集』について）2
第六回　担当者の発表（例：『新撰万葉集』について）3
第七回　質疑応答
第八回　担当者の発表（例：『十八史略』について）1
第九回　担当者の発表（例：『十八史略』について）2
第十回　担当者の発表（例：『十八史略』について）3
第十一回　質疑応答
第十二回　担当者の発表（例：『貞観政要』について）1
第十三回　担当者の発表（例：『貞観政要』について）2
第十四回　担当者の発表（例：『貞観政要』について）3
第十五回　質疑応答

【評価方法】

出席状況、発表内容及びレポートによって総合的に判断、評価する。

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

090760501_0140　掲載順 :0140　MASTER ★

国語学特講 a ・ b

増井典夫

【授業の概要】

近代日本語研究のありかたを考える。まずは、安田敏朗の著作を読みながら、「国語」と「日本語」の問題を考える所からはじめる。

【授業の目標】

日本語研究の水準をよく理解する。

【授業計画】

第一回～第十五回　講義及び出席者の調査発表で進める。
第一回　ガイダンス
第二回　＜統合原理としての「国語」への回帰＞について（1）
第三回　＜統合原理としての「国語」への回帰＞について（2）
第四回　＜近代化・帝国化する言語＞について（1）
第五回　＜近代化・帝国化する言語＞について（2）
第六回　＜国語・日本語の機能＞について（1）
第七回　＜国語・日本語の機能＞について（2）
第八回　＜近代国民国家と国語＞について（1）
第九回　＜近代国民国家と国語＞について（2）
第十回　＜多言語社会日本と日本語＞について（1）
第十一回　＜多言語社会日本と日本語＞について（2）
第十二回　＜言語の近代化＞について（1）
第十三回　＜言語の近代化＞について（2）
第十四回　＜言語の帝国化＞について（1）
第十五回　＜言語の帝国化＞について（2）

第一回～第十五回　講義及び出席者の調査発表で進める。
第一回　近代日本語概説
第二回　＜国語教育と近代＞1
第三回　＜国語教育と近代＞2
第四回　＜植民地における国語教育と文化＞1
第五回　＜植民地における国語教育と文化＞2
第六回　＜近代における国語国字問題＞1
第七回　＜近代における国語国字問題＞2
第八回　＜「日本語」という「配電システム」＞1
第九回　＜「日本語」という「配電システム」＞2
第十回　＜「沖縄方言」か「琉球語」か＞1
第十一回　＜「沖縄方言」か「琉球語」か＞2
第十二回　＜「姉妹語」と「方言」＞1
第十三回　＜「姉妹語」と「方言」＞2
第十四回　＜沖縄と「共通語」＞1
第十五回　＜沖縄と「共通語」＞2

【評価方法】

授業への参加態度、提出物の内容等によって総合的に評価。

【テキスト】

統合原理としての国語（安田敏朗　三元社）

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

090760501_0150　掲載順 :0150　MASTER ★

特殊研究 I（国文学特論） a ・ b

永井聖剛

【授業の概要】

文学におけるもっとも現代的な課題について、具体的な作家及び作品に即して考察する。この科目は、学生の関心及び専攻時代・領域等に応じて学内外から適任の講師を招き、原則として二年ごとに担当者を交代するものとする。

【授業の目標】

〈前期〉『当世書生気質』と『浮雲』の精読。出発期の日本近代文学が抱えていた文学的課題について再検討する。
〈後期〉『田舎教師』の精読。二十世紀初頭の典型的な一青年の精神史を辿ることで、日本近代文学の制度的確立期における諸問題を俯瞰する。

【授業計画】

〈前期〉
1）　ガイダンス・『小説神髄』の登場まで
2）　『当世書生気質』講読（受講者の報告・発表をもとに進めてゆく。以下同じ）
3）　『浮雲』講読
〈後期〉
1）　ガイダンス
2）　『田舎教師』講読
3）　反自然主義的思潮とその作品について

【評価方法】

授業への参加（出席・発表・質疑）および期末レポートによって判断する。

【テキスト】

当世書生気質（坪内逍遥　岩波文庫）
浮雲（二葉亭四迷　岩波文庫）
田舎教師（田山花袋　新潮文庫）
日本近代文学評論選　明治・大正篇（千葉俊二・坪内祐三編　岩波文庫）

【参考文献・資料】

授業中、適宜指示する。

090760501_0160　掲載順 :0160　MASTER ★

特殊研究 II（文芸論） a ・ b

西田谷洋

【授業の概要】

一般に学問研究を支える能力として、事実を明らかにする考証力及び主張を普遍化する論理力があげられるが、さらに欧米における先端的な様々の批評理論を実践的に学ぶことによって、自らの作品解析の方法意識を涵養する。

【授業の目標】

文学研究の方法論の基礎や考え方を学びながら、新たな批評理論の可能性を模索し、具体的なテクストを方法論に基づき読むことで、知識の定着を図る。

【授業計画】

a：批評理論の基礎：一般的知識
　１ガイダンス　２文学とは何か?　３バーチャル・リアリティとしての文学　４文学の秘密　５なぜ文学を読むのか　６文学の読み方　７比較による読み方 ８－１１　まとめと応用
b：批評理論の展開：『シネマ』を読む
　１２ガイダンス　１３運動に関する諸テーゼ―第一のベルクソン注釈　１４フレームとショット、フレーミングとデクパージュ　１５モンタージュ　１６運動イメージとその三つの種類―第二のベルクソン注釈　１７知覚イメージ　１８感情イメージ―顔とクロースアップ　１９感情イメージ―質、力、任意空間　２０情動から行動へ―欲動イメージ　２１行動イメージ―大形式　２２行動イメージ―小形式　２３フィギュール、あるいは諸形式の変換　２４行動イメージの危機　２５－２８まとめと応用　２９－３０今後の展望
　aでは全体的な入門書を、bでは個別分野の専門書を講読することで内容の深化を図る。なおbについては受講生との相談の上変更する場合がある。

【評価方法】

出席・討議等授業態度（合わせて60%）、報告(40%)

【テキスト】

a：J・ヒリス・ミラー『文学の読み方』（岩波書店）
b：ジル・ドゥルーズ『シネマ１』（法政大学出版局）

【参考文献・資料】

『読むための理論』（世織書房）、アントワーヌ・コンパニョン『文学をめぐる理論と常識』（岩波書店）、大橋洋一『現代批評理論のすべて』（新書館）、J・カラー『文学理論』（岩波書店）、ドゥルーズ『シネマ２』（法政大学出版局）

特殊研究 III（国語教育） a ・ b

豊永利英

【授業の概要】
大学院で学修した国文学に関する専門知識並びに研究の成果を、中等教育の現場に生かすための実践的学力及び指導力を身につける。

【授業の目標】
次の三つの実力を養成する。
1．教員採用試験（筆記試験・論文・面接等）に対応できる学力。
2．教育現場から要請される実質的教科指導力。
3．優れた教育実践を実現する教師の資質と姿勢。

【授業計画】
主として高等学校の教材を活用しながら、発見的、創造的な深い読解力と、それを授業に生かす方法が身につくような指導をしたい。さらに、指導力とはどのようなものかについて考察する中で、望ましい教師像のあり方についても触れてみたい。
授業は講義と演習とによるので、学生の積極的な参加が不可欠である。

【評価方法】
授業への積極的な参加状況、課題の提出状況及び期末のレポートの内容等により、総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを用意する。

【参考文献・資料】
授業内で紹介する。

言語学 a ・ b

山本雅子

【授業の概要】
文学研究の基礎として、言語の発生から展開・変容に至る機構について学ぶとともに、言語の構造及び機能についての理解を深め、さらに言語研究の意義とその可能性について考察する。

【授業の目標】
従来の言語研究では、言葉は、人間がものごとを理解する力から独立して自律的に存在するものであるとして捉えられている。しかし、こういった古びた鋳型に嵌った考えから抜け出し、われわれの日常の言語生活を少し注意深く観察してみれば、言葉が、人間の理解する能力、人間の想像をめぐらす働き、機能する生体としての人間の本性を反映し、実に活き活きとはたらいていることに気づかされるだろう。本講義では、まず、日本語のさまざまな文法形式と意味との相関関係を、事態を意味あるものとして理解する人間の事態把握の観点からダイナミックに捉え直す。次いで、物語文の中で、それらの形式が言語装置としていかに効果的にはたらいているかを考察する。

【授業計画】
第１回　言葉と言語主体
第２回　心的領域
第３回　心的操作
第４回　メタファー①
第５回　メタファー②
第６回　メトニミー
第７回　主観性①
第８回　主観性②
第９回　パースペクティヴ
第10回　他動性①
第11回　他動性②
第12回　物語フレーム
第13回　パースペクティヴ操作①
第14回　パースペクティヴ操作②
第15回　まとめ

【評価方法】
レポート（２回）

【テキスト】
山梨正明『認知文法論』ひつじ書房

【参考文献・資料】
適宜授業の中で提示。

比較文学 a ・ b

工藤貴正

【授業の概要】
日本文学と海彼の文学との影響関係について、特に中国近代に範囲を絞り込み具体的な作家・作品に即して考察する。一方通行的な影響・摂取に留まらない、双方向性を有しつつ時代を越える情報互恵的なありようを学ぶ。

【授業の目標】
日本近代文学が描く中国像について、同時期の中国知識人の作品を視野にいれることにより、比較文学の視点からの分析手法を身につける。今年度は、国際都市・上海について書いた或は描いた作品を中心に採り挙げ、伝統と「近代」というキーワードを軸に、中国の「近代」と日本の近代の共通性と相違性を考察する。そのことにより、日本知識人が描く中国像を客観的に分析できるようにし、また、当時の日中文人交流がいかに形成されていたかを考察する。

【授業計画】
授業では、中国近代文学の概説を交え、中国の近代に対する基本的な理解と知識を養成し、その上で日本人作家が描く上海像について考察する。
本年度は、村松梢風、井東憲、横光利一、堀田善衛の描く上海像を郭沫若、田漢、郁達夫、欧陽予倩、穆時英、劉吶鷗などの中国の文人との交流関係を交え考察する。
前期
第１回～第７回　村松梢風『上海』の背景及び日中文人交流
第８回～第15回　井東憲『上海夜話』の背景及び日中文人交流
後期
第１回～第７回　横光利一『上海』の背景及び日中文人交流
第８回～第15回　堀田善衛『上海にて』の背景及び日中文人交流

【評価方法】
授業への参加状況、担当レジュメの内容、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを使用するが、必要な場合は授業で指示する。

【参考文献・資料】
松村定孝・紅野敏郎・吉田凞生編『近代日本文学における中国像』有斐閣選書、1975.10／和田博文他著『言語都市・上海――1840-1945』藤原書店、1999.9／丸山昇著『上海物語――国際都市上海と日中文化人』講談社学術文庫、2004.7／太田尚樹著『伝説の日中文化サロン　上海・内山書店』平凡社新書436、2008.9

書誌学 a ・ b

藤井奈都子

【授業の概要】
「物」としての本（図書）について、その生成発展の経緯、名義、体裁、分類、製本技術、材料、伝来、流通など様々な性格・要素について広範な知識を得るとともに、主に日本文学の写本・版本を中心に、それを鑑定する基本的な力を実践的に身につける。

【授業の目標】
書籍に関しての基本的な知識、特に日本古典の古写本・版本については、その取り扱い、初歩的な鑑定に関しての実践的な力を身に付ける。

【授業計画】
第１回「書籍の範囲」から始め、テキストに添って、以下のように進めていく。
「日本における書誌学的作業と研究の歴史」
「書籍の起源と材料の変遷」
「紙の種類―原料別、加工法別」
「種々の装訂」
「書籍の大きさとそれによる呼称」
「書籍の部分名称」
「書籍の内容に関する種類と用語」
「写本の内容に関する種類と用語」
「刊本の種類と名称―印刷方法別、版刻の前後、印刷の前後、版の異同、色刷と筆彩、再製本、出版社出版地別」
「刊本の歴史」

【評価方法】
期末テストの評点に平常点を加味する。

【テキスト】
日本古典書誌学総説（藤井隆著　和泉書院）

【参考文献・資料】
必要に応じて提示する。

文献学ａ・ｂ

日比野浩信

【授業の概要】

作品の成立事情、伝来の過程における事故、そして誤写・改変等により、様々な異文を抱えて流布・伝播する各種写本・版本をもとに、古典文学の原作復元作業はいかにして可能となるのか。その具体的な方法と、限界及び可能性について学ぶ。

【授業の目標】

国文学作品作品について、資料の収集、校合、校本作成、校訂を主として、文献学的研究の一端を実践的に体験し、自らの選択した作品研究への応用を目的とする。

【授業計画】

文献学と文芸学（文献学とは）
書誌学　（補助学として）
伝本と本文（伝本の収集と整理）
写本の読解
書写の実態
本文の異同（異文発生のメカニズム）
校本の作成
諸本分類と伝本系統
古筆断簡（価値と位置付け）
文献学的解釈（用例から）
文献学的解釈（古注釈から）
典拠と引用（他文献に引用される本文）
共時的本文と通時的本文（享受本文と原形）
本文校訂（テクスト・クリティーク）
校訂本文と翻刻
解釈本文
諸本論・伝本論・本文論
解釈から校訂へ
校訂本文から本文解釈へ

【評価方法】

レポートによって評価する予定。

【テキスト】

受講員数などによって決定し、追って指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

翻訳作法ａ・ｂ

EASLEY, Keith

【Course description】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

【Course objectives】

To improve the students' writing of academic papers.

【Course schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

【Textbooks】

None

出版文化史ａ・ｂ

塩村 耕

【授業の概要】

図書出版の歴史と文化的意義について一般的な知識を得る。その上で、特に日本の近世以降における大量印刷・大量販売・大量消費を支えた本屋の推移と文学創作との関わり、さらに政治体制との軋轢の問題等について学ぶ。

【授業の目標】

江戸時代の出版文化はそれ自体多彩で面白いが、日本の近代化の基礎を成したという意味で、文化史的に見て重要である。ところが、その実態についてはよくわかっていない。それは、さしも隆盛を誇った江戸時代以来の本屋が、明治の中ごろにほとんど閉店してしまい、店に伝わる帳面や文書など、直接的な資料の多くが湮滅してしまったからである。そのような困難な状況の中で、どのようにして研究を進めることが出来るか、実際の古典籍や古文書など、モノに即して考えたい。

具体的には、①書物の見方や取り扱い方など版本書誌学の基礎、②出版史に関連する古文書の講読、③読書史に関連する古文書の講読、④古典籍書誌記述の方法論。

※基本的に原本資料に基づいて講義を行うので、くずし字読解に対する強い意欲を要する。

【授業計画】

第１～４回：　版本書誌学の基礎
第５～８回：　出版史関係古文書の講読
第９～12回：　読書史関係古文書の講読
第13～15回：　古典籍書誌記述の講義と実践

【評価方法】

・出席率と講義時の熱意：５割
・レポート：５割

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

・塩村耕著『こんな本があった！江戸珍奇本の世界』（家の光協会）
・遠藤諦之輔著『古文書修補六十年―和装本の修補と造本』（汲古書院）

090761503_0010　掲載順 :0010　MASTER ★

情報学特講（1） a

山崎茂明　岡澤和世　菅野育子　西荒井学　林 博司　三和義秀
村主朋英　太田 裕　伊藤真理

【授業の概要】
院生各自の研究計画・内容の発表、研究の進捗状況の報告と討議、および修士論文の中間発表会の開催、さらには関連学会・討論会等の発表内容の検討など、院生の研究活動を複数の教員が集団指導し、修士論文の完成を支援する。

【授業の目標】
研究内容を、その計画・調査・分析・執筆の各段階での発表と討論を通して、研究調査と論文作成能力の発展をはかる。

【授業計画】
発表者がレジュメを作成配布。

【評価方法】
研究発表と討論への参加度

090761503_0020　掲載順 :0020　MASTER ★

情報学特講（1） b

山崎茂明　岡澤和世　菅野育子　西荒井学　林 博司　三和義秀
村主朋英　太田 裕　伊藤真理

【授業の概要】
院生各自の研究計画・内容の発表、研究の進捗状況の報告と討議、および修士論文の中間発表会の開催、さらには関連学会・討論会等の発表内容の検討など、院生の研究活動を複数の教員が集団指導し、修士論文の完成を支援する。

【授業の目標】
研究内容を、その計画・調査・分析・執筆の各段階での発表と討論を通して、研究調査と論文作成能力の発展をはかる。

【授業計画】
発表者がレジュメを作成配布。

【評価方法】
研究発表と討論への参加度

090761503_0030　掲載順 :0030　MASTER ★

情報学演習（1） a

山崎茂明　岡澤和世　菅野育子　西荒井学　林 博司　三和義秀
村主朋英　太田 裕　伊藤真理

【授業の概要】
図書館情報学の基礎に関する講義や基礎文献の講読の他に、複数の教員による集団指導により、学術雑誌掲載論文の抄読会およびミニレビューなどを、全院生出席の下に行う。質疑応答や討論を通じて、当該分野の論文・総説等を評価し、研究の進め方および論理的な思考方法や表現方法等を学び、修士論文の作成に反映させる。

【授業の目標】
最新の海外原著論文を対象に、テーマ、調査方法、分析手法などから、各自の論文作成に引きつけて、研究論文を読みぬく能力を育成する。

【授業計画】
発表者がレジュメを作成、配布、発表し、それにもとづいて参加者全員で討論する。

【評価方法】
レジュメの発表と討論への参加度

090761503_0040　掲載順 :0040　MASTER ★

情報学演習（1） b

山崎茂明　岡澤和世　菅野育子　西荒井学　林 博司　三和義秀
村主朋英　太田 裕　伊藤真理

【授業の概要】
図書館情報学の基礎に関する講義や基礎文献の講読の他に、複数の教員による集団指導により、学術雑誌掲載論文の抄読会およびミニレビューなどを、全院生出席の下に行う。質疑応答や討論を通じて、当該分野の論文・総説等を評価し、研究の進め方および論理的な思考方法や表現方法等を学び、修士論文の作成に反映させる。

【授業の目標】
最新の海外原著論文を対象に、テーマ、調査方法、分析手法などから、各自の論文作成に引きつけて、研究論文を読みぬく能力を育成する。

【授業計画】
発表者がレジュメを作成、配布、発表し、それにもとづいて参加者全員で討論する。

【評価方法】
レジュメの発表と討論への参加度

情報学特講（３）ａ・ｂ

岡澤和世

【授業の概要】
この４分の一世紀の間に情報社会が到来し、世界の経済、文化が大きく変化し始めた。情報テクノロジーの発達は我々の生活、仕事、教育に大きな影響を及ぼしている。中でもこの電子環境社会でどうやって情報を見つけたらよいのかとまどっている。本講義の目的は大きく変化している情報環境にどう対応していくのかを考える。

【授業の目標】
１．情報と情報行動
２．情報行動と情報環境
３．情報行動研究とその枠組み
４．情報行動のインフラストラクチャー
５．情報行動モデル
６．情報行動研究の例
７．人中心の情報システム設計
８．情報行動の発展-電子環境への対応
９．将来の方向と展望

【授業計画】
レポート

【評価方法】
Exploring the contexts of information behavior.（Wilson, T. D & D. K. A ed.）Taylor Graham, 1999.

【テキスト】
From Print to Electoronic（Susan Crawford,Julie M. Hurd and Ann C. Weller）ASIS. 1996
情報学講義ノート〈3〉（岡澤和世著　敬文堂）1989.
インフォ・リッチ：インフォ・プア（Trevor Heywood,岡澤和世訳　敬文堂）1997.
Technology in action.（Heath, C. &. P. Luff.）Cambridge U. Pr. 2000.
Social Demensions of Information Technology.（Garson, G. David）, Idea Group Pub. 2000.

情報学特講（10）ａ・ｂ

太田 裕

【授業の概要】
数値あるいは非数値からなる資料・データがもつ潜在構造を探究し、所与の情報を抽出するための資料・データ処理技法について、実践力の涵養を目標に学習を進める。
したがって、授業形態は関連知見の理解（講義）と資料・データ処理の体得（実習）とを交互的に行うこととする。サンプリングの計画数理・１変量～２変量解析、多変量解析、数値～非数値処理・解析等々が主要学習項目である。

【授業の目標】
データ処理の主要技法体得

【授業計画】
前期
１．基礎事項の習得
２．データ処理シミュレーション
３．演習題の自力解決
後期
１．小課題の提示と課題解決法の探索
２．実（資料・データ）の構造解析
３．数値～非数値データの統合処理

【評価方法】
レポートにより評価する。

【テキスト】
随時、必要な文献・専門書を指示する。

【参考文献・資料】
同上。

情報学特講（12）ａ・ｂ

伊藤真理

【授業の概要】
電子環境下での適切な情報検索に必要とされるメタデータについて考察する。特に、利用者ニーズに適合する検索のための情報提供と利用の観点から、これまで研究・開発されてきた理論やフォーマットについて概観する。

【授業の目標】
ウェブ情報やアーカイブズなどのさまざまな情報資源と、それらに対する多様な利用者ニーズに対して、メタデータを作成する際にどのように検討していけばよいのかについて理解する。

【授業計画】
メタデータ理論や事例研究などに関する英語による文献を読み、討論を行いながら理解を深める

【評価方法】
平常点とレポートの総合評価とする

【テキスト】
授業時に必要な資料を配布する

【参考文献・資料】
Caplan,Priscilla.Metadata Fundamentals for All Librarians.ALA,2003.
Intner,Sheila S.et al.Metadata and Its Impact on Libraries.Libraries Unlimited,2006.
そのほか、授業時に適宜指示する

情報学演習（２）ａ・ｂ

林 博司

【授業の概要】
空間情報（３次元情報）の線状情報（１次元情報）への投射と復元について考察する。実例として１次元の毛糸から３次元のセーターを編む際に使われる情報と１次元の遺伝情報から生物の３次元の形が作られる際に使われる情報について、学び、比較し、検討する。

【授業の目標】
生命情報について理解を深める。

【授業計画】
基礎学習
文献調べ（英文を含む）
考察
以上の３点を重視して、毎回最新のデータを基に特定のテーマについて、学習を進める。

【評価方法】
学習意欲と、独創性。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献・資料】
その都度指示する

情報学演習（４）ａ・ｂ

山崎茂明

【授業の概要】
科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察していく。特に、研究活動、論文作成、口頭発表、投稿、編集、論文審査、出版倫理、科学研究の不正行為といった側面から検討する。

【授業の目標】
科学コミュニケーションの世界を、学術情報の生産と流通を軸に、分析できる能力を育成する。

【授業計画】
「科学者の不正行為」（2001年）を参考にして、そこで扱われたテーマをさらに深め、参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。最初の１-２回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はＡ４版レポート用紙で４枚程度のレジメを提出すること。また、テーマ発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。

【評価方法】
発表レポート

【参考文献・資料】
科学者の不正行為（山崎茂明　丸善）

情報学演習（５）ａ・ｂ

西荒井学

【授業の概要】
既存のソフトウェアを有効的に利用していく方法論を探究していくことは、ソフトウェアを新規に開発していく場合と多くの共通点がある。その意味で、ここでは既存のソフトウェアが持つ優位性や限界を十分に認識した上で、一定限のソフトウェアを有効的に利用したシステム構築を探求していく。

【授業の目標】
既存の応用ソフトウェアに関わる諸問題を受講者相互の報告、議論を通じて、探求していく。

【授業計画】
１）既存ソフトウェアの機能分析
２）ソフトウェアの機能動作試験
３）ソフトウェアのカスタマイズ
４）総合検討

各種システムの構築に関わる問題を探究していくための題材として、既存ソフトウェアの機能分析を課題として与えることとする。受講者は、担当部分の機能特性を明らかにした上で、逐次互いに種々の問題点を検討していく。
なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

【評価方法】
課題の進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

【テキスト】
使用せず

情報学演習（６）ａ・ｂ

菅野育子

【授業の概要】
図書館と博物館における「情報源（所蔵資料）に関する情報」について、その識別機能及び記述方法の観点から講義する。特に、両者の資料識別情報（メタ・データ）を相互に運用する可能性（インターオペラビリティ）について論ずる。

【授業の目標】
図書館，博物館，文書館が情報提供機関として連携するために、どのような相違点があるかについて理解すること。

【授業計画】
授業は次の２点を中心に行なう。
（１）概念モデル間の比較と検討
以下の、図書館と博物館の情報源を対象としたデータベース構築のための概念モデルが提案された。以下の２つの概念モデルを比較・検討することから、両者の資料識別に対する立場の違いについて議論する。
IFLA/FRBR （International Federation of Library Associations. Functional Requirements for Bibliographic Records）
ICOM/CIDOC CRM（The International Committee for Documentation of the International Council of Museums. Conceptual Reference Model）

（２）記述データ項目間のマッピング
Getty Research Instituteが作成したCrosswalk of Metadata Element Sets for Art, Architecture, and Cultural Heritage Information and Online Resourcesを対象に、マッピングされた記述データ項目間の関連性について、実際に図書館資料及び博物館資料の記述データを用いて、以下の記述データ群を中心にマッピングとその評価を行なう。
・米国議会図書館のMARC21
・Getty財団のCDWA（Categories for the Description of Works of Art）

【評価方法】
最終レポートで評価する

【参考文献・資料】
IFLA Study Group on the Functional Requirements for Bibliographic Records. Functional Requirements for Bibliographic Records: final report. Munchen, K.G.Saur, 1998,136p

情報学演習（７）ａ・ｂ

三和義秀

【授業の概要】
前期（a）では、Webを中心とするコンピュータネットワークに関する技術を習得した上で、人間の感性に関わる実験調査用のデータ収集を行うためのWebアンケート・システムをサーバサイド・プログラミング（ASP: Active Server PagesまたはJSP:Java Server Pages）によって構築し、そのシステムをインターネット上に公開しながらデータ収集を実施する。
後期（b）では、Webアンケート・システムによって収集したデータを対象にした統計解析（因子分析、多次元尺度構成法、クラスタ分析等）の方法について解説する。なお、受講者はC言語、またはJavaプログラミングの基礎知識を修得していることが望ましい。

【授業の目標】
サーバサイドプログラミングの仕組みと多変量データ解析の基礎を学び、その知識や技術を調査研究に活用できるスキルを身に付ける。

【授業計画】
（１）Webアンケート・システムの構築に必要なネットワーク技術
（２）サーバサイド・プログラミングの方法
（３）感性情報検索とは
（４）感性情報の分析方法
（５）感性情報検索システムの設計方法
（６）統計処理（基礎）
（７）統計処理（応用）

【評価方法】
各受講者が実験調査のテーマを決めてWebアンケートシステムを構築し、その収集データを対象にした統計解析のリポートにて評価する。

【テキスト】
第１回の講義にて指示する。

【参考文献・資料】
第１回の講義にて指示する。

090761503_0209　掲載順 :0135　MASTER ★

情報学演習（8） a ・ b

村主朋英

【授業の概要】
情報史に関する講義および文献講読を行なう。とくに、<情報学基礎論と情報史の歴史像との交差>という問題を強く意識して進める。
なお、情報史は幅広い領域であるため、情報学/図書館情報学の分野史、情報サービスの歴史、情報技術の歴史、コミュニケーション史/メディア史、科学史など、関連歴史概念の中から、動静や受講者の意向を見ながら内容を絞り込む。
また、受講者による発表・報告の回を適宜含める。

【授業の目標】
情報学（図書館情報学）固有の観点を探求するとともに、それを相対化し、多様な視点から情報や図書館について考えることを目標とする。

【授業計画】
a（前期）：講義を中心に進める。
（1）情報史研究の現状と情報学の境位
（2）情報学における「情報」に関する観点（世界観・宇宙観）
図書館情報学、情報科学、メディア論
社会情報学、吉田民人、北川敏男
b（後期）：以下の内容を予定している。詳細は受講者と相談して決定する。
（1）情報史のトピック群
（2）その他、受講者の関心事項

【評価方法】
平常点とレポートに基づいて行う。

【テキスト】
使用せず。

090761503_0210　掲載順 :0145　MASTER ★

情報学演習（9） a ・ b

野添篤毅

【授業の概要】
自然科学分野での研究過程における情報、知識の生産、加工、利用の諸問題について多角的に考察する。

【授業の目標】
授業にて明示する。

【授業計画】
関連分野の最新の学術論文を読み、討論を行い、レポートにまとめる。

【評価方法】
その都度、指示する。

090761503_0211　掲載順 :0148　MASTER ★

情報学演習（11） a ・ b

緑川信之

【授業の概要】
最近では、オントロジー工学やセマンティックWebのオントロジー記述言語（OWL）など、オントロジーという用語をよくみかける。これにともなって、図書館情報学における分類表やシソーラスもオントロジーであると主張されるようになってきた。この授業では、こうした様々な分野で取り上げられているオントロジーについて検討を行い、図書館情報学におけるオントロジー概念の有効性について考察する。

【授業の目標】
オントロジー概念とその意義について理解することを目標とする。

【授業計画】
オントロジーに関する文献を読む。集中講義なので、受講者には何らかの方法で事前に連絡し、予習をしてきてもらう。

【評価方法】
授業中の発表、意見の提示、レポートを総合して評価する。

【テキスト】
このテーマは進展が激しいので、具体的な文献については授業実施時期が近づいてから決定する。

090761503_0150　掲載順 :0150　MCode:090760501_0180 ★

言語学 a ・ b

山本雅子

【授業の概要】
文学研究の基礎として、言語の発生から展開・変容に至る機構について学ぶとともに、言語の構造及び機能についての理解を深め、さらに言語研究の意義とその可能性について考察する。

【授業の目標】
従来の言語研究では、言葉は、人間がものごとを理解する力から独立して自律的に存在するものであるとして捉えられている。しかし、こういった古びた鋳型に嵌った考えから抜け出し、われわれの日常の言語生活を少し注意深く観察してみれば、言葉が、人間の理解する能力、人間の想像をめぐらす働き、機能する生体としての人間の本性を反映し、実に活き活きとはたらいていることに気づかされるだろう。本講義では、まず、日本語のさまざまな文法形式と意味との相関関係を、事態を意味あるものとして理解する人間の事態把握の観点からダイナミックに捉え直す。次いで、物語文の中で、それらの形式が言語装置としていかに効果的にはたらいているかを考察する。

【授業計画】
第１回　言葉と言語主体
第２回　心的領域
第３回　心的操作
第４回　メタファー①
第５回　メタファー②
第６回　メトニミー
第７回　主観性①
第８回　主観性②
第９回　パースペクティヴ
第10回　他動性①
第11回　他動性②
第12回　物語フレーム
第13回　パースペクティヴ操作①
第14回　パースペクティヴ操作②
第15回　まとめ

【評価方法】
レポート（２回）

【テキスト】
山梨正明『認知文法論』ひつじ書房

【参考文献・資料】
適宜授業の中で提示。

比較文学ａ・ｂ

工藤貴正

【授業の概要】
日本文学と海彼の文学との影響関係について、特に中国近代に範囲を絞り込み具体的な作家・作品に即して考察する。一方通行的な影響・摂取に留まらない、双方向性を有しつつ時代を越える情報互恵的なありようを学ぶ。

【授業の目標】
日本近代文学が描く中国像について、同時期の中国知識人の作品を視野にいれることにより、比較文学の視点からの分析手法を身につける。今年度は、国際都市・上海について書いた或は描いた作品を中心に採り挙げ、伝統と「近代」というキーワードを軸に、中国の「近代」と日本の近代の共通性と相違性を考察する。そのことにより、日本知識人が描く中国像を客観的に分析できるようにし、また、当時の日中文人交流がいかに形成されていたかを考察する。

【授業計画】
授業では、中国近代文学の概説を交え、中国の近代に対する基本的な理解と知識を養成し、その上で日本人作家が描く上海像について考察する。
本年度は、村松梢風、井東憲、横光利一、堀田善衛の描く上海像を郭沫若、田漢、郁達夫、欧陽予倩、穆時英、劉吶鷗などの中国の文人との交流関係を交え考察する。
前期
第１回～第７回　村松梢風『上海』の背景及び日中文人交流
第８回～第15回　井東憲『上海夜話』の背景及び日中文人交流
後期
第１回～第７回　横光利一『上海』の背景及び日中文人交流
第８回～第15回　堀田善衛『上海にて』の背景及び日中文人交流

【評価方法】
授業への参加状況、担当レジュメの内容、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを使用するが、必要な場合は授業で指示する。

【参考文献・資料】
松村定孝・紅野敏郎・吉田凞生編『近代日本文学における中国像』有斐閣選書、1975.10／和田博文他著『言語都市・上海――1840-1945』藤原書店、1999.9／丸山昇著『上海物語――国際都市上海と日中文化人』講談社学術文庫、2004.7／太田尚樹著『伝説の日中文化サロン　上海・内山書店』平凡社新書436、2008.9

書誌学ａ・ｂ

藤井奈都子

【授業の概要】
「物」としての本（図書）について、その生成発展の経緯、名義、体裁、分類、製本技術、材料、伝来、流通など様々な性格・要素について広範な知識を得るとともに、主に日本文学の写本・版本を中心に、それを鑑定する基本的な力を実践的に身につける。

【授業の目標】
書籍に関しての基本的な知識、特に日本古典の古写本・版本については、その取り扱い、初歩的な鑑定に関しての実践的な力を身に付ける。

【授業計画】
第１回「書籍の範囲」から始め、テキストに添って、以下のように進めていく。
「日本における書誌学的作業と研究の歴史」
「書籍の起源と材料の変遷」
「紙の種類―原料別、加工法別」
「種々の装訂」
「書籍の大きさとそれによる呼称」
「書籍の部分名称」
「書籍の内容に関する種類と用語」
「写本の内容に関する種類と用語」
「刊本の種類と名称―印刷方法別、版刻の前後、印刷の前後、版の異同、色刷と筆彩、再製本、出版社出版地別」
「刊本の歴史」

【評価方法】
期末テストの評点に平常点を加味する。

【テキスト】
日本古典書誌学総説（藤井隆著　和泉書院）

【参考文献・資料】
必要に応じて提示する。

文献学ａ・ｂ

日比野浩信

【授業の概要】
作品の成立事情、伝来の過程における事故、そして誤写・改変等により、様々な異文を抱えて流布・伝播する各種写本・版本をもとに、古典文学の原作復元作業はいかにして可能となるのか。その具体的な方法と、限界及び可能性について学ぶ。

【授業の目標】
国文学作品作品について、資料の収集、校合、校本作成、校訂を主として、文献学的研究の一端を実践的に体験し、自らの選択した作品研究への応用を目的とする。

【授業計画】
文献学と文芸学（文献学とは）
書誌学　（補助学として）
伝本と本文（伝本の収集と整理）
写本の読解
書写の実態
本文の異同（異文発生のメカニズム）
校本の作成
諸本分類と伝本系統
古筆断簡（価値と位置付け）
文献学的解釈（用例から）
文献学的解釈（古注釈から）
典拠と引用（他文献に引用される本文）
共時的本文と通時的本文（享受本文と原形）
本文校訂（テクスト・クリティーク）
校訂本文と翻刻
解釈本文
諸本論・伝本論・本文論
解釈から校訂へ
校訂本文から本文解釈へ

【評価方法】
レポートによって評価する予定。

【テキスト】
受講員数などによって決定し、追って指示する。

【参考文献・資料】
必要に応じて指示する。

出版文化史ａ・ｂ

塩村 耕

【授業の概要】
図書出版の歴史と文化的意義について一般的な知識を得る。その上で、特に日本の近世以降における大量印刷・大量販売・大量消費を支えた本屋の推移と文学創作との関わり、さらに政治体制との軋轢の問題等について学ぶ。

【授業の目標】
江戸時代の出版文化はそれ自体多彩で面白いが、日本の近代化の基礎を成したという意味で、文化史的に見て重要である。ところが、その実態についてはよくわかっていない。それは、さしも隆盛を誇った江戸時代以来の本屋が、明治の中ごろにほとんど閉店してしまい、店に伝わる帳面や文書など、直接的な資料の多くが湮滅してしまったからである。そのような困難な状況の中で、どのようにして研究を進めることが出来るか、実際の古典籍や古文書など、モノに即して考えたい。
具体的には、①書物の見方や取り扱い方など版本書誌学の基礎、②出版史に関連する古文書の講読、③読書史に関連する古文書の講読、④古典籍書誌記述の方法論。

※基本的に原本資料に基づいて講義を行うので、くずし字読解に対する強い意欲を要する。

【授業計画】
第１～４回：　版本書誌学の基礎
第５～８回：　出版史関係古文書の講読
第９～12回：　読書史関係古文書の講読
第13～15回：　古典籍書誌記述の講義と実践

【評価方法】
・出席率と講義時の熱意：５割
・レポート：５割

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
・塩村耕著『こんな本があった！江戸珍奇本の世界』（家の光協会）
・遠藤諦之輔著『古文書修補六十年―和装本の修補と造本』（汲古書院）

翻訳作法ａ・ｂ

EASLEY, Keith

【Course description】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

【Course objectives】

To improve the students' writing of academic papers.

【Course schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

【Textbooks】

None

090762004_0010　掲載順 :0010　MASTER ★

国文学特殊研究 I（古代）

久保朝孝

【授業の概要】
研究発表とその批判を中心にしつつ、博士論文の作成を指導する。

【授業の目標】
博士の学位取得を可能にする独創的研究能力を養成する。

【授業計画】
各自の専攻テーマに関する研究発表とその相互批判及び助言を毎回行う。

【評価方法】
論文の活字化もしくは学会等における口頭発表の有無とその内容。

【テキスト】
なし。

090762004_0020　掲載順 :0020　MASTER ★

国文学特殊研究 II（中世）

岩下紀之

【授業の概要】
受講者の希望する作品を題材とする。

【授業の目標】
研究者としての研究を補助すること。

【授業計画】
上記による。

【評価方法】
レポートによる。

090762004_0030　掲載順 :0030　MASTER ★

国文学特殊研究 III（近世）

阿部一彦

【授業の概要】
近世文学全般にわたり、受講者の専攻との関連で内容を決める。

【授業の目標】
近世文学の研究能力を高める。

【授業計画】
上記による。

【評価方法】
レポートによる。

【テキスト】
未定。

090762004_0040　掲載順 :0040　MASTER ★

国文学特殊研究 IV（近代）

小倉 斉

【授業の概要】
＜文学研究と批評の方法をめぐって＞
戦後の近代文学研究・文学批評の流れを視野に入れつつ、現代における文学研究の方法と課題について考える。雑誌『近代文学』に集まった人々によって本格化し、中村光夫『風俗小説論』平野謙『芸術と実生活』伊藤整『小説の方法』『小説の認識』などをベースに展開された戦後の批評家たちの成果は吉本隆明『言語にとって美とはなにか』や江藤淳『作家は行動する』によって相対化される。研究者の側からは長谷川泉『近代名作鑑賞』や三好行雄『作品論の試み』によって作品論の時代の幕が開かれるが、やがて『思想としての東京』の磯田光一や『日本近代文学の起源』の柄谷行人等の批評家と『都市空間のなかの文学』の前田愛や『構造としての語り』の小森陽一等の研究者とがクロスする形で新しい研究の時代が訪れる。こうした成果の積み重ねに目配りをしつつ、各自の研究テーマ・課題に相応しい方法の確立を目指したい。

【授業の目標】
受講生個々の課題に即しつつ、レポート・質疑応答を重ね、各自のテーマに相応しい方法の確立と実践を目標とする。

【授業計画】
〈前期〉：各自の修士論文、最近の発表論文の概要について報告させ、自分が研究対象とした作家・作品の研究状況と研究史における修士論文等の位置・意味について解説させる。次いで、戦後から現代に至る研究成果の中から取り上げたい文献を選択し、輪読しつつ、その方法への理解を深める。
〈後期〉：各自参考にすべき論文を複数選択し、輪読しつつ、批評を重ねる。時に、平行して具体的に作品を取り上げ、その分析・解読をおこなう。

【評価方法】
授業への参加状況、発表・レポートの内容によって総合的に評価する。

【テキスト】
文学とは何か（T・イーグルトン　岩波書店）　小説の技法（レオン・サーメリオン　旺史社）　新文学入門（大橋洋一　岩波書店）　文学テクスト入門（前田愛　筑摩書房）　思想としての東京（磯田光一　講談社文芸文庫）　日本近代文学の起源（柄谷行人　講談社文芸文庫）　構造としての語り（小森陽一　新曜社）　物語のナラトロジー（前田彰一　彩流社）

【参考文献・資料】
物語のディスクール（G・ジュネット　水声社）
物語の構造（F・シュタンツェル　岩波書店）
小説の方法（大江健三郎　岩波書店）
引用の想像力（宇波彰　冬樹社）

090762004_0050　掲載順：0050　MASTER ★

国文学特殊研究 V（現代）

都築久義

【授業の概要】
学生の論文テーマに応じて指導する。

【授業の目標】
博士論文が執筆できるように指導する。

【授業計画】
随時、必要に応じて指導する。

【評価方法】
平素の学習態度および出席状況。

【テキスト】
なし。

090762004_0060　掲載順：0060　MASTER ★

国文学特殊研究 VI（日中比較）

寺尾 剛

【授業の概要】
後期の院生の高度な漢文読解力の向上を目指す。

【授業の目標】
論文作成に直結する実践的な研究法や資料調査能力の育成。

【授業計画】
受講生の需要に合わせて決定する。

【評価方法】
平常点（60%）及びレポート（40%）

【テキスト】
未定。受講生との相談の上、決定する。

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

090762004_0070　掲載順：0070　MASTER ★

国語学特殊研究

増井典夫

【授業の概要】
受講者の論文テーマ、あるいは希望する作品に応じて、国語学・日本語学の観点から指導する。

【授業の目標】
国語学・日本語学の学会の水準を知り、それに耐えうる研究を目指す。

【授業計画】
随時、必要に応じて指導する。

【評価方法】
平素の学習態度。

【テキスト】
授業時に指示する。

【参考文献・資料】
授業時に指示。

090762505_0010　掲載順 :0010　MASTER ★

英文学特殊研究 I

山田幹郎

【授業の概要】
英国ルネサンス演劇研究（シェイクスピア）。
受講者の博士論文作成を指導する。

【授業の目標】
受講者が年度ごとに研究成果の一部を公表し、博士論文作成に結実させること。

【授業計画】
各自の専攻テーマについて研究発表とその批評を旨として進める。

【評価方法】
研究発表と論文による。

【テキスト】
未定。

【参考文献・資料】
随時指示する。

090762505_0020　掲載順 :0020　MASTER ★

英文学特殊研究 IV

平林美都子

【授業の概要】
ナラティヴ理論を学ぶ。

【授業の目標】
ナラティヴ理論を理解する。

【授業計画】
前期は伝統的なナラティヴ論を通史的に学ぶ。
後期はモダニズム、ポストモダニズム、それ以後のサイバー・ナラティヴについて学ぶ。

【評価方法】
授業の参加態度（発表やディスカッション）および、レポートで総合的に評価する。

【テキスト】
Narrative (Paul Cobley, Routledge,2001)

【参考文献・資料】
授業内に随時指示する。

090762505_0030　掲載順 :0030　MASTER ★

米文学特殊研究 II

横田和憲

【授業の概要】
旅－なぜか心をわくわくさせる言葉だ。それは、旅が私たちの日常生活、つまり束縛された現実からの脱出の夢をかなえてくれるからなのかもしれない。旅にも色々あるが、詰まるところ、その本質的な意義は「自己に内在する価値を引き出すための探求」ということになる。文明は定住を要求する。限られた空間の中に定住し、規格化された生活を余儀なくする。社会が組織を強め、個人の自由と権利が圧迫され、人は日常を越えて旅への夢を育むことになる。

【授業の目標】
＜アメリカ文学における旅の系譜＞について考察する。

【授業計画】
＜William Austin＞を＜Nathaniel Hawthorne＞と比較しつつ、文学作品を通して、＜Peter Rugg tales＞を分析する。
１．William Austin , "Peter Rugg tale〈s〉" (1824 ～)
２．Nathaniel Hawthorne, "A Virtuoso's Collection" (1842)
通年の授業なので、さらに Nathaniel Hawthorne, "Earth's Holocaust" (1846) を加えて、各学期を１５回に区分けしながら、授業を進める。なを詳細は授業の最初にて配布する。

【評価方法】
各学期の授業参加度30％ずつ、各学期末のレポート70％ずつ。

【テキスト】
適宜プリントを配付する。

【参考文献・資料】
授業の最初に詳述する。

090762505_0040　掲載順 :0040　MASTER ★

英語学特殊研究 V（統語論）

若山真幸

【授業の概要】
理論言語学の文献を取り上げ、人間の言語能力、普遍言語と言語の多様性に関する知識や分析方法を習得する。

【授業の目標】
研究分野の新しい研究成果に触れ、考察を深める。

【授業計画】
主に統語論や意味論の文献を使って講読・議論をする。

【評価方法】
研究レポート

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
未定

情報学特殊研究 I

林 博司

【授業の概要】
学位論文の作成
生命情報・遺伝情報の現状分析と可能性
組織器官の分化研究の現状と21世紀に於ける発展（国際的観点より）
生殖生物学の発展とそれが及ぼす社会的影響（国際的観点より）
遺伝情報の破壊と修復と変化の予測
文献検索、調査
統計処理
予測の設定と確実性
論文の形式
文章の設定
図書館情報学に於いて占める位置

【授業の目標】
学位論文を完成させるために有効な方法論の獲得。

【授業計画】
多くの関係教官と連絡を保ちながら、自分のペースで進める。必要な場合には他大学で研究する。常時、論文の内容、進行状況について発表を行う。

【評価方法】
論文評価と学術論文出版による。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献・資料】
学術雑誌を常に参考とする

情報学特殊研究 II

岡澤和世

【授業の概要】
情報システムは人の役に立つためにある。設計されたシステムは人が組み立てたものであり、人が利用するためにある。人々の現実の情報要求をうまく満たすことができればできるほどそのシステムは成功したといえる。その意味で、人間の要求を満たすことができないシステム設計はナンセンスである。本講義ではこの様な人間の情報行動と情報システムの関係に注目する。人はなぜ情報を必要とするのか？人は情報システムから何を得られると期待しているのか？情報システム設計者はこれらの情報行動にどうやって対処するのか？

【授業の目標】
情報社会における社会の要求に応えるための教育と実践

【授業計画】
1．ヒューマン・オーガニゼーション（Human organization）
2．人間中心の情報システム
3．システムの評価：単純さ/感性/キャシュ・フロー分析/利用度/評価法
4．管理とコントロール
5．人的要因（Human factors）
6．人間-機械の相互作用（HCI）の問題：概説/HCIの特性/HCIとシステム設計の関係/要約
7．利用者の参画：利用者とは何か/従来の情報システム/なぜ利用者を中心に据えるべきか/コミュニケーションの難しさ/利用者参画型アプローチ
8．実行：プランニング/利用者参画と訓練/マニュアル作成/システム・テスト手順の変更/実行後評価/メンテナンス

【評価方法】
レポート

【テキスト】
Theories of Information Behavior（Fisher, K. E et al.（ed） ASIST. 2005.）

情報学特殊研究 III

山崎茂明

【授業の概要】
科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察する。海外の研究論文や文献レビューなどから、近年の研究動向や課題を整理していく。特に、科学政策、研究動向、業績評価などのための分析能力の開発を目標に、調査データの収集と考察を試みる。また、AuthorshipやResearch Integrityをめぐる研究倫理について展開をはかる。
アメリカ、イギリス、ヨーロッパ、日本における主要な科学研究・政策についての主要な調査を分析し、日本の科学研究や科学コミュニケーションの課題や問題を検討する。発表をめぐる出版倫理については、デジタル情報資源も活用し、最近の動向を整理していく。参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。

【授業の目標】
科学研究活動を示す主要な統計資料をもとに、現状を分析し、問題の所在を明らかにできる能力を育成する。

【授業計画】
最初の１－２回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はA４版レポート用紙で４枚程度のレジメを提出すること。また、文献レビュー紹介や調査発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。講義に関係する資料は随時配付する。

【評価方法】
発表レポート

【テキスト】
Science and Engineering Indicators　NSF）、他

情報学特殊研究 IV

西荒井学

【授業の概要】
情報技術の発展と共に、数多くのソフトウェアが開発され、社会において流通している。特に、システム開発ツールに焦点を絞り、これらの技術的基盤ならびに応用技術について考察していく。

【授業の目標】
既存のソフトウェアが持つ特徴や課題を明らかにしていくことにより、ソフトウェア開発の評価基準を探る。

【授業計画】
受講者各自が特定のシステム開発ツールを選択し、その技術的基盤ならびに応用技術についての報告と討論を行なう。なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

【評価方法】
報告内容、討論への参加度、ならびに最終レポートによって評価する。

【テキスト】
特になし

情報学特殊研究 V

野添篤毅

【授業の概要】
自然科学分野における研究・開発過程での種々の知的情報処理について考察する。

【授業の目標】
既存の学術研究から、自己の研究への適用を考えていく。

【授業計画】
知的情報処理分野の最新の学術文献（雑誌論文、モノグラフ）を受講者が選択し、それについて発表と討論を行う。

【評価方法】
研究発表と討論への参加度

【テキスト】
その都度、指示する。

情報学特殊研究 VI

太田 裕

【授業の概要】
受講予定者は既に修士論文を終え、博士論文作成に挑戦中の諸君であることに鑑み、情報処理科学の観点から多様かつ異質な資料から所与の情報を抽出する（＝研究支援技法）の習得と実際活用能力の涵養に努めることとする。

したがって、授業形態は必然セミナー形式となるが、博士論文の枠組み・内容に関わって受講者毎に個別のカリキュラムを組むこととなる。

【授業の目標】
1．資料処理基礎力の補強
2．資料処理技法活用による課題解決・実践力の向上

【授業計画】
前期
1．基礎知見学習
2．受講者別カリキュラムの組立
3．関連演習課題の実施

後期
1．課題解決のための個別プログラムの作成
2．関連実資料の解析支援
3．課題適合高度解析法の探索

【評価方法】
レポートにより評価する。

【テキスト】
特にない。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

【参考文献・資料】
同上。

091263501_0010　掲載順：0010　MASTER ★

言語文化基礎

中野弘三　松本青也　山田幹郎　平林美都子

【授業の概要】

言語をさまざまな角度から概観することによって、言語そのものについての基礎的事項を学ぶ。また、人や組織、文化間のコミュニケーションの仕組みについての基礎的知識を身に付ける。
（中野弘三）コミュニケーションの手段としての言語の仕組みや働きを考察すると共に、言語とその背景をなす社会や文化との関わりを探る。（松本青也）言語学とその関連領域の研究成果を具体的な問題解決に応用する応用言語学の視点から、様々な課題を概観する。（山田幹郎）言語文化コミュニケーションの技術としてのレトリックに関する基礎的な知識を習得し、その知識を文学（特に英文学）の解釈に応用する力を身に付ける。（平林美都子）表象としての言語の役割を探り、人間の思考や感情を支配する言語がいかに政治的なものなのかを学ぶ。

【授業の目標】

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科での学習に必要な基本的な言語文化に関する素養や姿勢を修得すること。特に英語学・英語教育・英文学の面から英語をとらえ、言語としての英語の仕組みやコミュニケーションの手段としての英語や英語の表現技法について修得することを目標とする。

【授業計画】

第１講（中野弘三）　言語の仕組み―言語の構造
第２講（中野弘三）　言語の働き―言語の伝達機能
第３講（中野弘三）　言語の背景―社会や文化との関わり
第４講（松本青也）　多言語・多文化共生社会と外国語教育政策
第５講（松本青也）　日英対照言語学と英語教育
第６講（松本青也）　ICTを活用する英語教育の可能性
第７講（山田幹郎）　レトリックの基礎（１）
第８講（山田幹郎）　レトリックの基礎（２）
第９講（山田幹郎）　レトリックの応用：文学解釈法としての実践
第10講（平林美都子）　表象文化－文化の政治性
第11講（平林美都子）　移民文化における言語の問題
第12講（平林美都子）　翻訳に潜む政治性

【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

091263501_0030　掲載順：0030　MASTER ★

コミュニケーション特講１

MOLDEN, Danny T.

【Course description】

スピーチ、新聞、雑誌、書籍、音楽、テレビ番組、映画などを題材に、コミュニケーションの手段としてのレトリックとディベートについて基礎的な知識を身に付ける。

【Course objectives】

1. To introduce students to the ideas of rhetoric in communication.
2. To improve the students' use of English.
3. To help the students understand the variety of ways people can communicate.

【Course schedule】

Class meetings will consist of lecturers and discussion about rhetoric and communication studies.
Topics covered will include:
1. Classical rhetoric（1）
2. Classical rhetoric（2）
3. Classical rhetoric（3）
4. Contemporary rhetoric（1）
5. Contemporary rhetoric（2）
6. Contemporary rhetoric（3）
7. Studies of persuasion（1）
8. Studies of persuasion（2）
9. Studies of persuasion（3）
10. Contemporary communication studies（1）
11. Contemporary communication studies（2）
12. Contemporary communication studies（3）

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and oral presentations.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

【Reference】

授業時に指示する。

091263501_0020　掲載順：0020　MASTER ★

国際交流基礎

皆川修吾　榎田勝利　若松孝司

【授業の概要】

国際交流や異文化理解に関する基礎的な知識を身に付け、国と国の文化交流がもたらしてきた地域的秩序と市民社会の変容プロセスを学ぶ。
（皆川修吾）地球存続に必要なグローバル共生文化の涵養プロセスと共生文化の理念を軸とした異文化理解や現状認識の術を学ぶ。（榎田勝利）現代社会が直面しているグローバル市民社会の現状を検証し、将来にわたる国際交流のグランドデザインを探る。（榎田勝利）国際交流・協力活動に必要な知見と行動力を醸成するためグローバル化時代における多元的日本社会の変容と創造について学ぶ。（若松孝司）国際交流はトランスナショナルな活動であるが、国際社会の主たるアクターは依然として主権国家である。そこで、活動の前提としての主権国家間の関係を確認する。

【授業の目標】

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科での学習に必要な基本的な国際交流に関する素養や姿勢を修得すること。さらには、国際交流や異文化理解においてグローバルな視点で英語を使う基本的姿勢を学ぶこと。

【授業計画】

第１回　（皆川修吾）文化の必要性と文化変容条件
第２回　（皆川修吾）文化相対主義の有効性と限界
第３回　（皆川修吾）グローバル・ガヴァナンス－相互依存の管理体制－
第４回　（皆川修吾）グローバルカルチャーの展望
第５回　（榎田勝利）国際関係を動かす民間国際交流
第６回　（榎田勝利）国際交流のグランドデザイン（１）
第７回　（榎田勝利）国際交流のグランドデザイン（２）
第８回　（榎田勝利）国際交流のグランドデザイン（３）
第９回　（若松孝司）国際関係を見る視点―パワーと構造―
第10回　（若松孝司）連帯としての国家関係―地域統合の動き―
第11回　（若松孝司）地球的課題と国際関係①―地球環境問題への対応―
第12回　（若松孝司）地球的課題と国際関係②―貧困等諸課題への対応―

【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義ごとに授業中に指示する。

091263501_0040　掲載順：0040　MASTER ●

今年度開講せず

コミュニケーション特講２

【Course description】

文化、民族、国の間に観察される価値観、考え方やコミュニケーションの相違について考察する。

091263501_0050　掲載順：0050　MASTER ★

コミュニケーション特講３

McGEE, Jennifer J.

【Course description】
日常生活に対するメディアの効果、および、世界観に対するメディアの効果を考察する。

【Course objectives】
To learn specific theories of media and apply them to English and Japanese media in our daily lives.

【Course schedule】
We will look closely at various theories in turn, then analyze specific examples of how those theories explain life and the media. Exact theories and practices will vary depending on student interest and the world situation, but a typical class might include:

Week 1　Wikipedia and consensus knowledge(1)
Week 2　Wikipedia and consensus knowledge(2)
Week 3　Wikipedia and consensus knowledge(3)
Week 4　MySpace and community-building
Week 5　Mixi and community-building
Week 6　LiveJournal and community-building
Week 7　Community-building(1)
Week 8　Community-building(2)
Week 9　Research and validity of sources online(1)
Week10　Research and validity of sources online(2)
Week11　Research and validity of sources online(3)
Week12　Conclusion

【Assessment】
Grades will be assigned based on attendance, participation, and reports.

【Textbooks】
There will be no set textbook, but there will be various readings in both Japanese and English.

【Reference】
授業時に指示する。

091263501_0060　掲載順：0060　MASTER ●

コミュニケーション特講４

SELAND, John

【Course description】
イギリス文化と日本文化の比較研究を行うことによって、異文化コミュニケーションに対する理解を深める。

This course is designed to deepen students' understanding of intercultural communication through comparative studies of British Culture and Japanese Culture.

【Course objectives】
The course objectives are to help students see language and culture through a comparative perspective, and thus to communicate more effectively in English.

【Course schedule】
Week 1 : Introduction
Week 2 : Regional Differences
Week 3 : Similarities
Week 4 : Japanese Culture（1）
Week 5 : Japanese Culture（2）
Week 6 : Japanese Culture（3）
Week 7 : British Culture（1）
Week 8 : British Culture（2）
Week 9 : British Culture（3）
Week10 : Discussions and new developments（1）
Week11 : Discussions and new developments（2）
Week12 : Discussions and new developments（3）

【Assessment】
Evaluation will be made through oral presentations and written papers. Students will be given the opportunity to explore their own areas of interest.

【Textbooks】
No set textbook will be used in this course. Handouts and recorded material will provided in each class.

【Reference】
In order to improve their English comprehension, students should try to read English material regularly. Daily listening to news or current affairs is also highly recommended.

091263501_0070　掲載順：0070　MASTER ★

ランゲージスタディーズ特講１

樗木勇作

【授業の概要】
英語統語論を中心とする基本文献を講読し、自然言語がいかに体系的で合理的かを考察する。

【授業の目標】
英語の言語現象に対して多角的な分析や考察ができるようになることを目標とする。

【授業計画】
第１講　英語統語論の基本事項（１）
第２講　英語統語論の基本事項（２）
第３講　英語統語論の基本事項（３）
第４講　ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介（１）
第５講　ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介（２）
第６講　ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介（３）
第７講　コーパスを使用した言語研究の入門（１）
第８講　コーパスを使用した言語研究の入門（２）
第９講　コーパスを使用した言語研究の入門（３）
第10講　CHILDESを使用した言語獲得研究の入門（１）
第11講　CHILDESを使用した言語獲得研究の入門（２）
第12講　映画やインターネットの英語の分析

【評価方法】
レポート＋平均点（出席・授業態度）

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0080　掲載順：0080　MASTER ★

ランゲージスタディーズ特講２

若山真幸

【授業の概要】
英語意味論の基本文献を講読し、言語の意味構造の仕組みを考察する。

【授業の目標】
理論言語学の基本や言葉の意味や情報構造の概略を学び、英語及び言語コミュニケーションの一層の理解を深める。さらに、日常的な英語学習・英語教育にどう活かせるかを身に付ける。

【授業計画】
第１講　言語の句構造（１）
第２講　言語の句構造（２）
第３講　言語の句構造（３）
第４講　英語の項構造（１）
第５講　英語の項構造（２）
第６講　英語の項構造（３）
第７講　主題役割（１）
第８講　主題役割（２）
第９講　主題役割（３）
第10講　Linkingとは？（１）
第11講　Linkingとは？（２）
第12講　Linkingとは？（３）

【評価方法】
出席状況、課題レポート、学期末試験

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

ランゲージスタディーズ特講３

中郷 慶

【授業の概要】
英語音声学の基本文献を講読し、英語音声の特徴を考察する。

【授業の目標】
英語の音声・音韻体系を理解するとともに、英語の音声・強勢・イントネーションなどを音声記号で正しく書き表せるようになることを目標とする。

【授業計画】
Week１　母音と子音（１）
Week２　母音と子音（２）
Week３　音素（１）
Week４　音素（２）
Week５　語強勢（１）
Week６　語強勢（２）
Week７　弱形（１）
Week８　弱形（２）
Week９　リズム（１）
Week10　リズム（２）
Week11　ストレスシフト（１）
Week12　ストレスシフト（２）
Week13　同化・脱落・連結（１）
Week14　同化・脱落・連結（２）
Week15　イントネーションと音調群

【評価方法】
出席と課題レポートによる。

【テキスト】
English Phonetics and Phonology: a practical course (3rd edition 2000 Roach, Peter / Cambridge University Press)

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

英語教育特講２

大野清幸

【授業の概要】
語法研究、言語獲得研究、学校英文法などに応用可能な言語理論の知見を学ぶ。

【授業の目標】
英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、言語の本質的な部分について考察する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題のいくつかを考察する。

【授業計画】
第１講　授業計画指示など。
第２講　PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索する。
第３講　学術論文などを利用して、演習を行う。（１）
第４講　学術論文などを利用して、演習を行う。（２）
第５講　学術論文などを利用して、演習を行う。（３）
第６講　学術論文などを利用して、演習を行う。（４）
第７講　学術論文などを利用して、演習を行う。（５）
第８講　学術論文などを利用して、演習を行う。（６）
第９講　学術論文などを利用して、演習を行う。（７）
第10講　学術論文などを利用して、演習を行う。（８）
第11講　学術論文などを利用して、演習を行う。（９）
第12講　学術論文などを利用して、演習を行う。（10）

【評価方法】
出席状況、平常点、課題などによる。
基本的には、学術論文を精読し、議論する。
学期末レポート：現代英語に関する研究題材を選び、
（１）先行研究を調査し、（２）仮説をたて、（３）データを採集・整理し、
（４）理論の枠組みで分析し、（５）論文としてまとめ、提出する。

【テキスト】
学術論文

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

英語教育特講１

松本青也

【授業の概要】
言語教育の一環としての外国語教育という視点から、日本における英語教育を経済的、文化的、政治的な状況の中で捉え、そのさまざまな課題を検討するとともに、外国語運用の技能を検証することで、コミュニケーション能力養成に向けての英語教育をどのように位置づけるべきかを考察する。

【授業の目標】
日本の英語教育を中心に、外国語教育の諸問題について、主に理論的な側面から考察する。

【授業計画】
以下の点について考察する。
第１講　外国語教育の歴史（１）
第２講　外国語教育の歴史（２）
第３講　諸外国の外国語教育政策（１）
第４講　諸外国の外国語教育政策（２）
第５講　日本における外国語教育政策の変遷（１）
第６講　日本における外国語教育政策の変遷（２）
第７講　言語教育の一環としての外国語教育（１）
第８講　言語教育の一環としての外国語教育（２）
第９講　外国語運用の技能（１）
・Listening　・Speaking　・Reading　・Writing
第10講　外国語運用の技能（２）
・Listening　・Speaking　・Reading　・Writing
第11講　異文化コミュニケーション能力（１）
第12講　異文化コミュニケーション能力（２）

【評価方法】
研究発表及び論文。

【テキスト】
Brown, D.(2000). Principles of Language Learning and Teaching. Prentice Hall Regents.
Brown, D.(2001). Teaching by Principles. Prentice Hall Regents.

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

中国語・中国語教育特講１

馮 富榮

【授業の概要】
日本における中国語教育の現状や課題を、教材やカリキュラムの点から考察する。

【授業の目標】
この講義を受講することによって、学生の問題意識を養成し、問題解決へと導くアプローチの仕方を身に付けてもらうことが目標である。

【授業計画】
本講義は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。
１．日・中両言語に関する比較研究を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
２．日・中両言語の共通点と相違点を検討する。文法などという言語学的な側面だけでなく、文化や思考様式などという語用論的な側面からも捉える。
３．上記した日・中両言語の相違点は、中国人の日本語学習の問題点となるか否か、または日本人の中国語学習の問題点となるか否かを検討する。
４．中国語を学習する際、日本人の抱えている問題点（母語による影響）を解決するための工夫（教材と教授法の両側面から）をディスカッションしながら検討する。
講義は、輪読という形で展開される予定である。もちろん、講読の材料となる研究論文についても議論をする。よって、論文によって解明された問題を確認すると共に、まだ残っている研究課題を絞りだしていく。

【評価方法】
受講態度やレポートなどで、総合的に評価する。

【テキスト】
論文のコピーや新聞などを使う。

【参考文献・資料】
「中国語学」　日本中国語学会

中国語・中国語教育特講２

杜 英起

【授業の概要】
日本語と中国語の間の翻訳を通して、日本語と中国語の発想方法の違いについて学ぶ。

【授業の目標】
日本語から中国語へ、また中国語から日本語への翻訳練習を通じて、翻訳の技能を磨き、日中翻訳の専門知識を身につけることができる。

【授業計画】
日中翻訳基礎
日中文法翻訳（初等）
ビジネス関係文章の翻訳（一）
即席通訳基礎

【評価方法】
平常点及び及びレポートにて評価する。

【テキスト】
プリント配布

【参考文献・資料】
日中翻訳教程－基礎編（北京語言文化大学）
即席通訳（大連理工大学）

日本語・日本語教育特講１

山内啓介

【授業の概要】
日本語教育の現状や課題、今後の展望を考察する。

【授業の目標】
日本語教育の実際を知る。

【授業計画】
次についてテーマを定めて講義をおこなう。
日本語と文化の問題
日本語教育文法理論
日本語とコミュニケーション
日本語と地域
コンピュータ利用の日本語教育

【評価方法】
出席、レポートによる。

【テキスト】
特に定めない。
プリント資料を用いる。

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

日本語・日本語教育特講２

阿部美枝子

【授業の概要】
日本語の音声の仕組みについて考察し、習得上、外国人学習者がそれぞれの母語によりどのような干渉を受けるのか、それをどのようにコントロールすべきかを考える。

【授業の目標】
日常的にあまり意識することなく発している言語音を客観的に分析、理解し、その理解が日本語教育に携わるときに如何に重要かを認識することを目標とする。

【授業計画】
以下の内容を１５回に分けて行う。
１．概説
２．発音のメカニズム
３．音の分類
４．日本語の音１：五十音図を理解する
５．日本語の音２：特殊音
６．音の変化１：同化現象
７．音の変化２：連濁現象
８．韻律現象
９．日本語のアクセント１：日本語のアクセント規則とアクセント型
10．日本語のアクセント２：複合語のアクセント

【評価方法】
期末テストにより評価する。

【テキスト】
各講義時、ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

1. 井上和子・原田かづ子・阿部泰明（1999）『生成言語学入門』大修館書店
2. 鹿島央（2005)『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』スリーエーネットワーク
3. 窪園晴夫（1999）「歌謡におけるモーラと音節」音声文法研究会『文法と音声II』くろしお出版、241-260
4. 窪園晴夫（2006）『アクセントの法則』岩波書店
5. 田中真一・窪園晴夫（1999）『日本語の発音教室』くろしお出版
6. 町田健（編）猪塚元・猪塚恵美子（2003）『日本語音声学のしくみ』研究社

文化探求特講１

久野幸子

【授業の概要】
イギリス16世紀以降のユートピア文学の歴史を理論的に考察する。

【授業の目標】
英語圏文化を探求するために、理想郷あるいはどこにもないところを表す造語「ユートピア」をキーワードに、社会計画案、未来学、空想旅行、幻想、現実風刺などに変容しつつ存続する英語で書かれたユートピア文学の１６世紀から２０世紀までの歴史を展望し、それらへのさまざまな批評についての理論的考察を行なう。

【授業計画】
第１講　：イントロダクション（１）
第２講　：イントロダクション（２）
第３講　：イントロダクション（３）
第４講　：古代・中世のユートピア思想、ユートピア文学（１）
第５講　：古代・中世のユートピア思想、ユートピア文学（２）
第６講　：トマス･モアの『ユートピア』（１）
第７講　：トマス･モアの『ユートピア』（２）
第８講　：１７世紀ユートピア思想・ユートピア文学（１）
第９講　：１７世紀ユートピア思想・ユートピア文学（２）
第10講　：１８世紀ユートピア思想。ユートピア文学（１）
第11講　：１８世紀ユートピア思想・ユートピア文学（２）
第12講　：１９世紀ユートピア思想・ユートピア文学（１）
第13講　：１９世紀ユートピア思想・ユートピア文学（２）とまとめ

【評価方法】
平常点（出席、受講態度など）とレポートで総合的に評価する。

【テキスト】
John Carey, Faber Book of Utopias

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0170　掲載順 :0170　MASTER ●

今年度開講せず

文化探求特講２

【授業の概要】
アイルランド文学の伝統に重点を置き、その独自性と普遍的魅力について考察する。

091263501_0180　掲載順 :0180　MASTER ★

文化探求特講３

太田直子

【授業の概要】
アメリカの文学作品の読解と分析批判を通して、アメリカの文学と文化について考察する。

【授業の目標】
小説の分析、批評について学びながら、作品のより深い理解を目指す。作品からみる、アメリカ文学の全体像、または、アメリカという国についての考察を行う。20世紀アメリカ文学の深い理解を目標とする。

【授業計画】
第１講：Introduction
第２講：19世紀のアメリカ文学　H. Melville
第３講：19世紀のアメリカ文学　N. Hawthorne
第４講：20世紀アメリカ文学　Naturalism・Modernism(1)
第５講：20世紀アメリカ文学　Naturalism・Modernism(2)
第６講：20世紀アメリカ文学　Naturalism・Modernism(3)
第７講：1920年代；T. Dreiser ,An American Tragedy(1925)
第８講：1920年代；F. S. Fitzgerald, The Great Gatsby(1925)
第９講：1930年代；E. HemingwayとW. Faulkner(1)
第10講：1930年代；E. HemingwayとW. Faulkner(2)
第11講：1930年代；E. HemingwayとW. Faulkner(3)
第12講：まとめ

【評価方法】
学期末にレポートにより評価する。

【テキスト】
プリント

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0190　掲載順 :0190　MASTER ★

文化探求特講４

山田幹郎

【授業の概要】
イギリスルネッサンス期の文学作品の読解と分析批判を通して、その時代の文学と文化について考察する。

【授業の目標】
イギリスルネサンス文芸批評のレトリカルな面が当時の言語文化の重要な特徴であることを認識し、それがどのように現代批評の底流になっているかを概観すること。
19，20世紀作品の批評解釈に興味を持つ受講者とのディスカッションも行いたい。

【授業計画】
1　序：授業計画、受講者の成績評価及び書誌説明
2　ヨーロッパにおける文芸批評とレトリック（１）
3　ヨーロッパにおける文芸批評とレトリック（２）
4　イギリスにおける文芸批評とレトリック
5　シドニーの詩論（１）
6　シドニーの詩論（２）
7　シドニーの詩論（３）
8　シドニーの詩論（４）
9　シドニーの詩論（５）
10　シドニーの後継者たち
11　シドニーと現代批評
12　結び

【評価方法】
平常点とレポートにより総合評価する。

【テキスト】
プリントによる。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0200　掲載順 :0200　MASTER ★

文化探求特講５

EASLEY, Keith

【授業の概要】
アイルランドの文学作品の読解と分析批判を通して、アイルランドの文学と文化について考察する。

【授業の目標】
This course will aim at increasing students' sensitivity to and knowledge of the literature and culture of Ireland, with special reference to its influence beyond its own geographical boundaries.

【授業計画】
1　introduction, with special reference to topography
2　introduction, with special reference to landscape and identity
3　introduction to themes in Irish history, as elements of every meeting
4　the theme of landscape and literature; themes in Irish history(1)
5　the theme of landscape and literature; themes in Irish history(2)
6　the theme of landscape and literature; themes in Irish history(3)
7　the theme of music, with reference to place; themes in Irish history(1)
8　the theme of music, with reference to place; themes in Irish history(2)
9　the theme of music, with reference to place; themes in Irish history(3)
10　the theme of festivals and local culture; themes in Irish history(1)
11　the theme of festivals and local culture; themes in Irish history(2)
12　the theme of festivals and local culture; themes in Irish history(3)
13　conclusion, with review analysis of the themes in Irish history(1)
14　conclusion, with review analysis of the themes in Irish history(2)
15　conclusion, with review analysis of the themes in Irish history(3)

【評価方法】
Evaluation will be based on participation, presentations, class exercises and papers.

【テキスト】
To be decided.

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

文化探求特講 6

平林美都子

【授業の概要】
英語圏文学･映像表象を理解するために必要なジェンダー／セクシュアリティ理論、ポスト・コロニアリズム理論などの文化批評理論を学ぶ。

【授業の目標】
英語圏の短編小説の文学表現方法と、文学批評、文化理論を合わせて理解する。

【授業計画】
Katharine Mansfield の短編小説と文学理論
1　イントロダクション
2　"Bliss"(1)
3　"Bliss"(2)
4　"Miss Brill"(1)
5　"Miss Brill"(2)
6　"Her First Ball"(1)
7　"Her First Ball"(2)
8　"An Ideal Family"(1)
9　"An Ideal Family"(2)
10　"The Lady's Maid"(1)
11　"The Lady's Maid"(2)
12　まとめ

【評価方法】
出席とレポートによる。

【テキスト】
The Garden Party and Other Stories (Katharine Mansfield, Penguin Books)
批評関連のテキストは最初の授業で指示する。

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

文化探求特講 7

杉本一直

【授業の概要】
現代文化におけるポスト・モダニズム的傾向を理解するため、諸事象の理論的考察を行う。

【授業の目標】
今年度は亡命文学の作品研究を通してポストモダニズムの理解をめざす。

【授業計画】
原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、Vladimir Nabokov の代表作『ロリータ』を使用する。また、サブテキストとして、Nabokovを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書などを使用する。

【評価方法】
出席およびレポートによる。

【テキスト】
The Annotated Lolita（Vladimir Nabokov　Random House Inc）

【参考文献・資料】
徹夜の塊／亡命文学論（沼野充義著　作品社）ほか

国際社会貢献特講 1

榎田勝利

【授業の概要】
グローバル化、地方分権化の進展が、政府、地方自治体の国際化施策にも多大な影響を与えていることを念頭に置き、政府、地方自治体の国際化政策に焦点を当て、戦後の国際化施策の変遷、現状および課題を検証する。

【授業の目標】
地方自治体の国際交流政策の現状と課題を明確に理解し、望ましい国際交流の在り方を理解できる。

【授業計画】
1.戦後の地方自治体の国際交流活動の変遷
2.地方自治体はなぜ国際交流を行うのか
3.地方自治体の国際交流政策の現状
　(1)姉妹都市提携の推移と現状
　(2)地方自治体の国際交流政策の現状
　　都道府県・政令指定都市・地方中核都市・市町村レベル
4.自治体国際化協会
5.自治体の国際貢献・国際協力
6.多文化共生社会の形成
7.国際交流事業の評価

【評価方法】
課題レポート、授業への貢献度、出席状況等で総合的に評価する。

国際社会貢献特講 2

後 房雄

【授業の概要】
国際協力の新しいアプローチの理念、政策、実施体制を学ぶとともに、グローバル・イシューへの新しいアクターとして、非政府組織（NGO）や地方自治体の動きを発展的に検証する。

【授業の目標】
＊ 国際協力に関する日欧米の相違を理解すること
＊ 各セクターによる国際協力活動の現状と課題を理解すること
＊ 国際協力機関の組織運営を理解すること

【授業計画】
A. 総論：
1．国際協力の潮流：欧米・日本
2．New Approach：人間の安全保障と世界平和の構築
B. 各論：
1．国際協力活動の現状：
＊ 政府・中央省庁・外務省・JICA（ODA関係）
＊ 地方自治体の国際協力、CLAIRとモデル事業
＊ NGO：創設期＞成熟期＞発展期
2．組織運営論：
＊ 個別活動：組織運営・会員獲得
・ 活動基礎構築のために：内部要因としての理念・目標・運営形態
・ 活動展開のために：環境整備
・ 協力者・協力体制の構築
＊ 協働活動：
・ 地方自治体とNGO
・ ジャパン・プラットフォーム等の事例検討
・ 協働の可能性・現状と今後の課題

【評価方法】
授業への参加状況と期末レポート提出による。

【テキスト】
プリント配布及び授業時に指示する。

【参考文献・資料】
開講時に指示する。

091263501_0250　掲載順 :0250　MASTER ★

地域文化交流特講１

皆川修吾

【授業の概要】
「国際秩序の統治」とされているグローバル・ガバナンスの概念の国際関係における有効性と限界性について研究し、さらに地域文化交流がもたらしてきた地域的秩序について学ぶ。

【授業の目標】
国内・国際・グローバルな政治過程を歴史的に、そして体系的に理解し、複雑化する国際社会の諸情勢を的確に分析する術を学ぶ。

【授業計画】
1．秩序と無秩序
2．第1次世界大戦
3．第2次世界大戦
4．軍縮と安全保障
5．国連の存在意義
6．国際法
7．グローバリゼーションの光と陰
8．相互依存の理論と現実
9．経済のグローバル化
10．国際協力
11．人間の安全保障
12．環境汚染
13．テロリズム
14．情報革命と国際市民社会

【評価方法】
出席、分担部分の発表内容・討議内容　30%
期末レポート70%

【テキスト】
国際紛争（ジョセフ・ナイ著　有斐閣）

【参考文献・資料】
国際政治とは何か（中西寛著　中公新書）
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索（渡辺昭夫編著　東大出版）
グローバル化とは何か（デヴィット・ヘルド編著　法律文化社）
国際社会論（ヘドリー・ブル著　岩波書店）
現代国際関係学（新藤栄一著　有斐閣）
比較政治学（ジョヴァンニ・サルトーリ著　早稲田大学出版部）

091263501_0260　掲載順 :0260　MASTER ★

地域文化交流特講２

若松孝司

【授業の概要】
地域文化交流を意義あるものとするため、その対象の一つである発展途上国の実態を検証する。とくに、途上国の経済開発と政治的不安定要因について考察する。

【授業の目標】
世界システム論や従属論といった途上国の低開発状況を解明するさまざまな学説を理解し、それらをもとにして、低開発状況からの脱却という目標に対する受講生自身の見解を涵養することを目標とする。

【授業計画】
受講生との協議によって決定したテキストをもとに、ゼミ形式で報告と討論を行なう。

【評価方法】
授業に対する取り組みと、提出された課題によって決定する。

【テキスト】
別途指示する。

【参考文献・資料】
別途指示する。

091263501_0270　掲載順 :0270　MASTER ★

文化翻訳特講１

チョ スルソップ

【授業の概要】
異文化間の相互理解のため、言語・文化翻訳研究を行い、東アジア文化圏の言語・文化の共通性と異質性を理解し、言語・社会的役割・機能を体系的に学ぶ。

【授業の目標】
テキスト「春香伝」をとおして韓国社会と東アジア諸社会における文化諸相の理解を深め、テキストの映像化、翻訳化状況から東アジア諸国の相互理解および共生を可能にする翻訳法を模索していく。

【授業計画】
第１講　前言
第２講　「春香伝」の世界１
第３講　「春香伝」の世界２
第４講　「春香伝」の世界３
第５講　「春香伝」の世界４
第６講　「春香伝」映像化とその流布１
第７講　「春香伝」映像化とその流布２
第８講　「春香伝」の文化翻訳１
第９講　「春香伝」の文化翻訳２
第10講　「春香伝」の出版翻訳各種
第11講　「春香伝」の映像翻訳各種
第12講　「春香伝」日本語訳書籍とその世界１
第13講　「春香伝」日本語訳書籍とその世界２
第14講　「春香伝」日本語訳書籍とその世界３
第15講　総合

【評価方法】
出席、授業のための準備、翻訳の実践、レポートを総合して評価する。

【テキスト】
プリントなどを用いる。

【参考文献・資料】
校注春香伝（趙潤済　乙酉文化社）
春香伝（張徳順　明文堂）
春香伝（洪相圭訳　高麗書林）

091263501_0280　掲載順 :0280　MASTER ★

文化翻訳特講２

CURRAN, Beverley

【授業の概要】
異文化間の相互理解のため、言語・文化翻訳研究を行い、英米文化圏の言語・文化の共通性と異質性を理解し、言語・社会的役割・機能を体系的に学ぶ。

【授業の目標】
このコースの目標は、学生に色々な日英翻訳の例文を紹介する。実践的な学習を通して言語能力、また翻訳者の意識を高めることである。

【授業計画】
第１回　Introduction
第２回　マンガ（１）
第３回　マンガ（２）
第４回　児童文学（１）
第５回　児童文学（２）
第６回　文学（１）
第７回　文学（２）
第８回　映画（１）
第９回　映画（２）
第10回　歌
第11回　情報パンフレット
第12回　翻訳プロジェクト（１）
第13回　翻訳プロジェクト（２）
第14回　翻訳プロジェクト（３）
第15回　オーラル・プレゼンテーション

【評価方法】
参加における努力、プレセンテーションのように評価することである。

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
受講生の興味関心によって決定する。

091263501_0290　掲載順：0290　MASTER ★

コミュニケーション演習１

MOLDEN, Danny T.

【Course description】
レトリックとディベートについて、発展的な知識を身に付けるとともに、英語運用能力の向上を目指す。

【Course objectives】
・Developing and improving academic writing skills in English
・Developing and improving academic research skills in English
・Developing and improving critical thinking skills in English

【Course schedule】
Topics examined may include the following:
1．Determining an essay/research topic of interest.（1）
2．Determining an essay/research topic of interest.（2）
3．Identifying and using research source material.（1）
4．Identifying and using research source material.（2）
5．Reviewing the literature（1）
6．Reviewing the literature（2）
7．Preparing an outline（1）
8．Preparing an outline（2）
9．Constructing and writing the report.（1）
10. Constructing and writing the report.（2）
11. Source citation requirements.（1）
12. Source citation requirements.（2）
13. Proper source citation format.（1）
14. Proper source citation format.（2）

【Assessment】
Course assessment will be through a series of writing exercises culminating in an academic research paper.

【Textbooks】
Course material will be drawn from academic journals and books.

【Reference】
授業時に指示する。

091263501_0300　掲載順：0300　MASTER ●

今年度開講せず

コミュニケーション演習２

【Course description】
コミュニケーションの行動様式と異文化理解を多角的に考察する。

091263501_0310　掲載順：0310　MASTER ★

コミュニケーション演習３

McGEE, Jennifer J.

【Course description】
メディアを通して、変容する言語表現を考察する。

【Course objectives】
To learn specific theories of media and apply them to English and Japanese media in our daily lives.

【Course schedule】
We will look closely at various theories in turn, then analyze specific examples of how those theories explain life and the media. Exact theories and practices will vary depending on student interest and the world situation, but a typical class might include:
Week 1：Youtube, Flickr, and shared media: effects and repercussions（1）
Week 2：Youtube, Flickr, and shared media: effects and repercussions（2）
Week 3：Youtube, Flickr, and shared media: effects and repercussions（3）
Week 4：Youtube, Flickr, and shared media: effects and repercussions（4）
Week 5：Genre in television programming: Japanese and American comparison（1）
Week 6：Genre in television programming: Japanese and American comparison（2）
Week 7：Genre in television programming: Japanese and American comparison（3）
Week 8：Genre in television programming: Japanese and American comparison（4）
Week 9：Semantics and comic books/manga: symbolism and communication.（1）
Week10: Semantics and comic books/manga: symbolism and communication.（2）
Week11: Semantics and comic books/manga: symbolism and communication.（3）
Week12: Semantics and comic books/manga: symbolism and communication.（4）

【Assessment】
Grades will be assigned based on attendance, participation, and reports.

【Textbooks】
There will be no set textbook, but there will be various readings in both Japanese and English.

【Reference】
授業時に指示する。

091263501_0320　掲載順：0320　MASTER ●

コミュニケーション演習４

SELAND, John

【Course description】
イギリスの文化・文学の諸相を理論的に考察する。
This course explores aspects of British Culture and British Literature.

【Course objectives】
The course objectives are to deepen students' understanding of the culture of the United Kingdom, and through this to help them communicate more effectively in English.

【Course schedule】
Week 1：Introduction
Week 2：Survey of British Culture（1）
Week 3：Survey of British Culture（2）
Week 4：Survey of British Literature（1）
Week 5：Survey of British Literature（2）
Week 6：Current cultural developments（1）
Week 7：Current cultural developments（2）
Week 8：Current cultural developments in relation to literature（1）
Week 9：Current cultural developments in relation to literature（2）
Week10: Future possibilities in culture and literature（1）
Week11: Future possibilities in culture and literature（2）
Week12: Review

【Assessment】
Evaluation will be made through oral presentations and written papers. Students will be given the opportunity to explore their own areas of interest.

【Textbooks】
Not yet decided.

【Reference】
授業時に指示する。

091263501_0330　掲載順 :0330　MASTER ★

ランゲージスタディーズ演習１

樗木勇作

【授業の概要】
統語論を主な研究テーマとし、文献検索・資料収集の方法やその分析方法を身に付け、研究テーマに関する問題意識を高める。

【授業の目標】
英語の言語現象に対して多角的な分析や独自性のある考察ができるようになることを目標とする。

【授業計画】
Week１　英語統語論の基本事項（１）
Week２　英語統語論の基本事項（２）
Week３　英語統語論の基本事項（３）
Week４　ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介（１）
Week５　ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介（２）
Week６　ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介（３）
Week７　コーパスを使用した言語研究の入門（１）
Week８　コーパスを使用した言語研究の入門（２）
Week９　コーパスを使用した言語研究の入門（３）
Week10　CHILDESを使用した言語獲得研究の入門（１）
Week11　CHILDESを使用した言語獲得研究の入門（２）
Week12　CHILDESを使用した言語獲得研究の入門（３）
Week13　映画やインターネットの英語の分析（１）
Week14　映画やインターネットの英語の分析（２）
Week15　映画やインターネットの英語の分析（３）

【評価方法】
レポート＋平均点（出席・授業態度）

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0340　掲載順 :0340　MASTER ★

ランゲージスタディーズ演習２

若山真幸

【授業の概要】
意味論を主な研究テーマとし、文献検索・資料収集の方法やその分析方法を身に付け、研究テーマに関する問題意識を高める。

【授業の目標】
理論言語学の基本や言葉の意味や情報構造の概略を学び、英語及び言語コミュニケーションの一層の理解を深める。さらに、日常的な英語学習・英語教育にどう活かせるかを身に付ける。

【授業計画】
第１講　他動詞と自動詞、二つの自動詞（１）
第２講　他動詞と自動詞、二つの自動詞（２）
第３講　他動詞と自動詞、二つの自動詞（３）
第４講　他動詞と自動詞、二つの自動詞（４）
第５講　他動詞と自動詞、二つの自動詞（５）
第６講　心理動詞の項構造（１）
第７講　心理動詞の項構造（２）
第８講　心理動詞の項構造（３）
第９講　心理動詞の項構造（４）
第10講　コーパスを使ったコロケーション（１）
第11講　コーパスを使ったコロケーション（２）
第12講　コーパスを使ったコロケーション（３）

【評価方法】
出席状況、課題レポート、学期末試験

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0350　掲載順 :0350　MASTER ★

ランゲージスタディーズ演習３

中郷 慶

【授業の概要】
英語の発音の特徴を、日本語との比較も交え、単音レベルから文・談話レベルまで学ぶ。また、日本人英語学習が抱えている発音上の問題も考察する。

【授業の目標】
英語と日本語を比較研究することによって、英語らしさとは何か、日本語らしさとは何かを明らかにすること。

【授業計画】
関係論文や専門書の講読演習を行う。
第１講：関係論文や専門書の講読（１）
第２講：関係論文や専門書の講読（２）
第３講：関係論文や専門書の講読（３）
第４講：演習（１）
第５講：演習（２）
第６講：演習（３）
第７講：実践（１）
第８講：実践（２）
第９講：実践（３）
第10講：実践（４）
第11講：実践（５）
第12講：レポートについて

【評価方法】
出席と課題レポートによる。

【テキスト】
関係論文のコピーを使用する。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0360　掲載順 :0360　MASTER ★

英語教育演習１

松本青也

【授業の概要】
世界における外国語教授法の歴史と多様性を概観し、主要な教授法について詳しく検証しながら、日本固有の言語状況に適合した理想的な英語教授法と、日本の学習者の立場から考えた理想的な英語学習法とは何かを考察する。

【授業の目標】
日本の英語教育を中心に、外国語教育の多様な教授法について考察する。

【授業計画】
以下の点について考察する。
第１講　ESLとEFL（１）
第２講　ESLとEFL（２）
第３講　外国語教授法の変遷（１）
第４講　外国語教授法の変遷（２）
第５講　日本の外国語教授法（１）
第６講　日本の外国語教授法（２）
第７講　外国語教授法の理論的背景（１）
第８講　外国語教授法の理論的背景（２）
第９講　動機付けと学習法（１）
第10講　動機付けと学習法（２）
第11講　教授法の原則（１）
第12講　教授法の原則（２）
第13講　マルチメディアの活用（１）
第14講　マルチメディアの活用（２）
第15講　教師の役割と評価

【評価方法】
研究発表及び論文。

【テキスト】
Brown, D.(2000). Principles of Language Learning and Teaching. Prentice Hall Regents.
Brown, D.(2001). Teaching by Principles. Prentice Hall Regents.

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0370　掲載順 :0370　MASTER ★

英語教育演習２

大野清幸

【授業の概要】
高い評価を得ている日本各地での英語教育の実践例を対象にケーススタディを行い、英語教育に対する理解を深める。

【授業の目標】
英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、言語の本質的な部分について考察する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題のいくつかを考察する。

【授業計画】
基本的には、学術論文を精読し、議論する。
第１講　授業計画指示など
第２講　PC実践教室において、関連情報を検索・探索する
第３講　学術論文などによる演習(1)
第４講　学術論文などによる演習(2)
第５講　学術論文などによる演習(3)
第６講　ケーススタディ(1)
第７講　ケーススタディ(2)
第８講　ケーススタディ(3)
第９講　ケーススタディ(4)
第10講　まとめ(1)
第11講　まとめ(2)
第12講　まとめ(3)

【評価方法】
出席状況、平常点、課題などによる。

【テキスト】
学術論文。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0380　掲載順 :0380　MASTER ★

中国語・中国語教育演習１

馮 富榮

【授業の概要】
日本における中国語教育の現状をふまえ、今後の新しい中国語教育のあり方について考察する。

【授業の目標】
本講義の受講によって、日本の大学における中国語の現状や日本の大学における中国語教育の問題点を探り出すだけでなく、その問題点の解決につながる改善策を考える姿勢が身に付くことが期待できる。

【授業計画】
この授業は、下記のステップを踏んで展開していく。
１．日本における中国語教育の現状を調べる。主として日本の大学における中国語教育に焦点を当てる。
２．日本の大学の中国語教育における問題点についてディスカッションを行う。具体的には、
　１）教材に関する問題；
　２）カリキュラムに関する問題；
　３）中国語教育者間の連携に関する問題；
　４）教授法に関する問題。
　という４つのカテゴリーに分けて、それぞれ具体的に議論し、改善案を検討する。
３．日本の大学における今後の中国語教育への提案にまとめる。

【評価方法】
受講態度やレポートなどで、総合的に評価する。

【テキスト】
論文のコピーや新聞などを使う。

【参考文献・資料】
「中国語学」　日本中国語学会

091263501_0390　掲載順 :0390　MASTER ★

中国語・中国語教育演習２

杜 英起

【授業の概要】
日本語と中国語の発想方法や表現様式の違いをふまえ、翻訳の演習を行う。

【授業の目標】
日本語から中国語へ、また中国語から日本語への翻訳練習を通じて、翻訳の技能を磨き、日中翻訳の専門知識を身につけることができる。

【授業計画】
日中翻訳実践
日中文法翻訳（中等）
ビジネス関係文章の翻訳（二）
即席通訳応用

【評価方法】
平常点及びレポートにて評価する。

【テキスト】
プリント配布

【参考文献・資料】
日中翻訳教程―実践編（北京語言文化大学）
即席通訳（大連理工大学）
中国経済新論（日本新報社）

091263501_0400　掲載順 :0400　MASTER ★

日本語・日本語教育演習１

山内啓介

【授業の概要】
音韻論、文法論、意味論の観点から日本語の構造を考察する。

【授業の目標】
日本語音声、日本語文法理論、日本語意味論と日本語教育の教授方法を理解する。

【授業計画】
次についてテーマを定めて演習をおこなう。
日本語概説と日本語教育
日本語文法と日本語教育の方法
日本語教育の実態
日本語学と日本語教育
日本語と文化

【評価方法】
出席、レポートによる。

【テキスト】
特に定めない。
プリント資料を用いる。

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

091263501_0410　掲載順：0410　MASTER ★

日本語・日本語教育演習２

阿部美枝子

【授業の概要】
日本語の文法、構文の中から日本語教育上、教える側からみて難しく、工夫を要する項目を主に取り上げ、その難しさがどこから来るのか、どうすれば解決できるのかを検討する。

【授業の目標】
日本語話者の持つ言語知識、つまり日本語の母語話者が無意識のうちに習得した日本語の仕組みとはどういうものかを理解し、異なる母語話者である学習者に日本語を教えるとはどういうことであるかを認識することを目標とする

【授業計画】
以下の７項目を、一項目につき概ね２講義時をかけて解説していく。
1　活用
2　格
3　自動詞と他動詞
4　テンスとアスペクト
5　ヴォイス１：受身と使役
6　ヴォイス２：授受表現
7　名詞修飾

【評価方法】
学期末レポートによる。

【テキスト】
各講義時、ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

091263501_0420　掲載順：0420　MASTER ★

文化探求演習１

久野幸子

【授業の概要】
英国文化の特徴を、英国ユートピア文学を通して多角的な視点から考察する。

【授業の目標】
前期の特講で学んだ批評理論のなかで、とくにマルクス主義批評、フェミニズム批評、ポスト･コロニアル批評、カルチャースタディーズに注目し、ユートピア文学作品の中から数篇を選び、それらが書かれた時代の社会情勢や政治、経済、文化事象などとの因果関係をグローバルな視点で比較検討し、英語圏文化の把握につとめる。

【授業計画】
第１講：イントロダクション（１）
第２講：イントロダクション（２）
第３講：ユートピア思想と諸批評（１）
第４講：ユートピア文学と諸批評（２）
第５講：ユートピア思想とマルクス主義批評（１）
第６講：ユートピア文学とマルクス主義批評（２）
第７講：ユートピア思想とフェミニズム批評（１）
第８講：ユートピア文学とフェミニズム批評（２）
第９講：ユートピア思想とポスト･コロニアル批評（１）
第10講：ユートピア文学とポスト･コロニアル批評（２）
第11講：ユートピア思想・ユートピア文学とカルチャースタディーズ
第12講：まとめ

【評価方法】
平常点（出席、受講態度など）とレポートで総合的に評価する。

【テキスト】
Ruth Levitas, Concept of Utopia
Gary Saul Morson, The Boundaries of Genre.

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0430　掲載順：0430　MASTER ●

今年度開講せず

文化探求演習２

【授業の概要】
20世紀のアイルランド文学や映画等を通して、アイルランドの伝統や文化現象について考察する。

091263501_0440　掲載順：0440　MASTER ★

文化探求演習３

太田直子

【授業の概要】
20世紀のアメリカ文学の分析を通して､アメリカ社会を多角的に考察する。

【授業の目標】
小説の分析、批評について学びながら、作品のより深い理解を目指す。作品からみる、アメリカ文学の全体像、または、アメリカという国についての考察を行う。20世紀アメリカ文学の深い理解を目標とする。

【授業計画】
第１講：Introduction
第２講：E. Hemingway　Nick Adams Stories　精読
第３講：E. Hemingway　Nick Adams Stories　作品分析
第４講：E. Hemingway　Nick Adams Stories　批評
第５講：William Faulkner　Absalom, Absalom！　精読(1)
第６講：William Faulkner　Absalom, Absalom！　精読(2)
第７講：William Faulkner　Absalom, Absalom！　作品分析(1)
第８講：William Faulkner　Absalom, Absalom！　作品分析(2)
第９講：William Faulkner　Absalom, Absalom！　作品分析(3)
第10講：Absalom, Absalom！ の批評(1)
第11講：Absalom, Absalom！ の批評(2)
第12講：1920・30年代アメリカ文学の変貌について

【評価方法】
授業内での発表、学期末のレポートで評価する。

【テキスト】
プリント
William Faulkner, Absalom, Absalom! (Vintage International)

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

文化探求演習 4

山田幹郎

【授業の概要】
ルネッサンス期のイギリス文学のレトリックを通して、イギリス文化の諸相を考察する。

【授業の目標】
イギリスルネサンス演劇作品を当時の具体的な文化探求テキストとして精読することによりその諸解釈の元にあるレトリカルな面についての知見を涵養すること。

【授業計画】
1　序：授業計画、受講者の成績評価及び書誌説明
2　Othello読解（1）
3　Othello読解（2）
4　Othello読解（3）
5　Othello読解（4）
6　Othello読解（5）
7　作品解釈（1）
8　作品解釈（2）
9　作品解釈（3）
10　受講者による批評解釈発表とグループ討論（1）
11　受講者による批評解釈発表とグループ討論（2）
12　演習総括

【評価方法】
平常点とレポートにより総合評価する。

【テキスト】
プリントによる。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

文化探求演習 5

EASLEY, Keith

【授業の概要】
アイルランド文学の分析を通して､アイルランド社会を多角的に考察する。

【授業の目標】
This course will aim at increasing students' understanding of the different perspectives of Ireland that arise essentially from historical, religious and political divisions as they are revealed in works of literature.

【授業計画】
1　introduction, with special reference to myths of origin
2　introduction, with special reference to patterns of settlement
3　introduction, with special reference to the emergence of division
4　the theme of historical difference; Irish literary themes(1)
5　the theme of historical difference; Irish literary themes(2)
6　the theme of historical difference; Irish literary themes(3)
7　the theme of religious difference; Irish literary themes(1)
8　the theme of religious difference; Irish literary themes(2)
9　the theme of religious difference; Irish literary themes(3)
10　the theme of political difference; Irish literary themes(1)
11　the theme of political difference; Irish literary themes(2)
12　the theme of political difference; Irish literary themes(3)
13　conclusion, with review analysis of Irish literary themes(1)
14　conclusion, with review analysis of Irish literary themes(2)
15　conclusion, with review analysis of Irish literary themes(3)

【評価方法】
Evaluation will be based on participation, presentations, class exercises and papers.

【テキスト】
To be decided.

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

文化探求演習 6

平林美都子

【授業の概要】
ファミニズム文学批評やジェンダー理論の観点から、英語圏の文学作品や映像表象を考察する。

【授業の目標】
英語圏の短編小説の文学表現方法と、文学批評、文化理論を合わせて理解する。

【授業計画】
第１講：イントロダクション
第２講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (1)
第３講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (2)
第４講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (3)
第５講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (4)
第６講：Margaret Atwood の短編Wilderness Tipsの講読 (5)
第７講：フェミニズム文学批評テキストの講読 (1)
第８講：フェミニズム文学批評テキストの講読 (2)
第９講：フェミニズム文学批評テキストの講読 (3)
第10講：まとめ (1)
第11講：まとめ (2)
第12講：まとめ (3)

【評価方法】
出席とレポートによる。

【テキスト】
Wilderness Tips (Margaret Atwood, Seal Books)
批評関連のテキストは最初の授業で指示する。

【参考文献・資料】
適宜、授業中に指示する。

文化探求演習 7

杉本一直

【授業の概要】
亡命ロシア人の文学作品や芸術作品を講読・鑑賞し、その創作意識を考察する。

【授業の目標】
亡命者文化の本質を理解する

【授業計画】
原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、Vladimir Nabokov の代表作『ロリータ』を使用する。また、サブテキストとして、Nabokovを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書などを使用する。

【評価方法】
出席およびレポートによる。

【テキスト】
The Annotated Lolita（Vladimir Nabokov　Random House Inc）

【参考文献・資料】
言語の都市（トニー・タナー著　白水社）
脱領域の知性（ジョージ・スタイナー著　河出書房新社）

国際社会貢献演習 1

榎田勝利

【授業の概要】
政府開発援助（ODA）の基本理念、国際協力スキームの検証と現状、および非政府組織（NGO）の基本理念と特長、実態を学び、ODAとNGOとの連携を検討する。

【授業の目標】
国際協力の理念、活動主体の役割と活動方法、多分野にわたる開発課題の現状を理解し、その課題解決法を提言できる。

【授業計画】
1．講義のねらいと評価の方法
2．国際協力の概念
3．国際協力のアクター（国連、国際機関）
4．国際協力のアクター（政府開発援助機関）
5．国際協力のアクター（NGO、欧米のNGOと日本のNGO）
6．国際協力の方法（政府開発援助－ODA）
7．国際協力の方法（地方自治体）
8．国際協力の方法（NGO、ボランティア）
9．開発課題と国際協力（ミレニアム開発目標）
10. 国際協力事業の評価
11. 日本の国際協力の課題と展望

【評価方法】
試験は行わない。出席状況、毎回の演習での貢献度、発表・討議の内容を、総合的に評価する。

【テキスト】
毎回プリントを配布する。

【参考文献・資料】
国際協力（下村・辻・稲田・深川著　有斐閣選書）
国際協力（功刀達郎編著　サイマル出版会）
国際協力論を学ぶ人のために（内海成治編　世界思想社）
国際連合の基礎知識（国際連合広報局　世界の動き社）
政府開発援助（ODA）白書（外務省・経済協力局）
UNDP・人間開発報告書（国連開発計画編　国際協力出版会）
国際協力用語集第２版（国際開発ジャーナル社）

国際社会貢献演習 2

後 房雄

【授業の概要】
非営利組織(NPO)の台頭の背景、定義、役割等の基本的概念を検証し、非営利組織のマネジメントの実態と問題点を考察する。

【授業の目標】
NPO/NGOの発展や組織運営に関する諸要因を分析・検討することによってNPO/NGOにより社会貢献活動および社会的役割を理解すること。特に海外NPO/NGOの活動・組織運営の手法を理解すること。

【授業計画】
基本的には国際社会貢献特講２と同様な授業計画を行う。内容は国際社会貢献特講２が国内NGOを取り上げるのに対して、この演習は海外の主なNGOを対象とするものである。英文資料等を基に演習を行う。国際比較により広範的な組織マネジメントを学習できる。
院生には修論課題に関連させ議論等を進める。

【評価方法】
演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】
開講時に参加者全員で協議して決める。

【参考文献・資料】
随時参考資料、文献やプリントを配布する。

地域文化交流演習 1

皆川修吾

【授業の概要】
冷戦崩壊後の分権化・民営化・民主化のグローバルな動きに対し、ローカライゼーションの実態と意義を検討する。

【授業の目標】
国内・国際・グローバルな政治過程、とくに日本の政治過程に焦点をあて、体系的に理解すること。

【授業計画】
下記のテキストの章ごとに課題を設定し、ディスカッション形式で理解を深める。

【評価方法】
分担部分の発表内容・討議内容、および課題に対するレポート　30%
期末レポート　70%

【テキスト】
政治学（久米郁男他共著、有斐閣）

【参考文献・資料】
[著書]
戦後政治の崩壊（山口二郎著　岩波書店）
内閣制度（山口二郎著　東京大学出版）
[専門誌]
国際政治（国際政治学会編　有斐閣）
政治学（日本政治学会編　岩波書店）

地域文化交流演習 2

若松孝司

【授業の概要】
経済社会開発や貧困問題など、途上国が抱える具体的事例を検討し、問題解決の方策を探る。

【授業の目標】
途上国・地域の抱える諸問題について、各自の研究対象に即して現状を把握し、自分自身の見解を深める。

【授業計画】
受講生との協議によって事例を決定し、ゼミ形式で報告と討論を行なう。

【評価方法】
授業に対する取り組みと、提出された課題によって決定する。

【テキスト】
別途指示する。

【参考文献・資料】
別途指示する。

文化翻訳演習１

チョ スルソップ

【授業の概要】
韓国、中国、日本の文学作品を通文化的な観点から講読・鑑賞する。

【授業の目標】
テキスト「紅楼夢」をとおして中国社会と東アジア諸社会における文化諸相の理解を深め、テキストの映像化、翻訳化状況から東アジア諸国の相互理解および共生を可能にする翻訳法を模索していく。

【授業計画】
第１講　前言
第２講　「紅楼夢」の世界１
第３講　「紅楼夢」の世界２
第４講　「紅楼夢」の世界３
第５講　「紅楼夢」の世界４
第６講　「紅楼夢」映像化とその流布１
第７講　「紅楼夢」映像化とその流布２
第８講　「紅楼夢」の文化翻訳１
第９講　「紅楼夢」の文化翻訳２
第10講　「紅楼夢」の出版翻訳各種
第11講　「紅楼夢」の映像翻訳各種
第12講　「紅楼夢」日本語訳書籍とその世界１
第13講　「紅楼夢」日本語訳書籍とその世界２
第14講　「紅楼夢」日本語訳書籍とその世界３
第15講　総合

【評価方法】
出席、授業のための準備、翻訳の実践、レポートを総合して評価する。

【テキスト】
プリント中心

【参考文献・資料】
紅楼夢（高鶚　上海古籍出版社）
紅楼夢（松枝茂夫訳　岩波文庫）

文化翻訳演習２

CURRAN, Beverley

【授業の概要】
文芸翻訳の実践を通して、異文化への理解を深め、文化翻訳能力を高める。

【授業の目標】
このコースの目標は、学生に色々な異文化的な日英翻訳の例文を紹介する。実践的な学習を通して言語能力、また翻訳者の意識を高めることである。

【授業計画】
第１回　Introduction：descriptive studies
第２回　マンガーONE PIECE (日本語・英語)（１）
第３回　マンガーONE PIECE (日本語・英語)（２）
第４回　児童文学：Alice in Wonderland・不思議な国のアリス（１）
第５回　児童文学：Alice in Wonderland・不思議な国のアリス（２）
第６回　文学における翻訳者（１）
第７回　文学における翻訳者（２）
第８回　映画：Shall We ダンス？・Shall We Dance?（１）
第９回　映画：Shall We ダンス？・Shall We Dance?（２）
第10回　映画：Shall We ダンス？・Shall We Dance?（３）
第11回　英語のセリフ・日本語の字幕／吹き替え（Love Actually）
第12回　情報パンフレット(インターネット)
第13回　新聞の記
第14回　オーラル・プレゼンテーション

【評価方法】
参加における努力、プレセンテーションのように評価することである。

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
受講生の興味関心によって決定する。

課題実践（コミュニケーション）Ⅰa

MOLDEN, Danny T.

【Course description】
さまざまなスピーチの分析を通して、効果的な説得のあり方を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【Course objectives】
・Instill students' with an in-depth understanding of the concepts, principles, and skills regarding communication between people from different cultures.
・Provide opportunities for students to apply those precepts to contemporary, practical situations in English.
・Create a greater awareness of cultural diversity.

【Course schedule】
Topics examined may include, but are not limited to, the following general areas:
1. Globalization(1)
2. Globalization(2)
3. Culture and Communication(1)
4. Culture and Communication(2)
5. Cultural Perception and Values(1)
6. Cultural Perception and Values(2)
7. Language and Culture(1)
8. Language and Culture(2)
9. Culture and Nonverbal Communication(1)
10. Culture and Nonverbal Communication(2)
11. Intercultural Cultural Context(1)
12. Intercultural Cultural Context(2)
13. Intercultural Adaptation and Assimilation(1)
14. Intercultural Adaptation and Assimilation(2)
15. Intercultural Competence

【Assessment】
Attendance, class participation, short written or oral reports, and one short research paper on an intercultural topic of individual interest will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】
All class readings will be provided.

【Reference】
授業時に指示する。

課題実践（コミュニケーション）Ⅰb

MOLDEN, Danny T.

【Course description】
「課題実践（コミュニケーション）Ⅰa」に継続する課題研究授業。効果的で説得力のあるコミュニケーションのあり方を考察しながら、課題実践の指導を行う。

【Course objectives】
・Instill students' with an in-depth understanding of concepts, principles, and skills relating to communication between persons from different cultures.
・Provide opportunities for students to apply those precepts to contemporary, practical situations in English.
・Create a greater awareness of cultural diversity.

【Course schedule】
Topics examined may include, but are not limited to, the following general areas:
1. Globalization（１）
2. Globalization（２）
3. Culture and Communication（１）
4. Culture and Communication（２）
5. Cultural Perception and Values（１）
6. Cultural Perception and Values（２）
7. Language and Culture（１）
8. Language and Culture（２）
9. Culture and Nonverbal Communication（１）
10. Culture and Nonverbal Communication（２）
11. Intercultural Cultural Context（１）
12. Intercultural Cultural Context（２）
13. Intercultural Adaptation and Assimilation（１）
14. Intercultural Adaptation and Assimilation（２）
15. Intercultural Competence

【Assessment】
Attendance, class participation, short written or oral reports, and one short research paper on an intercultural topic of individual interest will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】
All readings will be provided.

【Reference】
授業時に指示する。

091263501_0570　掲載順：0570　MASTER ●

今年度開講せず

課題実践（コミュニケーション）Ⅱa

【Course description】
アメリカ文化と日本文化の比較検証を行いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

091263501_0580　掲載順：0580　MASTER ●

今年度開講せず

課題実践（コミュニケーション）Ⅱb

【Course description】
「課題実践（コミュニケーション）Ⅱa」に継続する課題研究授業。日米文化の特質を考察しながら、課題実践の指導を行う。

091263501_0590　掲載順：0590　MASTER ★

課題実践（コミュニケーション）Ⅲa

McGEE, Jennifer J.

【Course description】
メディアに現れる言語表現について考察しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【Course objectives】
The goal of this seminar is for the student to produce a work of original scholarship that displays his or her ability to perform independent research in English.

【Course schedule】
The seminar will cover the basics and more advanced topics in scholarly writing, such as

1. Source quotation and citation (1)
2. Source quotation and citation (2)
3. Source quotation and citation (3)
4. Tracking down information (1)
5. Tracking down information (2)
6. Tracking down information (3)
7. Organization of original thought (1)
8. Organization of original thought (2)
9. Organization of original thought (3)
10. Developing theory (1)
11. Developing theory (2)
12. Developing theory (3)
13. How to present one's findings in a speech or presentation (1)
14. How to present one's findings in a speech or presentation (2)
15. How to present one's findings in a speech or presentation (3)

【Assessment】
Students will be judged on their ability to produce a plagiarism-free work of original scholarship.

【Textbooks】
Texts will depend on the individual student's needs.

【Reference】
授業時に指示する。

091263501_0600　掲載順：0600　MASTER ★

課題実践（コミュニケーション）Ⅲb

McGEE, Jennifer J.

【Course description】
「課題実践（コミュニケーション）Ⅲa」に継続する課題研究授業。さまざまな言語表現の差異を考察しながら、課題実践の指導を行う。

【Course objectives】
The goal of this seminar is for the student to produce a work of original scholarship that displays his or her ability to perform independent research in English.

【Course schedule】
The seminar will continue to cover the basics, but will focus on more advanced topics in scholarly writing, such as

1. Source quotation and citation (1)
2. Source quotation and citation (2)
3. Tracking down information (1)
4. Tracking down information (2)
5. Organization of original thought (1)
6. Organization of original thought (2)
7. Developing theory (1)
8. Developing theory (2)
9. How to present one's findings in a speech or presentation (1)
10. How to present one's findings in a speech or presentation (2)
11. Revising and editing (1)
12. Revising and editing (2)

【Assessment】
Students will be judged on their ability to produce a plagiarism-free work of original scholarship.

【Textbooks】
Texts will depend on the individual student's needs.

【Reference】
授業時に指示する。

課題実践（ランゲージスタディーズ）Ⅰa

樗木勇作

【授業の概要】

統語論・言語獲得を中心とした英語学のトピックを取り上げ、英語の特徴について言語学的側面から分析しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】

英語の言語現象に対して主に統語構造や言語獲得の面から多角的でかつ独創性のある分析や考察ができるようになることを目標とする。

【授業計画】

第１講：関係論文や専門書の講読（１）
第２講：関係論文や専門書の講読（２）
第３講：関係論文や専門書の講読（３）
第４講：演習（１）
第５講：演習（２）
第６講：演習（３）
第７講：実践（１）
第８講：実践（２）
第９講：実践（３）
第10講：実践（４）
第11講：実践（５）
第12講：レポートについて

【評価方法】

レポート＋平均点（出席・授業態度）

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

課題実践（ランゲージスタディーズ）Ⅰb

樗木勇作

【授業の概要】

「課題実践（ランゲージスタディーズ）Ⅰa」に継続する課題研究授業。統語論・言語獲得を中心とした課題を、言語学的手法を用いて考察しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】

英語の言語現象に対して特に、統語構造や言語獲得の面から客観的データ・学問的裏打ちのある理論に基づく論理的展開と明確かつ的確な主旨の表現技法の修得を目標とする。

【授業計画】

Week１　先行研究の分析・批判（１）
Week２　先行研究の分析・批判（２）
Week３　先行研究の分析・批判（３）
Week４　研究テーマの設定（１）
Week５　研究テーマの設定（２）
Week６　研究テーマの設定（３）
Week７　データ収集（１）
Week８　データ収集（２）
Week９　データ収集（３）
Week10　考察の展開法（１）
Week11　考察の展開法（２）
Week12　考察の展開法（３）

【評価方法】

論文の内容その他着眼点・分析方法などを総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

課題実践（ランゲージスタディーズ）Ⅱa

若山真幸

【授業の概要】

意味論・形態論を中心とした英語学のトピックを取り上げ、英語の特徴について言語学的側面から分析しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】

修士論文やレポートの作成に向けて、研究の対象とする英語やその他の言語事象並びにその理論的説明の代表的なものについての概要を把握すると共に、研究を進めるための基礎知識を身に付ける。

【授業計画】

１講　英語学の基本的文献を読み、研究分野の概略を知る。（１）
２講　英語学の基本的文献を読み、研究分野の概略を知る。（２）
３講　英語学の基本的文献を読み、研究分野の概略を知る。（３）
４講　諸分野の中から関心のあるものを選び、研究対象となる項目について知識を深める。（１）
５講　諸分野の中から関心のあるものを選び、研究対象となる項目について知識を深める。（２）
６講　諸分野の中から関心のあるものを選び、研究対象となる項目について知識を深める。（３）
７講　研究テーマに関する先行研究論文を読み、分析・批判する手法を学ぶ。（１）
８講　研究テーマに関する先行研究論文を読み、分析・批判する手法を学ぶ。（２）
９講　研究テーマに関する先行研究論文を読み、分析・批判する手法を学ぶ。（３）
10講　研究テーマに関する言語資料の収集方法について学ぶ。（１）
11講　研究テーマに関する言語資料の収集方法について学ぶ。（２）
12講　おおよその研究テーマを設定する。

【評価方法】

レポート等の提出により評価する。

【テキスト】

研究テーマ及び研究の進行状況に応じて指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

課題実践（ランゲージスタディーズ）Ⅱb

若山真幸

【授業の概要】

「課題実践（ランゲージスタディーズ）Ⅱa」に継続する課題研究授業。意味論・形態論を中心とした課題を、言語学的手法を用いて考察しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】

課題実践（ランゲージスタディーズ）IIaでの研究を英語学の個別のテーマに関してさらに文献を読んで研究を深め、その結果得られた英語学的知見をまとめて修士論文またはレポートを作成する。

【授業計画】

１講　設定した研究テーマに基づく予備発表を行い、今後の論文・レポート作成計画を立てる。
２講　研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。（１）
３講　研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。（２）
４講　研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。（３）
５講　研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。（４）
６講　研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。（５）
７講　研究テーマに関する論文を講読。各自で客観的な言語資料を収集。（６）
８講　これらを使って、どのように自説を展開していくか学ぶ。（１）
９講　これらを使って、どのように自説を展開していくか学ぶ。（２）
10講　これらを使って、どのように自説を展開していくか学ぶ。（３）
11講　論文またはレポートの完成を目指す。（１）
12講　論文またはレポートの完成を目指す。（２）

【評価方法】

レポート等の提出により評価する。

【テキスト】

研究テーマ及び研究の進行状況に応じて指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

091263501_0650　掲載順 :0650　MASTER ★

課題実践（ランゲージスタディーズ）III a

中郷 慶

【授業の概要】
音声学、日英対照言語学を中心に、言語学的側面から英語の特徴を分析しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
修士論文やレポートの作成に向けて、研究の対象とする英語やその他の言語事象並びにその理論的説明の代表的なものについての概要を把握すると共に、研究を進めるための基礎知識を身に付ける。

【授業計画】
論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じて行う。
第１講：基本理念について（１）
第２講：基本理念について（２）
第３講：基本理念について（３）
第４講：応用（１）
第５講：応用（２）
第６講：応用（３）
第７講：実践（１）
第８講：実践（２）
第９講：実践（３）
第10講：実践（４）
第11講：実践（５）
第12講：レポートについて

【評価方法】
執筆論文への取り組み態度による。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0660　掲載順 :0660　MASTER ★

課題実践（ランゲージスタディーズ）III b

中郷 慶

【授業の概要】
「課題実践（ランゲージスタディーズ）Ⅲa」に継続する課題研究授業。英語の発音の特徴についての考察をさらに進め、音声以外の側面についても日英語の比較研究を行いながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
課題実践（ランゲージスタディーズ）IIaでの研究を英語学の個別のテーマに関してさらに文献を読んで研究を深め、その結果得られた英語学的知見をまとめて修士論文またはレポートを作成する。

【授業計画】
論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じて行う。
第１講：前期レポートについて
第２講：周辺分野の探索（１）
第３講：周辺分野の探索（２）
第４講：周辺分野の探索（３）
第５講：研究理念の確認（１）
第６講：研究理念の確認（２）
第７講：研究理念の確認（３）
第８講：実践・応用（１）
第９講：実践・応用（２）
第10講：実践・応用（３）
第11講：論文のまとめ（１）
第12講：論文のまとめ（２）

【評価方法】
修士論文の査読による。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0670　掲載順 :0670　MASTER ★

課題実践（英語教育）Ⅰa

松本青也

【授業の概要】
応用言語学の分野の中でも、特に、第二言語習得理論、日英対照言語学、および外国語教育政策に焦点を絞り、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
理論的な側面を中心に各自の研究内容と方法について検討を加える。

【授業計画】
それぞれの研究題目に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、項目ごとに研究発表と議論を積み重ねる。
第１講　Introduction
第２講　研究成果の批判的考察(1)
第３講　研究成果の批判的考察(2)
第４講　研究成果の批判的考察(3)
第５講　研究発表と議論(1)
第６講　研究発表と議論(2)
第７講　研究発表と議論(3)
第８講　研究発表と議論(4)
第９講　研究発表と議論(5)
第10講　まとめ(1)
第11講　まとめ(2)
第12講　まとめ(3)

【評価方法】
研究発表、論文の総合評価。

【テキスト】
適宜資料配布。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0680　掲載順 :0680　MASTER ★

課題実践（英語教育）Ⅰb

松本青也

【授業の概要】
「課題実践（英語教育）Ⅰa」に継続する課題研究授業。第二言語習得理論、日英対照言語学、および外国語教育政策について、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
具体的な実践面への提言を含めて、各自の研究をまとめる。

【授業計画】
それぞれの研究内容に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、修士論文作成のための個別指導を行う。
第１講　Introduction
第２講　研究成果の批判的考察(1)
第３講　研究成果の批判的考察(2)
第４講　研究成果の批判的考察(3)
第５講　研究発表と議論(1)
第６講　研究発表と議論(2)
第７講　研究発表と議論(3)
第８講　研究発表と議論(4)
第９講　研究発表と議論(5)
第10講　まとめ(1)
第11講　まとめ(2)
第12講　まとめ(3)

【評価方法】
発表内容と論文の評価。

【テキスト】
適宜資料配布。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

課題実践（英語教育）Ⅱa

大野清幸

【授業の概要】
応用言語学の分野の中でも、特に、語法研究、コーパス言語学、動的文法理論、言語獲得理論、学校英文法に焦点を絞り、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、英語学に関する、狭く限定した研究主題について研究する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題について研究する。

【授業計画】
基本的には、学術論文を精読し、議論する。
第１講　Introduction授業計画指示など
第２講　PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索
第３講　先行研究を調査
第４講　仮説をたてる
第５講　データの採集・整理(1)
第６講　データの採集・整理(2)
第７講　データの採集・整理(3)
第８講　理論の枠組みで分析(1)
第９講　理論の枠組みで分析(2)
第10講　論文としてまとめる(1)
第11講　論文としてまとめる(2)
第12講　論文提出

【評価方法】
出席状況、平常点、課題などによる。

【テキスト】
学術論文。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

課題実践（英語教育）Ⅱb

大野清幸

【授業の概要】
「課題実践（英語教育）Ⅱa」に継続する課題研究授業。語法研究、コーパス言語学、動的文法理論、言語獲得理論、学校英文法に関する最新の研究成果を検証しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
英語学研究者は、「動的文法理論」などの枠組みを利用して、言語の本質的な部分について考察する。第一言語獲得研究者は、「動的文法理論」などの生成文法理論および発達心理学関連分野を視野に入れつつ、第一言語獲得に関する、狭く限定した研究主題のいくつかを考察する。

【授業計画】
基本的には、学術論文を精読し、議論する。
第１講　Introduction授業計画指示など
第２講　PC実践教室などにおいて、関連情報を検索・探索
第３講　先行研究を調査
第４講　仮説をたてる
第５講　データの採集・整理(1)
第６講　データの採集・整理(2)
第７講　データの採集・整理(3)
第８講　理論の枠組みで分析(1)
第９講　理論の枠組みで分析(2)
第10講　論文としてまとめる(1)
第11講　論文としてまとめる(2)
第12講　論文提出

【評価方法】
出席状況、平常点、課題などによる。

【テキスト】
学術論文。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

課題実践（中国語・中国語教育）Ⅰa

馮 富榮

【授業の概要】
高度な中国語コミュニケーション能力を身に付けるとともに、中国語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
本講義の受講によって、自分の関心のある研究テーマを絞りだすことができるだけでなく、論文を書く際に必要とされている問題意識、研究方法及び考察の仕方などを学ぶこともできる。場合によっては、必要に応じて中国語教育の現場に行って、中国語の講義を見ながら現場の教員から直接指導を受けることも可能である。

【授業計画】
授業は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。
(1)中国語に関する研究や日本語と中国語に関する比較研究、そして対外中国語教育に関する論文を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
(2)受講者の関心のある研究テーマを搾り出し、その研究テーマと関連のある研究論文を講読した上、ディスカッションを行う。そうすることによって、先行研究の問題点を整理する。
(3)受講者の研究目的をはっきりさせ、その研究目的に達することができるように、最適の研究方法を検討する。
(4)中間発表に向けて、具体的な研究作業に入る。そして、研究過程において、受講者の持っている問題点や疑問に対して、随時アドバイスを行う。
(5)中間発表の問題点について検討し、修正案についてディスカッションを行う。
(6)受講者の研究に適切な研究方法についてディスカッションを行う。

【評価方法】
受講の態度や研究の内容などで、総合的に評価する。

【テキスト】
関連の論文のコピーを使用する。

【参考文献・資料】
「中国語学」　日本中国語学会

課題実践（中国語・中国語教育）Ⅰb

馮 富榮

【授業の概要】
「課題実践（中国語・中国語教育）Ⅰa」に継続する課題研究授業。さらに高度な中国語コミュニケーション能力を身に付けるとともに、中国語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
本講義を受講することによって、自分の関心のある研究テーマを絞りだすことができるだけでなく、論文を書く際に必要とされている問題意識、研究方法及び考察の仕方などを学ぶことができる。また場合によっては、教育現場に行って、中国語の講義を見ながら、教育現場の教員より直接指導を受けることも可能である。

【授業計画】
授業は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。
(1)中国語に関する研究や、日本語と中国語に関する比較研究、そして対外中国語教育に関する論文を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
(2)受講者の関心のある研究テーマを搾り出し、その研究テーマと関連のある研究論文を講読した上、ディスカッションを行う。そうすることによって先行研究の問題点を整理する。
(3)受講者の研究目的をはっきりさせ、その研究目的に達することができるように、最適の研究方法を検討する。
(4)中間発表に向けて、具体的な研究作業に入る。そして、研究過程において、受講者の持っている問題点や疑問に対して、随時アドバイスを行う。
(5)中間発表の問題点を整理し、修正案を検討する。
(6)受講者の研究テーマに適切な研究方法についてディスカッションしながら検討する。

【評価方法】
受講の態度や研究の内容などで、総合的に評価する。

【テキスト】
関連の論文のコピーを使用する。

【参考文献・資料】
「中国語学」　日本中国語学会

091263501_0730　掲載順 :0730　MASTER ★

課題実践（中国語・中国語教育）Ⅱａ

杜 英起

【授業の概要】
中国文化と日本文化の比較検証を行いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
日・中両国の漢字文化、国民の生活習慣、価値観などの違いを研究し、相手国を理解するのに必要な知識を把握し、両国の友好交流のために配慮すべき点を検討することによって、異文化コミュニケーション能力を高めることができる。

【授業計画】
日本における中国文化の伝来と現状
（言語、医学、民俗、食、茶、酒など）
日本人と中国人の思考様式の相違
コミュニケーションの仕方における日本人と中国人の相違
中国の地域性と中国人の気質
必要に応じて、中国の大学に行って、中国人の大学院生と同じ授業を受けながら、共通に関心を持っている研究課題を一緒に検討することや、中国の大学教員より論文の書き方などの指導を直接受ける可能性もある。

【評価方法】
平常点及び学期末レポートにて評価する。

【テキスト】
プリント配布

【参考文献・資料】
講義のとき、指示する。

091263501_0740　掲載順 :0740　MASTER ★

課題実践（中国語・中国語教育）Ⅱｂ

杜 英起

【授業の概要】
「課題実践（コミュニケーション）Ⅱａ」に継続する課題研究授業。日中文化の特質を考察しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
日・中両国の漢字文化、国民の生活習慣、価値観などの違いを研究し、相手国を理解するのに必要な知識を把握し、両国の友好交流のための配慮すべき点を検討することによって、異文化コミュニケーション能力を高めることができる。

【授業計画】
日本における中国文化の伝来と現状
“家庭”に対する日本人と中国人認識の相違
“宗教”に対する日本人と中国人認識の相違
中国の地域性と中国人の気質
中国でのビジネスを成功させるためには
必要に応じて、中国の大学に行って、中国人の大学院生とともに講義を受け、共通に関心のある研究課題に一緒に取り組むことや、中国人の大学教員より論文の書き方などの指導を直接に受けるということも可能である。

【評価方法】
平常点及び及び期末レポートにて評価する。

【テキスト】
プリント配布

【参考文献・資料】
講義のとき、指示する。

091263501_0750　掲載順 :0750　MASTER ★

課題実践（日本語・日本語教育）Ⅰａ

山内啓介

【授業の概要】
応用言語学の観点から日本語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
先行研究、資料調査および実験などを実施して論文を構成し、執筆作成を行う準備をする。

【授業計画】
受講生は各自の発表テーマについて資料を作成して、プレゼンテーションを行う。

【評価方法】
出席、プレゼンテーションを評価する。

【テキスト】
特に定めない。
発表資料などハンドアウトを配布。

【参考文献・資料】
発表テーマに応じて紹介する。

091263501_0760　掲載順 :0760　MASTER ★

課題実践（日本語・日本語教育）Ⅰｂ

山内啓介

【授業の概要】
「課題実践（日本語・日本語教育）Ⅰａ」に継続する課題研究授業。応用言語学の観点から日本語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
論文を構成し、執筆作成を行う。

【授業計画】
受講生は各自の発表テーマについて資料を作成して、プレゼンテーションを行う。

【評価方法】
出席、プレゼンテーションを評価する。

【テキスト】
特に定めない。
発表資料などハンドアウトを配布。

【参考文献・資料】
発表テーマについて紹介する。

課題実践（日本語・日本語教育）IIa

馮 富榮

【授業の概要】
映画やテレビなどのマスメディアを題材に、現代日本語をカルチュラル・スタディーズという視点から考察しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
現代日本語の変遷を辿ると共に、現代日本語の機能を支えている文化的な背景を検討することによって、現代日本人の特質及び現代日本社会の特徴を捉え、日本語と日本文化の素晴らしさを再確認する。

【授業計画】
授業は、輪読の形で展開されるが、以下のステップを踏んで進める。
1．1回目の授業では、授業のやり方、論文の読み方をについて説明する。
2．2回目の授業から、日本語学研究や日本文化に関する研究の中で、履修生が各自に関心のある研究論文を探してきて、それを学生と一緒に講読しながら、分からない点について説明する。その後、それぞれの論文について自分の意見をレポートにまとめて発表し、各論文の問題点や残った研究課題等についてディスカッションを行う。
ステップ2の繰り返しによって、各自の研究テーマや修士論文のテーマを絞っていく。さらに、研究レポートの書き方なども指導する。

【評価方法】
受講の態度と出席状況及びレポートの成績で評価する。

【テキスト】
適宜に指示する。

【参考文献・資料】
必要に応じてプリントを配る。

課題実践（日本語・日本語教育）IIb

馮 富榮

【授業の概要】
「課題実践（日本語・日本語教育）IIa」に継続する課題研究授業。マンガや携帯電話のコトバに見られる新しい表現形式をはじめとする言語現象を考察しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
本授業の目標は、日本語を的確に運用できる能力、日本語・日本語教育研究に関する明確な問題意識、そして研究に対する鋭い観点の養成にある。

【授業計画】
本授業は下記のステップを踏んで展開される。
1．1回目の授業では、授業の進め方や授業の内容などについて説明する。
2．2回目から、履修者は日本語教育の現状（日本国内及び海外）を各自で調べてきて、それを発表する。その次は、現代社会のコミュニケーションに使っている日本語の特徴（漫画や携帯電話に使うコトバも含む）を調べ、その結果を発表する。その後、今の日本語教育現状に残っている問題点、改善策、今後の日本語教育のあり方などについて各自の意見を発表し、ディスカッションを行う。
これと平行して、履修者各自の研究や修士論文に関する意見交換を行い、またその指導も行う。

【評価方法】
研究レポートや発表の内容などに基づいて総合的に評価する。

【テキスト】
適宜に指示する。

【参考文献・資料】
随時プリントを配る

課題実践（文化探求）Ia

久野幸子

【授業の概要】
英国ユートピア文学の先行研究を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
文化探求プログラムで学んだ自己学習を踏まえ、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導。英文学研究の方法論を学ぶと同時に、現代を生きる一人の人間として英文学研究を主体的に行なうための能力の育成を目指す。

【授業計画】
第1講：基本理念について（1）
第2講：基本理念について（2）
第3講：基本理念について（3）
第4講：応用（1）
第5講：応用（2）
第6講：応用（3）
第7講：実践（1）
第8講：実践（2）
第9講：実践（3）
第10講：実践（4）
第11講：実践（5）
第12講：レポートについて

【評価方法】
平常点（出席、受講態度など）とレポートで総合的に評価する。

【テキスト】
受講者の希望に応じて決定する。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

課題実践（文化探求）Ib

久野幸子

【授業の概要】
「課題実践（文化探求）Ia」に継続する課題研究授業。英国ユートピア文学の本質をさらに深く考察しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
課題実践（文化探求）Ibで学んだ自己学習を踏まえ、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導。英文学研究の方法論を学ぶと同時に、現代を生きる一人の人間として英文学研究を主体的に行なうための能力の育成を目指す。

【授業計画】
第1講：前期レポートについて
第2講：周辺分野の探索（1）
第3講：周辺分野の探索（2）
第4講：周辺分野の探索（3）
第5講：研究理念の確認（1）
第6講：研究理念の確認（2）
第7講：研究理念の確認（3）
第8講：実践・応用（1）
第9講：実践・応用（2）
第10講：実践・応用（3）
第11講：論文のまとめ（1）
第12講：論文のまとめ（2）

【評価方法】
平常点（出席、受講態度など）とレポートで総合的に評価する。

【テキスト】
受講者の希望に応じて決定する。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0810　掲載順：0810　MASTER ★

今年度開講せず

課題実践（文化探求）IIa

【授業の概要】
アイルランド文化・文学の歴史的・社会的意義を考察しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

091263501_0820　掲載順：0820　MASTER ★

今年度開講せず

課題実践（文化探求）IIb

【授業の概要】
「課題実践（文化探求）IIa」に継続する課題研究授業。アイルランド社会におけるポストコロニアルおよびジェンダー問題を視野に入れながら、課題実践の指導を行う。

091263501_0830　掲載順：0830　MASTER ★

課題実践（文化探求）IIIa

太田直子

【授業の概要】
アメリカ文化・文学の歴史的・社会的意義を考察しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
アメリカの地方色に焦点をあて、経済・政治・歴史が文学に及ぼす影響についての理解を目指す。さらに、それが文学作品の中でどのような形で描かれているのかを考察する。文学作品（アメリカ小説）のより深い理解を目標とする。

【授業計画】
第１講：Introduction
第２講：南北戦争以前の西部（文学）の特徴について
第３講：第一次世界大戦までの中西部文学について
第４講：南北戦争～第二次世界大戦までの南部文学について(1)
第５講：南北戦争～第二次世界大戦までの南部文学について(2)
第６講：南北戦争～第二次世界大戦までの南部文学について(3)
第７講：アメリカ南部文学（small townを中心に）南部文学の作品分析方法と考察(1)
第８講：アメリカ南部文学（small townを中心に）南部文学の作品分析方法と考察(2)
第９講：アメリカ南部文学（small townを中心に）南部文学の作品分析方法と考察(3)
第10講：文化と文学　20世紀の文化と文学について(1)
第11講：文化と文学　20世紀の文化と文学について(2)
第12講：まとめ

【評価方法】
第９講の授業終了時にアメリカ南部文学についてのレポートを提出。
また、授業終了後に、アメリカ20世紀の小説で、地方色がみられる作品を取り上げ、文化と文学というテーマでレポートを作成する。授業の評価は、これらの２講のレポートで行う。

【テキスト】
プリント

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

091263501_0840　掲載順：0840　MASTER ★

課題実践（文化探求）IIIb

太田直子

【授業の概要】
「課題実践（文化探求）IIIa」に継続する課題研究授業。アメリカ社会における多様性を視野に入れながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
20世紀のアメリカ経済の発展、さらに、世界対戦による社会状況の変化による文学作品の変化に注目し、1950年代までのアメリカ小説のより深い理解を目標とする。

【授業計画】
第１講：Introduction
第２講：1900 ～ 1919のアメリカ小説について
第３講：Sherwood Andersonの作品分析
第４講：Jack Londonの作品分析
第５講：1920年代のアメリカ小説について
第６講：Lost Generationの小説の分析(1)
第７講：Lost Generationの小説の分析(2)
第８講：1930年代のアメリカ小説について
第９講：Steinbeckの作品分析(1)
第10講：Steinbeckの作品分析(2)
第11講：1940年代・50年代のアメリカ小説について
第12講：Beat Generationの小説の分析

【評価方法】
発表、学期末のレポートによる評価する。

【テキスト】
プリント

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

課題実践（文化探求）Ⅳ a

山田幹郎

【授業の概要】
英国文学における修辞法の特徴を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
イギリスルネサンス時代のレトリカルな分析例等を参考にして利用しながら、各受講者が中間段階の修士論文を作成すること。

【授業計画】
1　序：授業計画、受講者の成績評価及び書誌説明（a）
2　（卒業論文と）修士論文：テーマの選択から論文執筆まで
3　イギリスルネサンス時代のレトリカルな分析例とその応用（1）
4　イギリスルネサンス時代のレトリカルな分析例とその応用（2）
5　イギリスルネサンス時代のレトリカルな分析例とその応用（3）
6　受講者の対象テキストの吟味（1）
7　受講者の対象テキストの吟味（2）
8　受講者の対象テキストの吟味（3）
9　受講者による修士論文第１章発表とグループ討論
10　受講者による修士論文第２章発表とグループ討論
11　受講者による修士論文第３章発表とグループ討論
12　課題研究総括（a）

【評価方法】
平常点と中間段階の修士論文により総合評価する。

【テキスト】
プリントによる。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

課題実践（文化探求）Ⅳ b

山田幹郎

【授業の概要】
「課題実践（文化探求）Ⅳa」に継続する課題研究授業。イギリス文学におけるレトリックの多様性を視野に入れながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
伝統的なレトリックの基礎と応用を踏まえつつ、各受講者の研究テーマの一面の充実を徹底し、修士論文またはレポートを完成すること。

【授業計画】
1　序：授業計画、受講者の成績評価及び書誌説明（b）
2　レトリカルなアプローチの再吟味
3　受講者の対象テキストの再吟味（1）
4　受講者の対象テキストの再吟味（2）
5　受講者の対象テキストの再吟味（3）
6　受講者による修士論文第１章改訂版発表とグループ討論
7　受講者による修士論文第２章改訂版発表とグループ討論
8　受講者による修士論文第３章改訂版発表とグループ討論
9　各修士論文全体の総合的検討：レトリカルな面の更なるプラス化
10　修士論文発表とグループ討論（1）
11　修士論文発表とグループ討論（2）
12　課題研究総括(b)

【評価方法】
平常点と修士論文により総合評価する。

【テキスト】
プリントによる。

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

課題実践（文化探求）Ⅴ a

EASLEY, Keith

【授業の概要】
アイルランド文化とイギリス文化を比較検討しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
This course will aim at supporting students to develop an understanding of the context of their research and the correct procedures for its professional presentation in English.

【授業計画】
1　introduction, with special reference to the importance of research techniques
2　introduction, with special reference to understanding the forms of scholarly documentation(1)
3　introduction, with special reference to understanding the forms of scholarly documentation(2)
4　supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design (1)
5　supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design (2)
6　supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design (3)
7　supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(1)
8　supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(2)
9　supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(3)
10　supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography(1)
11　supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography(2)
12　supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography(3)
13　conclusion, with review analysis of format and presentation(1)
14　conclusion, with review analysis of format and presentation(2)
15　conclusion, with review analysis of format and presentation(3)

【評価方法】
Evaluation will be based on participation, presentations, class exercises and papers.

【テキスト】
Not yet decided.

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

課題実践（文化探求）Ⅴ b

EASLEY, Keith

【授業の概要】
「課題実践（文化探求）Ⅴa」に継続する課題研究授業。イギリス文化とアイルランド文化が日本文化に及ぼした影響を視野に入れながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
This course will aim at supporting students to develop an understanding of the context of their research and the correct procedures for its professional presentation in English.

【授業計画】
1　introduction, with special reference to the importance of understanding the theme of influence in the study of different cultures
2　introduction, with special reference to the importance of identifying techniques to use in conducting research(1)
3　introduction, with special reference to the importance of identifying techniques to use in conducting research(2)
4　supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design involving comparative studies(1)
5　supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design involving comparative studies(2)
6　supervision of students' writing, with emphasis upon thesis design involving comparative studies(3)
7　supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(1)
8　supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(2)
9　supervision of students' writing, with emphasis upon drafts and revision(3)
10　supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography, especially with reference to cultural differences in format(1)
11　supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography, especially with reference to cultural differences in format(2)
12　supervision of students' writing, with emphasis upon documentation and bibliography, especially with reference to cultural differences in format(3)
13　conclusion, with review analysis of format and presentation(1)
14　conclusion, with review analysis of format and presentation(2)
15　conclusion, with review analysis of format and presentation(3)

【評価方法】
Evaluation will be based on participation, presentations, class exercises and papers.

【テキスト】
Not yet decided.

【参考文献・資料】
授業時に指示する。

課題実践（文化探求）VI a

平林美都子

【授業の概要】
フェミニズム文学批評やジェンダー理論を検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
継続的な英語文学研究の基礎として、英語文献読解力を高め、研究資料収集法、研究論文作成法を習得し、実践する。

【授業計画】
論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。
第１講：introduction
第２講：先行研究の論文講読 (1)
第３講：先行研究の論文講読 (2)
第４講：先行研究の論文講読 (3)
第５講：論文執筆の進行状況の報告 (1)
第６講：論文執筆の進行状況の報告 (2)
第７講：論文執筆の進行状況の報告 (3)
第８講：実践 (1)
第９講：実践 (2)
第10講：実践 (3)
第11講：実践 (4)
第12講：まとめ

【評価方法】
論文執筆への取り組み態度による。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

課題実践（文化探求）VI b

平林美都子

【授業の概要】
「課題実践（文化探求）VIa」に継続する課題研究授業。文学の表象のあり方や文化に対する思考形式などを比較検討しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
これまでに研究の基礎として習得した様々な知識・手法に基づいて、独自の英語論文作成を行い、これにより継続的・自立的な研究の出発点となす。

【授業計画】
論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。
第１講：前期レポートについて
第２講：周辺分野の探索（１）
第３講：周辺分野の探索（２）
第４講：周辺分野の探索（３）
第５講：研究理念の確認（１）
第６講：研究理念の確認（２）
第７講：研究理念の確認（３）
第８講：実践・応用（１）
第９講：実践・応用（２）
第10講：実践・応用（３）
第11講：論文のまとめ（１）
第12講：論文のまとめ（２）

【評価方法】
修士論文の査読による。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

課題実践（文化探求）VII a

杉本一直

【授業の概要】
亡命者文化の本質を理解し、文学研究の方法論を学びながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
修士論文構想の完成と資料の十分な分析。

【授業計画】
論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

【評価方法】
論文執筆への取り組み態度による。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
必要に応じて選定する。

課題実践（文化探求）VII b

杉本一直

【授業の概要】
「課題実践（文化探求）VIIa」に継続する課題研究授業。原典講読を中心とし、さらなる文学研究の方法論を学びながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
修士論文の完成。

【授業計画】
論文執筆の進行状況の報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究の論文講読も必要に応じておこなう。

【評価方法】
修士論文の査読による。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
必要に応じて選定する。

091263501_0930　掲載順：0930　MASTER ★

課題実践（国際社会貢献）Ⅰa

榎田勝利

【授業の概要】
ODAの理念、方針、事業体系、実施方法等を理解し、プロジェクト評価できる能力を培いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
修士論文作成のための文献、資料収集およびフィールドワーク等を終了する。

【授業計画】
修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

【評価方法】
課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

091263501_0940　掲載順：0940　MASTER ★

課題実践（国際社会貢献）Ⅰb

榎田勝利

【授業の概要】
「課題実践（国際社会貢献）Ⅰa」に継続する課題研究授業。NGOのマネジメント、国際協力プログラムの企画・運営・評価を実践から学びながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
修士論文を完成させる。

【授業計画】
修士論文の研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

【評価方法】
課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

091263501_0950　掲載順：0950　MASTER ★

今年度開講せず

課題実践（国際社会貢献）Ⅱa

【授業の概要】
NPO/NGOの発展や組織運営に関する諸要因を分析し、社会的役割を評価する能力を培いながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

091263501_0960　掲載順：0960　MASTER ★

今年度開講せず

課題実践（国際社会貢献）Ⅱb

【授業の概要】
「課題実践（国際社会貢献）Ⅱa」に継続する課題研究授業。国内外のNPO/NGOの活動・組織運営の手法を比較し、組織マネジメントを広範囲に学びながら、課題実践の指導を行う。

課題実践（地域文化交流）Ⅰa

皆川修吾

【授業の概要】
文化交流がもたらしてきた地域的秩序および市民社会変容プロセスを検証しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
修士論文および実践研究レポート作成指導。修士論文および実践研究レポート作成に必要な学識と技能は演習科目でも学ぶが、研究科目でこれら能力をさらに高め、研究テーマが妥当か否かを判断し、適切な助言を与え、論文及びレポートの作成から完成に至るまで指導する。

【授業計画】
理論と実践研究の融合に配慮し、きめ細やかな課題研究指導をおこなう。修士論文および実践研究テーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況如何により計画の見直し作業をする。

【評価方法】
課題研究過程での研究意欲、独創性、分析力など総合的に評価する。

【テキスト】
研究テーマにより適宜指示する。

【参考文献・資料】
研究テーマにより適宜指示する。

課題実践（地域文化交流）Ⅰb

皆川修吾

【授業の概要】
「課題実践（地域文化交流）Ⅰa」に継続する課題研究授業。同一または地域間の文化交流の意義を多角的に比較検討し、文化交流の本質を体系的に学びながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
修士論文および実践研究レポート作成指導。「課題実践1a」に引き続き、修士論文および実践研究レポート作成に必要な学識と技能能力をさらに高め、研究テーマが妥当か否かを判断し、必要に応じ指導教員が適切な助言を与え、論文及びレポートの作成から完成に至るまで指導する。

【授業計画】
理論と実践研究の融合に配慮し、きめ細やかな課題研究指導をおこなう。修士論文および実践研究レポートのテーマと研究内容により資料収集や分析の手順を企画し、計画的に実施する。実施状況を最終点検し、修士論文および実践研究レポートを完成する。

【評価方法】
論文の内容や構成そして研究成果などを総合的に評価する。

【テキスト】
研究テーマにより適宜指示する。

【参考文献・資料】
研究テーマにより適宜指示する。

課題実践（地域文化交流）Ⅱa

若松孝司

【授業の概要】
先進工業国と異なる特徴を持つ途上国の課題を探り出し、学術的または実践的に問題点を検討しながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
修士論文作成のための分析方法や修士論文執筆予定の明確化と、そのための有効な資料収集の達成。

【授業計画】
修士論文執筆のための調査研究の進行状況報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究となる論文の講読についても、必要に応じて行う。

【評価方法】
調査研究、修士論文執筆の取り組み状況に応じて評価する。

【テキスト】
必要に応じて指示する。

【参考文献・資料】
必要に応じて指示する。

課題実践（地域文化交流）Ⅱb

若松孝司

【授業の概要】
「課題実践（地域文化交流）Ⅱa」に継続する課題研究授業。途上国の課題を地域間で比較検討し、市民社会変容プロセスを体系的に学びながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
修士論文作成のための資料収集・分析と修士論文の執筆。

【授業計画】
修士論文執筆のための調査研究の進行状況報告と、それに対する指導を授業の中心とする。また、先行研究となる論文の講読についても、必要に応じて行う。

【評価方法】
調査研究、修士論文の完成度に応じて評価する。

【テキスト】
必要に応じて指示する。

【参考文献・資料】
必要に応じて指示する。

課題実践（文化翻訳）Ⅰa

チョ スルソップ

【授業の概要】
東アジア文化圏における文化の諸象を学びながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
異文化間の交流を効果的に行うための視点を養成すると同時に文化研究および文化再創造の土台を構築する。

【授業計画】
第１講　歳時風俗の世界
第２講　『東国歳時記』の世界１
第３講　『東国歳時記』の世界２
第４講　『東国歳時記』の世界３
第５講　『冽陽歳時記』の世界１
第６講　『冽陽歳時記』の世界２
第７講　『冽陽歳時記』の世界３
第８講　『京都雑志』の世界１
第９講　『京都雑志』の世界２
第10講　『京都雑志』の世界３
第11講　『東京雑記』の世界１
第12講　『東京雑記』の世界２
第13講　『東京雑志』の世界３
第14講　現代韓国・朝鮮の歳時風俗
第15講　総合

【評価方法】
出席、授業のための準備、レポートあるいは論文のテーマに関する研究報告を総合して評価する。

【テキスト】
朝鮮歳時記（洪錫謨他著　東洋文庫　平凡社）

【参考文献・資料】
朝鮮歳時記（洪錫謨他著　東洋文庫　平凡社）
荆楚歳時記（宗懍著　東洋文庫　平凡社）
閭里歳時記（川野邊寛著　日本庶民生活資料集成　三一書房）

課題実践（文化翻訳）Ⅰb

チョ スルソップ

【授業の概要】
「課題実践（文化翻訳）Ⅰa」に継続する課題研究授業。東アジア文化圏の資料講読を通じて多方面から比較研究しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
異文化間の交流を効果的に行うための視点を養成すると同時に文化研究および文化再創造の土台を構築する。

【授業計画】
第１講　歳時風俗の世界
第２講　『荆楚歳時記』の世界　お正月
第３講　『荆楚歳時記』の世界　１月
第４講　『荆楚歳時記』の世界　２月
第５講　『荆楚歳時記』の世界　３月・４月
第６講　『荆楚歳時記』の世界　５月
第７講　『荆楚歳時記』の世界　６月・７月
第８講　『荆楚歳時記』の世界　８月
第９講　『荆楚歳時記』の世界　９月
第10講　『荆楚歳時記』の世界　１０月・１１月
第11講　『荆楚歳時記』の世界　１２月
第12講　『燕京歳時記』の世界１
第13講　『燕京歳時記』の世界２
第14講　現代中国の歳時風俗
第15講　総合

【評価方法】
出席、授業のための準備、レポートあるいは論文のテーマに関する研究報告を総合して評価する。

【テキスト】
荆楚歳時記（宗懍著　東洋文庫　平凡社）

【参考文献・資料】
荆楚歳時記（宗懍著　東洋文庫　平凡社）
燕京歳時記（敦崇著 東洋文庫　平凡社）
朝鮮歳時記（洪錫謨他著　東洋文庫　平凡社）
閭里歳時記（川野邊寛著　日本庶民生活資料集成　三一書房）

課題実践（文化翻訳）Ⅱa

CURRAN, Beverley

【授業の概要】
文芸翻訳の実践的な学習を通して言語能力を高めながら、各自の研究テーマのもとで修士論文またはレポートの作成準備について指導する。

【授業の目標】
研究のプロセスは（１）研究（２）英語で論文を書く（３）英語で論文を編集するといった段階がある。この前期のコースの目標は研究の段階に集中することである。適当な研究課題を決定、資料を集め、研究レポートを書くことである。

【授業計画】
第１回　紹介
第２回　研究課題を選択
第３回　研究課題を決定し、計画を立てる
第４回　執筆(1)
第５回　研究指導(1)
第６回　執筆(2)
第７回　研究指導(2)
第８回　執筆(3)
第９回　Reality Check：プログレス・レポート
第10回　参考文献について
第11回　研究レポートを書く(1)
第12回　研究レポートを書く(2)
第13回　研究レポートを編集する(1)
第14回　研究レポートを編集する(2)
第15回　レポートを提出する

【評価方法】
参加における努力、研究の計画、レポートの評価

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
研究課題を決定した後で、リーディング・リストを提案する。

課題実践（文化翻訳）Ⅱb

CURRAN, Beverley

【授業の概要】
「課題実践（文化翻訳）Ⅱa」に継続する課題研究授業。翻訳理論に照らし、翻訳が文化面でどのような役割を果たしているか比較研究しながら、課題実践の指導を行う。

【授業の目標】
後期の授業の目標は、前期の研究課題に関するプロジェクトに引き続き、英語で論文を書き、編集に集中することである。

【授業計画】
第１回　紹介
第２回　論文のintroductionを書く
第３回　論文を書く（１）
第４回　論文を書く（２）
第５回　論文を書く（３）
第６回　論文を書く（４）
第７回　Reality Check：プログレスについて、オーラル・レポート
第８回　論文を書く（５）
第９回　論文を書く（６）
第10回　論文を書く（７）
第11回　論文を編集する（１）
第12回　論文を編集する（２）
第13回　レジュメを書く。参考文献をチェックする
第14回　ディスカッション
第15回　論文を提出する

【評価方法】
研究プロセスや論文を評価する

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
研究に関する資料

091263501_1050　掲載順：1050　MASTER ★

外国語教育実践演習（短期）

MOLDEN, Danny T.

【授業の概要】
教育現場における短期言語教育体験を通して、実践的な言語指導能力を習得する。

【授業の目標】
教育現場での経験を通して、教員や組織をはじめ受講生などさまざまな視点から外国語教育の現状を把握・分析することを第一目標とする。また、外国語教育の理論を現場で活用する方法を模索し、理想的な指導方法について具体的な案をまとめることを第二目標とする。

【授業計画】
研修実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で短期外国語教育実践演習を行う。
1)　研修実施校の決定
2)　研究テーマの設定
3)　研修事前指導
4)　研修指導
5)　研修事後指導
6)　研修成果報告 (研究テーマの関連を含む)

【評価方法】
研究テーマの設定＋研修成果報告＝(40%)
研修事前指導＋研修指導＋研修事後指導＝(40%)
研修実施校からのフィードバック=(20%)

【テキスト】
適宜指示する

【参考文献・資料】
適宜指示する

091263501_1060　掲載順：1060　MASTER ★

外国語教育実践演習（長期）

樗木勇作

【授業の概要】
教育現場における長期言語教育体験を通して、実践的な言語指導能力を習得する。

【授業の目標】
教育現場での経験を通して、教員や組織をはじめ受講生などさまざまな視点から外国語教育の現状を把握・分析することを第一目標とする。また、外国語教育の理論を現場で活用する方法を模索し、理想的な指導方法について具体的な案をまとめることを第二目標とする。

【授業計画】
研修実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で長期外国語教育実践演習を行う。
1）研修実施校の決定
2）研究テーマの設定
3）研修事前指導
4）研修指導
5）研修事後指導
6）実践演習レポートの提出
7）研修成果報告 (研究テーマの関連を含む)

【評価方法】
研究テーマの設定＋実践演習レポート+研修成果報告＝(40%)
研修事前指導＋研修指導＋研修事後指導＝(40%)
研修実施校からのフィードバック=(20%)

【テキスト】
適宜指示する

【参考文献・資料】
適宜指示する

091263501_1070　掲載順：1070　MASTER ★

国際社会貢献実践演習（短期）

榎田勝利

【授業の概要】
国際交流基金などの政府機関、国際助成財団、国内外のNGO、自治体国際化協会などでの短期のインターンシップを通し、問題発見・解決能力、組織マネジメント能力を育成する。

【授業の目標】
＊ インターン事業に関する知識を取得すること。
＊ 国際交流・協力機関の活動を理解すること。
＊ アジア各国の国際協力現場を体験・理解すること。
＊ 企画書・報告書を作成すること。

【授業計画】
A.　国内対象コース：
　1．数人で担当チームを作り、協議した上で国内の国際交流・協力機関の活動調査、発表する
　2．インターンシップ内容・目標・計画等をプレゼンテーション
　3．インターンシップ計画書作成、受け入れ交渉
　4．インターン後に報告書や成果報告会を通して単位取得
B.　海外対象コース：
　1．ベトナム、タイ、インド等アジア各国の国際協力現場を調査・学習する
　2．また可能な限り現地視察・調査も行う予定
　3．テーマ、視察先等事前研修・計画づくり及び実施については国内インターンシップ事業に準じる
　4．現地視察後に報告書や成果報告会を通して単位取得
C.　演習主旨：
　1．開発協力内容の学習および協働の仕組み・事業運営・組織運営に重点を置く
　2．院生の立案・計画・組織運営能力を高め、育成する

【評価方法】
演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】
開講時に参加者全員で協議して決める。

【参考文献・資料】
随時参考資料、文献やプリントを配布する。

091263501_1080　掲載順：1080　MASTER ★

国際社会貢献実践演習（長期）

榎田勝利

【授業の概要】
国際交流基金などの政府機関、国際助成財団、国内外のNGO、自治体国際化協会などでの長期のインターンシップを通し、対外折衝能力、問題発見・危機管理能力、組織マネジメント能力を育成する。

【授業の目標】
＊専門研究を実践的に深化させ、国際交流・協力機関について幅広い専門知識と技術を身につけること。
＊国際協力の現場を体験し、理解すること。
＊企画書・報告書を作成すること。

【授業計画】
研修実施校・機関との綿密な連携のもと、本科目の履修生が定めた研究テーマに沿い、以下の手順で長期の国際社会貢献実践演習を行う。
1）研修事前指導
2）研修指導
3）研修事後指導
4）研修成果報告（実践研究レポートの提出）

【評価方法】
実習・研修先からのフィードバック、現地調査活動の内容、活動の進捗状況、実践研究レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】
研究活動により適宜指示する。

【参考文献・資料】
研究活動により適宜指示する。

091263501_1090　掲載順：1090　MASTER ★

言語文化研修（短期）

中郷 慶

【授業の概要】
海外の提携校が開設している短期コースに参加し、言語・文化社会教育を通して、コミュニケーション能力を習得する。

【授業の目標】
単に語学力の習得だけではなく、授業や現地での生活を通して、研修先の国や地域の文化・習慣・文学・歴史なども学ぶことを目標とする。

【授業計画】
研究実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で短期言語文化研修を行う。
1）研修事前指導
2）研修指導
3）研修事後指導
4）研修成果報告（実践研究レポートの提出）

【評価方法】
研修事前指導＋研修指導＋研修事後指導＝(20%)
実践研究レポート(50%)
研修実施校からのフィードバック(30%)

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091263501_1100　掲載順：1100　MASTER ★

言語文化研修（長期）

馮 富榮

【授業の概要】
海外の提携校が開設している長期コースに参加し、言語・文化社会教育を通して、コミュニケーション能力を習得する。

【授業の目標】
単に語学力の習得だけではなく、授業や現地での生活を通して、研修先の国や地域の文化・習慣・歴史なども学ぶことを目標とする。

【授業計画】
研究実施校との綿密な連携のもと、以下の手順で長期言語文化研修を行う。
1）研修事前指導
2）研修指導
3）研修事後指導
4）研修成果報告（実践研究レポートの提出）

【評価方法】
研修事前指導＋研修指導＋研修事後指導＝(20%)
実践研究レポート(50%)
研修実施校からのフィードバック(30%)

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091263501_1110　掲載順：1110　MASTER ★

地域文化交流研修（短期）

若松孝司

【授業の概要】
海外の提携校が開設しているコースに参加し、短期研究調査活動を通して、異文化理解を高めると同時に異文化間共生能力を習得する。

【授業の目標】
短期の海外研修を通じ、専門研究を実践的に深化させ、幅広い専門知識と技術を身につけることが目標。教育と研究を実践的に結合させ、問題点の解決を実地で体験させることによって学生の現実的諸課題への対応能力を養成することが目的。

【授業計画】
目標プログラムをたえず検証し、現地での研究調査活動を監督指導する。本科目の履修生は、研究テーマを定め、実地体験を通してえた成果をレポートにまとめ提出しなければならないが、このプロセスは課題実践科目の履修と連携して行う。

【評価方法】
現地調査活動の内容、活動の進捗状況、成果など総合して評価する。

【テキスト】
研究活動により適宜指示する。

【参考文献・資料】
研究活動により適宜指示する。

091263501_1120　掲載順：1120　MASTER ★

地域文化交流研修（長期）

皆川修吾

【授業の概要】
海外の提携校が開設しているコースに参加し、長期にわたる研究調査活動を通して、異文化理解を高めると同時に異文化間共生能力を習得する。

【授業の目標】
長期の海外研修を通じ、専門研究を実践的に深化させ、幅広い専門知識と技術を身につけることが目標。教育と研究を実践的に結合させ、問題点の解決を実地で体験させることによって学生の現実的諸課題への対応能力を養成することが目的。

【授業計画】
目標プログラムをたえず検証し、現地での長期にわたる研究調査活動を監督指導する。本科目の履修生は、研究テーマを定め、実地体験を通してえた成果をレポートにまとめ提出しなければならないが、このプロセスは課題実践科目の履修と連携して行う。

【評価方法】
現地調査活動の内容、活動の進捗状況、成果など総合して評価する。

【テキスト】
研究活動により適宜指示する。

【参考文献・資料】
研究活動により適宜指示する。

091263501_1130　掲載順：1130　MASTER ▲

プレゼンテーション特講

影戸 誠

【授業の概要】

基礎技術として、問題提示、諸説の比較検討、論点・論拠の提示、研究調査結果、成果の集約や発表、今後の展望など効果的なプレゼンテーション技法を指導する。

【授業の目標】

オーディエンス・コンシャス（聞き手の理解）に焦点をあてた効果的なプレゼンテーションのあり方を探る。構成・話し方・ファイルの作成方法について、その評価基準を明らかにしながら展開する。

【授業計画】

プレゼンテーションは「Organization」「Public Speaking」と「File making」に分かれる。実習は、この２つの観点に常に留意し展開していく。

第１回　プレゼンテーションとは　モデルを見よう
第２回　プレゼンテーション評価の観点
第３回　プレゼンテーションサンプル評価
第４回　プレゼンテーションとコミュニケーションデザイン
第５回　プレゼンテーションとマルチメディア
第６回　プレゼンテーションとアンケート処理
第７回　プレゼンテーションの構成
第８回　コンセプトマップ
第９回　アプリケーション間の連携
第10回　話す力
第11回　アイコンタクトとボディランゲージ
第12回　オーディエンスとインタラクション
第13回　作品評価
第14回　作品評価
第15回　作品評価

【評価方法】

出席状況、授業態度、課題提出（インターネット利用）を通して評価する。プレゼンテーションを実際に行い、その作品を通しての評価が中心となる。

【テキスト】

実践プレゼンテーション（影戸誠・渡辺浩行著　日本文教出版　ISBN４-536-40099-０）

【参考文献・資料】

魅せる先生（影戸誠他著　インプレス　４-8443-7009-X）
実習情報基礎　（影戸誠他著　インプレス）
翼をもったインターネット（影戸誠著　日本文教出版）

091263501_1140　掲載順：1140　MASTER ▲

通訳特講

中村幸子

【授業の概要】

日英語間の通訳に必要となる基礎知識と技能を習得するとともに、通訳の準備作業として不可欠な情報収集の具体的方法を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

国際交流や国際協力の舞台で通訳者（英語）として活躍できる実践的な実力を養成することを目的とし、通訳者養成のために一般的に採用されている各種通訳訓練法を行い、即解力、即応力、口頭表現力、語彙力を飛躍的に高めながら通訳スキルの向上を目指す。

【授業計画】

プロ通訳者の業務に準じた事前準備資料を使用する。インターネットで公開されているAuthenticな音声なども積極的に利用していく。通訳に必要な背景知識を得るため様々な分野の資料の訳出を含めた分析を行い、知識ベースの充実も目指す。学期末にはプレゼンテーション形式の模擬通訳発表会を実施する。

第１講　通訳概要
第２講　英日逐次通訳の基礎１
第３講　英日逐次通訳の基礎２
第４講　英日逐次通訳の基礎３
第５講　資料分析１
第６講　日英逐次通訳の基礎１
第７講　日英逐次通訳の基礎２
第８講　日英逐次通訳の基礎３
第９講　資料分析２
第10講　英日・日英逐次通訳の実践１
第11講　英日・日英逐次通訳の実践２
第12講　英日・日英逐次通訳の実践３
第13講　資料分析３
第14講　英日逐次通訳の仕上げ
第15講　日英逐次通訳の仕上げ

【評価方法】

出席（非常に大切）、授業内でのパフォーマンス、リサーチ課題、および模擬通訳の取り組みなどにより評価。

【テキスト】

オリジナルテキストを授業開始時に配布、およびオンライン配信。

【参考文献・資料】

会議通訳（ローデリック・ジョーンズ著　ウィンター良子・松縄順子訳　松柏社）
英語通訳への道（日本通訳協会編　大修館書店）
グローバル時代の通訳（水野真木子他　三修社）
トレンド日米表現辞典（小学館）　他

091263501_1150　掲載順：1150　MASTER ★

文芸翻訳特講

宮澤淳一

【授業の概要】

文芸翻訳（文芸作品や人文書の翻訳）を、学術研究の社会的還元という発想から捉え直す。歴史と理論、解釈と変換、密度とリダンダンシー、誤訳の構造などを考察しつつ、主に英語から日本語への翻訳を演習する。

【授業の目標】

１.「翻訳」とは何か。それを理論と実践両面から理解する。
２.「翻訳」とはいかなる意義や価値を持つのか。その現状はどうか。世の中で流通する「翻訳」に対して、批判的な目を養うと同時に、「誤訳」に対する寛容な態度を身につける。
３.「翻訳」を通して、他社の論理や発想を理解し、「伝達」とは何か、特に文章を「書く」とは何かを自分なりに見つめ直す。

【授業計画】

第１講：文芸翻訳とは何か（「翻訳」における位置、歴史と理論、学術研究との関係1）
第２講：文芸翻訳とは何か（「翻訳」における位置、歴史と理論、学術研究との関係2）
第３講：文芸翻訳とは何か（「翻訳」における位置、歴史と理論、学術研究との関係3）
第４講：英文和訳、逐語訳、意訳、"超訳"　……（解釈と変換1）
第５講：英文和訳、逐語訳、意訳、"超訳"　……（解釈と変換2）
第６講：英文和訳、逐語訳、意訳、"超訳"　……（解釈と変換3）
第７講：等量等価の翻訳は可能か（密度とリダンダンシー１）
第８講：等量等価の翻訳は可能か（密度とリダンダンシー２）
第９講：等量等価の翻訳は可能か（密度とリダンダンシー３）
第10講：誤訳とは何か、どう防げるか（誤訳の構造1）
第11講：誤訳とは何か、どう防げるか（誤訳の構造2）
第12講：誤訳とは何か、どう防げるか（誤訳の構造3）
第13講：翻訳と情報リテラシー（まとめ1）
第14講：翻訳と情報リテラシー（まとめ2）
第15講：翻訳と情報リテラシー（まとめ3）

【評価方法】

出席状況、授業での積極性、課題の取り組み方から総合的に評価する（ただし本講は「翻訳」を考えることが趣旨であって、語学力は成績と関係ありません）。

【テキスト】

ハンドアウトを配布し、用いる。テキスト初回授業にて紹介する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

091263501_1160　掲載順：1160　MASTER ★

産業翻訳特講

長沼美香子

【授業の概要】

翻訳技能のさらなる向上を目標として、英語と日本語の構造的な相違、話法・時制・句読法などについての言語学的知識を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

１．英文和訳と翻訳との違いを明確に区別し、実践できること。
２．翻訳に必要なリサーチが綿密にできること。
３．翻訳理論研究の視点が意識できること。

【授業計画】

第１講：授業概要説明（必ず出席すること）
第２講：講義、演習、ディスカッションを通して、翻訳の理論と実践を習得
第３講：基本理念について
第４講：応用（１）
第５講：応用（２）
第６講：応用（３）
第７講：実践（１）
第８講：実践（２）
第９講：実践（３）
第10講：実践（４）
第11講：実践（５）
第12講：レポートについて

【評価方法】

出席（意欲）、演習、課題提出等を総合して評価する。

【テキスト】

プリント配布（翻訳関連の書籍をクラスにて指定する場合もある）

【参考文献・資料】

In Other Words（Mona Baker 著　Routledge）
Introducing Translation Studies（Jeremy Munday 著　Routledge）

091263501_1170　掲載順：1170　MASTER ★

19世紀の文学

横田和憲

【授業の概要】
アメリカの独立、ヨーロッパの市民革命を経て、自然への愛と想像力の回復によって結実した19世紀の文学を、イギリス・アメリカを中心に考察する。

【授業の目標】
＜アメリカ文学における旅の系譜＞について考察する。
旅－なぜか心をわくわくさせる言葉だ。それは、旅が私たちの日常生活、つまり束縛された現実からの脱出の夢をかなえてくれるからなのかもしれない。旅にも色々あるが、詰まるところ、その本質的な意義は「自己に内在する価値を引き出すための探求」ということになる。文明は定住を要求する。
限られた空間の中に定住し、規格化された生活を余儀なくする。社会が組織を強め、個人の自由と権利が圧迫され、人は日常を越えて旅への夢を育むことになる。

【授業計画】
＜William Austin＞を＜Nathaniel Hawthorne＞と比較しつつ、文学作品を通して、＜Peter Rugg tales＞を分析する。
１．William Austin , "Peter Rugg tale〈s〉" (1824 ～)
２．Nathaniel Hawthorne, "A Virtuoso's Collection" (1842)
さらに Nathaniel Hawthorne, "Earth's Holocaust" (1846) も加えておきたい。

【評価方法】
授業参加度３０％、学期末のレポート７０％

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業の中で詳述していく。

091263501_1321　掲載順：1175　MASTER ●

今年度開講せず

20世紀の文学

【授業の概要】
激動の20世紀を背景としたイギリス・アメリカの文学を、国際的視点から考察する。

091263501_1180　掲載順：1180　MASTER ★

環境と開発

高島忠義

【授業の概要】
開発を経済成長と同義の概念と捉えていた時代から女性の参加などを含む社会開発、さらには人間開発へという開発理論の変遷について検討する。

【授業の目標】
日本のODAの歴史とその内容的な特徴について概説した後、その問題点を考察する。

【授業計画】
前半の授業では、開発理論の系譜を辿った後、日本の戦後のODAの特徴として戦後賠償との関連性や日本経済との関係などについて検討する。後半には、日本のODAの問題点として、地域的な偏り、贈与率の低さ、環境への影響などについて考察する。

【評価方法】
授業への出席と発表。

【テキスト】
特にテキストは指定せず、授業で適宜必要な資料等を配布する。

091263501_1190　掲載順：1190　MASTER ★

ジェンダーと開発

國信潤子

【授業の概要】
ジェンダーと開発について基礎的知識を身につけ、現実の開発問題においてジェンダーの問題がどのような実態として存在しているか、またジェンダー的視点から開発支援を実施するために必要な知見と手法について学ぶ。

【授業の目標】
国際開発協力におけるジェンダー視点とはなにかについて理解し、その具体的方法論を学習する。
持続可能なジェンダー配慮のある開発事案について事例的に紹介し、従来の開発との異同を理解する。
ジェンダー指標を採用することによって、より具体的にジェンダー配慮の有無を評価できるようにする。

【授業計画】
下記の各項目について２～３回程度の講義、討議を行う。
１）開発におけるジェンダー視点とは。
２）ジェンダー視点の歴史的展開
３）持続可能な開発になぜジェンダー視点は必要なのか。
４）ジェンダー指標の適用により、協力活動はどのように変化するか。
５）ジェンダー指標の方法論
６）事例分析、グループ討議

中間テスト、期末小論文試験がある。
授業の各回にミニ・レポート提出がある。

【評価方法】
履修態度、自由討議参加度、中間テスト、期末小論文試験、授業各回に提出するミニ・レポート等による総合評価。

【テキスト】
特にない。

【参考文献・資料】
「ジェンダーと開発」 田中由美子他編著　　国際協力出版
この他にも随時提示、配布する。

091263501_1200　掲載順：1200　MASTER ★

国際観光マネージメント

加納和彦

【授業の概要】
「国内旅行業務取扱管理者試験」の試験科目である「法令」「約款」「国内旅行実務」のそれぞれを体系的に学ぶことによって、国際観光マネージメントへの理解を深める。

【授業の目標】
「国内旅行業務取扱管理者試験」の受験、合格を最終目標に置きながら、旅行会社におけるマネジメントの一端を身に付ける。

【授業計画】
1）国内旅行実務・国内観光資源
2）国内旅行実務・国内運賃料金１
3）国内旅行実務・国内運賃料金２
4）国内旅行実務・国内運賃料金３
5）旅行業約款１
6）旅行業約款２
7）旅行業約款３
8）旅行業約款４
9）旅行業法１
10）旅行業法２
11）旅行業法３
12）旅行業法４
13）各種約款
14）各種約款
15）まとめ

【評価方法】
出席状況と課題提出により評価する。

【テキスト】
旅行管理者試験2009〔国内〕短期完成（エフィカス）

【参考文献・資料】
授業の中で適宜紹介する。

091263501_1220　掲載順：1220　MASTER ▲

東南アジア交流特講

木村宏恒

【授業の概要】
ASEAN諸国それぞれは、先進国との縦型の交流（経済的・政治的・人的）を進めてきた。近年、ASEAN+3（日本、中国、韓国）の枠組みを中心に、東アジア共同体の方向が模索されている。ASEANと米中日およびASEAN相互間の交流の実際を考察する。

【授業の目標】
本特講では、まず東南アジア各国の現状を、写真満載のパワーポイントで紹介し、各国の歴史や政治・経済・社会についての理解のなかで、各国がどのような国際交流をしてきたかについての理解を深める。そのうえで、中国、アメリカ、ヨーロッパ、日本とのかかわりおよび東南アジア諸国間の関係を、具体例を交えながら講義し、国家間関係にとどまらない東南アジアの国際社会を知る。

【授業計画】
1．世界の中の東南アジア
2．東南アジアに背中を見せて付き合うフィリピン
3．東南アジア最大の国インドネシア
4．Next NIES（次の東アジア新興工業国）第一候補マレーシア
5．すでに先進国シンガポール
6．東南アジアの北の雄タイ
7．市場経済化するベトナム
8．２０年の内戦を経たカンボジア
9．東南アジア周辺国家ラオス
10. 東南アジアの孤児ミャンマーは孤立してどうなってきたか
11. アメリカと「東アジア」（東南アジアを含む）
12. 東南アジアに進出してきた中国人、進出しつつある中国人
13. 東南アジアと日本とのかかわり
14. ヨーロッパは東南アジアからどの程度撤退したのか？
15. 西欧の地域おこしとイギリス植民地だったインドとの比較

【評価方法】
出席点、授業中の質問に答えられた回数、レポートで評価する。

【テキスト】
毎回、プリント（handout）を配布する。

【参考文献・資料】
参考文献は講義の中で紹介する。

091263501_1210　掲載順：1210　MASTER ★

東アジア交流特講

姜 東局

【授業の概要】
近世から今日に至るまでの日中韓の交流のマクロな歴史とともに、３か国の交流が各国のアイデンティティ形成と変容に与えた影響について考察する。

【授業の目標】
1）東アジアの交流史の知識の習得
2）東アジアの交流を捉える多元的観点の獲得
3）自国や自己を見つめる地域レベルの客観性の獲得

【授業計画】
第一回：はじめに－東アジア交流の普遍性と特殊性
第二回：近世における東アジア交流１－日・朝の政府間交流
第三回：近世における東アジア交流２－中・朝の政府間交流
第四回：近世における東アジア交流３－日・朝の民間交流
第五回：近世における東アジア交流４－日・中の民間交流
第六回：近代における東アジア交流１－中国中心の思想連鎖
第七回：近代における東アジア交流２－条約の成立と近代的な交流の開始
第八回：近代における東アジア交流３－日本中心の思想連鎖
第九回：近代における東アジア交流４－戦争の時代の始まり
第十回：20世紀における東アジア交流１－帝国における文化の還流
第十一回：20世紀における東アジア交流２－日・中間の交流
第十二回：20世紀における東アジア交流３－日・韓間の交流
第十三回：20世紀における東アジア交流４－中・韓の交流
第十四回：東アジア交流の現状と展望
第十五回：まとめと試験

【評価方法】
レポート：３０％,期末試験：７０％,授業中の討論と質疑応答による加算点あり。

【テキスト】
講義で配布するレジュメによる。

【参考文献・資料】
思想課題としてのアジア：基軸・連鎖・投企（山室信一著　岩波書店）
東アジアの王権と思想（渡辺浩著　東京大学出版会）
The clash of empires（Lydia H. Liu Harvard University Press）
岩波講座「帝国」日本の学知　全８巻（酒井哲哉他著　岩波書店）

091263501_1230　掲載順：1230　MASTER ★

韓国・朝鮮語

尹 大辰

【授業の概要】
韓国語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成および作文力を高めることを目指して、演習形式で学ぶ。

【授業の目標】
新聞や雑誌および学術論文などの読解力向上と自己表現能力の涵養。

【授業計画】
第１回～第４回　新聞・雑誌などの講読
第５回～第８回　小説・論文などの講読
第９回～第12回　映画・ドラマのシナリオからの会話表現演習
第13回～第14回　作文演習
第15回　期末試験

【評価方法】
期末試験５０％、レポート３０％、出席率・平常点２０％を加味して総合的に判断する。

【テキスト】
プリント教材

【参考文献・資料】
必要に応じて授業中に指示する。

ロシア語

IAMADZAKI Tatiana

【授業の概要】
ロシア語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成および作文力を高めることを目指して、演習形式で学ぶ。

【授業の目標】
ロシアのカレンダーに載っている国民休日と自然の移り変わりを表す祭日などを用いて、現ロシアとロシア人の姿を読み取る。

【授業計画】
2009年のロシアのカレンダーを使い、一年の行事などをロシア語で覚えて、それについて質疑応答を行う。

1．旧暦（ロシアのユリウス暦）の話
2．旧暦の新年
3．「厳しい月」、2月のこと
4．「あぶら祭り」、謝肉祭のこと
5．白樺の行事、三位一体祭のこと
6．「イワナ・クパラ祭」、川開きのこと
7．ロシアの夏休みの特色
8．「他界への旅立ち」、秋の到来
9．「10月革命」のこと
10. 国民統一の記念日
11. カレンダーに見るソビエト時代の名残
12. 冬至と夏至
13. 「清めの行事」、12月のこと
14. 四季のことわざ
15. ロシアのクリスマスの行事

【評価方法】
定められた露文の予めの和訳と小テスト、50%、レポート50%

【テキスト】
教師が用意するプリント

【参考文献・資料】
露和・和露辞典

タイ語

SAWETAIYARAM Tewich

【授業の概要】
タイ語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、研究や実践活動に必要な読解力、会話力を身に付けることを目指し、演習形式で学ぶ。

【授業の目標】
タイ語の基礎を学ぶための科目である。バランスよくタイ語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく、日常会話の練習や平易な文章の読解も行う。併せて、文化・社会、歴史など背景的知識を学習するということによりタイ語の諸相を理解してもらいたい。

【授業計画】
書記法 … タイ語の文字を理解し、確実にかつ美しく書けるようにする。
発音 … タイ語の母音と子音を正しく発音し聞き分けられるようにする。特に、日本語にないものの区別になれるように練習する。
文法 … 初歩的文法を学習する。文法事項は、名詞文、動詞文、形容詞文などの平叙文から勉強する。次に、疑問文、否定文、勧誘文、依頼文を勉強する。
口頭能力… 典型的なあいさつ表現などを適切に使えるようにする。

【評価方法】
出欠状況とレポート

【テキスト】
必要な資料を配布する。

ベトナム語

NGUYEN Anh Phong

【授業の概要】
ベトナム語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、研究や実践活動に必要な読解力、会話力を身に付けることを目指し、演習形式で学ぶ。

【授業の目標】
1．ベトナム語の特徴とその文化的背景を理解すること。
2．ベトナム語の魅力、面白さを理解し、基本的な会話力を身につけること。

【授業計画】
第１回　オリエンテーション（授業の目標、テキスト･資料、評価方法）
第２回　ベトナムの概要（地理、歴史）
第３回　文字と発音のしくみ
第４回　書き方と語の特徴
第５回　文法的特徴
第６回　区別のしくみ
第７回　話題のしくみ
第８回　復習
第９回　ベトナム語の品詞
第10回　数字
第11回　ベトナム語における漢語
第12回　くらしのベトナム語
第13回　日本語とベトナム語の比較
第14回　まとめ
第15回　テスト

【評価方法】
出席、テストまたはレポート

【テキスト】
田原洋樹（２００５）『ベトナム語のしくみ』白水社

【参考文献・資料】
1．池田浩明（２００６）『ベトナム　ベトナム料理』（食べる指さし会話帳）情報センター出版局
2．窪田守弘（２００７）『映画でベトナム』 南雲堂フェニックス
3．皆川一夫（２００５）『くらしのベトナム語ハンドブック』 国際語学社

フランス語

清水ベアトリックス

【授業の概要】
フランス語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得している者を対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成および作文力を高めることを目指して、演習形式で学ぶ。

【授業の目標】
教材(プリント）を基にして、フランス語の文法の基礎を学ぶ（または復習する)。文法のポイントを深めるため､｢読む｣､｢書く｣､｢話す｣ 練習をする。
フランスに対する知識を深めるためテレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説する。

【授業計画】
－発音のルール
－名詞、冠詞、形容詞
－動詞：人称代名詞、規則動詞の活用
－否定文、疑問文、疑問詞
－所有形容詞、指示形容詞
－過去形
－目的語人称代名詞
－代名動詞、比較級
－関係代名詞を使った文
－直接法、受動態
－条件法
－接続法

【評価方法】
出席状況、授業態度、学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】
プリント

【参考文献・資料】
- 現代フランス情報辞典―キーワードで読むフランス社会
- フランスを知る―新”フランス学”入門　（東京都立大学フランス文学研究室）
- 変貌するフランス（西永良成　日本放送出版協会）

091263501_1280　掲載順：1280　MASTER ★

関連科目特講 I

中野弘三

【授業の概要】
コミュニケーションプログラムが対象とする領域を多角的に考察する。

【授業の目標】
1．社会の状況や社会のあり方が言語にどのように反映されているかを理解する
2．言語と言語使用者の意図や文化の関係を理解する。

【授業計画】
＜言語と社会＞
1. コミュニケーションの場の分析
2. Politeness
3. Hedge
4. 言語とGender

＜言語と文化＞
5. 言語と文化の関係
6. 文化の違いが言語表現に反映する事例

【評価方法】
平常点、課題などにより評価する。

【テキスト】
プリントを使用。

【参考文献・資料】
Pragmatics (1996　G. Yule / Oxford University Press)
Women, Men and Politeness (1995　J. Holmes / Longman)
Minimum Essential Politeness: A Guide to the Japanese Honorific Language (1991　A.M. Niyekawa / Kodansha International)
Language and Culture (1998　C. Kramsch / Oxford University Press)
Cognitive Linguistics: An Introduction (2001　L.David / Oxford University Press)

091263501_1300　掲載順：1300　MASTER ★

関連科目特講 III

横田和憲

【授業の概要】
文化研究探求プログラムが対象とする外国文化・文学に関連した領域を多角的に考察する。

【授業の目標】
４人の銛打ちなど幾つかのテーマに添って精読をしながら、_Moby-Dick_の、またMelville の本質を極めてみたい。

【授業計画】
第１回　はじめに
第２回　Charts and Maps
第３回　Author Biography--DLB
第４回　Complete Background
第５回　Capsule Summary
第６回　Comprehensive Summary (1)
第７回　Comprehensive Summary (2)
第８回　Critical Analysis (1)
第９回　Critical Analysis (2)
第10回　Character Analysis (1)
第11回　Character Analysis (2)
第12回　Study Questions (1)
第13回　Study Questions (2)
第14回　まとめ

【評価方法】
授業参加度30％ずつ、各学期末のレポート70％ずつ。

【テキスト】
適宜プリントを配付する。

【参考文献・資料】
授業の最初に詳述する。

091263501_1290　掲載順：1290　MASTER ▲

関連科目特講 II

高橋美由紀

【授業の概要】
ランゲージスタディーズプログラムおよび外国語教育プログラムが対象とする英語・日本語・中国語への言語学アプローチ、または教育的アプローチに関連した領域を多角的に考察する。

【授業の目標】
外国語教育プログラムにおいて、言語学アプローチ、または教育的アプローチに関連させるために、小学校英語教育の理論に裏付けされた実践を指導できる人材を育成することを目標としている。

【授業計画】
1．オリエンテーション：小学校英語活動と児童英語教育
2．「総合的な学習の時間」の枠組みの中での小学校英語活動、国際理解教育
3．アジア諸国、ヨーロッパ諸国での小学校英語教育の取り組み
4．文部科学省「小学校英語活動実践の手引き」を読む
5．小学校における英語（外国語）教育の目的と意義、研究開発校の事例研究等から
6．小学校英語活動における学習者に対する効果的な教授法
7．早期外国語教育プログラム（イマージョン、FLES、FLEX）
8．小学校英語の指導者について・ALTとのTT授業について
9．発達段階に応じた効果的な英語活動・中学校の英語教育との連携について
10. 小学校英語活動の教材・教具・設備について
11. 小学校英語活動の視覚教材・聴覚教材研究
12. 小学校英語活動のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
13. テキストと授業計画、指導案の書き方について
14. 模擬授業の具体例と指導案（その１）
15. 模擬授業の具体例と指導案（その２）、まとめ

【評価方法】
テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】
『これからの小学校英語教育の構想』（高橋美由紀編著　アプリコット出版社 2008）
Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀　開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子　開隆堂出版）
The Study of Second Language Acquisition (Rod Ellis 著　OXFORD　2008)

その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

【参考文献・資料】
English for Primary Teachers :A handbook of activities & classroom language（Slattery, M. & J.Willis　Oxford　2003）
＜２＞ Teaching Young Laguage Learners (Annamaria Pinter Oxford 2006)

091263501_1322　掲載順：1305　MASTER ●

今年度開講せず

関連科目特講 IV

【授業の概要】
国際社会貢献プログラムが対象とする国際協力や国際協力に関連した領域を多角的に考察する。

関連科目特講 V

小松諄悦

【授業の概要】
地域文化交流プログラムが対象とする東アジアおよび東南アジアの文化交流を多角的に考察する。

【授業の目標】
日本と東アジア、東南アジアとの間の国際関係の歴史的背景と現状を考察した上で、日本とそれぞれの地域との間の文化交流について、その政策と実践について理解する。

【授業計画】
第１回　授業の概要
第２回　東南アジア諸国の近代史と現在（1)(インドネシア、タイなど)
第３回　東南アジア諸国の近代史と現在（2)(ベトナム、ミャンマーなど)
第４回　中国の近代史と現在
第５回　韓国の近代史と現在
第６回　日本と東南アジア諸国との関係
第７回　日本と東アジア諸国との関係
第８回　日本と東南アジア諸国との文化交流政策（1）
第９回　同　（2）
第10回　日本と中国との文化交流政策
第11回　日本と韓国との文化交流政策
第12回　日本と東南アジア諸国との文化交流の実践
第13回　日本と中国との文化交流の実践
第14回　日本と韓国との文化交流の実践
第15回　まとめとレポート

【評価方法】
出席、授業中の小レポート　20%
期末レポート　80%

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業でレジュメを配布する。

関連科目特講 VI

貝澤 哉

【授業の概要】
文化翻訳プログラムが対象とする文化翻訳および異文化理解に関連した領域を多角的に考察する。

【授業の目標】
「文化的テクストを読み解くための基礎理論」――この授業は、①「物語」と「終末」、②「声」と「歌」、③映像・イメージ：視覚と身体、④「食物」と「ゴミ」、⑤「探偵」、⑥「女性の身体」などのテーマを手がかりとしながら、文化的テクストを読み解くための基礎となる理論をなるべくわかりやすく紹介することを目的とする。

【授業計画】
①「物語」と「終末」――アニメ、ゲームや文学、映画、宗教、恋愛などの文化的生産物を例に、なぜ物語はあるのか、なぜそれは文化にとって必要なのかを考える。
②「声」と「歌」――歌における、人間の肉声と歌詞（言葉）そしてメロディ・リズムとの関係を考察し、言葉、声、音楽がなぜ融合されるのかを考える。
③視覚と身体――視覚イメージがたんに光学的なものではなく、人間の欲望や権力、身体性や自我の整形に深くかかわっていることを、美術、映像作品をもとに考える。
④「食物」と「ゴミ」――食べること（摂取）とゴミを出すこと（排泄）という身体の基本的機能が、文化における同一化と排除に関係していることを探る。
⑤「探偵」――「見る、覗く」という身体的行為と、手がかりを「読み解く」という記号的行為が交差する探偵のあり方について考える。
⑥「女性の身体」――フェミニズム以後の女性の身体性の基本的とらえ方を概観するとともに、初期ソ連文化における特異な女性イメージを検討する。

【評価方法】
レポートにより評価する。

【テキスト】
教場で配布する。

【参考文献・資料】
教場で文献表を配布する。

091264002_0010　掲載順：0010　MASTER ★

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究１（英語文法論）

中野弘三

【授業の概要】
英語の特徴を統語論・意味論・語用論などの側面から理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

【授業の目標】
英文法研究に必要な統語理論、意味理論、語用論についての専門的な知識を身につけるとともに、他言語と異なった英語の言語的特徴を十分に把握することを目指す。

【授業計画】
（前期）統語論に関する生成文法理論、機能主義文法など最近の文法理論についての知識を深め、英語の統語構造の分析に役立てる。また、英語の統語構造の通時的な変化についても知識を深める。
（後期）語彙意味論、認知意味論など最近の意味理論が英文法研究どのように貢献できるかを考察する。さらに、最近の語用論研究の成果を踏まえて、会話の場面で用いられる英語のぼかし言葉(hedge)、丁寧表現、談話標識の機能を考察する。

【評価方法】
平常点、課題などにより評価する。

【テキスト】
プリントを使用。

【参考文献・資料】
Government and Binding Theory and the Minimalist Program (1995　G. Webelhuth ed./Blackwell)
Natural Language Semantics (2001　K. Allan / Blackwell)
An Introduction to Functional Grammar (2nd Edition) (1994 M.A.K. Halliday / Arnold)
Doing Pragmatics (2nd Edition) (2000　P. Grundy / Arnold)

091264002_0020　掲載順：0020　MASTER ★

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究２（言語習得）

樗木勇作

【授業の概要】
幼児の言語獲得や第二言語習得の仕組みを理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

【授業の目標】
言語獲得理論や第二言語習得理論研究の主な研究動向を把握し、近年の言語学の手法や接近法を用いて自説を展開できるようになることを目標とする。

【授業計画】
受講者の研究テーマ・研究内容により踏まえておくべき研究論文等を輪読し議論の対象とする。毎回の授業における議論から研究テーマを見いだせるよう工夫する。

【評価方法】
以下に挙げる観点で総合的評価を行う。

1)　取り扱う研究テーマに関する幅広い基礎的理解 (25%)
2)　先行研究論文等の正確な読解と評価 (25%)
3)　授業における議論への主体的・能動的参加 (25%)
4)　自律した研究にむけた論文執筆態勢 (25%)

【テキスト】
受講者と相談の上決定する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091264002_0030　掲載順：0030　MASTER ●

今年度開講せず

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究４（コミュニケーション）

【授業の概要】
日本文化とアメリカ文化の比較検討を通して、コミュニケーションのあり方を理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

091264002_0040　掲載順：0040　MASTER ★

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究５（英語教育）

松本青也

【授業の概要】
日英対照言語学や第二言語習得理論、社会言語学の立場から日本の英語教育のあり方について理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

【授業の目標】
研究分野の新しい研究成果に幅広く触れて考察を深めながら、各自の研究テーマに沿って学位論文作成を目指した指導を行う。

【授業計画】
幾つかのトピックについて内外の研究成果に批判的考察を加えながら、三年間にわたり、各自の研究課題と仮説設定、文献研究、リサーチデザイン、データ収集・分析など、学位論文の完成までの様々な段階について指導を行う。

【評価方法】
発表内容と論文を含め、一年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】
適宜資料配布。

091264002_0050　掲載順：0050　MASTER ★

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究６（中国語教育）

馮 富榮

【授業の概要】
日本語と中国語を統語論、語用論、語彙論の側面から比較検討するとともに、中国語教育のあり方について理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

【授業の目標】
本講義を受講することによって、日本語と中国語に関する幅広い知識を得られると共に、両言語の違いを生み出している文化的背景を深く探求する力が培われる。さらに、日本の大学中国語教育に置ける問題点に突き止め、中国語教育のあるべき将来像を探ることができればと期待している。

【授業計画】
本講義では、日・中両言語について、主として統語論、語用論、語彙論という３つの側面から検討する。輪読という形で講義を進めていくが、先行研究を幅広く講読する。そしてディスカッションを交えながら先行研究に残っている問題点や日・中両言語のそれぞれの特徴、両言語を機能させている文化的な背景、そして両言語の相違点を生み出した歴史的な原因、思考様式の相違による原因などについても議論する。
本講義では、また日本の大学での中国語の教育についても検討する。具体的に言うと、今の日本の大学における中国語教育には、どのような問題点（教材やカリキュラムの編成、そして教育の方法や教育目標の設定など）があるか、その問題点を解決するにはどうすればよいか、今後の日本の大学における中国語教育をどう展開させるべきか、そして日本人を対象とする中国語教育の特色はどこにあるかを検討していきたい。
要するに、本講義は中国語の教育者と日・中両言語の比較に関する研究者を養成することを目的としている。

【評価方法】
受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】
【教材】
関連の研究分野の論文を使用する。

【参考文献・資料】
適宜に指示する

091264002_0060　掲載順：0060　MASTER ▲

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究７（日本語教育）

山内啓介

【授業の概要】
日本語学、日本語教育文法学、マルチメディアを用いた教育と学習などの立場から日本語教育のあり方について理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

【授業の目標】
言語研究の方法を実践する。

【授業計画】
１年次では、日本語教育をめぐる状況についてとりあげ、日本語が必要とされる要因を分析する。あわせて、日本語文法、日本語による発想、日本語の文化がもたらすコミュニケーションの問題を議論し解決を得る。
２年次では、各自の選ぶテーマをもとに研究立場、研究手法を設定し、方法論、文献探索についての指導を行う。研究発表など、プレゼンテーションの機会を得て自らの論点を深化させる。
３年次では、自らの論考の関連テーマについて論を展開し、研究を進め、論文を執筆する。
学位の取得に向けて、博士論文の指導を行う。
以上について個別指導する。また、受講生の希望を取り入れ、日本語研究、日本語教育の実践的教授方法の追求を行いたい。

【評価方法】
論文作成のための課題論文、レポート、また議論の参加など。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

091264002_0070　掲載順：0070　MASTER ★

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究８（イギリス）

久野幸子

【授業の概要】
イギリスの歴史・文学の特色を分析しながらイギリス文学作品を理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

【授業の目標】
今年度はイギリス文学における小説、とくに女性作家とイギリス小説との関係を考察する。１８世紀後半から１９世紀前半期にかけて、なぜ、多くの女性作家が輩出したのか、そして、その現象が社会にどのような影響をもたらしたのか、を中心に、さまざまな観点から考察する。

【授業計画】
以下の項目を考察する。（１）女性と文学ジャンル（２）女性とその文学的特質（３）女性をとりまく社会環境。作家としては、ジェイン・オースティン、シャーロット・ブロンテ、ジョージ・エリオットを扱う予定である。

【評価方法】
平常点（出席、受講態度など）とレポート等で総合的に評価する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

091264002_0080　掲載順：0080　MASTER ★

今年度開講せず

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究９（アイルランド）

【授業の概要】
アイルランドの歴史・文学の特色を分析しながらアイルランド文学作品を理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

091264002_0090　掲載順：0090　MASTER ★

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究10（アメリカ）

太田直子

【授業の概要】
アメリカの歴史・文学の特色を分析しながらアメリカ文学作品を理論的に考察し、実践的な研究指導を行う。

【授業の目標】
アメリカ20世紀の小説を取り上げ、文化的背景を考察し、作品分析・考察を行なう。

【授業計画】
William Faulkner, The Sound and the Fury
を精読、批評・分析する。

【評価方法】
学期末にレポートを提出。授業内での発表と合わせて評価する。

【テキスト】
William Faulkner, The Sound and the Fury
プリント配布

【参考文献・資料】
授業内で提示する

091264002_0100　掲載順：0100　MASTER ●

今年度開講せず

グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究11（アジア）

【授業の概要】
東アジア漢字文化圏の文化的特色を多角的に考察し、実践的な研究指導を行う。

090864501_0010　掲載順 :0010　MASTER ★

研究技法 I（データ解析）

太田浩司

【授業の概要】
この講義では調査によって収集されたデータをSPSSという統計パッケージを利用して解析する手法を紹介する。扱う統計手法は記述統計、ピアソン積率相関、T－検定、分散分析、重回帰分析を予定している。特にデータ分析の結果の読み方と解釈の仕方に焦点を置く。講義の詳しい内容は最初の授業で知らせる。

【授業の目標】
社会で起こる様々な事象を数値化をして理解するという調査法の基礎を身につけることを目標としている。

【授業計画】
1．研究者としての心構え：研究の意義、研究者倫理、社会への貢献と責任、理論構築の重要性などについての理解を深める。研究目的エクササイズと理論探求エクササイズを行う。
2．研究法概観：質問紙、インタビュー、観察法、実験法の特徴を概観することにより自らが使用する研究法に対する理解を深める。
3．データ解析：記述統計や推測統計、さらにピアソン積率相関、T－検定、分散分析、重回帰分析などの分析法について演習を通して理解を深める。
4．論文・報告書の作成：与えられたデータを研究課題や仮説などを基に分析し、論文としてまとめる練習をする。

【評価方法】
出席、理論探求エクササイズ、データ分析エクササイズ（タームペーパー）

【テキスト】
特になし

【参考文献・資料】
最初の授業で紹介する

090864501_0020　掲載順 :0020　MASTER ★

研究技法 II（論文作成法）

植村広美

【授業の概要】
修士論文を作成する際の基本的な方法を学ぶ事を目的とする。
とりわけ内容構造を大局的に捉える方法と、レトリックの問題として捉える視点を養う。
よい論文とはどんな論文か、問題のみつけ方から構成の仕方、さらに創造性のある論文の作成法について、具体的なトピックに沿って解説していく。

【授業の目標】
以下5点については徹底して習得してもらいたい。
1. 問題の見つけ方、問いの切り出し方
2. 論文の構成・配置
3. パラグラフのまとめ方
4. 注釈のつけ方
5. 標題のつけ方

【授業計画】
受講生の個人研究や関連文献などを用いて、ゼミナール形式で発表を行ってもらう。
具体的な内容や方法については、授業中に説明する。

【評価方法】
出席、レポートにより評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

090864501_0030　掲載順 :0030　MASTER ★

研究技法 III（質問紙調査法）

榊原國城

【授業の概要】
この授業の主題は、現代社会における様々な問題に対し、科学的な視点に基づいて対処できる基本的な技能を身につけることである。具体的には、担当者が長年学んできた心理学において用いられてきた、科学的資料の収集法としての質問紙調査法の体得である。すなわち、受講学生自身が、質問紙調査法の基礎的な考え方を理解し、その実際を段階的に体験することにより、科学的方法の適用能力を身につけることをねらいとしている。
多くの人々に共通する問題の発見や解決を図る際に、それらの人々に共通する行動の仕方や考え方、興味・関心の方向などを的確にとらえることが必要になる。研究法としての質問紙調査法の意義はまさにこの点にある。すなわち、多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析する手法が質問紙調査法である。
授業内容は、受講学生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習を中心とする。

【授業の目標】
調査報告書の完成およびプレゼンテーション。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．調査計画立案
3．調査票作成と調査実施
4．調査結果の分析
5．報告書の作成

【評価方法】
調査報告書の内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価をも行う。

【テキスト】
授業中に指示する。

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

090864501_0040　掲載順 :0040　MASTER ★

地域社会特別講義 I（地域問題論）

石田好江

【授業の概要】
現在は1970年代の「地方の時代」に対し、「新しい地方の時代」だといわれる。その象徴が地方分権化である。本講義では、地方分権化と、それを契機に認識が高まりつつある地域づくり・住民自治をキーワードに、環境問題、地域福祉、就業問題等を取り上げ、「新しい地方の時代」における地域社会の構造と課題を明らかにする。

【授業の目標】
（1）「新しい地方の時代」とは何か、何が転換されたのかを理解する。
（2）その上で講義の中で紹介する多くの事例を通して、受講者自身が地域社会の課題を発見し、その解決のための政策提案を行う。

【授業計画】
1）はじめに－地域研究の系譜と方法
2）地域の歴史的把握
3）地方分権化
4）地域づくりと地方自治I
5）地域づくりと地方自治II
6）地域福祉政策
7）高齢社会とまちづくり
8）地域と環境問題I
9）地域と環境問題II
10）立地競争と地域経済
11）地域と就業構造I
12）地域と就業構造II
13）まとめ

【評価方法】
レポートを課す。評価のポイントについては授業にて説明する。

【テキスト】
未定。

【参考文献・資料】
授業の中で適宜紹介する。

地域社会特別講義 II（地域交通論）

辻 紘良

【授業の概要】

地域交通を対象に、その問題や所在を明らかにするとともに、問題の解決に向けて、交通の情報通信ネットワークの視点から将来の地域づくりのあり方について考察する。

ここでは、情報技術や通信技術の進展を背景に、その可能性や将来性に期待の寄せられているITS技術を取り上げ、その現状を把握するともに、地域交通への適用の効果や問題解決の方策を探る。また、地域やまちづくりの観点から新しい移動通信システムの可能性の展望とシステム設計の検討を試みる。

＊ITS = Intelligent Transport Systems(高度道路交通システム)

【授業の目標】

1．地域交通に関するITSの現状を把握するとともに問題点や解決策について理解を深める。
2．交通の地域分析方法を理解し、分析事例を通して修得する

【授業計画】

情報化社会における地域作りに向け、ITSの視点による地域交通の整備の効果と可能性、ならびにシステム提案を議論する。

1．地域交通の問題と課題
　資料、統計等に基づき地域交通の現状と課題を抽出する。
2．地域交通の情報化
　ITSを地域交通へ適用したときの効果や問題解決の方策を探る。
3．ITSの可能性
　ITSの視点からみた地域交通の高度化やまちづくりの可能性に言及する。
4．システム提案
　地域やまちづくりの観点から新しいITSシステム設計の提案を試みる。

講義と並行に最近のITS関連論文を読解し、地域交通システムの普及例や実験例を相互に提示し理解を深める。

【評価方法】

課題の提出や発表内容の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

Proceedings of 15th World Congress on ITS (ITS08)、他

地域社会特別講義 III（地域開発論）

竹村 弘

【授業の概要】

従来の「地方開発」は、中央と地方の経済格差の是正を目的として、主として地方への産業開発・企業誘致により実施されてきたが、今日の新しい「地域開発」は、各地域それぞれが、知恵・金・人を自分たちで出し、誰にも頼らず、自律的に発展するような、自立した「地域づくり」を目的としている。

【授業の目標】

従来の「地方開発」が果した歴史的役割を評価し、現在の「地域開発」の課題を研究する。わが国は高度経済成長を遂げ、世界の有数の経済大国となり、人々の関心は「もの」から「こころ」へ移ってきたと言われるが、暮らしやすい、生活の豊かな地域づくりは、いまだその途上にある。「開発か、自然か」は、永遠のテーマである。

【授業計画】

講義主体であるが、院生各自の研究との兼ね合いにおいて、可能な限り課題研究と討議を行う。

1．「地方開発」の光と影。地方での産業開発・企業誘致が成功し、工業都市が大きな発展を遂げる一方で、農山漁村は、衰退産業とともに疲弊し、人口が流出し、過疎問題が発生した。
2．「水俣病」等の産業公害は、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日の自動車排ガスによる道路公害、ゴミやダイオキシンによる環境問題は、暮しやすい豊かな地域を築く上で暗い影を落す。「自分達の地域は自分達で守れ」は、産業公害の歴史的教訓である。
3．「過疎」が集落の崩壊まで進んだ「末期過疎」や、地方都市の旧商店街に「新過疎」と呼ばれる空洞化が見られる中で、多くの地域住民が自ら手を携えて、「地域づくり運動」に立ち上っている。その代表的事例を研究する。
4．従来のような中央の行政指導・補助金に依存する体制から脱却し、地域の自立を実現するためには、地方分権等の推進と共に、その受け皿となる地方行政や地域住民の意識改革、および、主体的な政策立案ならびに実行能力の涵養が必要である。

【評価方法】

課題とレポートおよび討論参加度。

【テキスト】

講義の中で適宜提示する。

【参考文献・資料】

講義の際に配布する。

地域社会特別講義 IV（地域文化論）

谷沢 明

【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

【授業の目標】

個性的な「地域づくり」の在り方を理解するとともに、その応用として自らが取材して事例研究・報告を行う力を養うことを目標とする。

【授業計画】

1）地域づくりにおける風土的価値の検討
2）地域づくりにおける歴史的価値の検討
3）地域づくりにおける文化的価値の検討
4）歴史的文化遺産の活用について
5）調査方法（観察調査）の検討
6）調査方法（インタビュー調査）の検討
7）調査方法（文献調査）の検討
8）プレゼンテーション作成の手法
9）フィールドワークの実施
10）フィールドワークのデータ整理とその分析
11）フィールドワーク成果のプレゼンテーション

【評価方法】

定期試験及び事例研究の成果報告（パワーポイント）による。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

第１回目の授業で紹介します。

国際社会特別講義 I（国際社会発展論）

福澤直樹

【授業の概要】

20世紀の経済と社会の発展を、企業組織、国家機能及び世界経済の各側面から検討する。

【授業の目標】

20世紀資本主義の構造、歴史事象について理解する。

【授業計画】

1．20世紀経済社会の段階と局面
2．大型企業体の生成
3．福祉国家への前進
4．世界経済の構造

講義形式であるが、質問や討議の時間を適宜とりたい。

【評価方法】

出席と討議時の積極的発言、およびレポートにより評価する。

【テキスト】

改訂新版　欧米経済史（藤瀬浩司著　放送大学教育振興会　2004）

国際社会特別講義 II（国際経済システム論）

秦 忠夫

【授業の概要】

国際間の経済取引は経常取引（財・サービスの貿易取引）と資本取引に大別されるが、いずれの面でも取引の自由化が進み、世界経済は相互依存関係を深めている。しかし、発展段階の異なる多くの国からなる世界経済においては、取引の自由化には不断の政策努力が必要であり、一方で国際取引の進展に伴って発生する諸問題は市場メカニズムに委ねるだけでは解決できず、国際的な政策対応が不可欠である。戦後の世界経済がどのような制度的枠組みのなかで発展し、どのように問題解決への取組みがなされてきたか検討し、将来に向けての課題について考える。

戦後の国際経済システムを担ってきた三つの主要国際機関、すなわち国際通貨基金、世銀グループおよび世界貿易機関（その前身としてのガット）が果たしてきた役割をレビューし、それぞれが抱える今日の課題を検討する形で主題テーマに迫る。

【授業の目標】

検討対象である三つの国際機関の役割の変遷と今日の最重要課題につき理解を深める。

【授業計画】

1．講義が主体となるが質疑応答の時間を十分取り入れたい。
2．参考文献リストを活用して受講者は独自の研究も行う。
3．各自指定されたテーマ（選択形式）につきレポートを作成し提出する。

【評価方法】

平素の授業への取り組み姿勢と期末レポートで評価。

【テキスト】

プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会特別講義 III（国際関係論）

清水 洋

【授業の概要】

アジア地域では、1960年代後半以降、韓国、台湾、香港、シンガポールの4ヵ国が輸出志向型政策を導入して急激な工業化を達成したが、1980年代後半にはASEAN４（マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ）が、さらに90年代には中国やベトナムなどが順に産業の高度化を開始した。本講義では、これらの国の社会経済発展において日本が果たした役割を多角的に考察する。

【授業の目標】

アジア経済に関する専門知識を深めるとともに、統計資料や理論を用いて分析能力を養う。

【授業計画】

1．国際経済関係とアジア
2．アジア諸国の経済発展と理論
3．FTAとアセアン・日本関係
4．アジア流通業の国際化
5．アジア観光産業の国際化
6．アジアの建設業、ODA、日系ゼネコン

【評価方法】

発表内容および提出レポートで評価する。

【テキスト】

シンガポールの経済発展と日本（清水洋著　コモンズ）

【参考文献・資料】

Japan and Singapore: A Multidisciplinary Approach (Tsu Yun Hui 編著、McGraw-Hill Education).
その他、授業中に適宜指示する。

国際社会特別講義 IV（比較教育文化論）

渡辺かよ子

【授業の概要】

世界における比較・国際教育学研究の最近の水準に即しながら、人間形成の比較・国際的接近を試みる。そのさい、文化史的背景と問題解決への試行的実践事例に注目する。

【授業の目標】

日本を含む世界の人間形成に関する基礎理論と教育制度の概要から現代の教育課題を理解する。

【授業計画】

参加者へレポートを課しながら講義を進めていく。
1）教育の近代化と「新教育運動」の展開
2）第二次世界大戦後の教育改革と脱学校論
3）近代欧米教育文化と近代日本教育文化との関連と課題
4）「発展途上国」の教育と文化：識字運動を中心に
5）地域・学校・企業が連携した教育改革への取り組み

【評価方法】

授業での議論への参加貢献度。
学期末レポート。

【テキスト】

資料配布。

【参考文献・資料】

教育への問い（天野郁夫編　東京大学出版会）
比較教育学（マーク・ブレイ編著　東信堂）

国際社会特別講義 V（比較近代化論）

西尾林太郎

【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日三国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、“アジア的国家”と西欧近代国家との比較も試みたい。

【授業の目標】

東アジア近代史を踏まえつつ、比較政治の視点を習得する。

【授業計画】

初回に方法論について述べ、以下、次のように順を追って講義する。
1　近代化論から見た近代アジアの歴史
2　伝統的東アジアの国際秩序と西洋の国際法秩序
3　科挙官僚制と中国の近代化
4　両班（ヤンバン）と李氏朝鮮の近代化
5　徳川幕藩体制と日本の近代化
6　“アジア的国家”とは何か？
7　イギリス、ドイツにおける立憲国家の成立とその展開
8　ヨーロッパにおける立憲国家とアジアにおける立憲国家
9　まとめ―日本、中国、韓国の近代の体験と現代政治―

【評価方法】

レポート（テーマについては７月上旬に発表する）と出席状況を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考文献・資料】

その都度、紹介する。

国際社会特別講義 VI（比較エスニシティ論）

藤井真湖

【授業の概要】
「エスニック・グループ」は「民族集団」、「エスニシティ」は「民族性」とそれぞれ訳されることが多い。だが、本講義では、この訳語を採用せず「エスニック・グループ」、「エスニシティ」のまま用いる。なぜなら、近年「エスニシティ」と呼ばれるようになった学問領域における議論は、「民族集団」や「民族性」といった訳語から想起される既知の語感では捉えられない現実的且つ理論的枠組みをもちつつあると認識せざるをえないからである。本講義ではエスニシティ論関係の基本文献をとおして民族にかかわる諸現象を読み解くためには基本的にどのような視点が要されるのかを考える。

【授業の目標】
エスニシティに関する基本的文献を精読することによりエスニシティ論の輪郭を知るとともに、民族にかかわる諸現象に対する柔軟な視線を養う。

【授業計画】
エスニシティ論関係の基本文献を読みつつ、それぞれの要点を整理していく。

【評価方法】
平常の授業態度と、期末試験代わりのレポートにより判断する。

【テキスト】
適宜配布する。

【参考文献・資料】
『「エスニックとは何か」―エスニシティ基本論文選』　青柳まちこ編・監訳　新泉社
『ネイションとエスニシティ―歴史社会学的考察』アントニー・D・スミス著　名古屋大学出版会

メディアプロデュース特別講義Ⅰ（メディア分析論）

石田米和

【授業の概要】
多様化するメディアを、コミュニケーション過程とイメージ・意識の形成・普及過程の視点から捉え直し、社会的影響力を強めつつあるメディアの位置づけ、メディアのあるべき姿およびメディア・リテラシー等について議論する。
主な内容は以下の通り。
1．メディアの動向と背景
2．メディアの機能と影響
3．映像化の推移と問題点
4．メディア戦略の実態とリアリティ
5．メディアと社会構想、他

【授業の目標】
1．コミュニケーション論、記号論等の基礎を学習・研究し、社会・自然環境までを視野に入れた広義のメディアを検討すること。
2．インターネット上の意見交換や世論形成と社会構造との係わりについて学習・研究すること。

【授業計画】
1．テーマの視点、研究枠組み、研究方法等の検討
2．各種統計資料、意識調査等を用いた、生活、産業等におけるメディアの浸透（普及と利用）度合いと社会経済的背景との関連性、問題点等の分析
3．映像を中心としたコンテンツ分析による、発信者側の意図・目的等の把握
4．世論および社会イメージ形成とメディアとの関連性の検討

【評価方法】
レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業内で適宜紹介する。

メディアプロデュース特別講義Ⅱ（情報科学論）

親松和浩

【授業の概要】
マルチメディアの原理と応用について"ユーザーの立場から"考察する。また、マルチメディアと基礎科学との関係についても検証し、夢の技術として基礎研究段階にある量子コンピュータ等の紹介も行う。

【授業の目標】
マルチメディア検定２級程度の知識を習得し、マルチメディアと基礎科学との関係を理解する。

【授業計画】
1）マルチメディア情報とは
2）マルチメディア情報の処理技術
3）マルチメディア情報システムと通信技術
4）マルチメディアの応用と将来

【評価方法】
出席状況と、報告レポート等で評価する。

【テキスト】
授業開始時に指示する

メディアプロデュース特別講義Ⅲ（レトリック批評論）

五島幸一

【授業の概要】
レトリック批評とメディア研究との関わりあいについて考察する。とくにメディアを媒介としたメッセージを分析することにより、レトリック批評の理論的枠組を明らかにし、そのメディア分析の有効性について論じる。
レトリック批評理論に関する論文を講読し、その理論的枠組を考察する。また、メッセージ分析に関する実践的研究について考察し、その特質について検討する。

【授業の目標】
レトリック批評理論に関する論文を講読し、その理論的枠組を考察する。また、メッセージ分析に関する実践的研究について考察し、その特質について検討する。

【授業計画】
1）レトリックとは
2）レトリック批評理論
3）スピーチの分析
4）非言語の分析（政治漫画、広告など）

【評価方法】
授業への参加度、および学期末に提出する研究論文にて評価する。

【テキスト】
別途指示する。

【参考文献・資料】
「異文化を読む」（岡部朗一　南雲堂）

メディアプロデュース特別講義 Ⅳ（番組開発論）

大西 誠

【授業の概要】
デジタルメディア社会をむかえ、メディアの教育性が注目されている。いわゆる教材・教具から映像をベースにした番組やインターネットまで幅広いメディアの教育利用が求められている。メディアの成り立ちや歴史的発展とともにメディアの教育利用について理論と実習を通じて明らかにする。

【授業の目標】
様々な放送番組を通じて、映像メディアの教育性を理解する。映像表現の制作過程を理解するとともに実際にビデオ制作を体験する。受講者同士でメディアの送り手、受け手の関係を討議することを通じて、メディアリテラシーを深く理解し、市民社会で役立てる能力を身につける。

【授業計画】
近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材（ロケ）映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られていくのか。また、それらを効果的に組み合わせて市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。
本講では、教育メディアの歴史と理論を学ぶとともに、情報化社会におけるメディアのあり方や教育とのかかわりを、実際に放送された教育・教養番組の内容を分析し、番組を試作したい。
・教育番組の制作過程
・「日本賞」教育番組国際コンクール
・ドキュメンタリー番組の検討
・スタジオ番組の制作（実習）
　など

【評価方法】
受講態度、グループワークへの参加、作品などを総合的に評価する。

【テキスト】
特になし

都市環境デザイン特別講義 Ⅰ（建築論）

垂井洋蔵

【授業の概要】
近・現代の建築作品、建築批評、建築家の思潮や理論を紹介し、建築論の基礎を学ぶ。

【授業の目標】
建築理解のための理論的思考方法を身につける。

【授業計画】
Perspecta（イェール大学建築ジャーナル）にとりあげられた建築評論や論文を時代を追っていくつか紹介しディスカッションを通して建築解釈の理論的手法を解説する。
建築諸理論に影響を与えた記号論的解釈について学ぶ。

【評価方法】
講義への参加態度、最終的なレポートで評価します。

【テキスト】
論文のコピー（英文）を講義中に配布します。

【参考文献・資料】
講義の中で紹介します。

都市環境デザイン特別講義 Ⅱ（建築保存再生論）

河辺泰宏

【授業の概要】
文化遺産に対する保存概念の移り変わりについて、ルネサンスの芸術家達が古代遺産の研究を始めてから近現代において文化財修復思想が確立されていくまで、過去に対する歴史観の変遷に照らし合わせながら論じていく。また、西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産の現状について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法についても論じる。

【授業の目標】
人類の文化遺産を護ることの意義について認識し、歴史的遺産に対する保存概念の確立に様々な経緯があったことを理解する。また、事例研究を通じて保存現場の実状を実感すること。

【授業計画】
授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。講義の主なポイントは以下の通り。
1）破壊との闘い
　文化財が破壊される原因と遺される理由
　人類の蛮行と遺産保護への執念
　遺産保護に従事する人々
2）変りゆく保存の概念
　ルネサンス芸術家達の歴史意識
　古典主義時代の考古学的成果
　文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
3）開発・建設の時代から維持・再生の時代へ
　建築におけるサステイナビリティ
　20世紀型開発から21世紀型開発へ
4）文化財保存の論理
　日本と西洋における文化財保護の歴史と事例研究
5）町並み保存の論理と事例研究
　日本における町並み保存の歴史と事例研究
6）近代建築保存の論理
　近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史と事例研究

【評価方法】
事例研究のレポートと出席による。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
適宜、プリントを配布する。

都市環境デザイン特別講義 Ⅳ（都市空間デザイン論）

日色真帆

【授業の概要】
望ましい都市空間のデザインを、多様な社会、文化、芸術的文脈の中で実現してゆく方法を学ぶ。特に、外であり中である、閉じていて開かれている、などのように両義的性格をもつ空間に焦点をあてる。

【授業の目標】
都市空間のデザインの多面性を理解し、様々な理論や方法を具体的な提案の場において利用できるよう習得する。

【授業計画】
・両義的空間のデザインという視点から、様々なデザイン分野の比較分析。
・居住環境の様々なデザイン手法の学習。
・都市における「囲まれた空間」の意味や効果を多面的に考察する。

【評価方法】
分析レポートとプレゼンテーションによって評価する。

【テキスト】
特になし。

都市環境デザイン特別講義 V（コンクリート系構造論）

岡本晴彦

【授業の概要】
卓越した建築構造技術を駆使することにより、建築計画の自由度を高めるとともに、新たな価値を建築物に与えることが可能となる。
この観点から、鉄筋コンクリート構造、プレストレストコンクリート構造並びに鋼・コンクリート合成構造（コンクリート系構造）に関する最新の研究成果の効果的適用方法について述べる。
特に、建築造形と構造技術の関係、地球環境保護に関する事項並びに長スパン構造に重点を置く。
基礎的原理を解説し、具体例も紹介する。

【授業の目標】
建築構造技術の建築全体計画への生かし方について積極的な考え方を身につける。さらに、今後の建築構造に関する研究成果の発展についても各自の立場から調査を継続することができる能力を習得する。

【授業計画】
次の項目に関して講義を行う。併せて、担当者を決め、担当者が既往関連文献調査結果について発表を行う。
・建築計画の自由度を高めるための具体的構造技術
・プレストレストコンクリートの原理と応用法
・建築構造の長寿命化に関する考え方と方法
・プレキャストコンクリート構造における構造原理と応用法
・常時荷重下における時間依存変形の制御方法

【評価方法】
分担した文献調査結果の発表内容並びに課題に関するレポートを総合して評価する。

【テキスト】
授業において指定するとともに、各種文献を配布する。

【参考文献・資料】
授業において紹介する。

都市環境デザイン特別講義 VI（建築空間デザイン論）

清水裕二

【授業の概要】
建築デザインは多くのパラメーターをコントロールする極めて複雑な問題機制である。事例研究を通じて、パラメーターを整理した上で建築のデザインを分析的に捉え、評価することを試み、さらに様々な設計条件においてそれがどのように応用され得るのかを探る。

【授業の目標】
建築のデザインを様々な視点から捉え、分析することから、建築の持つ可能性を論じ、実践的な空間設計へと繋げてゆくことを目指す。

【授業計画】
建築作品の事例研究において様々な切り口で建築を読み解き、そこから他のケースへの応用を検討する。視点としては以下のような切り口が考えられる。

1.テクノロジー
・構造
・素材
・数学

2.表象
・メタファー
・歴史
・文化

3.環境
・気候
・地形
・都市

【評価方法】
課題レポートおよびプレゼンテーション、授業態度等によって総合的に評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業内で適宜紹介する。

都市環境デザイン特別講義 VII（都市・建築環境論）

齋藤基之

【授業の概要】
建築は、我々の日常生活を支える主要な要素の１つであり、快適で豊かな生活空間を形成するために欠かせない存在である。その一方で、建築産業分野が消費するエネルギーは、日本における全エネルギー消費量の約1/3を占めている。地球環境問題の叫ばれる今日、建築の分野にはこれまで以上に環境に配慮した設計・技術が求められる。
この授業では、建築分野で現在とられている環境対策やデザイン手法について、実例を踏まえながら学ぶことを目的とする。

【授業の目標】
建築産業が地球環境に及ぼす影響と責任の大きさを理解し、今後の都市・建築デザインのあり方を考えるうえで必要な知識を習得する。

【授業計画】
受講者各自がテキストの担当部分を読み、関連する資料を収集したうえで、担当内容のプレゼンテーションをする。授業担当者は、受講者のプレゼンテーションを受け、補足説明等を行う。

【評価方法】
各自が担当した発表の内容、授業への参加状況などを総合して評価する。

【テキスト】
地球環境建築のすすめ（日本建築学会編　彰国社）

【参考文献・資料】
適宜指示する。

地域社会プロジェクト Ib

榊原國城

【授業の概要】
組織心理学およびコミュニティ心理学の研究を中心に、隣接する領域の心理学的研究の諸論文を精読し、その意義や問題点等について討論を行う。その際、研究の基本的な枠組みや科学的研究方法についての解説を行い、受講者の理解を深める。また、後半ではテーマごとに受講者に課題を与え、発表討議を行う。受講者は、積極的かつ主体的に討論に参加してほしい。論文の選択は当初担当者が行うが、演習を進めていく過程において、受講者の関心、理解度に応じて柔軟に変更を加えていきたい。

【授業の目標】
科学的研究論文の作成過程および基本事項の修得。

【授業計画】
1．講義：科学的研究のプロセス
2．参考文献の輪読
3．研究テーマの抽出
4．研究テーマ関連資料収集
5．資料分析と発表
6．講評

【評価方法】
授業中の発表内容および態度に基づいて評価する。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
授業中に提示または指示する。

地域社会プロジェクト IIa

竹村 弘

【授業の概要】
21世紀の情報化、国際化および環境・生活者優先の時代に向けて、それぞれの地域特性に則した地域づくりを研究する。

【授業の目標】
わが国の「経済計画」「国土計画」の計画と実績を理解した上で、直面している課題の対策を提言する。

【授業計画】
1．わが国の「経済計画」「国土計画」では、従来どのような課題が提示され、実際にどのような経済および国土が形成されてきたかを、調査・研究する。
2．わが国が現在直面している課題を、各自一つずつ選択して、その対策を実証的に研究する。
3．レポート集「21世紀日本経済の課題」を作成する。

【評価方法】
課題とレポート、および討論参加度。

【テキスト】
講義の中で提示する。

【参考文献・資料】
講義の際に配布する。

地域社会プロジェクト IIIa・b

谷沢 明

【授業の概要】
テーマは「歴史的文化遺産を活用した地域づくり」及び「伝統的民家の保存・再生・活用」。
河辺泰宏教授担当の都市環境デザインプロジェクトIVa・bと連携して実施する。

【授業の目標】
歴史的文化遺産を活かした「地域づくり」の在り方を理解するとともに、その応用として自らが取材して事例研究・報告を行う力を養うことを目標とする。
2009年度の実地調査（学外教育）は、中国の世界遺産である黄山（自然遺産）、宏村・西遊村（文化遺産）（夏休み・5泊6日）を計画している。
なお、第1次履修登録者４名未満の場合は実地調査の場所を国内に変更することがあり得る。

【授業計画】
1）プロジェクトの課題設定について討議を行い、現代的意義を見出す。
2）文献講読を通じプロジェクト実施上の知識の習得を行う。
3）「概要」に記したテーマに基づくフィールドワークを集中的に実施する。
　・調査方法（観察調査・インタビュー調査・文献調査）の指導。
　・フィールドワークは、主として（1）～（4）を視点として実施する。
　（1）風俗・習慣や精神生活の歴史を中心とする文化史的アプローチ
　（2）民衆の生活文化の歴史を解明する民俗学的アプローチ
　（3）地域社会の独自性、個性を明らかにする地域社会学的アプローチ
　（4）集落・地域社会の形態や変化の解明をめざす地理学的アプローチ
4）フィールドワークのデータ整理とその分析を行う。
5）フィールドワーク成果のプレゼンテーションを行う。
　・パワーポイントを作成し、成果発表会を行う。
備考：学外教育・フィールドワークを実施する（中国研修の実費約16万円を各自負担のこと）。調査地及び日程の詳細については履修登録時に掲示する。

【評価方法】
フィールドワーク成果のプレゼンテーションにより評価する。

【テキスト】
使用しません。

【参考文献・資料】
第１回目の授業で紹介します。

国際社会プロジェクト Ia・b

福澤直樹

【授業の概要】
工業化に関する理論を整理するとともに、これまでの歴史過程に現れた工業化の事例を取り上げ検討する。

【授業の目標】
工業化は現代の発展途上国が目標とするキィタームである。歴史過程に現われた様々な工業化と現代の工業化を理論的・実証的に検討する。

【授業計画】
1．工業化の理論
　A．ロストウ（W.W.Rostow）とガーシェンクロン（Alexander Gerschenkron）
　B．赤松要とヴァーノン（R.Vernon）
　C．フランク（G.Frank）とウォラーステイン（I.Wallerstein）
　D．これからの課題

2．工業化の歴史事例
（1）　イギリス産業革命
（2）　西ヨーロッパとUSA
（3）　ロシア、イタリア、日本

3．現代の工業化
（1）　経済開発の新視点（A．セン）
（2）　1970年初までの工業化
　A　社会主義工業化　B　第三世界の工業化
（3）　グローバリゼーションと工業化

4．現代の工業化の事例研究

以上の事項について、レクチャーと参加者の報告・討論を組合せる。

【評価方法】
授業への参加状況とレポートで評価する。

【参考文献・資料】
講義の際に適時指摘する。

国際社会プロジェクト IIa

渡辺かよ子

【授業の概要】
教育近代化の過程とその帰結としての今日の教育問題について、世界教育史上の人物の実践と思想の軌跡を手がかりに考察していく。彼らの思想がいかなるものであり、それがいかに今日の教育実践に繋がっているのかを探っていきたい。

【授業の目標】
近代教育思想の特徴をそれ以前の教育思想との比較から理解する。

【授業計画】
1．コメニウス「大教授学」
2．ロック「教育論」
3．ルソー「エミール」
4．ペスタロッチー「隠者の夕暮」
5．デューイ「学校と社会」「民主主義と教育」

【評価方法】
授業での発表とレポート。

【テキスト】
資料配布。

【参考文献・資料】
Perspectives on Learning (Phillips & Soltis著　Teachers College Press)

国際社会プロジェクト IIb

西尾林太郎

【授業の概要】

19世紀半ばから1930年代にかけて日本を訪れた外国人による回想録や日本に関する記録を丁寧に読む。オールコックら外交官、孫文ら政治家、ビゴー、アインシュタイン、B.タウトら学者・文化人、ベーブルースらスポーツマンがそれぞれ日本を訪れ、日本各地で多くの日本人と交流した。彼等は日本を訪れたそれぞれの時代において、日本人や日本の社会に対しどのように感じ、考えたであろうか。彼等が遺した記録や回想録からそれぞれの日本観や日本人観を抽出し、それを手がかりに近代化の進展にともなう国民生活の実相や日本社会の変化について考察してみたい。同時に、外国人の著作物や記録を通して、戦前期日本国内の動向を世界情勢と関連付けて考察したい。さらにこうして得られた知見を基に戦中・戦後の日本の社会や文化について検討する。なお、資料は随時配布する。

【授業の目標】

社会科学や人文科学の古典をじっくり読んで、近代日本の社会や政治・文化について考える。

【授業計画】

授業の流れは次の通りである。

1～2　：幕末から明治時代の日本の社会と文化
3～6　：幕末から明治時代に日本を訪れた外国人たち
7～8　：大正時代から昭和初年にかけての日本の社会と文化
9～11　：大正時代から昭和初年にかけて日本を訪れた外国人たち
12　：戦前の日本社会と戦後の日本社会
13　：「外国人が見た近代日本社会」というテーマでフリーディスカッション

【評価方法】

出席状況と授業での活躍を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜、配布する。

国際社会プロジェクト IIIa

清水 洋

【授業の概要】

英文資料（新聞・雑誌記事、学術論文等）を用いて、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・教育などの視点から多面的に考察し、討議を通じて知識を深める。

【授業の目標】

英文資料の読解を通じてアジア地域の諸相に関する専門知識を身につける。

【授業計画】

1．アジアの社会経済発展の背景についての分析・把握。
2．アジアにおける日本の影響とプレゼンスに関する英文資料の和訳・内容分析。
3．英文資料の効果的な活用法についての指導。
4．レポートの作成・発表・討議・講評。

【評価方法】

英文資料の読解力およびレポートで評価する。

【テキスト】

なし。適宜、プリント配布。

【参考文献・資料】

シンガポールの経済発展と日本（清水洋著　コモンズ）
Japan and Singapore: A Multidisciplinary Approach (Tsu Yun Hui 編著、McGraw-Hill Education).
その他、授業中に適宜指示する。

国際社会プロジェクト IIIb

秦 忠夫

【授業の概要】

世界経済の注目される動き、すなわち「活発化する自由貿易地域形成の動き」「中国経済の台頭」「増大する国際資本移動の功罪」などのテーマを、英文資料（新聞・雑誌、学術論文など）に基づき検討する。

【授業の目標】

国際経済・金融問題を英文資料を活用して研究する能力を鍛錬する。

【授業計画】

1．参考文献の輪読と討議。
2．テーマに関連した補足資料の収集・解析。
3．最終レポートの作成。

【評価方法】

授業への参加態度とレポートで評価。

【テキスト】

資料配布。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介する。

メディアプロデュースプロジェクト Ib

太田浩司

【授業の概要】

本プロジェクトでは人間のメディア使用とその心理を主題として扱う。特に、その原因と効果についてコミュニケーション学や社会心理学という視点からアプローチをする。人々がなぜ特定のメディアを使用するのか、また使用した結果どのような心理的な影響があるのかを文献を通して知識を深める。

【授業の目標】

この授業の目標はメディアの効果というマスコミュニケーション研究の古典的なパラダイムについてその理論と方法論について概観し実験を行うことにより映像が受け手側に及ぼす影響を理解を深めることである。

【授業計画】

学期の最初の講義で提示する。

【評価方法】

出席、口頭発表、学期末プロジェクト

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

メディアと暴力（佐々木輝美著　剄草書房）
メディアと人間の発達（坂元章編　学文社）

090864501_0320　掲載順 :0320　MASTER ★

メディアプロデュースプロジェクト IIa

大西 誠

【授業の概要】

映像メディアは、フィルム、ビデオ、デジタル画像といった収録媒体の特質を生かしつつニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、フィクションなどの形式で、情報・メッセージを伝えている。しかし単に、表現されたものを表面的に捉えただけでは、メディアの本質が見えてこない。本講はメディア理論の展開をたどるとともに、メディア表現について、映画、写真などの映像分析の手法を学ぶ。あわせてメディアが大きな役割を果たしている情報社会のシステムについても考察する。

【授業の目標】

メディアの理論を歴史的に振り返りながら、メディアが社会的に編制されていった経緯を理解する。さまざまな「メディア論」の現代社会への適応を検討し、調査、研究方法を身につける。またメディア表現の分析手法の理論を学び、実践を通じて、具体的な知識を得る。

【授業計画】

19世紀以降のメディア史や理論の系譜に目を向けつつ、現代社会とメディアの関係を以下のような観点から考察する。

・マクルーハンの理論
・カルチュラルスタディーズの展開
・メディアの記号論的分析
・マスメディアの現状と課題

【評価方法】

発表と課題レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

別途、指示する

【参考文献・資料】

「メディア論」(M.マクルーハン　みすず書房)

090864501_0330　掲載順 :0330　MASTER ★

メディアプロデュースプロジェクト IIb

石田米和

【授業の概要】

大量に生産され流通する、画像を中心とした様々な形態の情報内容（コンテンツ）の多面的な分析を通して、主に以下の点を論議していく。

1．観察可能な情報内容や社会的事象の、意味論的・記号論的・認知理論的分析の方法論・手法の検討と応用
2．情報内容と表現方法、それらと社会的文化的文脈との関連性
3．双方向性とネットワーク化による意識・感覚の共有、暗黙知の形成
4．メディア文化のパラダイム、その他

【授業の目標】

記号論などを中心とした分析手法を、それらの有効性・問題点などの学習・研究、受講生各人のテーマによるプレゼンテーションや論議を通して理解すること。

【授業計画】

1．記号論や認知科学等によるコンテンツ分析の方法論の検討
2．多様な表現形態のコンテンツの、意味論的記号論的分析
3．社会的分化的文脈と社会的認知のギャップ（屈折）との関連性の検討
4．ネットワーク系メディアと世論・共通意識等の形成との関連性の検討

【評価方法】

・レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

090864501_0340　掲載順 :0340　MASTER ★

メディアプロデュースプロジェクト IIIa

親松和浩

【授業の概要】

情報メディアやロボットなどの先端技術の可能性に関して、受講者が選定する特定のテーマについて議論する。テーマにはシステムの設計/試作や、作品の試作も含める。

【授業の目標】

情報メディア技術に関する基礎知識と技能を習得する。

【授業計画】

受講者は各自の興味に従ってテーマを選定し、受講者による調査報告を中心に進める。過去にこのプロジェクトで扱ったテーマには、Webサイト作成例とその技術的課題、クレイアニメーションの試作、立体視の原理と応用、コンピュータ言語Squeak、Scratchを使った簡単なゲームの試作などがある。

1．文献・資料調査に基づくテーマの設定、把握を行う
2．データ収集、システム構築、問題解析等を試みる
3．成果報告の資料作成とプレゼンテーション

【評価方法】

出席状況と、報告レポート等で評価する。

090864501_0350　掲載順 :0350　MASTER ★

メディアプロデュースプロジェクト IIIb

五島幸一

【授業の概要】

メディアから出てくる情報には受け手を説得しようとする戦略が組み込まれている。そこで、受講生が選定する特定のテーマについて、コミュニケーション学またはレトリック批評の観点から議論する。

受講生は具体的なケースをもとに分析をおこない、コミュニケーション上の特徴を実際に調べていく。

【授業の目標】

コミュニケーションの観点からの分析の仕方を学び、受講生が取り組んでいる様々なケースにどのように援用するのかを理解すること。

【授業計画】

問題設定とその解決策をグループによる検討を中心に進める。

【評価方法】

授業への参加度およびレポートにて評価する。

【テキスト】

別途指示する。

都市環境デザインプロジェクト IIa

齋藤基之

【授業の概要】

建築の持つ主要な役割の一つに、熱・光・音・空気といった物理環境の調整が挙げられる。また、これをデザインするためには、建築物周辺や都市環境の実情を知ることも重要である。文献講読や各種調査・データ解析・空間設計等により、都市・建築の物理環境の現状を把握するとともに、その問題点や改善策、デザインへの応用方法について検討する。

【授業の目標】

各種調査やデータ解析、設計等を体験することにより、実際の建築・都市のデザインに応用可能な知識や技術の習得を目指す。

【授業計画】

過去の授業内容は以下の通りである。

2007年度：喫煙ブースを持つカフェの設計
2005年度：キャンパス内気流分布の測定と解析

2009年度は、カメラを用いた光環境の記述(写真撮影)を予定している。

・写真撮影に関する基礎的な知識や技術の概説
・実在の都市空間を対象とした写真撮影
・建築模型を対象とした写真撮影およびライティング
・受講者相互による写真のセレクト
・セレクトした写真を用いた、空間のプレゼンテーション
・最終レポートの作成

【評価方法】

プロジェクトへの参加状況と提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

都市環境デザインプロジェクト IIb

清水裕二

【授業の概要】

建築・都市のデザインはきわめて高い社会性を求められる行為であるといえる。この授業では、現代社会に存在する建築・都市に関する現実的課題について調査（フィールドワークを含む）・分析を行い、それに対し単なる机上の空論でなく、社会へコミットするような実践的提案を行うことを目標とする。最終的には実際の社会的実践・活動へと接続することが望まれる。

【授業の目標】

現代的な課題について、ある程度テーマを絞り込んだ上で深く掘り下げる調査・分析を行い、具体性をもった提案を目指す。

【授業計画】

課題の設定、調査・分析、提案のまとめ方などについて学生と議論を重ね、助言を行いながら進めてゆく。

【評価方法】

プロジェクトへの参加の姿勢、調査・分析の過程、レポートなどの成果物、社会的実践・活動の様子などにより総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

都市環境デザインプロジェクト IVa・b

河辺泰宏

【授業の概要】

文献講読やフィールドワーク等を通じて、歴史的建造物や伝統的町並みの保存と再生に関して体験的に学ぶことを目的とする。
（授業は谷澤明教授担当の「地域社会プロジェクトIII」と連携して行う。）

【授業の目標】

歴史的遺産の保存・再生について事例研究を通じてその実態を把握すること。

【授業計画】

1）参考文献の輪読。
2）フィールドワークの実施とその成果発表。
3）映像資料の視聴と討論。

フィールドワークにおいては、文献に記載された事例を訪ねたり、その他の事例を探して手分けして調査を行い、レポートを作成する。フィールドワークの対象は、年度ごとに適宜決めるが、国内のみならず海外へ足を延ばすこともある。その行く先は、掲示にて知らせる。

【評価方法】

出席とレポート発表による。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

適宜、資料を配布する。

地域社会特別研究　M I-09 a・b

辻 紘良

【授業の概要】

情報や通信技術の進展を背景にITS＊と呼ばれる新しい交通に関する情報通信ネットワークの開発が急速に進められている。ここでは、現在この分野で注目されている中心的なテーマや技術開発動向を取り上げ、地域交通への展開をはかり、テーマを設定すると共に実験・分析を行い、問題の解決方法を提案する。また、ネット通信機能を利用した実験システムを構築し可能性を評価する。

これにより、地域交通の今日的な問題に関し、交通の情報化の視点から将来の地域づくりの在り方にについて方策を提言し、その効果を明らかにする。

＊ITS=Intelligent Transport Systems （高度道路交通システム）

【授業の目標】

1．車や、歩行者の交通実態を把握するとともに問題点や課題を抽出する能力を高める。
2．ITSなど交通情報化による問題解決策を提案し、システム開発研究を行う能力を養成する。

【授業計画】

（1）ITSの地区や歩行者交通への展開をはかり研究テーマを設定する。
（2）実験計画作成や実験環境を整備し実験を行い、データを収集する。
（3）データを解析し研究成果を得るとともに、システムを構築する。
（4）地域づくりのシステム提案を行い、問題解決の方策を提言する。
（個別テーマの例）
1．車いすの経路誘導システム　ーバリアフリー・カラーデザイン
2．コミュニティカー・システム

【評価方法】

研究計画や研究進捗状況および論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Proceedings of 15th World Congress on Intelligent Transport Systems (ITS08)、他

地域社会特別研究　M II-09 a ・ b

竹村 弘

【授業の概要】
わが国経済社会は、「平成の10年代不況」から「2000年デフレ」へと未曾有の長期不況が継続する中で、行財政改革・金融改革・少子高齢化・地球環境問題など歴史的な大変革に直面している。日本経済・地域開発を中心に諸課題を幅広く取り上げ、実証的に研究する。

【授業の目標】
院生各自の研究の進捗と修士論文の完成。

【授業計画】
院生が主体的に作成した論文作成スケジュールを基に、研究進捗度に応じた助言と指導を行う。

【評価方法】
研究への取り組み姿勢と研究の進捗度。

【テキスト】
必要に応じて個別に使用する。

地域社会特別研究　M III-09 a ・ b

谷沢 明

【授業の概要】
地域文化の継承に関わる諸問題を取りあげ、その調査分析手法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。フィールドワークを中心とした地域研究を志向し、既往研究を踏まえて独創的調査研究を目指す人を対象とする。専門領域は、地域文化論・民俗学・民俗建築学。

【授業の目標】
フィールドワークを中心とした地域研究に基づき、既往研究の整理・独創的な調査研究・論文作成の総合的なプロセスを習得することを目標とする。

【授業計画】
1）調査研究の目的及び社会的意義についての検討。
・調査・研究者の基本的姿勢と、調査研究に参画する自覚を喚起する
2）テーマ「地域文化の継承に関わる諸問題」に関する知識の習得。
・既往研究の整理
・関連文献の購読
（地域文化論、文化史、民俗学、民具学、生活学、建築学、歴史地理学）
・調査及び分析方法に関わる知識の習得
3）フィールドワークを中心とした地域研究を実施。
・調査地における基本的データの収集
・調査地における文献調査の手法
・調査地における観察調査の手法
・調査地における聞き取り調査の手法
4）既往研究を踏まえた独創的調査研究。
・調査データの整理・分類
・調査データの比較検討・解析
5）論文作成指導。
・調査研究成果のまとめ方についての指導

【評価方法】
平生の調査研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】
使用しません。

【参考文献・資料】
授業で必要に応じて紹介します。

地域社会特別研究　M IV-09 a ・ b

榊原國城

【授業の概要】
この授業の主題は、学生自身の個人研究活動を通じて判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけ、研究能力を高めることにある。
受講学生は、産業・組織心理学を専門領域とする担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用することによって実証していくという研究活動を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

【授業の目標】
修士論文の完成。

【授業計画】
1．文献・資料調査に基づく研究テーマの設定
2．研究方法の検討
3．データの収集
4．データの解析および考察
5．論文完成に向けての指導

【評価方法】
修士論文の内容によって評価する。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
授業中に提示または指示する。

地域社会特別研究　M V-09 a ・ b

石田好江

【授業の概要】
消費、家族、労働、地域福祉などライフスタイルに関するテーマを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、受講学生の研究と論文作成に対する個別的な指導を行う。

【授業の目標】
自らの研究課題を発見し、当該分野の知識情報の収集及びテーマへの考察によって修士論文を作成する。また、そのことを通じて研究能力を高める。

【授業計画】
1）研究テーマの設定
2）研究方法の検討と確定
3）文献・資料の収集
4）先行研究の検討
5）論文の構成・内容の検討
上記の作業を通じて論文作成に向けて個別指導を行う。

【評価方法】
研究への取り組み姿勢及び研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
指導上の必要に応じて適宜紹介する。

国際社会特別研究　M II-09 a ・ b

秦 忠夫

【授業の概要】
国際経済・金融問題を採り上げ、研究の方法を教授するとともに、個々の学生の研究に対する助言を行い論文作成を指導する。

【授業の目標】
適切な研究テーマの設定、前広な資料収集ならびに時間的な余裕を持った論文作成。

【授業計画】
1．文献・資料調査に基づく研究テーマの設定、研究方法の把握。
2．データ収集、分析、討議を通じて独自の研究成果を得るよう指導。
3．論文の完成を指導。

【評価方法】
参加状況と研究の進展状況で評価する。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
適宜紹介する。

国際社会特別研究　M III-09 a ・ b

清水 洋

【授業の概要】
授業担当者の専門領域はアジア経済論、日本・アジア経済関係史、および国際労働移動論である。院生が選定した研究テーマを取り上げ、討議を通じて基礎理論の充実と進化をはかり、分析の方法を教示し、論文作成の指導をする。また、統計資料の読み方、英文資料の使い方、インターネットを通じての資料収集の方法、その他基礎的な研究技法を適宜教示する。

【授業の目標】
２年間で修士論文を完成させる。

【授業計画】
1．基礎理論と研究方法の把握、研究テーマの設定。
2．研究テーマに関する資料・文献の収集と分析。
3．研究成果の発表・討議・講評。
4．論文作成のための個別指導。

【評価方法】
中間報告および論文で評価する。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
必要に応じて適宜指示する。

国際社会特別研究　M IV-09 a ・ b

渡辺かよ子

【授業の概要】
教育に関する各自の修士論文の完成に向けた指導を行う。各自の研究テーマに応じた研究方法論、基礎理論の概観、資料収集の方法などについて個別指導と発表討論を並行して行っていく。

【授業の目標】
修士論文執筆に必要な当該分野の基礎知識と研究方法を習得する。

【授業計画】
1．研究方法論
2．研究テーマの重要性と先行研究の検討
3．論文の構想と構成
4．原稿執筆と内容検討

【評価方法】
中間報告と論文。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
その都度指示する。

国際社会特別研究　M V-09 a ・ b

西尾林太郎

【授業の概要】
広く東アジアと日本の近・現代史もしくは比較政治・比較社会論に関する修士論文作成のための基本文献の講読と論文作成の指導を行う。その文献は各自のテーマによって異なるので、個別に選定するが、前期はできるだけ最大公約数的な基本文献、例えばR.Dahl『POLYARCHY』や中村隆英『昭和史』、猪口孝『現代日本政治の基層』などを全員で読み、後期はグループ別又は個別に読んで行きたい。そして随時、修士論文の章または節にあたる部分あるいはそれらに関連するテーマについてレポートを作成し、報告をしてもらう。特に後期はレポート報告が中心となる。

【授業の目標】
各自の研究テーマを踏まえつつ、随時レポートを作成し、修士論文の基礎となる論文または修士論文を作成する。

【授業計画】
前期　a　アジアにおける「中華秩序」の崩壊、国民国家論
　　b　日本、朝鮮、中国における近代国家の形成と西洋の近代国家
　　c　国民国家論や東アジア・日本に関する基本文献講読
　　d　現代の東アジアの各地域に関するデータベース作成
後期　a　国民国家論や東アジア・日本に関する各自のテーマによる報告
　　b　国民国家論、東アジア・日本に関する修士論文の作成
　　c　修士論文のチェック

【評価方法】
提出を求めるレポートや論文で評価する

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
各自に必要な文献や資料について随時、指示する。

国際社会特別研究　M VI-09 a・b

藤井真湖

【授業の概要】
今日、モンゴル系民族は、独立国のモンゴル国だけでなく、中国の内蒙古自治区、新疆ウイグル自治区、青海・甘粛省等々、またロシアのブリヤート共和国、カルムイク共和国等々に居住している。本講義においては、エスニシティ論の各論としてモンゴル系民族をとりあげ、彼らのエスニシティの形成プロセスを歴史的にたどり、今日彼らの置かれた政治的状況の把握に努める。とくに、彼らの民族的アイデンティティの書ともなったモンゴル人の古事記とも言うべき『元朝秘史』の果たした役割を考える。

【授業の目標】
エスニシティ論の議論のひとつに構築主義と近代主義とがあるが、両者はしばしば同一視されている。その内容を大胆に要約するならば、エスニックなるものは近代化過程のなかでつくられる、というものである。こうした構築主義と近代主義は過度に強調されると、前近代とのつながりを過小評価することにつながりかねない。本授業では、こうした視点にたち、モンゴル人のエスニシティを考察するうえで源流的な役割を果たした『元朝秘史』を対象として、そこにおけるモンゴル人の集団叙述のあり方をさぐる。
このように、本授業では、直接的にはエスニシティ論の各論としてモンゴルを取り上げモンゴル人のエスニックな意識の形成の諸相を理解することを目的とするが、受講生の研究対象地域における同様の文学作品にも同様の方法論を用いる試みもおこないたい。

【授業計画】
まずモンゴルの歴史をざっと概観したあと、『元朝秘史』を精読し、チンギス・カンの征服事業における軍事的動員とエスニックな意識の形成の関係を考える。そのうえで、受講生の研究対象地域における文学作品においても同様の方法論を応用して検討することを考えている。

【評価方法】
平常の授業態度と期末のレポート提出で判断する。

【テキスト】
適宜配布する。

【参考文献・資料】
『元朝秘史―チンギス＝ハン実録』岩村忍　中公新書
『元朝秘史』上下巻　小澤重男　岩波文庫
『チンギス・カン　”蒼き狼”の実像』白石典之　中公新書
『モンゴルが世界史を覆す』杉山正明　日経ビジネス文庫

メディアプロデュース特別研究　M II-09 a・b

親松和浩

【授業の概要】
情報メディア技術の可能性を探究する。携帯端末やパソコンのネットワーク利用を中心とするが、受講者の興味に応じて広い範囲からテーマを選定する。研究方法の教示と助言を行い、研究論文作成の指導を行う。研究テーマにはシステム設計/試作を行うものも含める。

【授業の目標】
情報メディア技術に関する基礎知識と技能を習得し、新しい技術のあり方を議論する力を養う。

【授業計画】
テーマごとの個別指導を行う。学部学生との連係も考慮に入れ、研究の進展の度合いに応じて各種学会での成果発表も視野に入れる。

1．文献・資料調査に基づく研究テーマの設定し研究方法を決定する
2．データ収集、システム構築、問題解析等によって独自の研究成果を得る
3．論文の完成に向けて指導する

【評価方法】
出席状況と、報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース特別研究　M III-09 a・b

五島幸一

【授業の概要】
メディアを媒介としたメッセージをレトリック批評の観点から取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的助言をおこない、論文作成を指導する。

【授業の目標】
レトリック批評について深く理解し、それを具体的な事象に援用することで、論文作成を目指す。

【授業計画】
研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

【評価方法】
論文の進捗状況によって評価する。

【テキスト】
とくになし。

メディアプロデュース特別研究　M IV-09 a・b

大西 誠

【授業の概要】
メディアは情報やメッセージを伝える媒体でありながら、メディアの形態そのものがメッセージを発信するというマクルーハンが指摘した現象が顕著になっている。理論のよりどころとなるアクチュアルな現実を直接経験することを重視しながら「現代」をプロデュースする感覚・感性を研ぎすます。さらに各自が研究テーマを発掘し、仮説を立て、調査、分析し、検証する。専門領域は「メディア教育」「情報メディア論」

【授業の目標】
個別指導により、以下の目標を達成する。
・個別の研究テーマを明らかにするとともに、各種文献を学びながら、リポート・論文の作成方法を身につける。
・研究テーマをいかに深化するか調査方法を検討するとともに、先行研究と比較しながら、独自の方法論を確立する。

【授業計画】
・各種論文の検討により、論文の記述を具体化する方策を探る。
・焦点化した調査、資料の収集。目標との関連性、仮説の設定あるいは企画立案など実証的アプローチを明確にし、計画を立て実践する。
・院生相互あるいは学部学生との連携などによって、論文あるいは制作の構成／内容を検討する。

【評価方法】
課題レポートなど

【テキスト】
特になし

【参考文献・資料】
「知のリテラシー　文化」（ナカニシヤ出版）

メディアプロデュース特別研究　M V-09 a・b

太田浩司

【授業の概要】
様々なコミュニケーションメディアを通して繰り広げられるグループ間、異文化間のコミュニケーションを研究する。インターネット、携帯電話などで繰り広げられるコミュニケーション上の問題を取り上げて分析し新しい理論展開を試みる訓練を行う。

【授業の目標】
メディアをコミュニケーションのコンテクストとして捉え、そこで行われているアイデンティティーの交渉プロセスとそれらに関する基本的理論について理解を深める。

【授業計画】
詳しい授業予定は学期の最初に説明する。

【評価方法】
学期末ペーパー

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する。

メディアプロデュース特別研究　M VI-09 a・b

石田米和

【授業の概要】
メディアのグローバル化を念頭に置き、認知科学および比較文化論等の視点から、特に映像メディアのコンテンツの普遍性等について、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

【授業の目標】
コミュニケーション、メディア等についての基礎知識や方法論を習得し、修士論文作成に繋げること。

【授業計画】
1．基本文献の購読による、メディア・コミュニケーションの研究方法、研究枠組み等の把握
2．修士論文のテーマの設定、データ収集・解析等の技法の習得
3．研究計画等の指導

【評価方法】
・レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】
未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】
授業内で適宜紹介する。

都市環境デザイン特別研究　M I-09 a・b

河辺泰宏

【授業の概要】
西洋建築の歴史と歴史的建造物の保存と再生を柱として、文献講読を中心に進める。とりわけ、建築の様式的変遷や文化財保存の概念が社会思潮の変化に連動していることを念頭に置いて、デザインの歴史が社会的基盤や技術発展の上に成り立っていることを意識させる。
授業は、参加者の興味と担当者の専門性を考慮して、適宜文献を選びながら進める予定である。また、本演習は修士論文の研究指導を兼ねているので、資料収集の方法や論文の読み方、書き方にも重点を置く。

【授業の目標】
文化財の保存と再生をテーマに事例研究を行い、最終的には論文としてまとめる。

【授業計画】
1）西洋建築史および歴史的建造物の保存と再生に関する論文や書籍を持ち寄り、その中から適切な主題をあつかったものを選び、読み合わせる。
2）読み合わせには、分担を決めてあらかじめ資料を用意し、理解の助けとする。
3）論文のまとめ方を指導する。

【評価方法】
論文の内容と調査研究の成果による。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
適宜、必要に応じて配布する。

都市環境デザイン特別研究　M III-09 a・b

日色真帆

【授業の概要】
建築や都市空間について、既になされたデザインについての分析と、新しいデザイン方法の開発を大きなテーマとして、学生がそれぞれにテーマを絞り込み研究をすすめるための指導をする。

【授業の目標】
実現可能な適切な研究テーマを設定し、着実に研究をすすめるための技術を学ぶ。

【授業計画】
個別指導。

【評価方法】
レポートによる評価。

【テキスト】
特になし。
なお、以下の本は論文をまとめる参考になる。文化系の人にも推薦できる。
理科系の作文技術（木下是雄　中公新書）
レポートの組み立て方（木下是雄　ちくま学芸文庫）

都市環境デザイン特別研究　M IV-09 a・b

垂井洋蔵

【授業の概要】
都市、建築にかかわる種種の事象や具体的な建築作品あるいは建築家を題材として、空間や場所に関わる現象、あるいは建築作品の制作に関わる諸思潮の理解と建築論的解釈をおこなう。題材とする事象は、学生の主体的な志向性に期待するがいくつかの例をあげれば、

1）歴史上あるいは現代の建築家を題材にその作品と思潮を解明する作家論
2）具体的な建築を題材にその成立、歴史的意味、空間の独自性等を論ずる作品論
3）建築作品や集落の空間構造、や諸要素の構成等を論ずる形態論
4）建築空間や場所に関わる儀礼や祭礼を題材にして建築的な現象を読み取る意味論

などが考えられる。

【授業の目標】
研究のテーマの発見と研究手法を学び論理的思考方法を身につける。

【授業計画】
テーマの選定への助言と、考察のための基礎となる方法論を提示する。個別に論文の進捗にあわせた指導を行い、前後期継続して、各個人のテーマに合わせ、修士論文として纏め上げるための助言を与える。

【評価方法】
視点の新しさ、推論の論理性、分析の正確さなどを総合的に評価する。

【テキスト】
適宜テーマに沿って参考文献を提示する。

【参考文献・資料】
増田友也著作集（増田友也著　ナカニシヤ出版）
建築的場所論の研究（前川道郎編　中央公論美術出版）

都市環境デザイン特別研究　M V-09 a・b

清水裕二

【授業の概要】
さしあたり、現代社会を読みとる切り口として建築・都市・環境といったフレームを設定する。建築・都市・環境は、社会的存在としての人間（=自分自身）を包含した問題系であることを意識すること。その中での自らの立ち位置を自覚し、主体的に関われるような研究・制作・活動を目指す。具体的な内容は未定であるが、例えば次のような基礎作業が考えられる。

・建築・都市・環境の事例研究
・建築論・都市論・環境論の文献購読
・実際の建築設計、街づくり、環境に関わる活動などに参加

こういった作業を経て、最終的には発展的な提言・提案をまとめ、レポート、模型、映像など様々なメディアを用いてプレゼンテーションを行う。

【授業の目標】
個人的な興味だけではなく、社会性をもったテーマを設定すること。また、提言・提案に関しても、現実的な視点からの検証を行う。

【授業計画】
学生個々のテーマに沿って個別に指導する。

【評価方法】
授業への参加の姿勢、調査・分析の過程、レポートなどの成果物などにより総合的に評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

都市環境デザイン特別研究　M VI-09 a・b

齋藤基之

【授業の概要】
都市空間および建築内部空間における熱・空気・光・音環境の快適性や省エネルギー、地球環境への配慮等を基礎的なテーマに置き、受講者各自が課題を設定して研究を行う。

【授業の目標】
論理的思考力と、それを整理しストーリーとしてまとめる能力、人に伝える（プレゼンテーション）能力のさらなる向上を図り、修士論文としてまとめる。

【授業計画】
研究課題の設定、研究計画および調査実施の手法、調査結果の解析手法、論文執筆方法などについて個別に指導する。
なお、研究成果は、各種学会等で発表することを視野に入れる。

【評価方法】
各自の研究への取り組み状況、得られた成果の水準や独自性を評価の対象とする。

【テキスト】
特になし。

都市環境デザイン特別研究　M VII-09 a・b

岡本晴彦

【授業の概要】
建築構造の性能に対して社会は何を必要としているかを研究の基盤とする。その観点から性能評価型構造設計法の推進に貢献することのできる課題についての研究を行う。

【授業の目標】
取り上げた課題について既往関連研究成果を把握し、問題点が何かを明確にする。次に実験と数値解析により新たな知見を求め、これらを論文としてまとめる。

【授業計画】
・鉄筋コンクリート構造とプレストレストコンクリート構造の常時荷重並びに地震荷重に対する力学挙動についての既往文献調査を性能評価型構造設計法推進の観点から行う。
・現在における問題点を整理し、重要課題を抽出する。
・具体的研究課題を設定する。
・課題遂行のためにはどのような方法を採用すればよいかを考察する。
・必要となる数値解析と実験を行う。
・新たに明らかとなった事項をまとめる。

【評価方法】
論文作成過程に行った内容と論文の成果により評価する。

【テキスト】
指導時に適宜、配布する。

【参考文献・資料】
指導時に紹介する。

主題講義 I

大西 誠　五島幸一

【授業の概要】
新聞、テレビ、雑誌などのマスメディアを中心に、メディアが果たす役割について検討する。ジャーナリズムとしての機能、エディターシップ、ニュースネットワークなどの事項を視座の中心として、現代社会におけるメディアの関わり合いを考察する。

【授業の目標】
マスメディアが、何を、どのように報道するかを検証することによって、私たちが日々受け取る情報に惑わされることなく、正確に読み取る能力を高める。

【授業計画】
数人の講師による講義と、実際のメディア報道の分析を行う。

【評価方法】
出席状況、授業への参加度、およびレポートにより評価する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
適宜指示する

国際理解教育 I

植村広美

【授業の概要】
開国の実現によって鎖国時代の閉鎖社会から、急速かつ広範な外国文明の積極的な受容社会への変換によって、近代日本の発展がはじまった。
幕末から明治維新にかけて、西洋の進んだ技術文明がどのような教育的経路をたどって日本に導入されたかを学習する。

【授業の目標】
日本の教育の近代化と国際理解について、理解すること。(詳細は授業にて説明する。)

【授業計画】
1．幕府の近代化政策と日本の近代化に及ぼした教育的効果
　（1）近代化への萌芽過程
　（2）幕府の海外使節団派遣
　（3）海外への留学生派遣
　（4）洋学の摂取
2．明治新政府発足と外国文明の積極的な受容のための教育政策
　（1）海外視察団の派遣
　（2）明治初期の外国語教育
　（3）明治期の海外留学制度の整備

【評価方法】
出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
授業中に紹介する。

主題講義 III

辻 紘良

【授業の概要】
昨今、ユビキタス新時代といわれ、どこでも手軽に利用できる通信技術の進展を背景に、社会生活のいろいろな場面でシステムが導入され活用され始めている。ここでは、このような時代において、まず技術的な視点から現在に至ったその経緯を把握するとともに今後の動向について展望を得るものとする。ついで、システム普及の現状を把握するとともに、社会へ及ぼす影響や問題点を明らかにする。また、今後の動向についてその展望を得るものとする。

【授業の目標】
ユビキタス新時代における情報通信技術の進展やシステム導入の現状、および社会へ与える影響や問題点を理解するとともに、今後のユビキタス社会について展望を得る。

【授業計画】
1．学識経験者および専門家によるユビキタス概観
（1）ユビキタス情報通信技術のこれまでの発展の経緯ならびに今後の動向
　（局地通信、無線LAN、ICタグ、ケイタイなど）
（2）国のIT政策
　（IT基本法、e-Japan戦略I・II、IT新改革戦略）
（3）国内におけるユビキタスシステムの研究・開発とシステム普及の現状
　（インスパイアー型システム、CO2削減システム、自立支援プロジェクト）
2．ユビキタスシステムの応用に関する討議、提案
　地域開発（町おこし）、バリアフリー化等への応用システムの提案、討議
3．Technical Tour
　（交通企業、自治体、研究所などを対象に視察予定）

【評価方法】
出席状況、発表・討議やレポート提出状況により評価する。

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
平成20年度版情報通信白書、総務省、2008年
「ユビキタスの基礎技術」、篠原正典他
「ユビキタスとは何か　ー情報・技術・人間」、坂村健

090865002_0010　掲載順 :0010　MASTER ★

地域社会プロジェクト IIb

辻 紘良

【授業の概要】
情報化、および環境・生活優先の時代に向けて、それぞれの地域特性に則した地域交通のビジョンを研究する。
ここでは情報通信ネットワーク技術の進歩を背景に昨今進展の著しいITS（Intelligent Transport Systems = 高度道路交通システム）を中心に取り上げ、地域やまちづくりの観点から新しいITSシステムの提案と可能性の評価を行う。

【授業の目標】
ITSを取り入れた地域交通システムを対象に、調査・分析し、システム案を構築することを通して、研究のプロセスを理解し、総合的な研究能力を高める。

【授業計画】
地域交通の問題点や課題を抽出するとともに、地域に相応しいITSを取り入れた交通システムを提案し、その可能性と効果を考察する。
（1）地域の街区形成と車や歩行者の交通流動との関連について分析を行い、問題点や課題を把握する。
（2）地域の交通施策の現況を把握するとともに、今後の地域やまちづくりに関する交通施設整備の在り方を考察する。
（3）地域や街づくりに関する国内外ITSの技術や普及の現状を調査する。
（4）上記課題を解決するためにITSを活用した新しいシステムを提案する。
（5）概要設計を行うとともに、システム導入の可能性について評価する。
（6）システム例として、インターネットITSに基づく「コミュニティボランティアカーシステム」の提案などを参考とする。

【評価方法】
課題の提出や発表内容の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
Proceedings of 15th World Congress on Intelligent Transport Systems (ITS08)、他

090865002_0030　掲載順 :0030　MASTER ★

都市環境デザインプロジェクト Ia

日色真帆

【授業の概要】
都市環境をわかりやすく魅力あるものとする方策を、空間認知研究の成果をふまえて具体的に探る。名古屋の中の複雑な都市空間を対象とし、調査と分析を行い、さらにデザイン的な提案をまとめ、プレゼンテーションをまとめる。一連のプロセスを経験することで、都市環境の改善活動について具体的に学習する。

【授業の目標】
具体的な対象に対して、調査分析から提案をまとめあげる技術を習得する。

【授業計画】
・都市環境を対象とした空間認知についての講義。
・複雑な都市空間についての事例収集。
・都市空間のデザイン手法についての学習。
・対象とする都市空間の調査と資料収集。
・分析結果の中間発表と教員による講評。
・環境改善についての提案の作成。
・プレゼンテーション手法についての学習。
・プレゼンテーションの作成。
・最終講評会におけるプレゼンテーションと講評。
※対象とする都市空間は授業の中で発表する。

【評価方法】
提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】
特になし。

090865002_0040　掲載順 :0040　MASTER ★

都市環境デザインプロジェクト Ib

垂井洋蔵

【授業の概要】
建築デザインを視覚的要素の面から捉え、我々は建築をどのように見ているのかを探る。視覚的存在としての建築作品は様々な、記号的情報を発信している。それらの分析と効果を知る。

【授業の目標】
建築デザインの手法の習得

【授業計画】
1）様々な建築作品を撮影した写真を視覚的資料として整理する。
2）それらをもとに、建築カードを作成する。
3）建築カードを用いて、様々な構成の被験者による建築の見え方に関するアンケート実験を行う。
4）実験をもとに、建築の持つ視覚的像の中の様々な要素を抽出する。
5）結果をもとに分析考察を行う。

【評価方法】
プロジェクトに対する取り組みと、最終的なレポートで評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
講義中に随時提示します

090865002_0060　掲載順 :0060　MASTER ★

海外実地研修特論

秦 忠夫　西尾林太郎　清水 洋　藤井真湖

【授業の概要】
平成22年度は西尾が担当する。研修先は中国の東北地方、時期としては平成22年9月中旬を予定している。人口500万の大連、東北地方」における工業の拠点である瀋陽を中心に日本近・現代史との接点となる史跡を訪ねる一方、現地の大学の日本研究者との交流や日系企業を見学する。瀋陽は戦前「奉天」といい、清朝発祥の地でもあり、初代～３代の王宮である故宮がある。また、張作霖の司令部「元帥附」も現存する。大連はロシアさらに日本による建設をルーツとする一大港湾都市であり、現代では中国有数のIT都市であり、約1000余りの日系企業が集まる工業団地がある。歴史的な視点を加味しつつ大連、瀋陽を歩き中国の東北地方である「満州」の過去と今を体験したい。

【授業の目標】
レポート作成とフィールドワークを通じて中国に関する見聞を広め、専門知識を養う。

【授業計画】
事前研修,現地研修,事後研修からなるが,平成22年度については前年度末に掲示する。

【評価方法】
事前研修での発表、現地研修での活動状況、帰国後の報告・レポートで総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない

【参考文献・資料】
資料を配布する

主題講義 II

河辺泰宏　岡本晴彦

【授業の概要】

「都市と建築の裏側」をテーマとしてエネルギー供給システム、共同溝や上下水道などの地下構造、エレベーターの技術、構造実験施設など建築や都市を支えている目に見えない部分に光を当てる。建築を専門とする学生にとっては、建物の造形や配置計画などは最も興味を惹く対象であるが、今回の主題講義では、むしろ建築や都市の表の表情からは読みとりにくい部分を取り上げ、それらが果たしている重要な役割について考えたい。

【授業の目標】

授業の目的は、「都市と建築の裏側」に相当する様々な支援システムについてその重要性を再認識させることにある。

【授業計画】

授業は集中授業で行う。日程や詳細な内容、見学先などについては、来年度の授業概要にて明らかにする。上記テーマに基づいて専任教員とゲストスピーカーによる講義のほか調査・見学会等を実施する。

【評価方法】

授業への参加状況、レポート等で行う。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介・配付する。

国際理解教育 II

植村広美

【授業の概要】

第２次世界大戦による日本の孤立から、敗戦によるアメリカ軍の日本占領政策としての日本教育の民主化の導入が、日本経済の発展にどのような影響を与えたかを考察するとともに、世界の経済大国となった日本の国際理解教育の現状を分析し、今後の望ましいあり方を求めることを主眼とする。

【授業の目標】

戦後の日本の教育の歩みと国際理解教育について理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

１．日本の民主化政策としての教育改革
　（１）戦後の民主教育への革命的な移行とアメリカ教育使節団
　（２）男女共学、単線型教育制度の導入の教育的意義
　（３）高等教育機関の充実（新制大学）と日本の飛躍
　（４）教育内容の変化と近代化
２．日本における国際理解教育の発展と現状
　（１）海外留学制度の変遷と拡充
　（２）中学・高等における国際理解教育の現状と課題
　（３）中学・高校における外国人教員の現状と課題
　（４）外国人留学生の受け入れの現状と課題
　（５）現代の留学事情

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

地域社会特別研究D II-09 a ・ b（地域交通論）

辻 紘良

【授業の概要】

現在移動通信技術や情報技術の著しい進展を背景に、いわゆるITS（Intelligent Transport Systems）と総称される自動車交通に関する新たな技術・システムの開発および普及が急速に進められている。この授業では、ITSの地域交通への展開を取り上げ、現在この分野で注目されている中心的なテーマ、技術開発動向等に関し検討し、問題の解決方法を研究する。この過程で学生の優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。これとともに、参加学生に対して、授業内での発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。

【授業の目標】

1．ITSを対象に課題を設定するとともにその解決策を提案し、その可能性を実験・分析する。これらを通して、新たな結果を得るための研究能力を高める。
2．また、歩行者支援のためのITSシステム制作などを通して総合的な研究能力を高める。

【授業計画】

博士後期課程を３年で終了しようとする場合、第１年次で文献・資料調査にもとずく研究テーマの設定、研究方法の把握に主眼を置き、第２年次でデータ収集、システム構築、問題解析等によって独自の研究成果をうることに集中し、第３年次で論文の完成に向かうよう指導する。

【評価方法】

研究計画や研究推進状況ならびに論文の出来映えをみて、総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Proceedings of the World Congress of 15th World Congress on Intelligent Transport Systems（ITS'08）, 他

地域社会特別研究D III-09 a ・ b（地域文化論）

谷沢 明

【授業の概要】

地域社会における物質文化と精神文化の両面を対象とし、人間が自然に対峙し共存しながら築いてきた生活様式と内容を取り上げる。主な指導内容は、次のとおりである。

1）新しい文化と生活様式を創造する機能を有した多様性のある地域づくりの研究。
2）歴史・風土・文化的等の地域特性を生かした自立的な地域づくりの研究。
3）個性と伝統のある地域文化の保存と活用、および歴史的環境の保全を図りつつ行う地域づくりの研究。

上記の研究テーマに基づき、参加学生の学位論文作成を指導する。博士後期課程を３年間で修了しようとする場合、第１年次で研究テーマの設定、既往研究の把握、文献・資料の確認、野外調査の指導に主眼を置き、第２年次で、野外調査の実施、および文献資料の分析によって独自の研究成果を得ることに集中し、第３年次で論文の完成に向かうよう指導する。

【授業の目標】

博士論文作成に向けて、既往研究を踏まえた独創的な調査研究を積み重ね、それをまとめることを目標とする。

【授業計画】

学生が定めたテーマの調査研究と論文作成に対する個別的助言指導を中心とする。定期的に進捗状況の報告を行う機会をもつように努める。

【評価方法】

平生の調査研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

参考文献については調査研究の進捗状況に応じて、適宜紹介します。

地域社会特別研究D IV-09 a ・ b（組織行動論）

榊原國城

【授業の概要】

組織と人間との関わりについて、さまざまな側面から考察し、組織内で人々が示す態度や行動を体系的に取り扱おうとする学問が組織行動論である。本授業で扱う主要なテーマは、職業適性と職業選択、仕事への動機づけと職務満足、集団とリーダーシップ、コミュニケーションと人間関係、業績評価と報酬システムなどである。参加学生には、これらの研究領域に関連する内外の研究をレビューし、それらに対する評価を中心とする発表や討論を促し、必要に応じて種々の助言を与える。博士後期課程を３年間で修了しようとする場合、第１年次で文献研究、研究テーマの設定、研究デザインの設計を終え、第２年次においてはデータの収集、解析を集中的に行い、第３年次で学位論文の完成に向かうよう指導する。

【授業の目標】

学位論文の完成。

【授業計画】

個別指導

【評価方法】

中間報告と論文による評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際社会特別研究D II-09 a ・ b（国際教育交流論）

渡辺かよ子

【授業の概要】

教育文化交流を国際的視点から検討する各自の博士論文の完成に向けた指導を行う。各自の研究テーマに応じた研究方法論、基礎理論の概観、資料収集の方法などについて個別指導と発表討論を並行して行っていく。

【授業の目標】

博士論文に関連する分野の基礎的知識の習得と中間報告としての研究論文執筆。

【授業計画】

1．研究方法論
2．研究テーマの重要性と先行研究の検討
3．論文の構想と構成
4．論文執筆と内容検討

【評価方法】

中間報告と論文。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

国際社会特別研究D III-09 a・b（国際労働移動論）

清水 洋

【授業の概要】
アジア域内における労働力移動をメインテーマとし、歴史的背景、各国の移民政策、移民送り出し国と受け入れ国への社会・経済的インパクトなどについて、日本との比較を通して多面的に考察する。また、多国籍企業（とりわけ日本企業）の活動の実態と外国人労働者の雇用にまつわる諸問題について民間企業の事例をまじえて検討する。授業内では、研究発表・討議、各種資料の分析、個別的な助言などを通じて論文作成の指導を行なう。　論文テーマは、履修者が指導教員と十分に相談のうえ設定する。なお、初年度から論集や学外の学術誌への論文投稿を後押ししたい。

【授業の目標】
博士論文の完成。

【授業計画】
個別指導を行う。

【評価方法】
中間報告と論文による評価。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
必要に応じて適宜指示する。

国際社会特別研究D IV-09 a・b（日本政治・比較政治論）

西尾林太郎

【授業の概要】
（1）近代日本の政治・外交・社会等の分野の近代化とその特質について、中国、韓国等のアジア諸国や欧米諸国との比較検討を通じて考察する。日本を含め各国の近現代史に関する文献をはじめ、比較近代化論や比較政治に関する文献の講読と各種の歴史資料の解読・分析を通じ、優れた問題意識と高度な分析能力を涵養する。同時に、発表・討論や個別的な助言とにより、学位論文の作成を目指す。なお、博士後期課程を３年間で修了しようとする場合、第１年次で研究テーマの設定、内外の研究史の把握、文献・資料の収集とその内容の検討、第２年次で文献・資料の分析についてそれぞれ習熟する。そして第３年次では、学位論文を執筆・作成し、その完成を期したい。
（2）現代の東アジアの諸地域について比較政治論、比較社会論の見地から考察する。
（3）個別指導により日本近・現代政治外交史、日本近代社会史、現代日本政治論に関する博士論文作成に向けて準備をする。

【授業の目標】
（1）各自の研究テーマを踏まえつつ、個別のレポートを随時作成し、洞察力や文章作成能力を高める。
（2）博士論文を作成する。

【授業計画】
１．基本文献の購読及びレポートの作成
２．論文作製

【評価方法】
指示された課題達成状況を総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
そのつど指示する。

国際社会特別研究D V-09 a・b（文化人類学・エスニシティ論）

藤井真湖

【授業の概要】
エスニシティ論における諸議論を参照枠に、民族的な性格の色濃い文学作品の考察を深めることを目的とする。

【授業の目標】
１３～１４世紀に成立したといわれている『元朝秘史』をその更新版ともいえる十六世紀～１７世紀に編まれたモンゴル年代記『アルタン・トプチ』との比較を通して、“エスニックなるもの”を通時的視野のもとに考察する。ひとつの文学作品における“エスニックなるもの”だけでなく、時代的に更新される“エスニックなるもの”を定位し、その意味の諸相を探求したい。

【授業計画】
授業は、プリント（モンゴル語の読めない受講者には日本語訳のついたもの）を配布し、「授業の目標」に記載したふたつの文献を対象に考察をすすめていく。

【評価方法】
期末レポートで評価する。

【テキスト】
適宜配布する。

【参考文献・資料】
『モンゴル秘史』１～３巻　村上正二訳注　東洋文庫

メディアプロデュース特別研究D II-09 a・b（メディア文化史論）

山田登世子

【授業の概要】
現代メディアの生産と需要を歴史的に把握することを目的とするメディア文化史は優れて学際的な学問領域であり、幅広い知識が要求される。第１年次では、複製技術論、読書論等々、広領域にわたる基礎文献の習得を徹底化させるとともに、研究対象をいかなるメディアに焦点化するか、テーマ選択を指導する。つづく次年度は、選択した研究テーマに従って、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディア体験の理論的分析を課題とし、その成果を逐次授業で報告させつつ、学位論文にまとめさせる。

【授業の目標】
新聞、写真からインターネットまで、さまざまなメディアの生成を歴史的に把握すること。

【授業計画】
ゼミ（あるいは個人指導）方式をとる。
上記授業概要に従って、毎回報告レポートを提出すること。
その報告を指導するかたちで授業をすすめる。
場合によって、長文のレポート提出を課す。

【評価方法】
評価は授業時のレポートおよび期末レポートによるが、授業の平常点を重視する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
メディア論（マクルーハン　みすず書房）
複製技術時代の芸術（ベンヤミン　ちくま文庫）
写真論（ベンヤミン　ちくま文庫）
メディア都市パリ（山田登世子　ちくま学芸文庫）

090865503_0090　掲載順 :0090　MASTER ★

メディアプロデュース特別研究D III-09 a・b（メディア環境論）

大西 誠

【授業の概要】
現代の映像文化についてメディア表現との関係に注目しつつ、具体的な事例や文献を通じてメディア環境の観点から分析する。また各自の課題の深化と問題解決のプロセスについて計画・立案する。あわせて、現在のメディア表現の特質や新しいテクノロジーを取り上げ、メディア環境の個別的課題を抽出する手法を開発・養成していく。具体的には、各自の課題レポートの発表・討論などを通じて、研究方法や分析方法、ひいては論文作成を個別的に指導する。年次を追うごとに課題発見から調査研究、分析と論文作成を段階的に指導する。

【授業の目標】
事例研究により、メディア環境について論述できる能力を身につける。個別に調査研究をまとめて学会で発表する。さらに社会的・文化的文脈をふまえた分析能力を高め、論文作成に応用できる力をつける。

【授業計画】
フィールドワークなどをふくめ実践的に調査・研究する。また個別の指導により論文作成を行う。

【評価方法】
研究ノート及び学会発表などで総合的に評価する。

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
別途指定する。

090865503_0100　掲載順 :0100　MASTER ★

メディアプロデュース特別研究D IV-09 a・b（レトリック批評論）

五島幸一

【授業の概要】
古代ギリシャ・ローマ時代からの流れを受け継ぐレトリック批評は、元来スピーチ批評として発達してきた。しかしながら、現代のメディアの発達に伴い、様々なメディア（テレビ、映画、広告など）の中身（コンテンツ）も分析するようになり、その分析対象は言語のみならず非言語にも及ぶようになった。このレトリック批評の流れを把握し、その理論を現実の問題の解決に応用できうる知識を養う。
第１年次では、レトリック批評理論の歴史的な流れに焦点を当てて、その特徴を考察する。つづく第２、３年次では、現代レトリック批評を視座の中心とし、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディアのメッセージを理論的に分析することを課題とし、その成果を授業で報告させ、学位論文にまとめさせる。

【授業の目標】
レトリック批評についてより深く学ぶとともに、具体的な事象をレトリック批評の観点から分析できるようにすること。

【授業計画】
研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

【評価方法】
論文の進捗状況によって評価する。

【テキスト】
とくになし。

090865503_0110　掲載順 :0110　MASTER ★

メディアプロデュース特別研究D V-09 a・b（計算科学）

親松和浩

【授業の概要】
様々な自然現象のモデルを作成し、数値シミュレーションとその可視化を行うことによって現象の理解を深め、教育および工学的な応用を目指す。博士論文の完成に向けて、研究テーマの選定、基礎理論および数値計算や可視化の技術に関する指導と助言を行う。

【授業の目標】
自然現象のコンピュータシミュレーションに関する総合的な能力を養い、博士論文完成を目指す。

【授業計画】
1．研究テーマの選定
2．先行研究の検討
3．現象のモデル化
4．数値計算とその結果の可視化
5．論文作成

【評価方法】
研究の中間報告および論文を総合的に評価する

【テキスト】
授業開始時に指示する

【参考文献・資料】
その都度指示する

090865503_0120　掲載順 :0120　MASTER ★

メディアプロデュース特別研究D VI-09 a・b（理論構築）

太田浩司

【授業の概要】
本講義では博士論文を作成するのに必要不可欠な理論の構築について知識と理解を深める。

【授業の目標】
メディアとコミュニケーション研究における様々な理論を概観し、自らの研究のテンプレートとなるモデルの作成、検証、そして修正を実際に行うことを目標とする。

【授業計画】
個別指導を行う。

【評価方法】
タームペーパー。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
必要に応じて適宜指示する。

090865503_0130　掲載順 :0130　MASTER ▲

都市環境デザイン特別研究D II-09 a・b（建築歴史・意匠論）

河辺泰宏

【授業の概要】
古代から現代に至る建築の歴史とデザイン様式について、文献講読や資料収集。現地調査等を通じて学び、特定のテーマについて新しい見地を得て論文等にまとめる。

【授業の目標】
文化財の保存と再生をテーマに事例研究を行い、最終的には論文としてまとめる。

【授業計画】
受講生の関心と先進的な研究課題とを考え合わせ、講読すべき文献や資料を選んで、セミナーを行う。また、必要があれば調査などを計画していく。

【評価方法】
研究成果をまとめたレポート、論文、研究発表等によって総合的に判断する。

【テキスト】
必要に応じて指定する。

【参考文献・資料】
必要に応じて指定する。

090865503_0140　掲載順 :0140　MASTER ★

都市環境デザイン特別研究D IV-09 a・b（建築・都市空間デザイン論）

日色真帆

【授業の概要】
建築・都市空間のデザインに関して、環境行動研究、人間環境系の計画理論、設計方法論などの成果を踏まえて考察を進める。その一方で、都市居住に関わる現代都市の具体的問題を対象に行う調査分析と、様々な共同作業を支援する新しい設計手法の開発とを実践的課題として掲げる。これらの研究分野について指導し、それを受けて学生は、教員および他の学生と協力して研究を進める。学生との論議を重ねて個別の学位研究テーマを絞り込むよう指導する。調査分析、研究発表、学位論文の作成等に関する技法上の指導も併せて行う。

【授業の目標】
有意義で独自性があり、かつ達成可能な研究テーマを設定し、着実に研究を進めるための技術を学ぶ。

【授業計画】
個別指導。

【評価方法】
論文による評価。

【テキスト】
特になし。

090865503_0150　掲載順 :0150　MASTER ★

都市環境デザイン特別研究D V-09 a・b（建築論・建築表現論）

垂井洋蔵

【授業の概要】
建築の制作にあたって建築家は言葉を語る。それは建築作品として具体化される前の思惟の過程であったり、その建築がどのような意味を具現化し、それが空間的な表現へとどう形作られていったのかを伝えようとするものでもある。一方我々が経験するものとしての建築は、視覚的イメージの発信者であり、またわれわれがそこで空間経験を得る場所でもある。このように建築は表現されたものであると同時に、表現するものというありかたでも存在する。この意味で建築は純粋芸術とは異なった表現作品ということが出来る。アートとメディアの両義的なありかたと言い換えることも出来る。建築制作にかかわる言葉や意図を既往の作家論、あるいは建築家による個別建築論（制作論）から学び同時に建築的場所における空間経験、視覚化された意味の発信を体験的に読み取ることにより上記の視点から建築のあり方を理解する方法を探る。主として近現代の建築家と建築作品を題材に考察を深める。メディアという視点からの建築表現論として、現代アートの諸表現との関連にも注目する。受講者は固有の建築的現象を発見しそれについて調査分析すると同時に、それに関わる周辺領域の種々の理論を学び成果を論文としてまとめあげる。

【授業の目標】
論理的な思考と、新規性のある視点に基づいた研究方法と成果を論文として提出する。

【授業計画】
個別に指導するとともに、研究の各プロセスで成果を外部に発表するための指導を行う。

【評価方法】
成果としての論文による。

【テキスト】
適宜参照すべき文献を指示します。

090865503_0160　掲載順 :0160　MASTER ★

都市環境デザイン特別研究D VI-09 a・b（建築構造論）

岡本晴彦

【授業の概要】
性能評価型建築構造設計法の推進並びに建築物設計の自由度向上に貢献することのできる課題に関する研究を行う。
特定の課題を抽出し、新たに明らかになったことを明確にして論文にまとめる。

【授業の目標】
抽出した課題を遂行する過程から、独自性の高い研究成果を得るための思考法と技術を習得する。

【授業計画】
特定の課題を抽出し、関連既往研究について調査・検討を行う。
次に課題解決に必要となる解析を行う。必要に応じ、実験も行う。
明らかにされた事項を論文としてまとめる。

【評価方法】
研究遂行過程並びに論文によって総合的に判断する。

【テキスト】
必要に応じて指定する。

【参考文献・資料】
別途指定する。

090966001_0010　掲載順 :0010　MASTER ★

生体情報心理学特講１・２

沖田庸嵩

【授業の概要】
社会的コミュニケーションに関わる脳内認知情報処理を精神生理学的観点から探る。

【授業の目標】
脳研究全般の概略を把握するとともに事象関連脳電位（ERP）の特性と基本的な研究パラダイムについて理解を深める。さらに、注意・記憶・言語・顔認知に関わる近年の知見とモデルを学ぶ。

【授業計画】
1．認知神経科学に関する総説を受講者が分担して報告し、講読を進める。
2．ERPで脳内認知情報処理を探る方策について講義する。
3．注意・記憶・言語・顔認知、各テーマの総説を取り上げ、受講者が分担してその内容を紹介し、全員で討論する。

【評価方法】
レポートと授業への参加度により評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
適宜プリントを配布する。

090966001_0020　掲載順 :0020　MASTER ★

生体情報心理学特講３・４

清水 遵

【授業の概要】
生体が感覚刺激として受容する外界情報やそれらを処理する過程で派生する内部情報は様々な生理・心理的反応を惹起する。これら生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる情動のプロセスを精神生理学的観点から検討していく。

【授業の目標】
欧文論文を輪読することで精神生理学の基礎的知識の習熟をめざす。また，感情研究における生理指標の位置付けについて，種々の感情査定法との比較において理解を深める。

【授業計画】
前期（特講３）は神経系の機能や生理指標に関する欧文書を講読、適宜解説を加える。
後期（特講４）では、これまでになされてきた情動プロセスの精神生理学的研究に関する欧文書を輪読する。

【評価方法】
授業への積極的参加度、文献内容理解力により評価する。

【テキスト】
適宜，関連するプリントを配布する。

【参考文献・資料】
Cacioppo J.T., Tassinary L.G. & Berntson G.G.(Eds) 2007. *Handbook of Psychophysiology*. New York:Canbridge University Press.

090966001_0030　掲載順 :0030　MASTER ★

生体情報心理学特講５・６

吉崎一人

【授業の概要】
近年注目されている認知心理学、認知神経心理学等に関連する文献を精読し，議論し，理解を深める。

【授業の目標】
最近のトピックを概観することで，認知神経心理学的な研究枠組み，考え方を学習する。

【授業計画】
前期・後期
ここ２，３年のTrends in Cognitive Sciences, Psychological Science等の欧文誌を輪読する。

【評価方法】
レポーターの内容、授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
適宜紹介する。

090966001_0040　掲載順 :0040　MASTER ★

生体情報心理学演習１・２

沖田庸嵩

【授業の概要】
脳内認知情報処理を扱う精神生理学的研究のうち、主として事象関連脳電位（ERP）を測度とする領域で、修士論文作成に向け個別指導を行う。

【授業の目標】
修士論文を完成させる。

【授業計画】
各自が関心のあるテーマに沿って先行研究を調べ、論文を読み、そしてその発表・討論を繰り返すなかで修士論文のテーマを決定する。
また、修士論文の作成に向けた予備実験・本実験の計画・結果についても発表し、討論する。

【評価方法】
発表討論と研究活動により評価する。

【テキスト】
使用しない。

090966001_0050　掲載順 :0050　MASTER ★

生体情報心理学演習１・２

清水 遵

【授業の概要】
環境の快適性や情動ストレスとその精神生理学的及び神経化学的測定法に関する内外の文献を広く講読し、修士論文に向けての研究計画、および研究経過中に生じる問題点について発表討論する。

【授業の目標】
前期（演習３）は，発表討論を行う中で，テーマ決定の方向づけと問題点を指導し、修士論文に向けた実験を行う。
後期（演習４）は，得られた実験結果について考察し，必要であれば追加実験を行うことで修士論文を完成させる。

【授業計画】
１．環境の快適性に関する研究
２．高齢者感情コントロールに関する研究
３．パーソナリティとストレスの関連性に関する研究
４．実験計画の立案
５．実験結果中間発表
６．結果の考察
７．その他

【評価方法】
発表討議内容、研究活動の報告レポートなどにより評価する。

【テキスト】
使用しない。

090966001_0060　掲載順 :0060　MASTER ★

生体情報心理学演習１・２

吉崎一人

【授業の概要】
個々の関心テーマから，実際の研究につなげ，そして実際に研究を実施するプロセスを学習する。

【授業の目標】
以下の５点の力を養い，査読雑誌に投稿，採択されることを目指す。
（１）個々の関心テーマにおける研究背景を理解する。（２）残された問題点に焦点をあてた研究目的をたてる。（３）目的を明らかにするための実験計画，仮説をたてる。（４）実験を実施し，分析する。（５）結果からの考察をおこない，次への研究へつなげる。

【授業計画】
前期は，修士研究に関連した論文の紹介をレポーター形式で行う。
また実験計画について発表する。
後期は，実験結果のプレゼンテーションし，結果の解釈等について議論する。

【評価方法】
プレゼンテーションの内容，授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】
使用せず。

【参考文献・資料】
適宜示す。

090966001_0070　掲載順 :0070　MASTER ★

社会心理学特講１・２

植村勝彦

【授業の概要】
コミュニティに内在する諸問題を、福祉臨床社会心理学ともいえる視点から扱うコミュニティ心理学は、一つには従来の個人臨床心理学の限界を補完ないし打開するものとして、また個人を取り巻く各種組織や小社会のシステムの実践的変革を目指す心理学として期待されている。ただ、わが国においてはまだなじみが薄く、研究実績的にも乏しいという現状に鑑みて、当面は、この新しい心理科学の実際を紹介することを課題と目標とする。
上記の理由から、啓蒙的意味を込めて、コミュニティ心理学の全体的概要を紹介することから始める。コミュニティ心理学の成立に至る背景・歴史、研究理念・目標、独特の研究方法、過去の中心テーマであった精神保健問題、今日の解決課題・テーマなど、主にアメリカのデータに基づきながら進めるが、これはまた日本の現在および近未来の姿でもあろう。

【授業の目標】
コミュニティ心理学の理念を理解すると共に、現代の諸種社会問題にそれらを適用する場合、いかなる点を考慮するべきか、またどうすれば可能になるか、を実践的に考察できる目を養うこと。

【授業計画】
植村勝彦編『コミュニティ心理学入門』（ナカニシヤ出版）、日本コミュニティ心理学会編『コミュニティ心理学ハンドブック』（東京大学出版会）をテキストに、受講者に分担してもらいながら、また引用文献の紹介も分担してもらいながら討論を含めて進める。前後期とも継続で進行する。
また、Duffy & Wong著・植村勝彦監訳『コミュニティ心理学』（ナカニシヤ出版）、スキレッビら著・植村勝彦訳『コミュニティ心理学』（ミネルヴァ書房）などの参考書を随時資料としながら補足する。

【評価方法】
前期、後期にそれぞれ課すレポートと、分担発表の成績により評価する。

090966001_0080　掲載順 :0080　MASTER ★

社会心理学特講３・４

斎藤和志

【授業の概要】
社会的認知や他者に対する関心や反応性、社会的事象に対する思考や態度の研究を中心に検討する。対人行動や社会的事象をクリティカルに考えるプロセスに焦点をあてる。いわゆる論理的思考や社会的認知の諸問題に加えて、人間や社会を考えようとする姿勢の重要性、社会心理学的な知見や考え方を現実社会の中に取り入れていくことの可能性などについてさまざまな視点から検討していきたい。

【授業の目標】
社会心理学的な観点で論理的に考え、現実の問題を捉え直すこと。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】
授業の初回でテキストや分担を決定するので、受講希望者は必ず初回に出席すること。発表者はその内容の紹介と引用文献や関連領域からの示唆などを含めて発表し、全員で討論していく。取り上げるテキストのキーワード（領域）としては「社会的認知」「クリティカルシンキング」「心理学教育」などがある。受講者が多数の場合は、“Advances in Experimental Social Psychology”などから適切な論文を選ぶことも考えている。また、特に社会心理学の研究法についての文献は随時取り上げていく予定である。

【評価方法】
発表と討論への参加によって評価する。

【テキスト】
未定。決まり次第 URL：http://www２.aasa.ac.jp/~saitok/ で告知する。

【参考文献・資料】
授業時に適宜紹介する。

090966001_0090　掲載順 :0090　MASTER ▲

社会心理学特講５・６

高井次郎

【授業の概要】
文化に関連する心理学の主要３領域を取り上げます。文化心理学、比較文化心理学および異文化間心理学の主なテーマを取り上げ、それぞれの領域の特異性について検討し、それぞれの研究のアプローチについて考えます。

【授業の目標】
授業目標は、１）文化心理学、比較文化心理学および異文化間心理学のそれぞれの性格の違いの理解、２）各領域の研究の手法の紹介、３）文化関連の心理学の社会的および学問的意義の理解、４）人間の心理に対する、文化の役割とその影響力の検討、および５）文化関連の心理学の諸理論の紹介である。

【授業計画】
前期および後期
１.　文化の心理学について
２.～３.　文化心理学の特徴
４.～５.　文化心理学の研究の紹介とその検討
６.～７.　異文化間心理学の特徴
８.～10.　異文化間心理学の研究の紹介とその検討
11.～12.　比較文化心理学の特徴
13.～14.　比較文化心理学の研究の紹介とその検討
15.　まとめ

【評価方法】
授業における参加とレポートによって評価します。

【テキスト】
適宜論文やプリントを配布します。

【参考文献・資料】
適宜紹介します。

090966001_0100　掲載順 :0100　MASTER ★

社会心理学演習１・２

植村勝彦

【授業の概要】
コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、深い学識と綿密な論理構成のもとに、各自が関心をもつテーマを設定し追究することによって、最終的には修士論文を作成することを課題と目標とする。
コミュニティ心理学のトピックスを扱っている専門雑誌である『American Journal of Community Psychology』、『Journal of Community Psychology』、『Journal of Community and Social Psychology』、『コミュニティ心理学研究』掲載の論文を中心に、内外の著書、論文の輪読を通じてコミュニティ心理学の理解を深めること、また、各自の修士論文につながる研究の展開を目指す演習とする。
加えて、実証的研究に不可欠な、データの統計的処理方法や、多変量解析の理論とその実際についても解説する。

【授業の目標】
参加メンバー全員で、各自の研究テーマを徹底的に追究し、学会誌に受理されうる修士論文に仕上げること。

【授業計画】
毎回個人発表を行い、取り上げられた論文やテーマについて徹底した討論によって、その内容や方法、論旨の展開を批判的に読み取り、論理的、実証的に再構築できる力を養う。とくに、２年次学生については、修士論文作成に向けての助言・指導に当てる。

【評価方法】
毎回の個人発表、およびレポートによって評価する。

【テキスト】
使用せず。

090966001_0110　掲載順 :0110　MASTER ★

社会心理学演習１・２

斎藤和志

【授業の概要】
社会的認知、他者に対する関心や反応性、社会的事象に対する思考や態度の研究を中心に扱う。修士論文作成へ向けて、問題と目的の明確化、研究方法の具体化を進め、修士論文を完成させる。

【授業の目標】
修士研究のまとめとしての修士論文の作成。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】
１．研究問題の明確化
２．研究方法の具体化
３．データの収集と分析
４．結果の解釈と討論
５．修士論文の完成

【評価方法】
発表と討論への参加、論文の作成によって総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
授業時に適宜紹介する。

090966001_0120　掲載順 :0120　MASTER ★

臨床心理学特講１

米倉五郎

【授業の概要】
対話心理療法および精神分析的な心理療法における、初期面接での心理アセスメント、面接技法である面接契約、面接構造、面接途中で生じる転移と抵抗や逆転移、解釈、終結などについて解説し指導していく。

【授業の目標】
精神分析的な心理療法の基礎的な文献を講読しながら、対話心理療法の基本的な面接技法について講義する。受講生から報告される初回面接のロールプレイの検討と指導による実務的な技法についても概説する。

【授業計画】
面接技法の体験学習では、テキストの購読をしながら、学生から初回面接のロールプレイについてのテープ録音による事例報告を提出し、その面接過程についてグループスーパービジョンにより指導していく。

【評価方法】
授業内容の理解度、レポートにより成績を評価する。

【テキスト】
授業時に指示する。

【参考文献・資料】
参考文献はその都度提示する。

臨床心理学特講２

西出隆紀

【授業の概要】
家族を対象とした心理臨床について学ぶ。最初に家族臨床に関する概説を講義し、以降は家族に対して独自の立場から臨床実践を行ったマスターセラピスト達についてレポーターが調べ、その発表に対して受講者全員で討論する。またロールプレイによって、体験的理解ができるようにも工夫していきたい。

【授業の目標】
家族療法各派の特徴を理解し、解決志向的家族療法の技法を学ぶ。

【授業計画】
０．現実の家族と心的現実としての家族（講義）
１．精神分析から見た家族
　Freud,S.　Klein,M.　Winnicott,D.W.
２．精神分析的家族療法
　Ackerman,N.W.　Bowen,M.
３．戦略的家族療法
　Erickson,M.の影響　MRIモデル　Haley,J.
４．構造派家族療法（Minuchin,S.）
５．システミック家族療法（ミラノ派）
６．解決志向的家族療法（BFTCモデル）
７．家族療法のロールプレイ

【評価方法】
レポーターとして発表したときのレポートの出来具合と討論への参加度、出欠を考慮して評価する。

臨床心理学特講３

西出隆紀

【授業の概要】
児童に対する心理療法、特に精神分析的なプレイセラピーについて学ぶ。レポーターが児童の分析家・心理療法家について調べ、発表する形式と、児童に対する精神分析的心理療法の実践論文の講読を週毎に交互に行う予定である。

【授業の目標】
児童の心理臨床に対する理解を深め、自身の臨床実践に応用する準備を整える。

【授業計画】
・レポーター形式
　１．Klein,M.のPlay technique
　２．Freud,A.のChild analysis
　３．Winnicott,D.W.の臨床実践
　４．Allen,F.H.の関係療法
　５．Axline,V.M.の児童中心療法
　６．Moustakas,C.E.のPlay therapy
・精神分析的プレイセラピー実践論文の講読

【評価方法】
レポーターとして発表したときのレポートの出来具合と討論への参加度、出欠を考慮して評価する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
その都度指示する。

臨床心理学特講４

市村多加子

【授業の概要】
非行、児童虐待、夫婦・親子関係、ドメスティックバイオレンスなどの青少年や家族をめぐる問題が司法機関や相談機関に持ち込まれる。このような当時者に対しては、権威・権力を背景とした強い枠組のもとで、それらを活用しながら、心理的、福祉的援助を行うことで、妥当で適切な解決がされる。
司法機関や相談機関における援助の枠組みやその実際、および各機関同士の連携のあり方を検討する。

【授業の目標】
強い枠組を背景とした当事者に対する援助の実際を考察する。さらに、その枠組となる関係法および各機関同士の連携を学ぶ。

【授業計画】
１．少年非行の関係法、手続、処遇、各機関の役割と連携を学ぶ。
２．少年非行事例を通して、非行臨床の実際を理解する。
３．児童虐待、夫婦関係、ドメスティックバイオレンスの問題などに対する家庭裁判所の調停や審判の役割機能を、家庭裁判所調査官の臨床活動を中心に考察し、危機場面での家族援助のあり方を学ぶ。
４．児童虐待防止法、配偶者間暴力防止法など関係法の学習及び関係機関の連携について学ぶ。

【評価方法】
受講態度（出席状況、討論への参加度、理解度など）と期末（又は中間時）のレポートの内容により評価する。

【テキスト】
市販のものは使用しない。

【参考文献・資料】
文献は必要に応じて紹介し、資料は適宜配布する。

臨床心理面接特講１・２

後藤秀爾

【授業の概要】
臨床心理面接の基本は、「相手を正しく理解する」ということである。面接場面でのかかわりを通して、多面的に、多層的に、多次元的に、クライエントの姿を理解する視点と、理解を深めるために必要な知識や知見を学習する。

【授業の目標】
心理面接の実際場面で対象理解のために使えるよう、基礎概念の理解を深める。

【授業計画】
前期：
１）精神分析にかかわる基礎的な概念を整理して理解を深めるため、テキストとなる文献を定めて講読を行なう。
２）テキストの内容理解を基礎において、関連思想についての学習へ発展させる。
３）具体的な事例を理解するための知識として使いこなせるよう、事例を紹介しながら学習内容の理解を深める。
後期：
１）視点を変えて、統合的心理療法の考え方を軸にした心理臨床の概念を捉えなおすための文献購読を行なう。
２）テキストの内容理解を基礎において、関連思想についての学習へ発展させる。
３）各自の関与している臨床事例について理解を深めるポイントを学ぶ。

【評価方法】
授業への参加状況（出席回数のことではない）による。

【テキスト】
前期　コフート理論とその周辺ー自己心理学をめぐってー（丸田俊彦著　岩崎学術出版社）
後期　心理療法のかんどころ―心傷ついた人々の傍らにあってー　（村瀬嘉代子著　金剛出版）

090966001_0170　掲載順 :0170　MASTER ★

学校臨床心理学特講

古井 景

【授業の概要】
今日、学校をめぐってさまざまな問題が起きている。その中で、子どもはもちろんのこと、教師や親も非常に戸惑っている。つまり、これまでの学校教育のあり方が時代にそぐわなくなってきているのである。そこで、子どものニーズに応じられる心理教育的援助サービスを、教師、スクールカウンセラー、保護者のチームが地域の資源を活用して行うことを軸として、新しい学校教育のシステムを一緒に考えていきたい。

【授業の目標】
スクールカウンセラーが学校現場でその力を有効に発揮するためには、学校の現状と改善すべき問題点およびその方向性についての知識を身につけておかなければならない。さらには人の意見を受け入れるだけでなく、自分なりの考えを構築してもらうことを目標としている。

【授業計画】
1．学校を理解する
(1)法的位置づけと理解
(2)学校組織とスクールカウンセラーの位置づけ
(3)学校現場において発生している問題
2．スクールカウンセラーの働き
(1)健康な心の育成
(2)問題を抱える事例に対する対応
(3)退行させることの危険性
3．事例検討
(1)発達障害事例の理解と対応の検討
(2)心理的な障害及び行動・情緒の障害事例の理解と対応の検討
＊事例を通して学校臨床の実際を理解する。

【評価方法】
授業での質疑等、積極的受講態度を評価対象とする。

【テキスト】
心理療法の実践（成田善弘　編著　北樹出版）

090966001_0180　掲載順 :0180　MASTER ★

人格心理学特講

市村多加子

【授業の概要】
人間の行動は、人格的要因、生物的要因、環境的要因、発達的要因などのからみで決定される。一方、人格は、これらの諸要因の相互作用の中で形成される側面がある。
そこで、人間の逸脱行動の一つである犯罪や非行をとりあげ、その動機やメカニズムの分析から、人格理解を行う。

【授業の目標】
人格理解の基礎的理論や方法を概観し、犯罪や非行の動機、メカニズムの分析を通じて、人間理解の幅を広げる。

【授業計画】
1．人格心理学の基礎的な理論の概観
2．人格理解の方法（査定）の概観
3．犯罪心理学からみた人格理論
4．粗暴非行と攻撃性
5．非行と発達障害
6．非行と人格障害
7．その他の非行

【評価方法】
受講態度（出席状況、討論への参加度、理解度など）と期末（又は中間時）のレポートによる。

【テキスト】
市販のものは使用しない。

【参考文献・資料】
文献は必要に応じて紹介し、資料は適宜配布する。

090966001_0190　掲載順 :0190　MASTER ★

教育心理学特講

二宮 昭

【授業の概要】
教育という人が人に働きかける営みにおいては、人間関係のあり方が重要となる。人が人とのかかわりのなかで、その関係のとり方をどのようにして身につけてくるかという関係発達の問題を、間主観性という概念を中心に、障害児の発達援助の実践例などを通して検討していく。

【授業の目標】
人間関係の基盤となる「共感」や「他者のこころが分かる」ということについての理解を深めるとともに、教育や発達臨床などの実践における働きかける者、援助する者としての基本的態度の修得につなげていく。

【授業計画】
健常児や障害児の関係発達に関する文献を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論を行うという形式と、講義形式の併用で授業を行う。

【評価方法】
報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
適宜紹介する。

090966001_0200　掲載順 :0200　MASTER ★

投影法特講

米倉五郎

【授業の概要】
ロールシャッハ法のスコアリングや解釈は片口法、名大法、阪大法、秋谷法、エックスナー法などさまざまなアプローチがなされている。もとより心理臨床の実務ではクライエント・患者への援助とサービスが優先されるので、それぞれの技法の長所を学び活用するという折衷的なアプローチが有効である。われわれは名大法をとりあえず基本的な技法と学習しつつ、他のロールシャッハ法の技法と解釈法をも積極的に学んでいく。

【授業の目標】
ロールシャッハ法のテキスト購読しながら、ロールシャッハ法を中心とした投影法（SCT、描画法）について講義した後に、受講生自身が検査者ならびに被検査者となる実習研修を行い、そのプロトコルのスコアリングと解釈を検討する。

【授業計画】
第１回から３回：投影法およびロールシャッハ法の実施法とスコアリングについての講義
第４回から８回：ロールシャッハ法と投影法の体験学習と報告（実施法とスコアリング）
第９回から13回：ロールシャッハ法と投影法による事例報告、その解釈と報告書の作成

【評価方法】
授業への参加姿勢、発表の内容、レポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】
改訂新・心理診断法（片口安史著　金子書房）

ロールシャッハ法解説－名古屋大学式技法－（名古屋ロールシャッハ研究会）

【参考文献・資料】
適宜、授業の中で参考文献は紹介し、資料は配布する。

グループアプローチ特講

西村 馨

【授業の概要】
本コースでは心理療法としての集団精神療法に焦点を当て、主に神経症圏の成人、思春期・青年期を対象とした集団精神療法の探求をおこなう。上記の狙いに基づき、理論学習、演習、体験グループ、ロールプレイをおこなう。

【授業の目標】
1）集団精神療法の基本的枠組みを理解する。
2）集団精神療法の運営に関わる集団過程・集団発達を理解する。
3）実践基礎技術を自己経験に基づき習得する。

【授業計画】
#1,2　イントロダクションと契約　講義：集団精神療法の定義と目的
#3　ロールプレイ①
#4,5　講義：集団精神療法の基本的方法論、集団力動・集団発達
#6　ロールプレイ②
#7,8　講義：セラピストの仕事、治療的介入
#9　ロールプレイ③
#10　講義：思春期・青年期のグループ
#11　ロールプレイ④
#12　テスト
#13　ロールプレイ⑤
#14　テストのフィードバックとまとめ

【評価方法】
授業出席、討論、ロールプレイへの参加（60%、全コマ出席を前提とするが、実習と重なっている場合は事前に申し出ること）
テスト（40%）、および場合によってメイクアップ課題

【テキスト】
講義ノートを配布。また必要な文献は事前に配布する（熟読のこと）。

【参考文献・資料】
集団精神療法の理論（モートン・キッセン編著 佐治守夫・都留春夫・小谷英文訳　誠信書房）
集団精神療法ハンドブック（近藤喬一・鈴木純一監修　金剛出版）
現代のエスプリ別冊「心の安全空間」（小谷英文編著　至文堂）

障害児発達心理学特講 1

神野秀雄

【授業の概要】
発達障害、なかでも自閉症スペクトラム障害といわれる人たちの筆者の遊戯療法を基盤とした療育の体験を報告する。そして受講生のみなさんと発達的、臨床的観点から議論を深め、障害児の発達支援の原理や方法について考える。

【授業の目標】
自閉性障害児は、発達支援の難しい子どもたちである。それは、彼らが本質的に自閉的孤立を求めるからである。時間をかけて彼らの対人関係を育てていくなかで、予測しがたい不思議な現象がたち現れてくる。そのような現象を理解しながら支援のあり方を考えていきたい。

【授業計画】
1.知的障害を伴う自閉性障害について
2.サヴァン症候群、Facilitated Communicationについて
3.高機能／アスペルガー症候群について

【評価方法】
授業への取り組む姿勢やレポートなどによって評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
資料は適宜、配布する。
伊藤義美（編）2008　現代臨床心理学　ナカニシヤ出版

障害児発達心理学特講 2

神野秀雄

【授業の概要】
発達障害（ＬＤあるいはディスレキシア、ＡＤＨＤ）および情緒障害（不登校、選択性緘黙など）に関する筆者の療育体験を報告する。そして受講生の皆さんと発達的、臨床的観点から議論を深め、障害児の支援の方法について模索していきたい。

【授業の目標】
ディスレキシアは、知能（ＩＱ）は平均以上あるにかかわらず、漢字の読み書きに特異的に困難を示す子どもたちである。彼らが中学に入ると、今度は英語の読み書きに苦労する。ディスレキシア（ＬＤ）は、標準化された診断方法は確立されておらず、教育の世界においてもなかなか理解されていないのが現状である。議論を深めながらＬＤ，ＡＤＨＤなどの子どもたちの理解を深め、支援の方法を考えていきたい。

【授業計画】
1.ＬＤやディスレキシアについて
2.ＡＤＨＤについて
3.情緒障害、主として選択性緘黙や不登校について

【評価方法】
授業に取り組む姿勢やレポートなどによって評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
適宜、紹介・配布する。

精神医学特講

古井 景

【授業の概要】
精神医学一般について診断体系を述べ、乳幼児、小児期、思春期・青年期、成人期、老年期などに好発する各疾患について、診断と治療を解説する。

【授業の目標】
精神医学における『病気（障害）』の概念を正しく理解することを目標とする。

【授業計画】
I.　総論
　1．精神医学の概念
　2．精神障害の成因と分類
　　（1）古典的分類（内因性精神病・外因性精神病・心因性精神病）とICD-10、DSM-IV
　　（2）人格・神経症・心身症・精神病
　3．脳と精神機能（大脳生理・神経学）
　4．精神症状学
　　（1）意識障害（2）知能障害（3）記憶障害（4）知覚障害
　　（5）思考障害（6）感情・情動・気分障害（7）意欲と行動の障害
　　（8）巣症状と症候群
　5．診断
　　（1）病歴と現症（2）生理・生化学的検査（3）心理査定
　6．治療
　　（1）薬理学的療法（2）精神療法（3）環境調整
II.　各論
　乳幼児期、小児期、思春期・青年期、成人期、老年期の各時期に於いて好発する疾患・障害について事例をあげて説明する。

【評価方法】
授業に取り組む姿勢をもって評価する。

【テキスト】
その都度提示する。

【参考文献・資料】
現代臨床精神医学（大熊輝雄著　金原出版）
臨床精神医学講座（中山書店）
精神症状学（濱田秀伯著　弘文堂）
標準精神医学（野村総一郎・樋口輝彦編集　医学書院）　など

090966001_0250　掲載順 :0250　MASTER ★

心身医学特講

古井 景

【授業の概要】
生物学的理解に加え、力動精神医学の立場から、心のメカニズム（自我機能）に目を向け、“適応”についての知識を深め、“適応困難（不適応）”となった者が現していく『症状・疾病状態』について言及していく。
更に、医学的及び臨床心理学的治療のあり方について学んでいく。特に、成人の社会適応として『産業保健』を中心に取り上げていく。

【授業の目標】
心身両面から『健康』・『適応』の概念を理解することを目標とする。

【授業計画】
・神経とホルモン
・精神力動とストレス
・意識的行動と無意識的行動、身体症状化
・自我機能と防衛機制
・心身症：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、腰痛症、過敏性腸症候群、
　　メニエル症候群、顎関節症、舌痛症など
・職場不適応：産業精神保健、労働安全衛生法・労働基準法、
　　過重労働・過労死、長期欠勤、鬱病
・幼児期不適応：夜尿、夜驚、自家中毒、チック
・学校生活不適応：不登校
・家庭内暴力
・摂食障害：拒食症・過食症
・児童虐待：虐待する母親、される子供
・薬物依存：有機溶剤、麻薬・覚醒剤、アルコール

【評価方法】
毎回の授業内での質疑をもとに評価する。

【テキスト】
その都度提示する。

【参考文献・資料】
その都度資料を配付する

090966001_0260　掲載順 :0260　MASTER ★

臨床心理学演習１・２

市村多加子

【授業の概要】
文献、理論学習を通じて、面接技法やマネージメント技法など、幅広い視点から心理臨床活動を学ぶ。

【授業の目標】
心理臨床活動の実践と理論学習を通じて、関心のあるテーマを絞り、修士論文作成へとつなげる。

【授業計画】
１　心理臨床に関する文献購読
２　受講者の関心がある研究論文の発表、討論
３　研究テーマの検討及びまとめ方

【評価方法】
受講態度（出席状況、発表及び討論の際の態度）、研究への理解などにより評価する。

【テキスト】
その都度指定する。

【参考文献・資料】
適宜文献を紹介し，資料を配布する。

090966001_0270　掲載順 :0270　MASTER ★

臨床心理学演習１・２

後藤秀爾

【授業の概要】
修士論文作成に向けて大学院指導生の研究指導を行なう。
大学内の相談活動にとどまらないで、自分の問題意識を深めるための実践の場を確保することを、まずは考えるとよい。心理臨床は、対象となるケースとのかかわりの中にすべての答えがある。実践を通して自分の取り組むべき問題意識を絞り込み、研究方法を工夫し、自己内の体験と格闘しつつ言葉に置き換えるという作業である。自分なりの理解が基本であるが、それを裏付ける理論の学習にも充分な目配りが必要である。そのための方向付けが、研究指導である。

【授業の目標】
卒業後の心理臨床実践を続ける自分自身を支えることとなる研究論文の完成を目指す。

【授業計画】
１年次のうちに問題意識の概略を定めて、２年次のこの授業に臨んで欲しい。
授業は原則的に個別指導である。２年次の早い時期に、実現可能な研究計画を練り上げる段階にまで進む。最終的に、対象となった人たちに結果をフィードバックして、深い共感の得られるようなものを目指す。

【評価方法】
論文に反映される、学習内容の裾野の拡がり具合、研究テーマの深まり具合、今後の展開への可能性の拓かれ具合などを考慮して、総合的に判断する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
個別に指示・提示するものをベースに、自ら検索して発展させる。

090966001_0280　掲載順 :0280　MASTER ★

臨床心理学演習１・２

二宮 昭

【授業の概要】
動作法を主とした発達臨床に関する文献のレビュー、および受講者各自の研究テーマの発表と討論を行う。

【授業の目標】
障害児の発達と援助についての理解を深めるとともに、障害児を対象とした実践的研究のまとめ方を学ぶ。その中で各自の修士論文の研究テーマを決定し、具体的な研究計画を立てる。

【授業計画】
受講者が読んだ文献の発表と討論を行いながら、研究テーマの検討、および具体的な研究方法の特定というかたちで展開される。

【評価方法】
発表内容、討論への参加の仕方、および研究計画やその方法論の内容などによって評価する。

【テキスト】
使用しない。

臨床心理学演習１・２

西出隆紀

【授業の概要】
修士論文研究の指導を中心に行う。履修者が興味を持つ国内外の文献を読み、それについて討論を行い、研究内容と研究方法への理解を深める。それと同時に、研究の知見をどのように心理臨床活動に生かしていくのかについても学ぶ。

【授業の目標】
修了後に臨床心理士としてさまざまな分野で活躍できるための基礎的知識・技能を身につけるとともに、修士論文を完成させることにより、心理臨床活動を支える研究活動への理解を深める。

【授業計画】
受講者が各自興味を持った研究論文または研究テーマについて発表し、それについての討論を行う。研究論文の選択や研究テーマは心理学的なものであれば「自由」が基本であるが、臨床心理士資格取得を目指すのであれば、何らかの形で心理臨床につながるものでなければならない（臨床心理士認定協会が定めた資格試験取得要件）。

具体的な流れとしては以下のような形になると思われる。

1．興味を持つ研究論文についての発表・討論。
2．研究テーマについての発表・討論。
3．研究テーマについて調べるための心理学的研究方法に関する討論・指導。
4．得られたデータの解析と解析結果の考察に関する討論・指導。
5．研究を通して得られた知見の心理臨床的応用に関する討論・指導。

【評価方法】
発表及び討論での態度、研究への理解などによって評価する。

【テキスト】
その都度指示する。

【参考文献・資料】
必要に応じて指示、もしくは配布。

臨床心理学演習１・２

古井 景

【授業の概要】
自我機能・精神力動に関する知識を深めていく。自我機能の健全な発達と障害について学び、臨床心理面接技法へと繋げていく。様々な論文・著書を活用し、積極的な討議を行っていく。
また、修士論文の作成に関しても、参加者自らの積極的取り組みを前提として、互いに検討・議論を積み重ねていく。

【授業の目標】
臨床心理士として『病理』を見極める眼を身につける。

【授業計画】
以下の項目を中心として、参加者の発表と討論を通して、知識を深めていく。
・自我心理学の歴史
・対象関係論への発展
・自我構造モデルと自我機能
・対象喪失と取り入れ
・分裂的機制
・抑鬱的態勢、躁的防衛
・乳幼児期の自我-対象-分裂
・移行対象と移行現象
・分離個体化理論

【評価方法】
知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

【テキスト】
その都度提示する。

【参考文献・資料】
その都度指定する

臨床心理学演習１・２

米倉五郎

【授業の概要】
指導院生が関心をもつ心理臨床の事例やテーマに関して、臨床面接法や心理査定法などの技法を活用する事例研究法や調査研究法および半構造面接法などによる修士論文の作成を目標とする。

【授業の目標】
１および２年次学生によるゼミでのグループ討論および指導教官による個人指導により、２年次学生での修士論文の作成と完成を目指す。

【授業計画】
院生の各自が研究テーマを設定し、調査研究法、事例研究法および心理査定法などの方法論の特定が検討される。そして心理臨床の研究対象の選定がなされる。演習では、専門図書の輪読に並行して、各人より報告され事例や心理査定法の検討とグループスーパービジョンがなされる。こうしたグループでの討論と指導により２年次学生での修士論文の完成を目指していく。

【評価方法】
授業における発言の姿勢、発表の内容およびレポートにより評価する。

【テキスト】
適宜指定する。

【参考文献・資料】
必要に応じて配布する。

臨床心理査定演習１

西出隆紀

【授業の概要】
臨床心理士として様々な事例に関わって行く中で、事例の抱える問題点を的確に把握することは極めて重要な作業である。この演習では、神経心理学的障害、情緒的障害、人格障害等の心理査定のために、様々な検査法を理解できるよう可能な限り実習体験を行っていく。

【授業の目標】
心理査定法に関する文献講読や、事例報告による心理査定の検討および検査法の実施・解釈を通して、心理査定に関する知識と技術を習得する。

【授業計画】
資料に基づいて講義を行い、演習として実際の査定方法を体験していく。
1　心理アセスメント・心理査定法について
2　知能・発達のアセスメント
　個別式知能検査（WAIS-III、WISC-III）
　乳幼児精神発達診断検査
　老人の知能の評価
　など
3　パーソナリティーのアセスメント
　質問紙法
　投影法
　精神作業検査
　など
4　テストバッテリーについて
　心理査定法からの情報と統合的な解釈法

【評価方法】
授業内容の理解度により、成績を評価判定する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する。

臨床心理査定演習２

米倉五郎

【授業の概要】

心理アセスメントではパーソナリティ全体についての多次元的な情報から患者とクライエントの人格を理解し見立てる臨床的な能力が求められる。つまりパーソナリティの病理とともに保持されている健康な資質や能力、潜在的な個性や可能性、そして患者特有の対処能力についても推察し把握しようとする。言い換えるならば、患者やクライエントおよび家族などから提供されるさまざまな情報をひとつのまとまりとして道筋をつけたり、患者の主題やストーリーを解読していく見立て（土居）の能力が大切となる。見立てるとは力動的、重層的に患者を心理アセスメントすることであり、患者の診断と予後や治療方針についての予測と仮設を再構成し、結晶化していく心理臨床家の専門的な面接技法である。

【授業の目標】

１．各学生が担当する事例の初期面接の報告と、施行した各心理査定法との照合により、患者とクライエントのパーソナリティの特徴や知的および認知的構造についての心理アセスメントについて指導し教育する。

２．心理査定法のテキストを輪読して、さまざまな発達検査法、知能検査法、質問紙法、投影法、描画法、認知記　銘力検査法、精神作業検査法などの施行法とテストバッテリー、解釈法および報告書の書き方について指導する。

【授業計画】

１．各学生が心理臨床相談室で担当するクライエントと家族（児童から思春期、青年期および成人期と高齢期のクライエント）の心理アセスメントについての報告を指導する。

２．初期面接で施行される各心理査定法をも併せて報告し、総合的な心理アセスメントと見立てと指導し教育する。

【評価方法】

授業態度50％、心理検査レポート50％

【テキスト】

使用する。

【参考文献・資料】

事例の資料を配布する。

臨床心理基礎実習１ａ

古井 景　市村多加子　後藤秀爾　神野秀雄　西出隆紀　米倉五郎

【授業の概要】

臨床心理学の実践に必要な基礎知識・技能・態度を身につけるための実習である。

本実習内容を修得した者のみが、本学併設の心理臨床相談室での臨床活動を行うことが許される。

【授業の目標】

心理臨床相談室での臨床心理面接の実践にあたり、必要な基礎知識・技能・態度を身につけることを目標とする。

【授業計画】

１．心理臨床入門講習
　1-1　カウンセリングにおける心構え
　1-2　受理面接１（幼児期・児童期）
　1-3　受理面接２（思春期・青年期）
　1-4　受理面接３（成年期・老年期）
　1-5　受理面接４（障害児）
　1-6　受付、契約、限界設定、危機介入　など
　1-7　心理検査、クリニカルレポート、面接記録の記載と管理、守秘義務　など
　1-8　医療機関との連携、リファー、診断と見立て、治療方針、共同治療　など
２．ロールプレイ実習

入門講習は、講義・演習方式に加えて実習形式も適宜取り入れていく。ロールプレイ実習は入門講習の後の時間に開講し、相互にカウンセラー・クライエント役を演じ、参加者の講評を受ける。

なお、すべての内容について守秘義務が課せられているので、その点に留意すること。

【評価方法】

受講態度と提出物で評価する。特殊な実習なので、やむを得ない事情がない限り、１回でも遅刻・欠席があれば単位は認めない。

【テキスト】

その都度指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

臨床心理基礎実習１ｂ

後藤秀爾　市村多加子　神野秀雄　西出隆紀　古井 景　米倉五郎

【授業の概要】

臨床心理基礎実習1aを基にして、心理臨床の実践を行い始めた学生を対象として、その臨床実践に対するスーパービジョンを受ける。そのため、受講は臨床心理基礎実習1aを履修したものに限られる。

【授業の目標】

心理臨床家（臨床心理士）となっていくための基礎的な能力の修得をめざす。

【授業計画】

１．心理臨床実践
　本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。
２．スーパービジョン体験
　スーパーバイジーとしてスーパービジョンを受ける。原則として指導教員がスーパーバイザーとなり、セッション１～３回につき、最低１回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることもあり得る。

このように完全な実習であり、当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当な時間をとられることを覚悟しておいてもらいたい。

なお、すべての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

【評価方法】

実習態度によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

臨床心理基礎実習２ａ・ｂ

後藤秀爾　市村多加子　神野秀雄

【授業の概要】

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実践を行なうための基礎的な能力の修得を目指し、ケース・カンファレンスに参加する。また、所定の条件を満たし、相談活動に関与するようになって後は、ケース・カンファレンスに事例報告し指導を受ける義務を負う。

【授業の目標】

実際の心理臨床相談に対応するための基盤を自己内に作ると同時に、実践を通して自己研鑽を深めるための視点を確立する。

【授業計画】

１．心理臨床実践
　本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習を行なう。
２．ケース・カンファレンス
　本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加し、ケース・プレゼンテーションと討議を通して、相互学習を深める。
３．スーパービジョン体験
　ケース毎に、スーパーバイジーとしてスーパーバイザーの指導を受ける。
　また、スーパーバイザーの了解の下、ケース・コンサルテーションを受けることができる。

なお、相談ケースにかかわるすべての情報に、守秘義務が課せられる。

【評価方法】

実習態度から評価する。

特別な理由なくケース・カンファレンスに欠席した場合、受講資格を失う。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

ケースの理解にかかわる文献は出来る限り幅広く目を通すことは当然であるが、実践と理論のバランスを大事にし、自分の言葉で自分の実践を語ることが出来るような学習の仕方に心がける。

なお、相談事例にかかわる資料の管理にあたっても、個人情報の保護について充分な配慮を求める。

090966001_0370　掲載順 :0370　MASTER ★

臨床心理実習１ａ・ｂ

後藤秀爾　市村多加子　神野秀雄　西出隆紀　古井 景　米倉五郎

【授業の概要】

病院や福祉施設など外部の施設において心理臨床の実習を行い、それに対する専門的な指導を受ける。

【授業の目標】

一人前の心理臨床家（臨床心理士）となるための幅広く、より高い能力の修得をめざす。

【授業計画】

心理臨床実習

１年間の間に病院での実習と福祉施設などでの実習の両方を行う。実習先では、その現場の臨床心理士による指導を受ける。

完全な実習であり、実習先によって日程が集中して行われたり、週１回定期的に行われたりというように実施形態が異なることもあるので、割り当てられた授業時間以外にかなりの時間をとられることになる。

なお、すべての内容に守秘義務が課せられるので、その点についても留意すること。

【評価方法】

実習態度によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

「学外実習の手引き」を受講者全員に配布するので、実習開始までに熟読しておくこと。各実習先に関する資料や文献はその都度紹介・配布する。

090966001_0380　掲載順 :0380　MASTER ★

臨床心理実習２ａ・ｂ

古井 景　西出隆紀　米倉五郎

【授業の概要】

臨床心理基礎実習で修得した基礎的臨床能力に加え、臨床における応用能力を身につけるための高度な実習内容を目指す。

積極的にケースを持ち、専門的な理論・モデルに基づいた臨床心理面接技法の実践を行う。

【授業の目標】

臨床心理面接において、専門的な理論・モデルに基づいた臨床心理面接技法が実践できるようになることを目標とする。

【授業計画】

１．心理臨床実践
　本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。
２．ケース・カンファレンス
　本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加する。
　ケース・プレゼンテーションを通して指導を受ける。
　他者の提示したケース資料について討議する。
３．スーパービジョン体験
　スーパーバイジーとしてスーパービジョンを受ける。
　原則としてセッション１回につき、1回のスーパービジョンを受ける。
　必要に応じて、学外の指導者にケース・コンサルテーションを受ける。

上記のように、完全に実習中心で進められる。
授業時間の枠を超えて、相当の時間をとられることを覚悟して欲しい。
全ての内容について守秘義務が課せられているので、留意されたい。

【評価方法】

実習態度から評価する。なお、特別な理由もなくケース・カンファレンスに欠席した場合は、その場で失格となる上、今後いかなる場合も受講を認めない。

【テキスト】

かなりの文献を読むことをスーパーバイザーなどから指示される。

【参考文献・資料】

かなりの文献を読むことをスーパーバイザーなどから指示される。

090966001_0390　掲載順 :0390　MASTER ★

心理学研究法特講

清水 遵　植村勝彦　沖田庸嵩　神野秀雄

【授業の概要】

心理学における主要な研究法である１）実験法、２）観察法、３）調査法、について、それぞれの教員が分担して講義する。

【授業の目標】

修士論文作成の基礎となる心理学の研究法を習得する。

【授業計画】

オムニバス形式で実験法6回、観察法3回、調査法4回を予定している。実験法に関しては、清水遵、沖田庸嵩が分担し、清水は具体的な実験例を紹介しながら実験に伴う実験計画法について、沖田は認知・生理的な測定法について講義をする。観察法については神野秀雄が、調査法については、質問紙調査の中心テーマとなっている心理尺度の構成法について，植村勝彦が担当する。

【評価方法】

各研究法ごとにレポートを提出させ、評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜、紹介・配布する。

090966001_0400　掲載順 :0400　MASTER ★

臨床心理学研究法特講

後藤秀爾　市村多加子　古井 景　米倉五郎

【授業の概要】

ここでは、臨床心理学における研究上の視点のおき方を主に学ぶ。アセスメントから始まり心理面接から地域援助へと展開する実践活動を想定し、問題意識の絞り方や、臨床心理学特有の方法論などについて、理解を深める。

【授業の目標】

臨床心理学の研究法を学ぶことは、臨床心理学という学問の学び方を学ぶことに他ならない。修士論文の研究テーマ選定のための視点を得ると同時に分析・解析の方法論を知り、そのことをきっかけにして、実践を通して心理臨床を学び続けるための考え方の基本を学びとってもらいたい。

【授業計画】

１．心理面接過程の分析；心理面接を分析するときの視点の置き方、過程把握のための仮説設定のあり方、分析の方法論などについて、理論的立場の違いを踏まえて検討する。そのことにより、心理面接の構造を多角で捉える眼差しの重要性を知る。
２．診断とアセスメント；精神医学的診断と臨床心理学的アセスメントの両者の違いと、それを統合する視点の置き方について学ぶ。関連して、各種心理検査法の診断ツールとしての側面についても理解を深める。そのことを通して、アセスメントをめぐる考え方の多様性と、事例を記述するときの正確な用語の使い方を知る。
３．事例研究；単一事例を使って論文作成するときの視点の置き方、記録のまとめ方、論点の絞り方などを学ぶことによって、個別性の中に普遍性を求める、事例研究の基本的な考え方についての理解を深める。心理検査法における、経過のアセスメントツールとして機能や、セラピューティックな側面についても検討する。
４．コミュニティへの視点；個人を取り巻くコミュニティとして、家族・学校・企業・地域社会などが想定できる。支援対象であるとともに、支援のための社会的資源でもあるコミュニティの、研究対象としての特性や、視点の置き方、解析の仕方などについて学ぶ。

【評価方法】

オムニバス授業であるため、各担当者ごとにレポート提出を求める。そのレポートに基づいて評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

心理統計特講

斎藤和志　西出隆紀　吉崎一人

【授業の概要】

心理統計に関わるいくつかの問題を大きく３つの側面から扱う。心理統計の基礎的な部分については斎藤が、実験計画法を中心とした領域については吉崎が、多変量解析を中心とした領域については西出が担当する。基本的な事項の講義に加えて、統計ソフトSPSSを使用した具体的な事例の検討も行う。

【授業の目標】

基礎的な心理統計の知識の獲得と、具体的な解析技法を習得すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1．データの種類と特徴
2．代表値と散布度
3．変数間の関係、変数の分布と変換
4．統計的検定の基礎
5．実験計画法の基礎
6．平均値の差の検定
7．分散分析
8．カテゴリカル・データの検定
9．多変量解析の考え方
10．予測と説明
11．変数の分類
12．尺度構成と信頼性・妥当性
13．まとめ

【評価方法】

受講態度と各担当者が出した課題によって評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

091068003_0010　掲載順：0010　MASTER ★

生体情報心理学特殊研究１

沖田庸嵩

【授業の概要】
各自の研究に応じて、その展開方向、実験・調査計画、および結果の分析・解釈について討論し、博士論文の作成に向けて指導を行う。

【授業の目標】
学術雑誌に論文を少なくとも年に１つは発表し、学位論文につなげる。

【授業計画】
各自が研究を進めるなかで、（１）関連領域の最新の論文、（２）実験（調査）の計画立案、（３）実験結果の分析・解釈、それぞれについて発表し討論を行う。これらの過程を経て、各自が論文を執筆する。

【評価方法】
研究活動により評価する。

【テキスト】
使用しない。

091068003_0020　掲載順：0020　MASTER ★

生体情報心理学特殊研究２

清水 遵

【授業の概要】
情動喚起刺激によって賦活される生体システム（神経系、内分泌系、免疫系）の反応メカニズムを電気生理学、精神内分泌学、精神神経免疫学的指標からとらえる方法論について検討する。また、情動体験とこれら生体システムの活性指標との関連性について条件発生的検索を行なうことで、情動が心身の健康に及ぼす影響についても考察する。

【授業の目標】
各年次の授業計画に基づき、学位論文に向けて研究の深化を目指す。

【授業計画】
１年次は、各自の研究テーマについて、研究方法及び文献資料等について指導を行なう。
２年次は、各自の研究テーマについて、具体的な研究計画書に基づき予備実験を行ない、学年末には中間発表が出来るよう研究指導を行なう。
３年次には、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点について、より研究を深化するよう指導し、学位論文に結実するよう指導する。

【評価方法】
１年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。

091068003_0030　掲載順：0030　MASTER ★

生体情報心理学特殊研究３

吉崎一人

【授業の概要】
博士学位論文に値する研究をまとめ上げることを目標として，進行中の実験，並びに研究計画，論文執筆等に対する助言，指導を行う。またテーマと関連する最新の研究論文等を読み，議論する。
さらに研究の視点を広げ，研究指導を体験するために，学部生の卒業研究の指導にも参加する。

【授業の目標】
１年次
博士学位論文に向けての研究計画をたてるため，テーマを絞り，その領域のレビューを行う。それを踏まえ研究計画をたてる。
２年次
学術論文として論文を完成し，投稿する。
３年次
発表，掲載された論文をもとに博士学位論文完成を目指す。

【授業計画】
特に定めない。

【評価方法】
１年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
使用しない。

091068003_0040　掲載順：0040　MASTER ★

社会心理学特殊研究１

植村勝彦

【授業の概要】
コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心をもつテーマを設定し、深い学識と綿密な論理構成のもとに、その最先端を拓き追究することを可能にするよう、支援・助言すること。そして、最終的には学位審査に値する博士学位論文に結実するようにすることを目標とする。
第１年次においては、修士論文およびその後の展開を含めて、学会誌に投稿する論文の作成指導を中心とする。
第２年次においては、各自が選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献レビューなどについて指導を行い、加えて、新たな研究を調査として実施させ、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。
第３年次においては、第２年次に実施した調査をまとめ、学会誌に投稿するための支援を行うとともに、これらの論文を含めて、博士学位審査論文として提出するに必要な事柄の指導を行う。
また、他者を指導するという経験が、自己の研究を高めるうえで有効であることを確認させる目的で、博士課程学生には研究指導として、学部学生の卒論指導にも参加する。

【授業の目標】
課程博士の学位を取得すること。

【授業計画】
特には定めない。

【評価方法】
１年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】
使用せず。

臨床心理学特殊研究１

二宮 昭

【授業の概要】
障害児臨床を中心に、臨床心理学領域における学術的価値の高いユニークな研究論文を作成するための指導・助言を行う。

【授業の目標】
最終的には学位論文の作成をめざす。

【授業計画】
第１年次では、研究テーマの設定、方法論の検討などをより深め、各自が修士論文で扱った問題をさらに展開させる。
第２年次では、各自が選んだ個別テーマに沿って、研究方法および文献研究等の指導を行い、学年末には中間発表ができるようにする。
第３年次では、中間発表を踏まえ、さらに研究方法の問題点について、研究がより深化するように指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するようにさらに指導を行う。

【評価方法】
１年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない

臨床心理学特殊研究２

古井 景

【授業の概要】
精神力動論・精神分析的精神療法についての知識を深め、各自のおかれた領域に於いて発生している問題を解決すべく、『現実的対処技法』を身につける。博士課程における研究が机上の空論にならぬよう、常に『現場(フィールド)』と繋がった形で勉強を進め、研究の結果を『現場(フィールド)』で生かしていくための『実践的研究』を目指し指導助言を行っていく。

【授業の目標】
精神力動論・精神分析的精神療法について知識を深めることを第一の目標とし、さらに、学位論文の作成をめざすとともに、博士の称号を得るにふさわしい知識・技法　及び　品格を身につけることとする。

【授業計画】
第１年次
精神力動論・精神分析的精神療法について知識を深める。
・自我心理学の歴史
・対象関係論への発展
・自我構造モデルと自我機能
・対象喪失と取り入れ
・分裂的機制
・抑鬱的態勢、躁的防衛
・乳幼児期の自我-対象-分裂
・移行対象と移行現象
・分離個体化理論

第２年次
精神力動論・精神分析的精神療法の視点から、研究論文の作成を進める。

第３年次
学会発表・論文の投稿により、学位論文の完成をめざす。

【評価方法】
１年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】
その都度提示する。

【参考文献・資料】
その都度配布・指定する。

言語コミュニケーション特殊研究１

松本青也

【授業の概要】
応用言語学（英語教育）
第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

【授業の目標】
研究分野の新しい研究成果に幅広く触れ、考察を深める。

【授業計画】
いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

【評価方法】
発表内容と論文の評価。

【テキスト】
適宜資料配布。

言語コミュニケーション特殊研究２

山内啓介

【授業の概要】
新しい要請にこたえる日本語学、日本語教育文法学、日本語教育方法、日本語コミュニケーション、またマルチメディアを用いた教育と学習法について、それぞれの理論を構築し実践についての研究指導を行う。

【授業の目標】
日本語研究および言語コミュニケーション研究の方法を実践する。

【授業計画】
１年次では、日本語教育をめぐる状況についてとりあげ、日本語が必要とされる要因を分析する。あわせて、日本語文法、日本語による発想、日本語の文化がもたらすコミュニケーションの問題を議論し解決を得る。
２年次では、各自の選ぶテーマをもとに研究立場、研究手法を設定し、方法論、文献探索についての指導を行う。研究発表など、プレゼンテーションの機会を得て自らの論点を深化させる。
３年次では、自らの論考の関連テーマについて論を展開し、研究を進め論文を執筆する。
学位の取得に向けて、博士論文の指導を行う。
以上について個別指導する。また、受講生の希望を取り入れ、日本語研究および日本語教育の実践的教授方法の追求を行いたい。

【評価方法】
論文作成のための課題論文、レポート、また議論の参加など。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献・資料】
研究に応じて紹介する。

言語コミュニケーション特殊研究３

馮 富榮

【授業の概要】
中国語教育及び日・中両言語の比較

【授業の目標】
本講義を受講することによって、日本語と中国語に関する幅広い知識を得られると共に、両言語の違いを生み出している文化的背景を深く探求する力が培われる。さらに、日本の大学の中国語教育における問題点に突き止め、中国語教育のあるべき将来像を探ることができればと期待している。

【授業計画】
本講義では、日・中両言語について、主として統語論、語用論、語彙論という３つの側面から検討する。輪読という形で講義を進めていくが、先行研究を幅広く講読する。そしてディスカッションを交えながら先行研究に残っている問題点や日・中両言語のそれぞれの特徴、両言語を機能させている文化的な背景、そして両言語の相違点を生み出した歴史的な原因、思考様式の相違による原因などについても議論する。
本講義では、また日本の大学での中国語の教育についても検討する。具体的に言うと、今の日本の大学の中国語教育には、どのような問題点（教材、やカリキュラムの編成､そして教育の方法や教育目標の設定など）があるか、そういった問題点を解決するにはどうすればよいか、今後の日本の大学の中国語の教育をどう展開させるべきか、そして日本人を対象とする中国語教育の特色はどこにあるかを検討していきたい。
要するに、本講義は中国語の教育者と日・中両言語の比較に関する研究者を養成することを目的としている。

【評価方法】
受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】
【教材】
関連の研究分野の論文を使用する。

091169001_0010　掲載順 :0010　　MASTER ★

統計特講Ⅰ・Ⅱ

石橋善弘

【授業の概要】
コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、統計学、推計学の基本的概念を講義し、統計とビジネスとの関わりあいについて学ばせる。

【授業の目標】
統計学の応用能力の習得

【授業計画】
第１回　　本講義の目的および授業計画の提示
第２回－第11回　以下の項目について講義する。
　　1　統計分析
　　2　平均値、代表値、標準偏差
　　3　相関係数
　　4　回帰分析
　　5　統計的推測
第12回　　補足とまとめ
また、随時Excelの利用の訓練を行う。

【評価方法】
出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

091169001_0020　掲載順 :0020　　MASTER ★

マーケティング特講Ⅰ・Ⅱ

大塚英揮

【授業の概要】
企業による顧客創造活動として体系づけられる現代マーケティング論の全体像を把握するために、マーケティング論の基本的テキストであるP.Kotlerの「マーケティングマネジメント」を輪読する。これにより、マーケティングに関する基本的な知識を得ることを目指す。なお、P.Kotler の考え方を実際の事例にあてはめる「ケース分析」を適宜行い、応用力の涵養にもつとめたい。

【授業の目標】
マーケティングにまつわる専門的知識を習得し、現実に起きている諸問題を理論的に分析、意志決定を行うスキルを習得する。

【授業計画】
（１）オリエンテーション
（２）マーケティングマネジメントの理解
（３）マーケティング機会の分析
（４）マーケティング戦略の立案
（５）マーケティング上の意志決定
（６）マーケティングプログラムのマネジメント
（７）ケーススタディ（随時）

【評価方法】
出席状況および授業における積極性（７０％）、レポート（３０％）により評価する。

【テキスト】
ビジネススクールテキスト　マーケティング戦略（嶋口充輝著　有斐閣）ほか　関連論文をプリントにて配布、使用する。

【参考文献・資料】
マーケティング原理（コトラー著　ダイヤモンド社）

091169001_0030　掲載順 :0030　　MASTER ★

経営学特講Ⅰ

浅井敬一朗

【授業の概要】
経営学の中でもとくに、イノベーションと経営戦略、イノベーションとスキル形成に焦点を当てる。まず、1980年代以降の経営戦略研究、熟練形成研究について概観する。次にバブル崩壊後の日本企業のケーススタディを取り上げ、ケースの分析に基づき、競争優位を獲得するための戦略、スキル形成の今日的あり方について、ディスカッションを行う。

【授業の目標】
まずは経営戦略の基本骨格について理解する。

【授業計画】
授業の最初に提示する

【評価方法】
出席、議論の参加、レポート

【テキスト】
競争戦略論 一橋ビジネスレビューブックス（青島 矢一・加藤 俊彦著　東洋経済新報社）からスタートする。
続きについては追って指示する。

【参考文献・資料】
別途指示する

091169001_0040　掲載順 :0040　　MASTER ★

経営学特講Ⅱ

浅井敬一朗

【授業の概要】
経営学の中でも、とくに企業革新に焦点を当てる予定です。まず、企業革新を論じるにあたって必要なフレームワークを概観します。その後、最近になって大きな企業革新を遂げた企業の、ケース・スタディーを取り上げます。ケース分析に基づき、既存のフレームワークの拡張をめぐり、ディスカッションをしていきたいと考えます。

【授業の目標】
ある企業を時系列で見た場合，技術革新が必ずしも当該企業の収益に貢献しないこともある。このことを含めた上で企業がどのような戦略をとっているかについて考察する。

【授業計画】
学期の最初に提示する

【評価方法】
出席、レポート、議論の内容によって評価する

【テキスト】
適宜指示する

【参考文献・資料】
適宜指示する

091169001_0050　掲載順：0050　MASTER ★

企業倫理特講

佐藤滝彦

【授業の概要】
講義：かつて日本には儒教精神をよりどころとする商人道があった。同様に欧米においても、マックス・ウェーバーが指摘したプロテスタンティズムは資本主義の生誕に大きく寄与した。こうした精神的なバックボーンを背景にして、企業の倫理は培われてきた。近年企業の不祥事が多発しているが、それぞれの企業がおかれている環境は、かつてのそれとは非常に異なったものとなっている。今ほど企業の社会的責任が問われ、企業の法令順守、企業統治が重要視されることはない。なぜ今、企業倫理が大きく問われているのかを考えてみたい。

【授業の目標】
企業経営が大規模化し、国際化していくなかで、企業倫理の欠如は、その企業のみならず社会の様々な分野に深刻な影響を与えざるを得ない。企業倫理の確立がなぜ必要なのか、企業倫理の欠如が何をもたらすのかを考察する。

【授業計画】
・ＣＳＲ(Corporate Sosial Responsibility)
・コンプライアンス(Compliance)
・ガバナンス(Governance)
・事例研究

【評価方法】
出席状況、課題、学期末試験の結果で総合的に判断。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
特に指定しない。適宜紹介する。

091169001_0060　掲載順：0060　MASTER ★

経営財務特講Ⅰ

三矢幹根

【授業の概要】
日本の公開企業は戦後、効率性や収益性を無視してメインバンクを中心とする銀行借入を主な原資に規模の拡大経営を続けていた。しかし、1990年初頭から始まったバブル崩壊後、銀行は不良債権に呻吟して、間接金融が正常に機能しなくなった。2003年に漸く銀行の不良債権問題に解決の目途が付いたが、その後もわが国の公開企業の資金調達は直接金融に軸足を移しつつある。直接金融における主要な資金の供給者である機関投資家は長い間「ものを言わぬ」株主だったが、今や「ものを言う株主」に変貌してきた。この潮流の変化は「会社は誰のものか」という本来の原理原則に立ち返ろうとする自然な変化であり、経済のグローバル化が進むに連れて、欧米同様に日本でも株主価値重視経営が浸透しつつある。このような「株主価値重視経営」という文脈に沿い、経営財務Ⅰでは資産の評価法、リスクの測定法、企業価値の評価法などについて討議、考察する。

【授業の目標】
資産や株式の価値評価の基本を学び、何が企業価値を決定するのかに焦点を当てながら現代コーポレート・ファイナンス理論の体系を理解する。

【授業計画】
（１）資産価値の評価法①
（２）資産価値の評価法②
（３）債券と株価の評価法
（４）投資の決定法
（５）リスクの測定法①
（６）リスクの測定法②
（７）資本コストと企業価値評価
（８）新しい企業価値評価尺度
（９）資本構成と価値の還元
（10）企業の合併・買収（M&A）
（11）先物取引
（12）スワップ取引
（13）オプション取引①
（14）オプション取引②

【評価方法】
出席状況と復習小課題（30％）、学期末試験の結果（70％）で総合評価

【テキスト】
経営財務入門　第３版（井出允介、高橋文郎共著、日本経済新聞社）
講義ノートを配布

【参考文献・資料】
コーポレート・ファイナンス（第８版）上下（リチャード・ブリーリー他、日経ＢＰ社）
コーポレートファイナンスの原理（第7版）（ステファン・ロス他、金融財政事情研究会）

091169001_0070　掲載順：0070　MASTER ★

経営財務特講Ⅱ

三矢幹根

【授業の概要】
経営財務特講Ⅰで学んだ現代ファイナンス理論が実際にどのように企業経営に活用されているか、数々のケース・スタディを通して学ぶ。

【授業の目標】
ケース・スタディを通して現代ファイナンス理論の理解を深め、理論から実践への架け橋とする。

また、コーポレート・ファイナンス分野での修士論文を検討している学生には、修論作成に必要な体系的知識を習得させるだけでなく、ケーススタディの中に数々の論文のネタがあることをその都度指摘し、課題レポート及び修士論文の書き方の要点を指導する。

【授業計画】
（１）企業と投資家
（２）資本コストと価値評価
（３）資本コストと企業経営
（４）資本コストと企業経営の実践（１）
（５）資本コストと企業経営の実践（２）
（６）Ｍ＆Ａ戦略の理論と実例
（７）負債の利用と企業価値評価
（８）最適な負債比率の探究
（９）有利子負債削減実例
（10）積極的な負債の利用
（11）エクイティ・ファイナンスと資金調達の新潮流
（12）配当政策
（13）自社株買い
（14）配当政策実例

【評価方法】
出席状況と課題レポートで総合評価

【テキスト】
日本企業のコーポレートファイナンス（砂川伸幸、北川英隆、杉浦秀徳共著、日本経済新聞社）

必要に応じてプリントを配布

【参考文献・資料】
コーポレートファイナンス（第８版）上下（リチャード・ブリーリー他、日経ＢＰ社）
コーポレートファイナンスの原理（第7版）（ステファン・ロス他、金融財政事情研究会）

091169001_0080　掲載順：0080　MASTER ★

金融システム特講Ⅰ

藤井正志

【授業の概要】
金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について論じる。金融システム特講Ⅰにおいては、銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に論ずる。

【授業の目標】
銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に議論し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方についての理解を深める。

【授業計画】
１　銀行と事業会社の分離・結合について
２　業際規制と法律的なバックグラウンド
３　業務の内容別にみた規制緩和の流れ
４　金融制度改革の日米比較

【評価方法】
講義への出席状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】
適宜指定する。

【参考文献・資料】
適宜指定する。

金融システム特講 II

藤井正志

【授業の概要】
金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について論じる。金融システム特講Ⅱにおいては、金融検査・監督体制の日米比較を中心に論じる。

【授業の目標】
銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に議論し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方についての理解を深める。

【授業計画】
1　米国における金融監督体制
2　金融業のディスクロージャーの日米比較
3　金融検査のあるべき姿
4　今後の金融監督手法の展望

【評価方法】
講義への出席状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】
適宜指定する。

【参考文献・資料】
適宜指定する。

国際ビジネス特講 I・II

石坂綾子

【授業の概要】
経済のグローバル化が急速に進展しており、国境を超えた競争が激化している。貿易や労働力の国境を超える動きは、金融の動きとも結びついて進んでいる。この授業では、国際的なビジネスの展開、特にアメリカ・ヨーロッパ諸国（EUの動向を含む）を経済のグローバル化から考察する。

【授業の目標】
アメリカ・ヨーロッパ諸国は、国際政治経済を主導する有力な国々である。その全体像を把握し，日本との関わり合いについて理解する。

【授業計画】
産業ごとにその基本的特徴と現在抱えている課題について明らかにし，新しい動向をトピックスとして紹介する。その上で、授業で取り上げたトピックスについて参加者の間で議論する。

【評価方法】
授業への取り組み姿勢と期末レポートにより総合的に評価する。授業への積極性については、特に重視する。

【テキスト】
特に指定しない。必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献・資料】
特に指定しない。授業の中で，適宜紹介する。

地域経済特講 I

真田幸光

【授業の概要】
アジアを中心とする地域経済の概況を現状認識、その上で、日本の地域経済、日本企業の発展との関連を考察、アジア地域と日本の経済的共存共栄システムを構築する為の研究を行う。

【授業の目標】
国際情勢に対する深い関心を持ち、客観的かつ具体的な戦略思考を養うことを目標とする。

【授業計画】
1．ガイダンス
2．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（韓国）
3．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（北朝鮮）
4．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（モンゴル）
5．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（中国１）
6．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（中国２）
7．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（台湾・香港・シンガポール）
8．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア）
9．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（ベトナム、カンボジア、ミャンマー）
10. アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（インド、パキスタン、スリランカ）
11. アジアビジネスに於ける米国の影響に関する考察
12. アジアビジネスに於ける欧州の影響に関する考察
13. 日本企業のアジアビジネスを支援する政府・地方自治体の政策
14. 日本企業のアジア戦略（ケーススタディー）
15. 総括

【評価方法】
授業時間に於ける実績を評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

地域経済特講 II

真田幸光

【授業の概要】
国際経済情勢を、政治、外交、文化的視点を含めた形で現状認識すると共に、更に国際金融の支店から見た実態を分析する。こうした考察を経て、ビジネス・スタンダードのあり方、意味などについても考察を加えていく。

【授業の目標】
国際経済情勢に関する明確なる現状認識を行ったうえで経済外交戦略を作成していくことができるような能力を養うことを目的とする。

【授業計画】
1．ガイダンス
2．ブレナンウッズ体制
3．国際金融の発展経緯
4．プラザ合意
5．アジア通貨危機
6．最新経済事情（米国）
7．最新経済事情（欧州）
8．最新経済事情（北東アジア）
9．最新経済事情（中国）
10. 最新経済事情（東南アジア）
11. 最新経済事情（中東アフリカ）
12. グローバリゼーション
13. 日本の経済外交戦略
14. 日本企業の国際戦略
15. 総括

【評価方法】
授業に於ける実績に基づき評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

アントレプレナー特論Ⅰ

牧口晴一

【授業の概要】

① 企業の殆どを占める零細企業や中小企業。起業も零細企業から始まります。しかしどんなに小さくとも採算と資金は必須事項です。
② しかし起業したゴーイングコンサーンも、息絶えることがあります。日経新聞によれば「会社の寿命は30年」と言われ、現実には多くが消滅します。「相続・事業承継・倒産等」の時に経営者と企業はどうなるのか？借金に追われて自殺する経営者は後を断ちません。「人としての幸せ」の為にも、背水の陣の覚悟を知り、見極める必要があります。
③ さらに、潰れる前に、まだ生かせる部分を「株式譲渡」「会社分割」や「M&A」で、実質的なゴーイングコンサーンとすることもできます。
④ また起業は、従来のように「個人か会社か？」だけでなく「組合」や「信託」等の道もあります。どの起業が良いかも検討が必要です。
⑤ 以上は、起業家の人生観に左右され、全ては計算し尽くせないにも関わらず最後は数字に現れます。そこに現実の苦悩と決断があります。

【授業の目標】

上記のように広範な「概要」を把握しますが、これを大枠で押さえつつ、結果的に最も使用頻度の高い、採算の確保を会計と税務と会社法の面から押さえ、経営計画（最低限、損益計算）を作れるようにしていただきます。

【授業計画】

1．採算が取れねば成り立たない。計算演習。採算と資金繰り。
2．終わり「死」を考えて起業。相続と経営者としての事業承継。
3．事業承継と経営計画の３類型（定款・狭義の経営計画・遺言）。
4．遺言の種類と限界。相続税の仕組み・遺産取得課税方式へ見直し。
5．自社株評価（節税と納税）経営権確保（定款・少数株主・種類株）。
6．事業承継の第四の方法となる信託。M&Aの応用と組織再編と税制。
7．平成21年から民法（遺留分）の特例適用開始（経営承継円滑化法）。

【評価方法】

出席状況と挙手や回答（正答を問わない）の授業に対するレスポンス状況

【テキスト】

中小企業の事業承継　（牧口晴一共著　清文社）

【参考文献・資料】

非公開株式譲渡の法務・税務（牧口晴一共著　中央経済社）

アントレプレナー特論Ⅱ

都島忠比古

【授業の概要】

新規上場の現場を見ることを通して、起業家にとって成長ステップとして重要度の増す株式公開のあり方、問題点を研究する。

特に近年公開件数の激減は、わが国の将来の産業構造に大きな影響を及ぼすことが危惧される。制度上の緩和措置についてさまざまな意見を検討したい。

【授業の目標】

「貯蓄から投資へ」の流れの中で今後証券市場へ資金導入が図られる一方で、将来の日本経済を担う新しい企業群の出現が期待されている。起業家達にとっても事業規模の拡大とそのスピードアップの手段として、リスクマネーの導入と株式公開は避けられないテーマとなっている。ＩＰＯの現場、特に新興市場での新規上場の実際に照準を合わせてその実態を研究し、問題点の把握に努めるとともに個人投資家の育成、持続可能な社会の一員としての企業のあり方にも触れ、産・官・学の連携による起業のための環境整備も授業の対象とする。

【授業計画】

1．起業と株式公開
2．間接金融から直接金融への模索
3．リスクマネー育成と新規上場マーケット
4．株式公開の意思決定と上場基準
5．ベンチャーキャピタルの利用と資本政策
6．上場準備の実際と受審
7．投資家への説明義務と開示体制
8．M&Aの活用
9．ＭＢＯと再上場戦略
10．ＣＳＲとＳＲＩ
11．起業家支援とＩＰＯビジネス

【評価方法】

出席状況とレポートによる

【テキスト】

なし。プリント配布

財務会計特講

石川雅之

【授業の概要】

財務会計の領域のうち、制度に係わる面を取り扱う。具体的には、現代財務会計の論理的基盤を考察し、次いで財務諸表制度を支える各種法令について、それぞれの基本的考え方を理解し、さらにそれらを批判的に検討することを通じて、それぞれの規定がどのような意味をもち、またどのような役割が期待されているのかを検討する。また、必要に応じてその時々に検討課題とされている問題について検討する。

【授業の目標】

現代財務会計制度に係わるさまざまな知識を身につけるとともに、現代財務会計のかかえる諸問題を考察する能力を養う。

【授業計画】

1．現代財務会計のフレームワーク
2．財務会計制度の論理と体系
3．会計ディスクロージャーに対するインセンティブ
4．財務諸表の構造と法令
5．業績報告の潮流

【評価方法】

筆記試験により評価する。

【テキスト】

財務会計論　Ⅰ基本論点編（河崎・斎藤　他　　中央経済社）

【参考文献・資料】

適宜指示する。

会計理論特講

杉本典之

【授業の概要】

企業会計制度の国際化と会計基準の国際的統合が進展しつつある情況の中で、各国の会計基準設定主体や国際会計基準審議会等が会計基準や概念的枠組みを公表している。その会計基準や概念的枠組みを比較分析して、その根底に流れている会計理論の内、主として会計測定の局面に関わる理論を析出して修得する。

【授業の目標】

企業会計方式の情報システムは元来、営利目的の企業組織において発達してきたが、現代社会では公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。このような情報システムの汎用性と重要性について、この授業では会計測定のプロセスに焦点を合わせながら考察する。

【授業計画】

下記の事項に関する会計理論をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

（1）株式会社会計を典型とする企業会計
（2）情報システムとしての企業会計
（3）企業会計の認識・測定・伝達のプロセス
（4）会計的認識の特徴
（5）会計的測定の特徴

【評価方法】

論述式試験中心の筆記試験により評価する。

【テキスト】

下記の拙著等からプリントを作成して配付する。
会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－
（杉本典之著　同文舘）

【参考文献・資料】

必読必見の参考文献や資料は、必要に応じて、あるいは学生からの問い合わせに応じて、個別具体的に紹介し教示する。

091169001_0180　掲載順 :0180　MASTER ★

原価計算特講

三浦克人

【授業の概要】
実践規範である「原価計算基準」に示された原価計算制度を中心に教授する。具体的には、原価計算の目的、原価の諸概念、費目別計算、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算などをカバーする。また、財務会計機構と原価計算制度の有機的な結びつきについても整理する。

【授業の目標】
原価計算制度の基礎から応用までを修得する。

【授業計画】
1．原価計算総説
2．個別原価計算の基礎と応用
3．総合原価計算の基礎と応用
4．標準原価計算の基礎と応用
5．直接原価計算の基礎と応用
6．まとめ

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
最初の授業で指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091169001_0190　掲載順 :0190　MASTER ★

管理会計特講

吉村文雄

【授業の概要】
企業内外の環境、すなわち外部の市場取引だけでなく、内部の資源配分プロセスの観点から、管理会計の基礎概念を検討し、発展した業績測定システム（たとえば、ABC、ABB、無形資産の測定等）との関係を把握します。とくに、理論と実践との相互作用関係の枠組みをつかみ、この相互作用関係を検討します。

【授業の目標】
管理会計の理論と実践の相互作用関係を把握できるようにします。個別具体的な管理会計技法のモデルをつかみ、それが実際にどのように利用されるのかをガバナンスの視点とつなげて考察します。

【授業計画】
管理会計の理論と実務の相互関係を理解します。
第１部では、現存する管理会計の基礎概念を検討します。
第２部では、最新の管理会計技法の形態を認識し、その特徴を明らかにします。
第３部では、これまでの管理会計技法が最新の包括的な測定システムのなかで、どのように有効活用されるのかを検討します。

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心において、適宜プリントを使います。

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示します。

091169001_0200　掲載順 :0200　MASTER ▲

会計監査特講

前川三喜男

【授業の概要】
我が国の監査制度と、金融証券取引法に基づく監査実務について、監査基準を理解するとともに監査計画、監査リスク、内部統制の評価について監査手続等を具体的に解説する。

【授業の目標】
自由経済社会における証券市場の役割と、公認会計士監査の必要性を理解する。

【授業計画】
1～3　我が国の監査制度について
4～7　監査基準（一般基準、実施基準、報告基準）の理解
8～12　監査リスク、監査計画、内部統制の評価
13～15　内部監査制度、監査役監査

【評価方法】
筆記試験により評価する。

091169001_0210　掲載順 :0210　MASTER ★

民法特講

石畔重次

【授業の概要】
現代の法化社会においては法との関わりなしに企業活動を維持していくことはできない。私人間の法律関係を規律する私法の中で、最も基本的かつ重要な法が民法である。会社法等の企業活動に関する諸法を学ぶためにも、民法で私法の基礎概念を学ぶことが必須の前提となる。本講義では、民法のうち、法律行為や代理等に関する総則、債権の効力や債務不履行に関する債権総論、売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等の債権各論、さらに、物権法、担保物権法、親族、相続について研究する。

【授業の目標】
会計専門職に必要な民法及び関連法規に関する基礎的な知識及び法的な思考能力の涵養を目標とする。

【授業計画】
1．民法の基本原則
2．民法総則
　意思表示･法律行為、行為能力、代理、無効･取消、時効、法人
3．契約法
　契約の成立と効力、債務不履行と契約の解除、契約各論（売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等）
4．債権総論
　債権の種類、債務不履行、債権者代位権と詐害行為取消権、連帯債務と保証、債権譲渡、債権の消滅（弁済と相殺）
5．物権法
　物権の種類、物権的請求権、物権変動と対抗要件、所有権、用益物権、占有権
6．担保物権
　抵当権、質権、留置権、先取特権、非典型担保
7．不法行為
8．事務管理と不当利得
9．親族法、相続法

【評価方法】
レポートの提出または授業での状況によって評価する。

【テキスト】
おって指定する。

【参考文献・資料】
民法への招待（池田真朗著　税務経理協会）
ゼミナール民法入門（道垣内弘人著　日本経済新聞社）

会社法特講

上田純子

【授業の概要】

この講義では、会社法について、細かい論点に即して理解を深める。とりわけ、従来の商法から変更された制度については、その趣旨を正しく掴むことに努める。また、応用的学習として、主として学術的観点から個別の論点を深く掘り下げた文献を取り上げ、それらを読みこなしながら、緻密な論理的思考を重ね、解釈上および立法上の問題点を探究する。

【授業の目標】

会社法の全体的枠組みを掴むとともに、細部の論点を掘り下げることを目標とする。新たに加わった制度、相当に改変された制度、あるいは、廃止された制度、それぞれの理由を考え、会社法が従来の法制度をどこまで改善したのかの評価を、理論的側面と実務的側面の双方から加える。学術文献の読破が中心となるが、会社法の実務へのインパクトも併せて考察したい。

【授業計画】

・会社法の制定に至る経緯、会社法の枠組み
・会社の種類・比較
・株式会社の設立
・株主の権利
・株式
・募集株式の発行
・株式会社の機関総論
・株主総会
・取締役・取締役会
・会計参与・監査役・会計監査人
・委員会設置会社
・計算
・組織変更・組織再編

【評価方法】

講義への出席状況、授業態度、授業中に割り当てられる口頭報告や期末レポートの内容等を総合的に判断して決定する。

【テキスト】

受講生と相談のうえ、後日決定する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示または配布する。

交渉・説得術特講Ⅰ・Ⅱ

福本明子

【授業の概要】

「交渉」は「説得」の相互作用であるため、相互に関連が高い。「交渉術」「説得術」の発展の歴史や複数の理論を学習し、身の回りにこれらの理論がどのような形で利用・応用されているのか事例を取り上げ、学習します。前期に「説得」、後期には「交渉」を主に学習します。日本語・英語両方の文献を読み進めていきます。

【授業の目標】

理論を学習し、日常生活での作用を分析し、学習事項を実践できるようになることを目指す。

【授業計画】

前期「説得」、後期「交渉」についてそれぞれ学習します
1．「現実」とは、社会的現実の構築
2．定義、日常生活での概念の捉え方
3．発展の歴史
4．各種理論･アプローチ
5．理論のケーススタディー
6．調査・分析・発表

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーション、授業への参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表

異文化コミュニケーション特講Ⅰ・Ⅱ

ジョリー幸子

【授業の概要】

当コースはビジネスコミュニケーションの分野を異文化コミュニケーションの理論的背景から分析、考察を行う講座である。従って学生は、21世紀のボーダレス社会において、国際間でのビジネス取引や外資系企業において起こりうるIntercultural Communication分野に関連する諸問題を取り上げて学習する。

【授業の目標】

最近「異文化コミュニケーション」の分野が元来持つダイナミズムが矮小化されているという意見や、「英会話」と同意義語で使用されているという見方もある。本特講では下記の授業計画に沿って現代社会の持つ「異文化コミュニケーション」のあり方、理論的基盤を検討することを目標とする。

【授業計画】

1．Course Orientation
2．序　章：現代社会と異文化コミュニケーション
3．第１章：研究の歴史的背景
4．第２章：研究の方法と視点
5．第３章：研究と実践
6．第４章：理論の概念と理論の構築および評価
7．第５章：メッセージ中心の理論
8．第６章：対人関係中心の理論
9．第７章：集団・組織中心の理論
10．第８章：異文化接触中心の理論
11．第９章：新理論構築の意義
12．第10章：情報代謝理論より異文化交流史研究へ
13．まとめ
14．期末試験（またはレポート）

【評価方法】

期末試験、授業への参加状況、出席率などを総合的に評価判断する。

【テキスト】

異文化コミュニケーションの理論：新しいパラダイムを求めて（石井敏、久米昭元、遠山淳　有斐閣ブックス　2001）

【参考文献・資料】

Global Understanding: Success in International Business（Makoto Shishido, Bruce Allen　Seibido　2003）

国際ビジネスロー特講Ⅰ・Ⅱ

JOLLY, James A.

【Course description】

現在の企業活動は、海外との取引を抜きにしては語れない。商習慣や法制度が異なる海外との取引においては、国内取引には無い解決困難な問題が発生し、慎重なリスク管理が要求される。本講においては、国際売買契約、国際販売・代理店契約、国際ライセンス契約、国際合弁契約などの基本形態に関する知識を習得しながら国際取引の特質について考察していく。

The aim of this course is to provide the candidate with a comprehensive review of the basic concepts of business law currently used in international trade. The student is expected to acquire a working knowledge of the legal principles of international private law customarily applied and practiced in international business relationships and communications.

【Course objectives】

1．To provide candidate with a basic understanding and appreciation of the legal concepts a work in international business transactions.
2．To assist candidate in developing his or her own field of research and to provide further training in the legal concepts applicable to such.

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials.

1．Historical development of international law
2．International Chamber of Commerce and related trade guides
3．UN Commission on International Trade Law and related treaties and conventions
4．World Trade Organization and the Marrakesh Treaty provisions
5．INCOTERMS
6．UNIDROIT
7．UN Convention of the International Sales of Goods (UNCISG)

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

コンフロンテーションとディベート特講Ⅰ・Ⅱ

鈴木哲至

【授業の概要】
特講Ⅰでは、コンフロンテーションとディベートをビジネス交渉術として企業環境の中でいかに生かしていくかを研究する。特講Ⅱでは、今までに行われたアメリカ大統領候補テレビディベートを分析し、そこから学べるコミュニケーション技術の研究をする。

【授業の目標】
特講Ⅰでは、ディベートを「知の技術」として使う方法、特講Ⅱでは、アメリカ大統領候補から学べるビジネス交渉術を学ぶ。

【授業計画】
1）はじめに　2）成功するコンフロンテーションとディベート
3）コンフロンテーション概説　4）ディベート概説
5）論理的思考　6）情報の収集
7）情報の分析　8）シミュレーションの方法
9）プレゼンテーションの方法、
10）ディベート各論（立論、反対尋問、作戦、反駁、審査法）
11）ディベート準備
12）コンフロンテーション、ディベートの実践１
13）コンフロンテーション、ディベートの実践２
14）講評、フィードバック
15）まとめ（特講Ⅱでは、2008年に行われたオバマとマケインのアメリカ大統領候補テレビディベートの映像およびトランスクリプトを利用する。）

【評価方法】
出席状況、授業態度、プレゼンテーション、ディベート結果などを総合的に評価する。

【テキスト】
ザ・ディベート―自己責任時代の思考・表現技術
（茂木秀昭著　ちくま新書）
決定版 ハーバード流"NO"と言わせない交渉術
（フィッシャー著　三笠書房）

国際ビジネス比較特講Ⅰ・Ⅱ

小池弘道

【授業の概要】
海外諸国（アメリカ、ヨーロッパ、東南アジアなど）の価値観、宗教、慣習、法律、ビジネスの仕方について考える。そのうえで日本と比較し、現地でビジネスをするにあたって、「郷に入っては、郷に従うべきこと」と「郷にいっても郷に従うべきではないこと」について考察し、各内容について具体的な対応を考える。

【授業の目標】
海外のことについての知識不足からくるトラブルを、できるだけ避けるために必要なことを習得する。その一方で、摩擦が出ても、それを乗り越える必要のある分野もあるということについて具体的に理解する。

【授業計画】
諸外国の価値観、宗教、慣習、法律、ビジネスの仕方などの基本的なことについて考えてみる。そしてそれぞれの具体的内容について、日本との違いを把握する。更に、その違いを乗り越える方法について、現地流に従うべきか、日本流を通すべきか、折衷案を考えるべきかという面から考察する。

【評価方法】
レポート・単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】
必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】
授業の中で、適宜指示する。

ジェンダー特講Ⅰ・Ⅱ

國信潤子

【授業の概要】
産業社会学の領域である。ジェンダー（社会文化的性による格差）に敏感な視点で国内外の男女雇用機会均等の実態、労使関係、正規雇用者と非正規雇用者との格差、家庭的責任を持つ労働者の問題など有償・無償労働の両面について、産業社会学の手法で比較検討する。各種資料、統計データ等から、生活、ビジネス、地域などでの性別役割の実態、さらに経済活動における男女の組織関係、行動様式および意思決定などにおけるジェンダー間異同を検討する。

【授業の目標】
大学院生各自の問題意識探求のために先行研究を講読、考察する。英語研究論文を講読できるようにする。

【授業計画】
ビジネスにおけるジェンダー格差を多様な切り口で研究する。
1）統計資料から労働、家族などの領域の多様なデータを比較検討。
2）事例的に経済活動、家族的責任の遂行などの領域でジェンダー格差について考察。
3）ジェンダー格差形成の要因を検討。
4）男性・女性労働者の家族的責任、女性差別撤廃、移住労働者の権利などに関連するグローバル・スタンダードを研究する。

学生各自が自分の研究テーマを絞り、そのテーマにそって各自がリサーチし、報告を行う。テーマの例としては、雇用機会均等法の法制の推移、実施状況、少子化社会への対策、女性の就労継続などを取り上げ、日本社会におけるビジネスとジェンダーの実態について検討する。

【評価方法】
履修態度、出席状況、期末レポート、討議を行うなどこれらの総合評価による。

【テキスト】
産業社会学の領域のなかで、学生の問題意識に沿って随時資料提示する。

【参考文献・資料】
随時、資料を提示する。

経営情報システム特講Ⅰ

林 誠

【授業の概要】
経営に関連する情報や知識をシステムの視点からアプローチし、経営における情報システムはいかにあるべきかを研究する。まず､「経営戦略ありき」からスタートし、情報システムは企業の経営活動を支援し、補完するツールとして位置づける。当講座では、組織における人間相互の活動と情報システムの相互作用により、あるべき経営活動を探求する。

【授業の目標】
企業組織とITの相互関係について、ケースを中心に理解を深める。企業の経営活動を知識創造、ビジネスプロセスを学習プロセスとしてとらえ、多次元構造の新しいビジネスモデルを追求する。

【授業計画】
・産業と経営の情報化（経営情報システムの定義と構成、情報システムの発展段階、ビジネスプロセスリエンジニアリングと戦略的情報活用）
・経営戦略の策定とビジネスモデルの構築（経営戦略策定の手順、経営戦略と組織戦略、バリューチェーン、ビジネスモデル構築の手法、ITCとビジネスモデル）
・競争と協調の戦略（ゴミ箱モデルと市場の組織化、戦略的提携、サプライチェーンマネジメント、スマートシンクロナイゼーション）
・ケーススタディに基づく研究

【評価方法】
授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】
適時参考文献を紹介し、資料を配布する。

【参考文献・資料】
超企業・組織論（高橋伸夫著　有斐閣）
イノベーションのジレンマ（クリステンセン著　翔泳社）
イノベーションの解（クリステンセン著　翔泳社）

経営情報システム特講 II

林 誠

【授業の概要】
近年のICT（情報通信技術）の進歩は著しく、企業の経営活動にも大きな影響を与えるようになっている。とくにインターネット技術の発展は経営情報システムの構造のみならず、企業の組織や意思決定プロセスについても大きく変えつつある。当講座では、経営情報システムを個人、グループの階層構造とITと知的創造活動の融合の面から研究する。

【授業の目標】
企業組織とITの相互関係について、ケースを中心に理解を深める。企業の経営活動を知識創造、ビジネスプロセスを学習プロセスとしてとらえ、多次元構造の新しいビジネスモデルを追求する。

【授業計画】
・組織と情報システム（組織のダイナミックス、意思決定と情報、意思決定プロセスとリーダーシップ、情報と問題解決プロセス）
・組織階層と情報システム（組織情報システムの目的と構造、グループ情報システム、個人情報システム）
・知識創造プロセス（情報と知識の体系、暗黙知と形式知、移動型知識と埋め込み型知識、組織学習、ナレッジマネジメントシステム、eラーニングとナレッジチェーンマネジメント）
・ケーススタディによる研究

【評価方法】
授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】
適時指示する。

【参考文献・資料】
知識転換の経営学（原田勉著　東洋経済新報社）
情報経済論（福田豊・須藤修・早見均著　有斐閣）

情報倫理特講 I

梅田敏文

【授業の概要】
情報倫理は、どのような背景から必要とされる学問なのか、また、現在どのような課題に挑戦しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。
当講義では、英文テキストをベースに、情報倫理が必要とされる背景、功利主義・義務論・徳の倫理学などの倫理理論、情報技術専門家の意義・利害関係者との関係、インターネットに関する倫理問題などを検討する。

【授業の目標】
情報倫理の主要課題と内容を理解し、課題解決の今後の方向性を検討する。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．情報倫理の必要性
3．倫理の理論的枠組み
4．プロフェッショナル倫理
5．インターネットに関する倫理

【評価方法】
出席、課題発表、期末テストで評価する。

【テキスト】
Computer Ethics(Johnson, Deborah G. Prentice Hall 2001)

情報倫理特講 II

梅田敏文

【授業の概要】
情報倫理の分野の主要課題である、プライバシー、所有権などを取り上げ、伝統的なこれらの概念がどのように変化しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。
当講義では、英文テキストをベースに、情報技術の進展によるプライバシーの変化、知的財産権とコンピュータソフトの問題、倫理と責任の問題、社会における情報技術の意義や課題などを論じる。

【授業の目標】
情報倫理の主要課題と内容を理解し、課題解決の今後の方向性を検討する。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．プライバシー
3．所有権
4．責任
5．情報技術と社会

【評価方法】
出席、課題発表、期末テストで評価する。

【テキスト】
Computer Ethics (Johnson, Deborah G. Prentice Hall 2001)

システム開発特講 I・II

三浦信宏

【授業の概要】
情報システム開発のプロセスを理解し、それぞれの開発局面において必要となるソフトウェアの設計技法を習得する。また、ソフトウェア工学的な知識だけでなく、プロジェクトを運営していくための計画・管理技法についても採り上げる。

【授業の目標】
ソフトウェア開発の手順と管理を修得する。

【授業計画】
1．情報システム開発のプロセス
2．要件定義技法I
3．要件定義技法II
4．ソフトウェア外部設計技法I
5．ソフトウェア外部設計技法II
6．ソフトウェア内部設計技法I
7．ソフトウェア内部設計技法II
8．テスト技法
9．情報システムの運営と管理
10．情報システム開発プロジェクトの管理I
11．情報システム開発プロジェクトの管理II
12．情報システム開発プロジェクトの管理III
13．まとめ
14．発表と討論

【評価方法】
出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
ソフトウェア工学（河村一樹著　近代科学社）

【参考文献・資料】
授業の途中に適宜、資料を配布する。

リスク管理特講 I

上原 衛

【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したｅビジネスの進展とともに、現在の情報社会は財務・法務・オペレーションを含めた様々なビジネスリスクや通信ネットワーク上のリスクに晒されており、不正や不祥事などの多くの問題が発生している。本講では、まずコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスを包含した内部統制とERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みを理解したうえで、さまざまなビジネスリスクについて具体的な事例を通して概観する。そして、その発生のメカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、金融派生商品（デリバティブ）を利用した会計不正事件や、情報社会におけるネットワーク上のコミュニケーション時のリスクなどの情報社会におけるビジネスリスクに焦点を当てる。

【授業の目標】

戦略的総合リスクマネジメント（ERM:Enterprise Risk Management）を概観し、その発生のメカニズム、リスクの評価・認識・管理について理解する。特に、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクと情報社会におけるビジネスリスクに関するリスクマネジメントに関しての理解を深め、専門性を高める。

【授業計画】

1．内部統制、ERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みについて
2．情報社会におけるビジネスリスク（信用リスク、市場リスク、会計不祥事、レピュテーショナル・リスク、ネット告発）、システムリスクについて
3．情報セキュリティ（コンピュータ・ウィルス、不正アクセス・改ざん、暗号化、電子帳票の認証、電子商取引、電子マネー、知的所有権、個人情報保護）について
4．情報社会におけるリスクの増大について
5．リスク・アセスメント、リスク分析
6．金融派生商品（デリバティブ）を利用した会計不正事件
7．ネットワーク上でのリスク

【評価方法】

講義と討議への積極的参加度に加え、研究への取り組み姿勢と理解度を総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

リスク管理特講 II

上原 衛

【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したｅビジネスの進展とともに、現在の情報社会は財務・法務・オペレーションを含めた様々なビジネスリスクや通信ネットワーク上のリスクに晒されており、不正や不祥事などの多くの問題が発生している。本講では、まずコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスを包含した内部統制とERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みを理解したうえで、さまざまなビジネスリスクについて具体的な事例を通して概観する。そして、その発生のメカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、情報社会におけるネットワーク上でのビジネスリスク、電子帳票における信憑性と情報セキュリティに焦点を当てる。

リスク管理に関して、まず、内部統制とERMにおける統合的な枠組みを理解したうえで、具体例をとおして、情報セキュリティ管理からビジネスリスク管理に至るまで理解を深めていく。

【授業の目標】

内部統制とERM(Enterprise Risk Managemaent)における統合的な枠組みに関する理解を深める。

【授業計画】

1．内部統制、ERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みについて
2．情報社会におけるビジネスリスク（信用リスク、市場リスク、会計不祥事、レピュテーショナル・リスク、ネット告発）、システムリスクについて
3．情報セキュリティ（コンピュータ・ウィルス、不正アクセス・改ざん、暗号化、電子帳票の認証、電子商取引、電子マネー、知的所有権、個人情報保護）
4．情報社会におけるリスクの増大について
5．ビジネスリスク管理、情報セキュリティ管理
6．電子帳票における信憑性の確保と暗号化

【評価方法】

講義と討議への積極的参加度に加え、研究への取り組み姿勢と理解度を総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

プログラミング特講 I・II

西荒井学

【授業の概要】

情報資源の管理・運営システムを構築するのに必要なシステム分析からシステム設計に至る範囲内の問題を追及する。特に、コンピュータ処理を実現するのに最も重要であると思われるプログラミング設計部分、言い換えればアルゴリズムの問題を中心に考えていく。

【授業の目標】

情報システムの設計・開発に関わる諸問題を受講者相互の報告、議論を通じて、探求していく。

【授業計画】

前半
　1）既存ソフトウェアの機能分析
　2）ソフトウェアの機能動作試験
　3）ソフトウェアのカスタマイズ
　4）総合検討

各種システムの構築に関わる問題を探究していくための題材として、既存ソフトウェアの機能分析を課題として与える。受講者は、担当部分の機能特性を明らかにした上で、逐次互いに種々の問題点を検討していく。

後半
　1）要求定義（機能設計、情報設計）の問題
　2）システム設計技法の問題
　3）プログラム設計技法の問題
　4）プログラミング技法の問題

各種システムの構築に関わる問題を探索していくための題材として、『システム設計に関する学習プログラム』の作成を課題として与えることとする。受講生は、担当部分のモジュールの特性を考慮した上で、適切なアルゴリズムの展開を図り、最終的にコンピュータ処理段階まで移行させていくことによって、種々の問題点を互いに検討していく。

なお、受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

【評価方法】

課題の進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず

プログラミング特講 III・IV

三浦信宏

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須要件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの背景となる数学的基礎、プログラミングの基本的な考え方および手法を解説し、また実習による体験を通じて、日常生活、社会活動、研究活動等において有用な諸プログラムを作成する能力を養成する。

【授業の目標】

論理的思考能力の養成およびプログラミング技術の習得

【授業計画】

1．プログラミングの基礎
2．プログラミングに必要な数学的基礎I
3．プログラミングに必要な数学的基礎II
4．プログラミング実習（市販統計ソフトを用いた問題解決、図表化）
5．プログラミング（1）変数、式、演算子
6．プログラミング（2）関数
7．プログラミング実習（変数、式、演算子、関数）
8．プログラミング（3）くり返し
9．プログラミング実習（くり返し）
10．プログラミング（4）条件による分岐、フローチャート
11．プログラミング実習（条件による分岐）
12．プログラミング（5）作図、グラフ作成
13．プログラミング実習（作図、グラフ作成）
14．補足とまとめ

1．プログラミング概論
2．統計学基礎I
3．統計学基礎II
4．プログラミング実習（市販統計ソフトを用いた問題解決、図表化）
5．プログラミング実習（正規分布、二項分布）
6．プログラミング実習（平均、標準偏差）
7．プログラミング実習（共分散、相関係数、回帰分析）
8．コンピュータシミュレーション基礎I
9．コンピュータシミュレーション基礎II
10．プログラミング実習（シミュレーション）
11．プログラミング実習（シミュレーション）
12．プログラミング実習（ゲーム用プログラム）
13．プログラミング実習（総括）
14．補足とまとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

プログラミング特講 V・VI

伊藤 雅

【授業の概要】

［プログラミング］＝［アルゴリズム］＋［データ構造］である。対象を高級言語に限れば、高級言語はさらに手続き型言語と非手続き型言語に分類できる。前者の代表格がCであり、後者のそれがJavaである。プログラミング言語をひとつ決めるとそのプログラミングパラダイム（考え方）が決まる。アルゴリズムやデータ構造もそのプログラミングパラダイムに依存する。JavaはC、C++といった手続き型言語を発展させて誕生したオブジェクト指向言語である。本特講Vでは、C言語のポインタや構造体といった概念からスタートし、C++言語のクラスの概念を経て、Java言語で簡単なクライアント/サーバ・アプリケーションが構築できるまでを修得する。

プログラミングの最近の主流はオブジェクト指向プログラミングである。さらに一歩進めたアスペクト指向プログラミングというのも存在する。さて、身近なオブジェクト指向言語のひとつにJavaがある。JavaはC、C++といった手続き型言語を発展させて誕生した言語である。本特講VIでは、CやC++言語をある程度理解しているものとしてJavaについての造詣を深める。GUIプログラミングやネットワークプログラミングといったJavaアプリケーションだけに留まらず、JavaスクリプトやJavaアプレットについても言及する。

【授業の目標】

プログラミング特講Vの目標はGUIプログラミングの理解と実践である。同VIの目標はネットワークアプリケーションの構築である。

【授業計画】

1．開発環境の整備	1．開発環境の整備
2．C言語の特長	2．C言語の特長
3．ポインタと構造体	3．ポインタと構造体
4．Cによるファイル処理	4．C++言語の特長
5．C++言語の特長	5．クラス概念
6．クラス概念	6．Java言語の特長
7．コンストラクタ／デストラクタ	7．Javaスクリプト
8．単一継承・多重継承	8．インタフェースと抽象クラス
9．C++によるストリーム処理	9．イベント処理
10．Java言語の特長	10．例外処理
11．インタフェースと抽象クラス	11．GUIプログラミング
12．AWTとSwingによるGUI	12．ネットワークプログラミング
13．クライアント／サーバの構築	13．Javaアプレット
14．補遺	14．補遺

【評価方法】

半期に３課題を適宜提示する。それのレポートを提出されたい。レポートは毎回A，B，C，Dで評価する。100点満点として、60点未満でF、60点以上でC、70点以上でB、80点以上でA、90点以上でA＋とする。

【テキスト】

理工系のJavaプログラミングテキスト　山本富士男著　技術評論社

【参考文献・資料】

コア　Java２ Vol.１　基礎編　アスキー
コア　Java２ Vol.２　応用編　アスキー

演習 I・II・III・IV

研究指導教員

【授業の概要】

研究指導教員の個別指導により修士論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

修士論文の作成・完成

【授業計画】

２年間にわたり個人指導をする。

【評価方法】

演習への取り組み、レポート、試験等により評価する。
詳細は、初回の授業にて明示する。

簿記 I

中村雅文

【授業の概要】
講義：簿記は企業で生起する様々な取引を記録・集計・報告するための技術であるが、簿記の対象となる取引はきわめて多様である。かかる簿記のシステムからもたらされる情報は、数多くある経営情報のなかでも重要なもののひとつでもある。高度情報化社会といわれている今日、簿記は企業の経営者にとって不可欠であるばかりではなく、企業を取り巻く利害関係者にとっても重要である。本講義では、このような観点から、個別財務諸表を作成する上で必要となるさまざまな取引にかかる処理技術や決算において必要な知識に焦点を合わせて勉学していくことを目標とする。

【授業の目標】
この授業では、一見難解に思える簿記に親しむことから入り、その基礎から簿記検定２級（一部１級）程度までの知識の習得を目標とする。また、会計実務の世界では日々新たな事象が起きており、それを処理する簿記技術も実務の変化を反映して進歩していることから、企業における会計実務の動向も視野に入れた授業を目指す。

【授業計画】
1．複式簿記とは
2．一般商品売買と信用取引
3．特殊商品取引
4．有価証券の取引及び評価
5．引当金会計
6．固定資産会計（有形・無形固定資産、投資等）
7．その他の資産・負債取引及び損益取引
8．決算整理事項・試算表・精算表
9．株式会社の税金
10．個別財務諸表の概要

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
最初の講義で指示する。

【参考文献・資料】
最初の講義で指示する。

簿記 II

中村雅文

【授業の概要】
講義：本講義では、個別財務諸表を作成する上で必要なさまざまな取引の処理方法や決算に必要な知識を習得するだけではなく、企業会計上、重要な個別的分野、例えば外貨換算会計、金融商品会計、減損会計、税効果会計等、特殊な取引を含めた総合的な問題の知識や処理技術をも習得し、さらに連結財務諸表の作成知識にも踏み込む。

【授業の目標】
この授業では、簿記Ｉで学習した知識を基礎として、より深く会計実務の処理技術を勉学することを目標とする。従って、企業会計において個別に論じられる諸問題に関しても学習していくとともに、会社法、金融商品取引法との関連をも考察する。さらに国際会計基準とのコンバージェンスの問題も関連つけながら説明する。

【授業計画】
1．企業会計原則の理解
2．会計上の個別問題
　①外貨換算会計
　②金融商品会計
　③減損会計
　④税効果会計
　⑤リース会計
　⑥退職給付会計
　⑦資本会計
3．会社の決算
4．連結会計

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
最初の講義で指示する

【参考文献・資料】
最初の講義で指示する

会計理論 I

杉本典之

【授業の概要】
講義：企業会計制度の国際化と会計基準の国際的統合が進展しつつある状況の中で、各国の会計基準設定主体や国際会計基準審議会等が会計基準や概念的枠組みを公表している。その会計基準や概念的枠組みを比較分析して、その根底に流れている会計理論の内、主として会計測定の局面に関わる理論を析出して修得する。

【授業の目標】
企業会計方式の情報システムは元来、営利目的の企業組織において発達してきたが、現代社会では公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。このような情報システムの汎用性と重要性について、この授業では会計測定のプロセスに焦点を合わせながら考察する。

【授業計画】
下記の事項に関する会計理論をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。
（１）株式会社会計を典型とする企業会計
（２）情報システムとしての企業会計
（３）企業会計の認識・測定・伝達のプロセス
（４）会計的認識の特徴
（５）会計的測定の特徴

【評価方法】
論述式試験中心の筆記試験により評価する。

【テキスト】
下記の拙著等からプリントを作成して配付する。
会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－
（杉本典之著　同文舘）

【参考文献・資料】
必読必見の参考文献や資料は、必要に応じて、あるいは学生からの問い合わせに応じて、個別具体的に紹介し教示する。

会計理論 II

杉本典之

【授業の概要】
講義：各国の会計基準設定主体や国際会計基準審議会等が公表している会計基準や概念的枠組みを比較分析して、その根底に流れている会計理論の内、主として財務諸表を媒介にして会計情報が伝達される局面に関わる理論を析出して修得する。

【授業の目標】
企業会計方式の情報システムは元来、営利目的の企業組織において発達してきたが、現代社会では公的な組織でも非営利目的の組織でも重要視され採用されるようになってきた。このような情報システムの汎用性と重要性について、この授業では会計伝達のプロセスに焦点を合わせながら考察する。

【授業計画】
下記の事項に関する会計理論をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。
（１）情報システムとしての企業会計の基本的構造
（２）記号規約としての公正妥当な会計基準
（３）決算財務諸表をめぐる会計基準
（４）会計基準の国際的共通化
（５）各国の会計基準と国際会計基準の動向

【評価方法】
論述式試験中心の筆記試験により評価する。

【テキスト】
下記の拙著等からプリントを作成して配付する。
会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－
（杉本典之著　同文舘）

【参考文献・資料】
必読必見の参考文献や資料は、必要に応じて、あるいは学生からの問い合わせに応じて、個別具体的に紹介し教示する。

091170003_0050　掲載順：0050　MASTER ★

財務会計Ⅰ

石川雅之

【授業の概要】
講義：財務会計の領域のうち、制度に係わる面を取り扱う。具体的には、現代財務会計の論理的基盤を考察し、次いで財務諸表制度を支える各種法令について、それぞれの基本的考え方を理解し、さらにそれらを批判的に検討することを通じて、それぞれの規定がどのような意味をもち、またどのような役割が期待されているのかを検討する。また、必要に応じてその時々に検討課題とされている問題について検討する。

【授業の目標】
現代財務会計制度に係わるさまざまな知識を身につけるとともに、現代財務会計のかかえる諸問題を考察する能力を養う。

【授業計画】
1．現代財務会計のフレームワーク
2．財務会計制度の論理と体系
3．会計ディスクロージャーに対するインセンティブ
4．財務諸表の構造と法令
5．業績報告の潮流

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
財務会計論　Ⅰ基本論点編（河崎・斎藤　他　　中央経済社）

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091170003_0060　掲載順：0060　MASTER ★

財務会計Ⅱ

石川雅之

【授業の概要】
講義：財務会計Ⅰに引き続いて、財務諸表制度を支える各種法令について、その基本的考え方を理解するとともに、その政策的意義を考察する。また、財務会計の論理的基盤がどのように変化してきたかを踏まえて、現行財務会計制度の抱える問題点や新たな課題を検討し、さらに、必要に応じて理論的な問題も検討する。その時々に検討課題とされている問題についても検討する。

【授業の目標】
現代財務会計制度に係わるさまざまな知識を身につけるとともに、現代財務会計のかかえる諸問題を考察する能力を養う。

【授業計画】
1．財務諸表制度を支える各種法令の趣旨
2．財務報告目的と財務諸表制度
3．財務会計の新しい潮流
4．財務会計制度の新たな課題

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
財務会計論　Ⅱ応用論点編（河崎・斎藤　他　　中央経済社）

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091170003_0070　掲載順：0070　MASTER ★

会計ディスクロージャー

西崎賢治

【授業の概要】
講義：ディスクロージャー制度を一通り学習するとともに、企業が開示する決算短信、有価証券報告書、半期報告書、四半期報告書の内容を実際に確認し、その情報を基に企業の特徴や経営者の情報開示行動について詳しく分析する。

【授業の目標】
ディスクロージャー制度と経営者の情報開示行動について十分に理解すること。

【授業計画】
1．会計ディスクロージャーの意義
2．会計ディスクロージャーの現状と展望
3．有価証券報告書の見方、読み方
4．半期報告書および四半期報告書の見方、読み方
5．コーポーレート・ガバナンスと会計ディスクロージャー
6．強制的ディスクロージャーと自発的ディスクロージャー
7．情報の非対称性と会計ディスクロージャー
8．ディスクロージャーと監査制度

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
別途指示する。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著　日本経済新聞社）
企業会計とディスクロージャー第３版（斎藤静樹　東京大学出版会）
ディスクロージャーの戦略と効果（須田一幸編著　森山書店）
適時開示ハンドブック（久保幸年著　中央経済社）
金融商品取引法におけるディスクロージャー制度（小谷融・内山正次編著　税研）
監査小六法（日本公認会計士協会　中央経済社）

091170003_0080　掲載順：0080　MASTER ★

財務諸表分析

西崎賢治

【授業の概要】
講義：会計情報による経営分析の基本的な手法についての理解を深め、実際に企業が公表している会計情報をもとに経営分析を行い、企業価値の評価方法や株主価値を高める事業戦略などを習得する。

【授業の目標】
企業の分析スキルを身につけ、企業の戦略や経営行動を評価できるようになること。

【授業計画】
1．企業評価の必要性
2．損益計算書の分析
3．貸借対照表の分析
4．キャッシュフロー分析
5．連結財務諸表分析
6．資本利益率（ROA、ROE）の意義と問題点
7．株主価値の創造とEVA
8．投下資本利益率（ROIC）と加重平均資本コスト（WACC）
9．株主価値を高める事業戦略

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
別途指示する。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】
財務諸表分析第３版（桜井久勝著　中央経済社）
企業分析シナリオ第２版（西山茂著　東洋経済新報社）
ゼミナール企業価値評価（伊藤邦雄著　日本経済新聞社）
企業分析入門第２版（クリシュナＧバレプ著　東京大学出版会）

会計基準

石川雅之

【授業の概要】

講義：企業の財務報告を律する会計基準がどのような役割をはたしているのか、どのような経緯で会計基準が誕生したのか、どのような構造になっているのかについて理解する。そして、各国の会計基準がどのような方法によって設定されているのか、どのような特徴があるのかについての理解を深める。また、会計基準設定機関についても学習する。

【授業の目標】

現代財務会計制度を支える会計基準についてのさまざまな知識を身につけるとともに、現代財務会計制度における会計基準の役割についての理解を深める。

【授業計画】

会計基準の役割
会計基準制定の歴史
会計基準の構造
会計基準の設定方法
会計基準設定機関

【評価方法】

筆記試験により評価する。

【テキスト】

小林秀行『会計基準』（同文館）必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

会計制度

石川雅之

【授業の概要】

講義：会計制度を企業の外部利害関係者に対する財務報告を目的とする制度として捉え、その制度がどのような規定に基づき、どのような仕組みで運営されているのかについての理解を深め、さらに会計制度その理論的構造と問題点を検討する。また、可能であれば、提案されている会計基準の公開草案やコメントの検討を行う。

【授業の目標】

現代財務会計制度の基礎構造を理解する。

【授業計画】

会計制度の目的
会社法の規定する会計制度
証券取引法の規定する会計制度
税法と企業会計
会計法規の構造
制度の変更

【評価方法】

筆記試験により評価する。

【テキスト】

会計制度（山地範明 同文館）

【参考文献・資料】

会計諸則集

国際会計 I

西崎賢治

【授業の概要】

講義：国際会計基準（国際財務報告基準、IFRS）を中心に日本基準や米国基準のコンバージェンスが加速化してきている。このような背景の中で、国際会計基準が日本基準に与える影響等について、各自の報告と理解に対応しながら講義を行う。必要な範囲で国際会計基準の条文自体も取り上げるほか、実際の財務諸表について各基準の比較を行うことにより、現在の差異の理解を明確にさせる。

なお、必要に応じて、国際会計基準が中国基準に与える影響等についても学習する。

【授業の目標】

日本の会計基準設定主体である企業会計基準委員会は、2011年までに日本基準とIFRSとの間の差異を解消することを宣言した。このような背景の下で、世界的な会計基準のコンバージェンスの現状を理解するとともに、日本基準と世界基準の乖離の解消のための今後の日本基準における動向のキャッチアップを図る。

【授業計画】

（1）IFRSと日本基準或いは米国基準とのコンバージェンスの経緯
（2）日本基準とIFRSの間の重要な差異についての内容分析とその後の対応
（3）IFRSのフレームワークをはじめ、IFRSの主要な原文購読
（4）中国会計基準の動向
（5）各基準（IFRS、日本基準、米国基準、中国基準）により作成された財務諸表の比較
（6）今後の日本基準改訂の動向

【評価方法】

筆記試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

国際会計基準審議会(IASB)のホームページ
米国財務会計基準審議会(FASB)のホームページ
監査小六法（日本公認会計士協会編　中央経済社）
国際財務報告基準の実務（デロイトトウシュトーマツ編　中央経済社）
中日対訳 中国企業会計準則（近藤弘監修　中央経済社）

国際会計 II

西崎賢治

【授業の概要】

講義：国際会計 I に引き続き、国際会計基準(国際財務報告基準、IFRS)のなかで関心があるテーマを取り上げ、会計処理及び財務諸表での開示について、各自の報告と理解に対応しながら講義する。必要な範囲でテーマに関する国際会計基準の条文の原文の読解を重点に置き、適切な議論のプロセスを導けるようになることを目的とする。

【授業の目標】

日本基準・米国基準・中国基準とIFRSとの差異を明確にし、取りあげたテーマに関して職業的専門家としての会計的議論ができるようにすること。また、日本の上場会社で2008年度から強制適用される内部統制報告書に関してもテーマとして取りあげる。

【授業計画】

議論を通してIFRSや米国基準の理解を深めると同時に、あるべき日本基準はいかなるものかを検討する。
取りあげる予定の具体的な主なテーマは以下のとおり。
（1）財務諸表の開示
（2）包括利益概念
（3）収益認識基準
（4）減損会計
（5）金融商品会計－特に、ヘッジ会計の適用について
（6）企業結合会計－特に、のれん（Goodwill）について
（7）連結範囲
（8）内部統制報告書に関して
なお、必要に応じて中国基準の動向も学習する。

【評価方法】

筆記試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

国際会計基準審議会(IASB)のホームページ
米国財務会計基準審議会(FASB)のホームページ
監査小六法（日本公認会計士協会編　中央経済社）
国際財務報告基準の実務（デロイトトウシュトーマツ編　中央経済社）
中日対訳 中国企業会計準則（近藤弘監修　中央経済社）

091170003_0130　掲載順 :0130　MASTER ★

公会計 I

中村雅文

【授業の概要】
講義：公会計の基本的な考え方や基礎的諸概念を理解し、さらに公会計に係る会計制度や監査制度について現状を認識し、もって企業会計制度との違いを通じて今日の公会計の意義や課せられた課題を検討する。さらに公会計の発展過程にふれながらその適用領域についても考察する。

【授業の目標】
公会計の概念を理解し、公会計の現状を知り、企業会計との違いを把握する。また、この授業では、国や地方自治体の会計だけではなく、その周辺にある公益法人会計等についても研究のテーマとする。

【授業計画】
1．公会計の意義と目的
2．公会計の現状とその改革
3．公会計の仕組と勘定体系
4．公会計と企業会計
5．公的部門の監査制度
6．公益法人会計の概要

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
最初の講義で指示する。

【参考文献・資料】
最初の講義で指示する。

091170003_0140　掲載順 :0140　MASTER ★

公会計 II

中村雅文

【授業の概要】
講義：公会計に係る会計制度や監査制度について、その現状を理解・検討することを通じ、公会計の今後を探る。特に今日、公会計改革がいろいろな方面で叫ばれていることを踏まえ、公会計改革の必要性と今後の方向性を理解し、国や地方自治体等が取り組むさまざまな行政手法の改革に、会計・監査はいかにかかわることができるかを考察する。

【授業の目標】
公会計 I での学習を基礎として、現在の公会計を取り巻く環境を研究する。具体的には、企業会計との相違はどこからくるのか、それは何故か、歩み寄る必要性はないのか等について考察する。また、公会計の今後の課題、特にこれから作成が始まる地方自治体の決算書の作成モデルについて研究する。さらに地方自治体の外部監査や行政評価制度についても研究する。

【授業計画】
1．財政制度の概要
2．一般会計と特別会計
3．包括外部監査制度
4．行政評価制度・指定管理者制度
5．公会計の二つのモデル
　①総務省改訂モデル
　②基準モデル
6．公会計原則の概要
7．公会計-今後の方向性

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
最初の講義で指示する。

【参考文献・資料】
最初の講義で指示する。

091170003_0150　掲載順 :0150　MASTER ★

原価計算 I

三浦克人

【授業の概要】
講義：実践規範である「原価計算基準」に示された原価計算制度を中心に教授する。具体的には、原価計算の目的、原価の諸概念、費目別計算、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算、標準原価計算、直接原価計算などをカバーする。また、財務会計機構と原価計算制度の有機的な結びつきについても整理する。

【授業の目標】
原価計算制度の基礎から応用までを修得する。

【授業計画】
1．原価計算総説
2．個別原価計算の基礎と応用
3．総合原価計算の基礎と応用
4．標準原価計算の基礎と応用
5．直接原価計算の基礎と応用
6．まとめ

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
最初の授業で指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091170003_0160　掲載順 :0160　MASTER ★

原価計算 II

三浦克人

【授業の概要】
講義：原価計算の新しい分野であるABC/ABM、原価企画、品質原価計算、ライフサイクルコスティングなどについて、90年代初頭から現在にいたるまでの進化を概観しながら、経営管理との関連を視野に入れて議論する。さらに、内外の学術論文を参照し、原価計算研究の最新の動向についても検討する。

【授業の目標】
原価計算制度の知識と技能をベースとしながら，制度の枠外にある，さまざなま原価計算・原価管理の技法を修得する。

【授業計画】
1．活動基準原価計算
2．原価企画
3．品質原価計算
4．ライフサイクルコスティング
5．原価計算の最新動向
6．まとめ

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

管理会計 I

吉村文雄

【授業の概要】
講義：企業内外の環境、すなわち外部の市場取引だけでなく、内部の資源配分プロセスの観点から、管理会計の基礎概念を検討し、発展した業績測定システム（たとえば、ABC、ABB、無形資産の測定等）との関係を把握します。とくに、理論と実践との相互作用関係の枠組みをつかみ、この相互作用関係を検討します。

【授業の目標】
管理会計の理論と実践の相互作用関係を把握できるようにします。個別具体的な管理会計技法のモデルをつかみ、それが実際にどのように利用されるのかをガバナンスの視点とつなげて考察します。

【授業計画】
管理会計の理論と実務の相互関係を理解します。
第１部では、現存する管理会計の基礎概念を検討します。
第２部では、最新の管理会計技法の形態を認識し、その特徴を明らかにします。
第３部では、これまでの管理会計技法が最新の包括的な測定システムのなかで、どのように有効活用されるのかを検討します。

【評価方法】
筆記試験により評価します。

【テキスト】
吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心において、適宜プリントを使います。

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示します。

管理会計 II

吉村文雄

【授業の概要】
講義：管理会計の機能形態としての組織コントロール（組織のフィードフォワード・コントロールおよびフィードバック・コントロール）を意思決定・業績評価のプロセスと結びつけるシステムの基本型と展開を検討するとともに、それらの機能形態を代表する管理会計技法を示すことによって管理会計の特徴を明らかにします。最後に包括的管理会計システムの課題を検討します。

【授業の目標】
管理会計の理論と実務の相互作用関係を理解できるようにします。管理会計の制度的枠組みをつかみ、それが管理会計システムをとおしてどのように人間の相互行為のなかに浸透していくのかを考察します。

【授業計画】
管理会計技法の手段的特徴と貢献的機能の性格を把握します。
第１部では、管理会計システムの貢献的機能を組織コントロールと意思決定・業績評価の二側面に分ける場合の根拠を説明します。
第２部では、戦略と閉ループ・コントロール・システムの枠組みに意思決定・業績評価のプロセスがどのように組み込まれるのかを明らかにします。
第３部では、利益管理および戦略管理のための管理会計システム（原価企画、ABC、ABB、BSC等）の有効活用法を検討します。

【評価方法】
筆記試験により評価します。

【テキスト】
吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心において、適宜プリントを使います。

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示します。

管理会計事例研究 I

吉村文雄

【授業の概要】
講義：管理会計システムおよびそれを構成する管理会計諸技法の機能・性能を把握し、経営管理活動との相互作用関係を具体的に理解します。その場合事例研究の必要性、事例研究のアプローチ、諸外国とわが国の事例研究の比較分析等の考察を通じて事例研究の考え方や有効性について論じます。

【授業の目標】
管理会計の理論と実務の相互作用関係が理解できるようにします。管理会計の制度的枠組みとその生産・再生産の運動との関係をつかめるようにします。たとえば、ゼロ在庫システムの会計がどのような経済環境で適合するのかを明らかにします。

【授業計画】
管理会計システムがどのように経営管理活動を構成するのかを具体的に理解します。
第１部では、事例研究のアプローチ、事例研究の実施法等を論じ、事例研究の基礎を理解します。
第２部では、事例研究の業績を分析・評価し、事例研究の展開を把握します。
第３部では、事例研究の成果を諸外国とわが国の事例研究の比較分析等を通じて把握します。

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心に進めますが、各種の事例に関するプリントも配布します。

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示します。

管理会計事例研究 II

吉村文雄

【授業の概要】
講義：管理会計システムの有効活用面についての理解を深めるために、管理会計諸技法の企業への適用事例を通じて管理会計諸技法の構造と機能について論じます。その場合、ABC、ABB、BSC、EVA、財務分析等の管理会計諸技法の意義と限界を具体的事例の分析をとおして明らかにします。

【授業の目標】
管理会計の理論と実践の相互作用関係を事例研究を通じて理解します。できれば、事業所見学等を通じて具体的な実践事例をつかみ、その上で管理会計の意義をつかめるようにしたい。

【授業計画】
管理会計システムの限界と意義を明らかにします。
第１部では、諸外国の事例研究を取り上げ、事例研究の成果と問題点を明らかにします。
第２部では、わが国の事例研究を取り上げ、最新の管理会計諸技法の役割を具体的に把握します。
第３部では、諸外国とわが国の管理会計システムの適用例の把握を通じて、管理会計システムの限界と意義、さらに展開方向を検討します。

【評価方法】
筆記試験により評価します。

【テキスト】
吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を中心に進めますが、各種の事例に関するプリントも配布します。

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示します。

091170003_0210　掲載順 :0210　MASTER ★

意思決定会計

三浦克人

【授業の概要】
講義：経営者の意思決定に役立つ管理会計情報を扱う。まず、伝統的な分野であるCVP分析、特殊原価調査、設備投資の経済性計算などを教授する。加えて、経営管理論、経営財務論などの隣接科学の要素を取り入れながら、経営意思決定と管理会計情報の関連を多面的に論じる。

【授業の目標】
経営意思決定に有用な会計情報の作成方法と分析方法を修得する。

【授業計画】
1．意思決定会計概論
2．CVP分析
3．特殊原価調査
4．設備投資の経済性計算
5．隣接科学と意思決定会計
6．まとめ

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091170003_0220　掲載順 :0220　MASTER ★

戦略会計

三浦克人

【授業の概要】
講義：近年注目をあびている企業価値創造経営に関連するトピックスを中心に検討する。企業価値、事業価値および経済的利益の計算技法を習得したのち、それらの指標とマネジメントシステムとのかかわりについて議論する。また、経営戦略をサポートする管理会計組織とスタッフの役割についても検討する。

【授業の目標】
企業価値創造経営を支えるマネジメントシステムの最新トレンドを理解する。

【授業計画】
1．価値創造経営概論
2．会計上の利益と経済的利益
3．企業価値・事業価値の測定
4．経営指標とマネジメントシステム
5．管理会計組織とスタッフの役割
6．まとめ

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091170003_0230　掲載順 :0230　MASTER ★

会計職業倫理

佐藤滝彦

【授業の概要】
講義：経済社会のインフラである会計監査を担う公認会計士には、高い職業的価値観と高度な倫理観が求められている。特にアメリカにおけるエンロン事件以降、会計職業倫理についての重要性が認識され、その早期の取り組みは重要な課題となっている。会計職業倫理についての理解は、会計監査を行う公認会計士だけでなく、会計に携わるすべての人びとがもっていることが望ましい。この講義では、公認会計士法、倫理規則等の倫理に関連した規定を学ぶとともに、どのような行為が会計職業倫理に反するのか、どのようにすれば会計職業倫理を保持できるのかを検討し、会計職業倫理に対する認識を深める。

【授業の目標】
貯蓄から投資が叫ばれる中、証券市場の重要性が増大している。投資が円滑になされるためには、証券市場が信頼性のあるものでなければならず、その担い手たる公認会計士にも当然のことながら厳格な倫理規程が要求される。公認会計士が依拠しなければならない倫理規定を学ぶとともに、なぜ倫理規定が必要なのか理解を深める。

【授業計画】
・「公認会計士法」と職業倫理
・日本公認会計士協会「倫理規定」
・監査一般基準と職業倫理
・品質管理基準
・事例研究

【評価方法】
筆記試験により評価する。

091170003_0240　掲載順 :0240　MASTER ▲

会計監査Ⅰ

前川三喜男

【授業の概要】
講義：我が国の監査制度と、金融証券取引法に基づく監査実務について、監査基準を理解するとともに監査計画、監査リスク、内部統制の評価について監査手続等を具体的に解説する。

【授業の目標】
自由経済社会における証券市場の役割と、公認会計士監査の必要性を理解する。

【授業計画】
1～3　我が国の監査制度について
4～7　監査基準（一般基準、実施基準、報告基準）の理解
8～12　監査リスク、監査計画、内部統制の評価
13～15　内部監査制度、監査役監査

【評価方法】
筆記試験により評価する。

091170003_0250　掲載順 :0250　MASTER ▲

会計監査 II

前川三喜男

【授業の概要】
講義：金融証券取引法に基づく監査業務について、監査手法、監査調書、後発事象、継続企業の前提、監査意見の形成に至る過程を理解する。

【授業の目標】
自由経済社会における証券市場の役割と、公認会計士監査の必要性を理解する。

【授業計画】
1～3　監査年度、中間監査、期末監査
4～10　監査調書、試査、不正及び誤謬、違法行為、分析的手続、実査、立会、確認
11～15　後発事象、関連当事者、継続企業の前提、監査意見の形成

【評価方法】
筆記試験により評価する。

091170003_0260　掲載順 :0260　MASTER ★

内部監査 I

友杉芳正

【授業の概要】
講義：社会的公正性の達成を支援する監査が、コーポレート・ガバナンスの実現と企業監視機構のあり方に極めて重要であるため、企業経営において、戦略的経営活動の適法性と妥当性を求める中で、内部監査が経済性、効率性、効果性を追求する必要性を論じる。

【授業の目標】
企業経営における有用な用具である内部監査の理解を深めることを目標とする。

【授業計画】
1）コーポレート・ガバナンス
2）内部監査の定義
3）外部監査と内部監査の区分
4）公認会計士監査と会計監査人監査
5）監査役（会）監査
6）監査委員会監査
7）取締役会監査
8）日本内部監査協会
9）アメリカ内部監査人協会
10）内部監査基準
11）内部牽制と内部監査
12）内部統制システムの構築
13）企業不祥事と内部監査
14）会計参与の役割
15）会社法との関係

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
開講時に指示する。

【参考文献・資料】
開講時に指示する。

091170003_0270　掲載順 :0270　MASTER ★

内部監査 II

友杉芳正

【授業の概要】
講義：健全な企業社会形成を担う内部監査が、企業価値創造を果たす経営管理手段として不可欠な評価用具と認識されている点を理解するため、内部監査の機能が会計、業務、経営の各種情報の信頼性の保証を果たし、システムの合理的評価を行うことを論じる。

【授業の目標】
企業経営における有用な用具である内部監査の理解を深めることを目標とする。

【授業計画】
1）現代内部監査の動向
2）リスク・マネジメントと内部監査
3）内部統制の有効性の評価
4）不正・誤謬・違法行為への対応
5）内部監査規程と内部監査計画
6）内部監査部門と内部監査人
7）内部監査のアウト・ソーシング
8）内部監査の実施形態
9）内部監査証拠の収集
10）内部監査報告書
11）担当者へのフォロアップ
12）内部監査の品質保証
13）内部監査の国際化
14）組織制度監査の合理性
15）内部監査の方向性

【評価方法】
筆記試験により評価する。

【テキスト】
開講時に指示する。

【参考文献・資料】
開講時に指示する。

091170003_0280　掲載順 :0280　MASTER ★

システム監査 I

浦山章二

【授業の概要】
講義：システム監査は情報システムの信頼性、安全性、効率性の向上を図り、情報化社会の健全化に資するため、情報システムを総合的に点検・評価し、その改善を助言・勧告するものであると定義されている。この授業では、社会基盤として重要性の高い情報システムを監査するための、システム監査の理論と実践について学習する。

【授業の目標】
情報社会への変革により、個人生活や企業活動に対する情報システムの影響が著しく増大している。一方、情報システムは人間が作って、利用するものであり、常に多くのリスクにさらされている。情報システムのトラブルによるインパクトは非常に大きくなっており、システム監査の必要性は高まっている。
この授業ではシステム監査の役割や実施手続きなどシステム監査にかかわる基礎知識の理解を目標とする。

【授業計画】
情報システム監査
1　情報技術の発展
2　情報システムの評価と監査
3　情報資源管理
4　ネットワーク環境の情報管理
5　情報リスクの管理
6　情報セキュリティー対策
7　システム監査の基礎
8　システム監査の計画・実施・報告

【評価方法】
筆記試験と授業への取り組みで評価する。

【テキスト】
情報システム監査（学陽書房）

【参考文献・資料】
システム監査基準／システム管理基準

091170003_0290　掲載順：0290　MASTER ★

システム監査 II

浦山章二

【授業の概要】
講義：システム監査Ｉに引き続き、情報システムの信頼性、安全性、効率性の向上を図るために必要なシステム監査について、理論的な側面から学習するとともに実践上の問題点などについても検討する。後期においては特にシステム監査の実践方法に重点を置いて講義を実施する。

【授業の目標】
情報社会への変革により、個人生活や企業活動に対する情報システムの影響が著しく増大している。一方、情報システムは人間が作って、利用するものであり、常に多くのリスクにさらされている。情報システムのトラブルによるインパクトは非常に大きくなっており、システム監査の必要性は高まっている。
この授業ではシステム監査の役割や実施手続きなどシステム監査にかかわる基礎知識の理解を目標とする。

【授業計画】
情報システム監査
1　企画開発業務のシステム監査
2　運用保守業務のシステム監査
3　ＩＴ投資評価
4　個人情報の管理
5　内部統制とシステム監査
6　自治体の情報セキュリティー監査
7　システム監査の現在と将来

【評価方法】
筆記試験と授業への取り組みで評価する。

【テキスト】
情報システム監査

【参考文献・資料】
システム監査基準／システム管理基準

091170003_0300　掲載順：0300　MASTER ★

監査事例研究 I

浦山章二

【授業の概要】
講義：複雑化する現代社会において、公認会計士による監査はその社会的役割と重要性が強く認識されるようになった。
監査の具体的事例を通じて、監査の目的や監査制度の意義についての理解を深め、監査の現場で生じている問題やその解決方法などについて学習し、今日の監査制度がかかえる問題点を検討する。

【授業の目標】
エンロン事件、カネボウ事件やライブドア事件などで監査のあり方が社会的に問題になっている。監査制度は経済社会の基盤であり、その重要性は高い。
監査論をいくら勉強しても、実務を経験しなければ監査はできない。社会的制度としての監査の意義と役割を理解するとともに、監査の現場で行われていることや、問題になっていることを学び、監査制度そのものや、監査実務上の問題点を理解することがこの授業の目標である。

【授業計画】
1　会計監査とその基本的役割および現代的機能
2　証券取引法に基づく会計監査制度
3　会社法に基づく会計監査制度
4　職業監査と監査基準ならびに職業倫理
5　事例研究

【評価方法】
筆記試験と授業への取り組みで評価する。

【テキスト】
監査演習

091170003_0310　掲載順：0310　MASTER ★

監査事例研究 II

浦山章二

【授業の概要】
講義：監査事例研究Ｉに引き続き、監査の具体的事例を通じて、監査の目的や監査制度の意義についての理解を深め、監査の現場で生じている問題やその解決方法などについて学習し、今日の監査制度がかかえる問題点を検討する。

【授業の目標】
エンロン事件、カネボウ事件やライブドア事件などで監査のあり方が社会的に問題になっている。監査制度は経済社会の基盤であり、その重要性は高い。
監査論をいくら勉強しても、実務を経験しなければ監査はできない。社会的制度としての監査の意義と役割を理解するとともに、監査の現場で行われていることや、問題になっていることを学び、監査制度そのものや、監査実務上の問題点を理解することがこの授業の目標である。

【授業計画】
1　会計監査の進め方（1）―リスク・アプローチ
2　会計監査の進め方（2）―監査計画
3　会計監査の進め方（3）―リスク評価
4　監査の終了まで－監査意見と監査報告書

【評価方法】
筆記試験と授業への取り組みで評価する。

【テキスト】
監査演習

091170003_0320　掲載順：0320　MASTER ★

民法 I

石畔重次

【授業の概要】
講義：現代の法化社会においては法との関わりなしに企業活動を維持していくことはできない。私人間の法律関係を規律する私法の中で、最も基本的かつ重要な法が民法である。会社法等の企業活動に関する諸法を学ぶためにも、民法で私法の基礎概念を学ぶことが必須の前提となる。前期の本講義では、民法のうち、法律行為や代理等に関する総則、債権の効力や債務不履行に関する債権総論、並びに、売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等の債権各論について研究する。

【授業の目標】
会計専門職に必要な民法及び関連法規に関する基礎的な知識及び法的な思考能力の涵養を目標とする。

【授業計画】
1．民法の基本原則
2．民法総則
　意思表示と法律行為、行為能力と制限能力者の保護、意思表示の諸問題、代理、無効と取消、時効、法人
3．契約法
　契約の成立と効力、債務不履行と契約の解除、契約各論（売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任等）
4．債権総論
　債権の種類、債務不履行、債権者代位権と詐害行為取消権、連帯債務と保証、債権譲渡、債権の消滅（弁済と相殺）

【評価方法】
レポートの提出または授業での状況によって評価する。

【テキスト】
おって指定する。

【参考文献・資料】
民法への招待（池田真朗著　税務経理協会）
ゼミナール民法入門（道垣内弘人著　日本経済新聞社）

民法 II

石畔重次

【授業の概要】

講義：後期の本講義では、民法のうち、所有権、用益物権、占有権等に関する物権法、抵当権、質権、留置権、先取特権、非典型担保等に関する担保物権法、さらに、損害賠償に関する不法行為を研究し、さらに、親族法、相続法に関しても必要な範囲で基礎的な知識を習得する。

【授業の目標】

会計専門職に必要な民法及び関連法規に関する基礎的な知識及び法的な思考能力の涵養を目標とする。

【授業計画】

1．物権法
　物権の種類、物権的請求権、物権変動と対抗要件、所有権、用益物権、占有権
2．担保物権
　抵当権、質権、留置権、先取特権、非典型担保
3．不法行為
　不法行為の成立要件、不法行為の効果（損害賠償と過失相殺）、特殊の不法行為（使用者責任、共同不法行為など）、不法行為に関する特別法（自賠法、製造物責任法など）
4．事務管理と不当利得
5．親族法
6．相続法

【評価方法】

レポートの提出または授業での状況によって評価する。

【テキスト】

おって指定する。

【参考文献・資料】

民法への招待（池田真朗著　税務経理協会）
ゼミナール民法入門（道垣内弘人著　日本経済新聞社）

会社法 I

上田純子

【授業の概要】

講義：この講義では、会社法について、代表的な論点に即しつつ、理解を深める。とりわけ、従来の商法から変更された制度については、その趣旨を正しく掴むことに努める。また、応用的学習として、主として学術的観点から個別の論点を深く掘り下げた文献を取り上げ、それらを読みこなしながら、緻密な論理的思考を重ね、解釈上および立法上の問題点を探究する。

【授業の目標】

会社法の全体的枠組みを掴むとともに、細部の論点を掘り下げることを目標とする。新たに加わった制度、相当に改変された制度、あるいは、廃止された制度、それぞれの理由を考え、会社法が従来の法制度をどこまで改善したのかの評価を、理論的側面と実務的側面の双方から加える。学術文献の読破が中心となるが、会社法の実務へのインパクトも併せて考察したい。

【授業計画】

・会社法の制定に至る経緯、会社法の枠組み
・会社の種類・比較
・株式会社の設立
・株主の権利
・株式
・募集株式の発行
・株式会社の機関総論
・株主総会
・取締役・取締役会
・会計参与・監査役・会計監査人
・委員会設置会社
・計算
・組織変更・組織再編

【評価方法】

講義への出席状況、授業態度、授業中に割り当てられる口頭報告や期末レポートの内容等を総合的に判断して決定する。

【テキスト】

受講生と相談のうえ、後日決定する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示または配布する。

会社法 II

上田純子

【授業の概要】

講義：この講義では、会社法Iの講義において考察したわが国の会社法の制度枠組みを前提に、外国の類似法制との比較を試みる。地域的には、ヨーロッパないしアメリカ合衆国の会社法制が中心となる。外国の法枠組みを原語の文献から学び、わが国の会社法との比較を通じて、今後のわが国の会社法の制度枠組みへの提言や新たな解釈指針を導き出すことにより、外国の法制を知るのみならずわが国の会社法に関する理解をさらに深めることが期待される。

【授業の目標】

この講義は、会社法Iの応用的講義と位置づけられる。したがって、わが国の会社法に関する基本的な制度枠組みについては受講生が既習であることを前提に講義を進める。できれば、原語（多くは英語）の文献を多数読みこなし、わが国の会社法に相当する制度をピック・アップし、その類似点・相違点の単純比較のみならず、それぞれの制度が導入されているその国（ないし地域）固有の事情にまで思いをめぐらせたい。そのうえで、わが国の制度に示唆を与えうる制度を抽出し、わが国の会社法制度設計に対する提言を試みることを最終目標とする。

【授業計画】

（１テーマについて２～３週）
・ヨーロッパにおける会社法制の形成と発展（総論）
・EU（欧州連合）会社法
・イギリス会社法
・ドイツ会社法
・フランス会社法
・その他EU加盟国の会社法
・アメリカ合衆国における会社法制の形成と発展（総論）
・州会社法とモデル・アクト

【評価方法】

講義への出席状況、授業態度、授業中に割り当てられる口頭報告や期末のレポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

受講生と協議のうえ、決定する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示・配布する。最近は外国の公的機関が発行した立法資料等の多くがWebsiteを通じて入手できるので、できるだけそれらを活用されたい。有用なWebsite情報についても授業中に提供する。

民法事例研究 I

石畔重次

【授業の概要】

講義：具体的なケースや判例を教材にして、法律行為、代理等の民法総則に関する問題、及び、売買を始めとする各種の契約、債務不履行、保証等の債権総論について学習する。そのさい、民法の枠にとどまることなく、企業活動に必要な会社法、倒産法、労働法などの知識も幅広く修得し、社会人として法的な諸問題に対処しうる基礎知識を習得することを目的とする。

【授業の目標】

事例を検討することによって、会計専門職に必要な民法を中心とする基礎的な法的知識及び法的な思考能力を涵養することを目標とする。

【授業計画】

1．私的自治の原則と契約
　契約が法によって制約を受けるのはどのような場合か。
2．意思表示と法律行為
　錯誤等により契約が無効・取消しになるのはどのような場合か。
3．契約と代理
　表見代理によって本人の責任が認められるのはどのような場合か。
4．売買契約と瑕疵担保
　売主の瑕疵担保が問題となるのはどのような場合か。
5．賃貸借契約
　賃借人は借地借家法によりどの程度まで保護されるのか。
6．委任契約
　会社役員の責任が認められるのはどのような場合か
7．契約と消費者保護
　消費者が消費者契約法によって保護されるのはどのような場合か。
8．契約の締結交渉
　契約の締結交渉において、当事者間にどのような法律関係が発生するか。
9．債務不履行と損害賠償
　債権者はどのような損害賠償を請求できるか。
10．債権者代位権と詐害行為取消権
　債権保全策として有効なのはどのような場合か。
11．保証
　保証人の責任はどこまで及ぶか。
12．債権譲渡
　債権譲渡を第三者に対抗しうる要件は何か。
13．債権の消滅
　相殺が担保的効力を発揮できるのは、どのような場合か。

【評価方法】

レポートの提出または授業での状況によって評価する。

【テキスト】

授業にて明示する。

【参考文献・資料】

授業にて明示する。

091170003_0370　掲載順：0370　MASTER ★

民法事例研究 II

石畔重次

【授業の概要】

講義：具体的なケースや判例を教材にして、所有権、占有権、用益権等の物権、抵当権等の担保物権、不法行為、相続等を中心に研究し、さらに、担保の設定、債権回収、紛争解決のための法的手続など、企業活動において必要となる法的問題を検討する。企業の内部統制、企業倫理などの企業責任に関する法についても基礎的知識を習得する。

【授業の目標】

事例を検討することによって、会計専門職に必要な民法を中心とする基礎的な法的知識及び法的な思考能力を涵養することを目標とする。

【授業計画】

1．物権変動と対抗要件
　不動産の売買契約において、第三者との関係で対抗要件が問題となるのはどのようなケースか。
2．抵当権
　抵当権が有効に機能するのはどのような場合か。
3．非典型担保
　仮登記担保、譲渡担保、所有権留保が有効に機能するのはどのような場合か。
4．その他の担保
　債権者が債権保全のために活用できる担保には、どのようなものがあるか。
5．債権の回収
　取引先が倒産した場合の債権者としてとりうる有効な対処方法は何か。
6．労働
　会社が従業員を解雇できるのはどのような場合か。
7．不法行為
　従業員の不法行為について会社が使用者責任を負うのはどのような場合か。
8．会社の内部統制
　会社の内部統制システム。会社が公益通報を受けた場合の対処方法と法律問題。
9．相続
　中小会社の経営者の相続において、どのような法律問題が発生するか。
10．紛争の解決
　訴訟、調停、裁判外紛争解決手続（ADR）、示談…紛争が発生した場合、最適な解決方法は何か。

【評価方法】

レポートの提出または授業での状況によって評価する。

【テキスト】

授業にて明示する。

【参考文献・資料】

授業にて明示する。

091170003_0380　掲載順：0380　MASTER ★

会社法事例研究 I

藤田修輔

【授業の概要】

講義：会社法に関する文献・設例・判例を素材とし、制度内容の理解を図り、論点抽出能力・柔軟な思考力・批判的分析的検討能力を涵養することをねらいとする。

【授業の目標】

商事法の知識を身につけることは最低限必要であるが、それよりむしろ個別の事案において法的にどのような考え方をしてゆくべきかを個別事案の分析を通じて身につける。

【授業計画】

（1）取締役
（2）監査役
（3）設立
（4）株式

【評価方法】

①　出席および授業中の提出物
②　質疑応答
③　期末のレポート
を同等の割合で評価して決定する。

091170003_0390　掲載順：0390　MASTER ★

会社法事例研究 II

藤田修輔

【授業の概要】

講義：会社法に関する文献・設例・判例を検討しつつ、制度の理解を図り、論点抽出能力・柔軟な法的思考能力・批判的分析的能力を涵養することをねらいとする。

【授業の目標】

商事法の知識を身につけることは最低限必要であるが、それよりむしろ個別の事案において法的にどのような考え方をしてゆくべきかを個別事案の分析を通じて身につける。

【授業計画】

（1）取締役・取締役会
（2）会社の業務執行
（3）取締役・執行役の義務と責任
（4）組織再編

【評価方法】

①　出席および授業中の提出物
②　質疑応答
③　期末のレポート
を同等の割合で評価して決定する。

091170003_0400　掲載順：0400　MASTER ★

租税法 I

糟谷 修

【授業の概要】

講義：租税法の基本的な考え方がどのようなものであるのかを理解し、租税制度の体系や基本原則などを習得する。そのために、まず現行のわが国の租税体系がどのようなものであるかを概観する。その後、主要な国税について、課税対象，納税義務者，税率，納税手続きなどの概要を把握し、現状の租税法が何を規定の対象としているかを学習する。更に、各論点について、実務上の問題点についても言及する。

【授業の目標】

（1）わが国の租税法の基本体系を理解する。
（2）わが国の租税法のうち、主要な国税についてその基本構造を理解する。

【授業計画】

下記の各項目について、それぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。
（1）わが国の租税体系
（2）法人税法の概要
（3）所得税法の概要
（4）消費税法の概要
（5）相続税法の概要

【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】

租税法　改訂版（佐藤正勝著　同文舘出版）
図説　日本の税制　平成20年度版（川上尚貴編著　財経詳報社）

091170003_0410　掲載順 :0410　MASTER ★

租税法 II

糟谷 修

【授業の概要】
講義：租税法の基本的な考え方がどのようなものであるかを理解し、租税制度の基本原則などを理解する。税法一般について、租税法律主義、法令と通達の関係など具体的な各税法の根底を成す基礎理論を学習する。更に、税務調査の実態や権利救済制度、訴訟制度等実務上必要な知識の修得をはかる。必要に応じて学説、行政解釈、判例にも言及する。

【授業の目標】
（1）わが国の法体系の中における租税法の位置づけを理解する。
（2）租税理論の概要について理解し、会計専門家として備えておくべき租税法知識の修得をはかる。

【授業計画】
下記の各論点について、それぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。
（1）租税の意義とその性格
（2）租税法律主義
（3）憲法、法律、政省令、通達の関係及び租税条約の位置づけ
（4）税務執行機関と税務調査の実態、権利救済制度、訴訟制度

【評価方法】
授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】
租税法　改訂版（佐藤正勝著　同文舘出版）
図説　日本の税制　平成21年度版（川上尚貴編著　財経詳報社）
（平成21年７月刊行予定。編著者は変更する場合あり）

091170003_0420　掲載順 :0420　MASTER ★

法人税法 I

糟谷 修

【授業の概要】
講義：法人税法の基本的な考え方を学習し、企業会計の考え方との相違点を理解する。そして、法人税法の大部分を成す法人の決算調整及び申告調整の方法を学び、申告書作成のための知識を習得する。また、法律や政省令、通達など法人税の仕組みについても学習する。更に、各論点について、実務上どのような問題が生じ、それに対してどのように解決がなされているのかという点にも重点を置く。

【授業の目標】
（1）法人税法の基本的事項を把握し、企業会計との違いを理解する。
（2）法人税申告書の構造を把握し、申告書作成の基本的手順を理解する。

【授業計画】
下記の各論点について、それぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。
（1）法人税の基本事項
（2）企業利益と課税所得
（3）税額計算、申告、納付
（4）益金の額、その原則と例外
（5）損金の額、その原則と例外

【評価方法】
授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】
法人税法　改訂版（下村英紀著　同文舘出版）
図解　法人税　平成20年版（田口雄編　財団法人大蔵財務協会）
法人税申告書作成の基礎（税理士法人右山事務所編　財団法人大蔵財務協会）

091170003_0430　掲載順 :0430　MASTER ★

法人税法 II

糟谷 修

【授業の概要】
講義：法人税法Iに引き続き、法人税の基本的な考え方を学習し、企業会計の考え方との相違点を理解する。法人税法の大部分を成す法人の決算調整及び申告調整の方法を学び、申告書作成のための知識を習得する。また、法律や政省令、通達など法人税の仕組みについても学習する。更に、各論点について、実務上どのような問題が生じ、それに対してどのように解決がなされているのかという点にも重点を置く。

【授業の目標】
（1）法人税法上の規定のうち、実務上特に問題が生じやすい論点に関する理解を深める。
（2）企業の決算報告書からの法人税申告書作成方法一巡を理解する。

【授業計画】
下記の各論点について、それぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。
（1）減価償却制度
（2）交際費課税制度
（3）同族会社をめぐる規定
（4）国際取引にかかわる規定
（5）公益法人等に対する課税

【評価方法】
授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】
法人税法　改訂版（下村英紀著　同文舘出版）
図解　法人税　平成21年版（田口雄編　財団法人大蔵財務協会）
（平成21年７月刊行予定。編者は変更する場合あり）
法人税申告書作成の基礎（税理士法人右山事務所編　財団法人大蔵財務協会）

091170003_0440　掲載順 :0440　MASTER ★

所得税法 I

後藤貞明

【授業の概要】
講義：所得税は個人の所得に対して課される租税であり、ほとんどの個人が係わるものである。そこで、所得税の基本的な考え方を学習し、所得税の構成がわかるようにしたい。具体的には、所得の概念、非課税所得、所得の種類、課税標準、損益通算及び損失の繰越控除、所得控除、税務計算、源泉徴収制度、申告納期及び還付、青色申告、帳簿書類の備付け、保存及び報告書の提出、不服審査と訴訟等について学習する。

【授業の目標】
（1）所得税の全体構造の理解
（2）所得税の基本的計算構造の理解及び実際計算力の養成

【授業計画】
1、所得課税と納税義務者
2、所得の帰属者と所得の総合
3、非課税所得と免税所得
4、所得の分類
5、利子所得の意義と計算
6、配当所得の意義と計算
7、不動産所得の意義と計算
8、事業所得の意義と計算
9、給与所得の意義と計算
10、退職所得の意義と計算
11、山林所得の意義と計算
12、譲渡所得の意義と計算
13、一時所得の意義と計算
14、雑所得の意義と計算
15、収入金額の計上時期

【評価方法】
筆記試験により評価する。その他出席状況も評価する.

【テキスト】
開講時に指示する。

【参考文献・資料】
開講時に指示する。

091170003_0450　掲載順：0450　MASTER ★

所得税法 II

後藤貞明

【授業の概要】
講義：所得税法Iに引き続き、課税標準、損益通算及び損失の繰越控除、所得控除、税額計算、源泉徴収制度、申告納付及び還付、青色申告、帳簿書類の備付け保存及び報告書の提出、不服審査と訴訟等について学習する。

【授業の目標】
（1）所得税の全体構造の理解
（2）所得税の基本的計算構造の理解及び実際計算力の養成

【授業計画】
1、必要経費の計算
2、損益通算
3、損失の繰越控除
4、所得控除の意義
5、所得控除の種類
6、税額計算の仕組み
7、分離課税の譲渡所得の税額計算
8、税額控除（1）
9、税額控除（2）
10、申告納税制度の意義
11、税務調査と更正決定
12、非居住者の納税義務
13、法人の納税義務
14、源泉徴収制度の仕組み
15、具体的な申告書の書き方

【評価方法】
筆記試験により評価する。出席状況も加味する。

【テキスト】
開講時に指示する。

【参考文献・資料】
開講時に指示する。

091170003_0460　掲載順：0460　MASTER ★

租税法事例研究 I

佐藤雅弘

【授業の概要】
講義：租税法の目的は、社会生活および経済生活において重要性の高い租税に関する法を理論的・体系的に研究することである。その学習の手法として、租税に関する判例を通して、実際の経済活動と租税に関する法の考え方を結びつけ、具体的に論じる。

【授業の目標】
租税に関する法を実際の経済活動と結びつけて理論的・体系的に修得することにより、関係する税法の条文の適用と解釈を可能にすること。

【授業計画】
第1回　租税法の概要
第2回　租税法律主義
第3回　租税公平主義
第4回　租税法の法源
第5回　租税法の解釈と適用（拡張解釈と借用概念）
第6回　　同上　　（私法取引と租税法）
第7回　　同上　　（租税回避行為）
第8回　　同上　　（事実認定）
第9回　所得税の基礎（所得の概念）
第10回　　同上　　（所得税額計算の基本的な仕組み）
第11回　所得の計算（収入金額と必要経費）
第12回　所得の計算（必要経費の範囲）
第13回　所得の年度帰属（権利確定主義）
第14回　所得の年度帰属（費用収益対応の原則）
第15回　試験

【評価方法】
出席、質疑応答の状況と期末試験の結果を総合的に評価

【テキスト】
ケースブック租税法（編著　金子 宏・佐藤英明、増井良啓・渋谷雅弘、弘文堂）

【参考文献・資料】
別冊　ジュリスト　租税判例百選〔第4版〕
（水野忠恒・中里 実・佐藤英明・増井良啓編、有斐閣）

091170003_0470　掲載順：0470　MASTER ★

租税法事例研究 II

佐藤雅弘

【授業の概要】
講義：租税法の目的は、社会生活および経済生活において重要性の高い租税に関する法を理論的・体系的に研究することである。その学習の手法として、租税に関する判例を通して、実際の経済活動と租税に関する法の考え方を結びつけ、具体的に論じる。

【授業の目標】
租税に関する法を実際の経済活動と結びつけて理論的・体系的に修得することにより、関係する税法の条文の適用と解釈を可能にすること。

【授業計画】
第1回　租税法の概要
第2回　法人税の納税義務者
第3回　法人所得と企業会計の関係
第4回　資本等取引
第5回　益金の意義
第6回　損金の意義
第7回　債務の確定
第8回　減価償却と貸倒損失
第9回　役員賞与等
第10回　寄付金等
第11回　交際費等
第12回　同族会社の特例
第13回　新しい投資形態と所得課税
第14回　国際課税と租税条約
第15回　試験

【評価方法】
出席、質疑応答の状況と期末試験結果を総合的に評価

【テキスト】
ケースブック租税法（編著　金子 宏・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘、弘文堂）

【参考文献・資料】
別冊　ジュリスト　租税判例百選〔第4版〕
（水野忠恒・中里 実・佐藤英明・増井良啓編、有斐閣）

091170003_0480　掲載順：0480　MASTER ★

経営学

浅井敬一朗

【授業の概要】
講義：経営学の中でもとくに、イノベーションと経営戦略、イノベーションとスキル形成に焦点を当てる。まず、1980年代以降の経営戦略研究、熟練形成研究について概観する。次にバブル崩壊後の日本企業のケーススタディを取り上げ、ケースの分析に基づき、競争優位を獲得するための戦略、スキル形成の今日的あり方について、ディスカッションを行う。

【授業の目標】
まずは経営戦略の基本骨格について理解する。

【授業計画】
授業の最初に提示する

【評価方法】
出席、議論の参加、レポート

【テキスト】
競争戦略論 一橋ビジネスレビューブックス（青島 矢一・加藤 俊彦著 東洋経済新報社）からスタートする。
続きについては追って指示する。

【参考文献・資料】
別途指示する

091170003_0490　掲載順 :0490　MASTER ★

経営情報システム特講 I

林 誠

【授業の概要】
講義：経営に関連する情報や知識をシステムの視点からアプローチし、経営における情報システムはいかにあるべきかを研究する。まず、「経営戦略ありき」からスタートし、情報システムは企業の経営活動を支援し、補完するツールとして位置づける。当講座では、組織における人間相互の活動と情報システムの相互作用により、あるべき経営活動を探求する。

【授業の目標】
企業組織とITの相互関係について、ケースを中心に理解を深める。企業の経営活動を知識創造、ビジネスプロセスを学習プロセスとしてとらえ、多次元構造の新しいビジネスモデルを追求する。

【授業計画】
・産業と経営の情報化（経営情報システムの定義と構成、情報システムの発展段階、ビジネスプロセスリエンジニアリングと戦略的情報活用）
・経営戦略の策定とビジネスモデルの構築（経営戦略策定の手順、経営戦略と組織戦略、バリューチェーン、ビジネスモデル構築の手法、ITCとビジネスモデル）
・競争と協調の戦略（ゴミ箱モデルと市場の組織化、戦略的提携、サプライチェーンマネジメント、スマートシンクロナイゼーション）
・ケーススタディに基づく研究

【評価方法】
授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】
適時参考文献を紹介し、資料を配布する。

【参考文献・資料】
超企業・組織論（高橋伸夫著　有斐閣）
イノベーションのジレンマ（クリステンセン著　翔泳社）
イノベーションの解（クリステンセン著　翔泳社）

091170003_0500　掲載順 :0500　MASTER ★

経営情報システム特講 II

林 誠

【授業の概要】
講義：近年のICT（情報通信技術）の進歩は著しく、企業の経営活動にも大きな影響を与えるようになっている。とくにインターネット技術の発展は経営情報システムの構造のみならず、企業の組織や意思決定プロセスについても大きく変えつつある。当講座では、経営情報システムを個人、グループの階層構造とITと知的創造活動の融合の面から研究する。

【授業の目標】
企業組織とITの相互関係について、ケースを中心に理解を深める。企業の経営活動を知識創造、ビジネスプロセスを学習プロセスとしてとらえ、多次元構造の新しいビジネスモデルを追求する。

【授業計画】
・組織と情報システム（組織のダイナミックス、意思決定と情報、意思決定プロセスとリーダーシップ、情報と問題解決プロセス）
・組織階層と情報システム（組織情報システムの目的と構造、グループ情報システム、個人情報システム）
・知識創造プロセス（情報と知識の体系、暗黙知と形式知、移動型知識と埋め込み型知識、組織学習、ナレッジマネジメントシステム、eラーニングとナレッジチェーンマネジメント）
・ケーススタディによる研究

【評価方法】
授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】
適時指示する。

【参考文献・資料】
知識転換の経営学（原田勉著　東洋経済新報社）
情報経済論（福田豊・須藤修・早見均著　有斐閣）

091170003_0510　掲載順 :0510　MASTER ★

企業倫理

佐藤滝彦

【授業の概要】
講義：かつて日本には儒教精神をよりどころとする商人道があった。同様に欧米においても、マックス・ウェーバーが指摘したプロテスタンティズムは資本主義の生誕に大きく寄与した。こうした精神的なバックボーンを背景にして、企業の倫理は培われてきた。近年企業の不祥事が多発しているが、それぞれの企業がおかれている環境は、かつてのそれとは非常に異なったものとなっている。今ほど企業の社会的責任が問われ、企業の法令順守、企業統治が重要視されることはない。なぜ今、企業倫理が大きく問われているのかを考えてみたい。

【授業の目標】
企業経営が大規模化し、国際化していくなかで、企業倫理の欠如は、その企業のみならず社会の様々な分野に深刻な影響を与えざるを得ない。企業倫理の確立がなぜ必要なのか、企業倫理の欠如が何をもたらすのかを考察する。

【授業計画】
・ＣＳＲ(Corporate Social Responsibility)
・コンプライアンス(Compliance)
・ガバナンス(Governance)
・事例研究

【評価方法】
出席状況、課題、学期末試験の結果で総合的に判断。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
特に指定しない。適宜紹介する。

091170003_0520　掲載順 :0520　MASTER ★

金融システム特講 I

藤井正志

【授業の概要】
講義：金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について論じる。金融システム特講Ｉにおいては、銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に論ずる。

【授業の目標】
銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に議論し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方についての理解を深める。

【授業計画】
1　銀行と事業会社の分離・結合について
2　業際規制と法律的なバックグラウンド
3　業務の内容別にみた規制緩和の流れ
4　金融制度改革の日米比較

【評価方法】
講義への出席状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】
適宜指定する。

【参考文献・資料】
適宜指定する。

091170003_0530　掲載順：0530　MASTER ★

金融システム特講 II

藤井正志

【授業の概要】
講義：金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について論じる。金融システム特講Ⅱにおいては、金融検査・監督体制の日米比較を中心に論じる。

【授業の目標】
銀行と事業会社、銀行業と証券業などの業際間の規制問題を中心に議論し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方についての理解を深める。

【授業計画】
1　米国における金融監督体制
2　金融業のディスクロージャーの日米比較
3　金融検査のあるべき姿
4　今後の金融監督手法の展望

【評価方法】
講義への出席状況、授業態度等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】
適宜指定する。

【参考文献・資料】
適宜指定する。

091170003_0540　掲載順：0540　MASTER ★

情報倫理特講 I

梅田敏文

【授業の概要】
講義：情報倫理は、どのような背景から必要とされる学問なのか、また、現在どのような課題に挑戦しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。
当講義では、英文テキストをベースに、情報倫理が必要とされる背景、功利主義・義務論・徳の倫理学などの倫理理論、情報技術専門家の意義・利害関係者との関係、インターネットに関する倫理問題などを検討する。

【授業の目標】
情報倫理の主要課題と内容を理解し、課題解決の今後の方向性を検討する。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．情報倫理の必要性
3．倫理の理論的枠組み
4．プロフェッショナル倫理
5．インターネットに関する倫理

【評価方法】
出席、課題発表、期末テストで評価する。

【テキスト】
Computer Ethics(Johnson, Deborah G. Prentice Hall 2001)

091170003_0550　掲載順：0550　MASTER ★

情報倫理特講 II

梅田敏文

【授業の概要】
講義：情報倫理の分野の主要課題である、プライバシー、所有権などを取り上げ、伝統的なこれらの概念がどのように変化しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。
当講義では、英文テキストをベースに、情報技術の進展によるプライバシーの変化、知的財産権とコンピュータソフトの問題、倫理と責任の問題、社会における情報技術の意義や課題などを論じる。

【授業の目標】
情報倫理の主要課題と内容を理解し、課題解決の今後の方向性を検討する。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．プライバシー
3．所有権
4．責任
5．情報技術と社会

【評価方法】
出席、課題発表、期末テストで評価する。

【テキスト】
Computer Ethics (Johnson, Deborah G. Prentice Hall 2001)

091170003_0560　掲載順：0560　MASTER ★

経営財務 I

三矢幹根

【授業の概要】
講義：日本の公開企業は戦後、効率性や収益性を無視してメインバンクを中心とする銀行借入を主な原資に規模の拡大経営を続けていた。しかし、1990年初頭から始まったバブル崩壊後、銀行は不良債権に呻吟して、間接金融が正常に機能しなくなった。2003年に漸く銀行の不良債権問題に解決の目途が付いたが、その後もわが国の公開企業の資金調達は直接金融に軸足を移しつつある。直接金融における主要な資金の供給者である機関投資家は長い間「ものを言わぬ」株主だったが、今や「ものを言う株主」に変貌してきた。この潮流の変化は「会社は誰のものか」という本来の原理原則に立ち返ろうとする自然な変化であり、経済のグローバル化が進むに連れて、欧米同様に日本でも株主価値重視経営が浸透しつつある。このような「株主価値重視経営」という文脈に沿い、経営財務Iでは資産の評価法、リスクの測定法、企業価値の評価法などについて討議、考察する。

【授業の目標】
資産や株式の価値評価の基本を学び、何が企業価値を決定するのかに焦点を当てながら現代コーポレートファイナンス理論の体系を理解する。

【授業計画】
（1）資産価値の評価法①
（2）資産価値の評価法②
（3）債券と株価の評価法
（4）投資の決定法
（5）リスクの測定法①
（6）リスクの測定法②
（7）資本コストと企業価値評価
（8）新しい企業価値評価尺度
（9）資本構成と価値の還元
（10）企業の合併・買収（M&A）
（11）先物取引
（12）スワップ取引
（13）オプション取引①
（14）オプション取引②

【評価方法】
出席状況と復習小課題（30%）、学期末試験の結果（70%）で総合評価

【テキスト】
経営財務入門　第３版（井出允介、高橋文郎共著、日本経済新聞社）
講義ノートを配布

【参考文献・資料】
コーポレート・ファイナンス（第８版）上下（リチャード・ブリーリー他、日経ＢＰ社）
コーポレートファイナンスの原理（第7版）（ステファン・ロス他、金融財政事情研究会）

経営財務 II

三矢幹根

【授業の概要】

講義：経営財務Iで学んだ現代ファイナンス理論が実際にどのように企業経営に活用されているか、数々のケース・スタディを通して学ぶ。

【授業の目標】

ケース・スタディを通して現代ファイナンス理論の理解を深め、理論から実践への架け橋とする。

また、コーポレート・ファイナンス分野での修士論文を検討している学生には、修論作成に必要な体系的知識を習得させるだけでなく、ケーススタディの中に数々の論文のネタがあることをその都度指摘し、課題レポート及び修士論文の書き方の要点を指導する。

【授業計画】

（1）企業と投資家
（2）資本コストと価値評価
（3）資本コストと企業経営
（4）資本コストと企業経営の実践（1）
（5）資本コストと企業経営の実践（2）
（6）M＆A戦略の理論と実例
（7）負債の利用と企業価値評価
（8）最適な負債比率の探究
（9）有利子負債削減実例
（10）積極的な負債の利用
（11）エクイティ・ファイナンスと資金調達の新潮流
（12）配当政策
（13）自社株買い
（14）配当政策実例

【評価方法】

出席状況と課題レポートで総合評価

【テキスト】

日本企業のコーポレートファイナンス（砂川伸幸、北川英隆、杉浦秀徳共著、日本経済新聞社）

必要に応じてプリントを配布

【参考文献・資料】

コーポレートファイナンス（第８版）上下（リチャード・ブリーリー他、日経ＢＰ社）
コーポレートファイナンスの原理（第7版）（ステファン・ロス他、金融財政事情研究会）

091170003_0590　掲載順：0590　MASTER ★

リスク管理特講 II

上原 衛

【授業の概要】

講義：インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したｅビジネスの進展とともに、現在の情報社会は財務・法務・オペレーションを含めた様々なビジネスリスクや通信ネットワーク上のリスクに晒されており、不正や不祥事などの多くの問題が発生している。本講では、まずコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスを包含した内部統制とERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みを理解したうえで、さまざまなビジネスリスクについて具体的な事例を通して概観する。そして、その発生のメカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、情報社会におけるネットワーク上でのビジネスリスク、電子帳票における信憑性と情報セキュリティに焦点を当てる。
リスク管理に関して、まず、内部統制とERMにおける統合的な枠組みを理解したうえで、具体例をとおして、情報セキュリティ管理からビジネスリスク管理に至るまで理解を深めていく。

【授業の目標】

内部統制とERM(Enterprise Risk Managemaent)における統合的な枠組みに関する理解を深める。

【授業計画】

1．内部統制、ERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みについて
2．情報社会におけるビジネスリスク（信用リスク、市場リスク、会計不祥事、レピュテーショナル・リスク、ネット告発）、システムリスクについて
3．情報セキュリティ（コンピュータ・ウィルス、不正アクセス・改ざん、暗号化、電子帳票の認証、電子商取引、電子マネー、知的所有権、個人情報保護）
4．情報社会におけるリスクの増大について
5．ビジネスリスク管理、情報セキュリティ管理
6．電子帳票における信憑性の確保と暗号化

【評価方法】

講義と討議への積極的参加度に加え、研究への取り組み姿勢と理解度を総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

リスク管理特講 I

上原 衛

【授業の概要】

講義：インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したｅビジネスの進展とともに、現在の情報社会は財務・法務・オペレーションを含めた様々なビジネスリスクや通信ネットワーク上のリスクに晒されており、不正や不祥事などの多くの問題が発生している。本講では、まずコーポレート・ガバナンスやコンプライアンスを包含した内部統制とERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みを理解したうえで、さまざまなビジネスリスクについて具体的な事例を通して概観する。そして、その発生のメカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、金融派生商品（デリバティブ）を利用した会計不正事件や、情報社会におけるネットワーク上のコミュニケーション時のリスクなどの情報社会におけるビジネスリスクに焦点を当てる。

【授業の目標】

戦略的総合リスクマネジメント（ERM:Enterprise Risk Management）を概観し、その発生のメカニズム、リスクの評価・認識・管理について理解する。特に、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクと情報社会におけるビジネスリスクに関するリスクマネジメントに関しての理解を深め、専門性を高める。

【授業計画】

1．内部統制、ERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク・マネジメント)における統合的な枠組みについて
2．情報社会におけるビジネスリスク（信用リスク、市場リスク、会計不祥事、レピュテーショナル・リスク、ネット告発）、システムリスクについて
3．情報セキュリティ（コンピュータ・ウィルス、不正アクセス・改ざん、暗号化、電子帳票の認証、電子商取引、電子マネー、知的所有権、個人情報保護）について
4．情報社会におけるリスクの増大について
5．リスク・アセスメント、リスク分析
6．金融派生商品（デリバティブ）を利用した会計不正事件
7．ネットワーク上でのリスク

【評価方法】

講義と討議への積極的参加度に加え、研究への取り組み姿勢と理解度を総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

091170003_0600　掲載順：0600　MASTER ★

地域経済特講 I

真田幸光

【授業の概要】

講義：アジアを中心とする地域経済の概況を現状認識、その上で、日本の地域経済、日本企業の発展との関連を考察、アジア地域と日本の経済的共存共栄システムを構築する為の研究を行う。

【授業の目標】

国際情勢に対する深い関心を持ち、客観的かつ具体的な戦略思考を養うことを目標とする。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（韓国）
3．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（北朝鮮）
4．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（モンゴル）
5．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（中国１）
6．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（中国２）
7．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（台湾・香港・シンガポール）
8．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア）
9．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（ベトナム、カンボジア、ミャンマー）
10．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（インド、パキスタン、スリランカ）
11．アジアビジネスに於ける米国の影響に関する考察
12．アジアビジネスに於ける欧州の影響に関する考察
13．日本企業のアジアビジネスを支援する政府・地方自治体の政策
14．日本企業のアジア戦略（ケーススタディー）
15．総括

【評価方法】

授業時間に於ける実績を評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

091170003_0610　掲載順 :0610　MASTER ★

地域経済特講 II

真田幸光

【授業の概要】
講義：国際経済情勢を、政治、外交、文化的視点を含めた形で現状認識すると共に、更に国際金融の視点から見た実態を分析する。こうした考察を経て、ビジネス・スタンダードのあり方、意味などについても考察を加えていく。

【授業の目標】
国際経済情勢に関する明確なる現状認識を行ったうえで経済外交戦略を作成していくことができるような能力を養うことを目的とする。

【授業計画】
1．ガイダンス
2．ブレナンウッズ体制
3．国際金融の発展経緯
4．プラザ合意
5．アジア通貨危機
6．最新経済事情（米国）
7．最新経済事情（欧州）
8．最新経済事情（北東アジア）
9．最新経済事情（中国）
10. 最新経済事情（東南アジア）
11. 最新経済事情（中東アフリカ）
12. グローバリゼーション
13. 日本の経済外交戦略
14. 日本企業の国際戦略
15. 総括

【評価方法】
授業に於ける実績に基づき評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091170003_0620　掲載順 :0620　MASTER ★

研究指導 I

杉本典之

【授業の概要】
演習：この授業は、簿記・会計関係の複数の授業において学修した成果に基づいて論文を執筆し、もって論理的思考力と表現力を鍛えようとする学生のために開設される授業である。論文テーマの模索と明確化や、論文作成のための具体的な作業の進展等を指導する。各学生は、順番に中間報告を何回かに分けて行い、討論を積み重ねて論文を完成させていく。

【授業の目標】
既存の知見や学説を批判的に修得するとともに、学術論文の書き方に関する参考文献も活用しつつ思考することや論文を書くことがどういうことかについて実践的に体験できるように指導する。

【授業計画】
論文を完成させるための下記のような手順は、初年度中に論文を完成させようと企図する特定の学生に対しては初年度から求めるものであるが、通常の学生に対しては2年度目以降に求めるものである。
（1）５月中に自らの論文のテーマを明確にする。
（2）夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集する。
（3）秋には論文の草稿を実際に執筆する。
（4）翌年の１月初めまでに論文を完成させるように努める。
学生は、初年度から、下記の３段階でそれぞれ中間報告し、このような中間報告を繰り返す。
(a) 論文のテーマを絞り込んだ段階
(b) 参考文献や資料を収集して一読し終わった段階
(c) 論文の草稿を一応書き上げた段階

【評価方法】
上記の中間報告や完成させた論文の内容に則して評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
共通するものとしては、学術論文の書き方に関する参考文献

091170003_0630　掲載順 :0630　MASTER ★

研究指導 I

糟谷 修

【授業の概要】
演習：この授業は、租税法関係の複数の授業において学修した成果に基づいて論文を執筆し、もって論理的思考力と表現力を鍛えようとする学生のために開設される授業である。論文テーマの模索と明確化や、論文作成のための具体的な作業の進展等を指導する。各学生は、順番に中間報告を何回かに分けて行い、討論を積み重ねて論文を完成させていく。

【授業の目標】
既存の知見や学説を批判的に修得するとともに、学術論文の書き方に関する参考文献も活用しつつ思考することや論文を書くことがどういうことかについて実践的に体験できるように指導する。

【授業計画】
論文を完成させるための下記のような手順は、初年度中に論文を完成させようと企図する特定の学生に対しては初年度から求めるものであるが、通常の学生に対しては２年度目以降に求めるものである。
（1）５月中に自らの論文のテーマを明確にする。
（2）夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集する。
（3）秋には論文の草稿を実際に執筆する。
（4）翌年の１月初めまでに論文を完成させるように努める。
学生は、初年度から、下記の３段階でそれぞれ中間報告し、このような中間報告を繰り返す。
（a）論文のテーマを絞り込んだ段階
（b）参考文献や資料を収集して一読し終わった段階
（c）論文の草稿を一応書き上げた段階

【評価方法】
上記の中間報告や完成させた論文の内容に則して評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
共通するものとしては、学術論文の書き方に関する参考文献

091170003_0681　掲載順 :0635　MASTER ★

研究指導 II

杉本典之

【授業の概要】
演習：この授業は、簿記・会計関係の複数の授業において学修した成果に基づいて論文を執筆し、もって論理的思考力と表現力を鍛えようとする学生のために開設される授業である。論文テーマの模索と明確化や、論文作成のための具体的な作業の進展等を指導する。各学生は、順番に中間報告を何回かに分けて行い、討論を積み重ねて論文を完成させていく。

【授業の目標】
既存の知見や学説を批判的に修得するとともに、学術論文の書き方に関する参考文献も活用しつつ思考することや論文を書くことがどういうことかについて実践的に体験できるように指導する。

【授業計画】
初年度の学修に加えて2年度目以降の学修を続けつつ、下記のような手順を踏んで論文を完成させるように、学生を指導する。
（1）５月中に自らの論文のテーマを明確にする。
（2）夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集する。
（3）秋には論文の草稿を実際に執筆する。
（4）翌年の１月初めまでに論文を完成させるように努める。
学生は、２年度目以降も、下記の３段階でそれぞれ中間報告し、このような中間報告を繰り返す。
(a) 論文のテーマを絞り込んだ段階
(b) 参考文献や資料を収集して一読し終わった段階
(c) 論文の草稿を一応書き上げた段階

【評価方法】
上記の中間報告や完成させた論文の内容に則して評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
共通するものとしては、学術論文の書き方に関する参考文献

091170003_0682　掲載順：0638　MASTER ★

研究指導 II

糟谷 修

【授業の概要】
演習：この授業は、租税法関係の複数の授業において学修した成果に基づいて論文を執筆し、もって論理的思考力と表現力を鍛えようとする学生のために開設される授業である。論文テーマの模索と明確化や、論文作成のための具体的な作業の進展等を指導する。各学生は、順番に中間報告を何回かに分けて行い、討論を積み重ねて論文を完成させていく。

【授業の目標】
既存の知見や学説を批判的に修得するとともに、学術論文の書き方に関する参考文献も活用しつつ思考することや論文を書くことがどういうことかについて実践的に体験できるように指導する。

【授業計画】
初年度の学修に加えて２年度目以降の学修を続けつつ、下記のような手順を踏んで論文を完成させるように、学生を指導する。
（1）５月中に自らの論文のテーマを明確にする。
（2）夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集する。
（3）秋には論文の草稿を実際に執筆する。
（4）翌年の１月初めまでに論文を完成させるように努める。
学生は、２年度目以降も、下記の３段階でそれぞれ中間報告し、このような中間報告を繰り返す。
（a）論文のテーマを絞り込んだ段階
（b）参考文献や資料を収集して一読し終わった段階
（c）論文の草稿を一応書き上げた段階

【評価方法】
上記の中間報告や完成させた論文の内容に則して評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
共通するものとしては、学術論文の書き方に関する参考文献

091170003_0650　掲載順：0650　MASTER ★

研究指導 I

石川雅之

【授業の概要】
演習：財務会計分野のトピックについて履修者それぞれが研究テーマを選択し、そのテーマに沿って進める。

【授業の目標】
研究成果を論文としてまとめる。

【授業計画】
履修者それぞれの研究テーマについての発表をもとに討論を行うとともに、関連する分野の文献を検討する。

【評価方法】
単位外の科目であるため、評価は行わない。

【テキスト】
適宜指示する。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

091170003_0660　掲載順：0660　MASTER ★

研究指導 I

三浦克人

【授業の概要】
演習：原価計算・管理会計分野の論文作成を指導する。

【授業の目標】
論文の作成。

【授業計画】
受講生と相談しながら、個別指導をおこなう。

【評価方法】
論文の作成への取り組みにより評価する。

【テキスト】
適宜指示する。

091170003_0670　掲載順：0670　MASTER ★

研究指導 I

吉村文雄

【授業の概要】
演習：企業経営の国際化に伴い内部統制の効率化や各国会計基準のアコード化が必要となり、この領域の研究も増えてきている。本講は、このような状況を具体的に把握し、効率的内部統制システムのデザインから会計システムの構築への流れを研究します。わが国の内部会計システムの状況を把握しながら、それが会計開示とどのように繋がるかを諸外国の制度と比較し理論的に究明することも含みます。

【授業の目標】
企業の計算制度がどのような目的のもとで制度化されるのかを明らかにできればよい。今日問われている企業倫理の問題が会計制度の問題とかかわっているとすれば、そこには会計学の視点で分析できる側面が存在するはずである。こうした問題意識から修士論文として仕上げられればよいと考えます。

【授業計画】
アメリカの内部統制制度を把握し、そのうえで会計システムの有様を把握できるようにしたいが、受講者の希望を聞いたうえで現実的に対応するようにしたい。時間的に余裕があれば、上のような研究を徹底したい。

【評価方法】
アカウンティング・スクールであることを考慮すれば、厳密に評価する必要があるので、学期ごとの評価を踏まえて、進捗状況などを把握しながら適宜アドバイスをあたえます。論文を完成させる必要があれば、ミッションの再評価も必要になります。

【テキスト】
受講者と相談して指示します。

【参考文献・資料】
授業中に適宜指示します。

研究指導Ⅰ

後藤貞明

【授業の概要】
演習：個別指導により修士論文テーマの選定から制作までの指導と演習を行う。

【授業の目標】
修士論文の作成・完成

【授業計画】
各演習時にテーマの個別問題の発表を行ってもらい、２年間にわたり個人指導をする。

【評価方法】
演習の過程・修士論文で評価する。

【テキスト】
開講時に指示する。

【参考文献・資料】
開講時に指示する。

091370501_0010　掲載順：0010　MASTER ★

文化創造総論

川澄未来子　酒井晶代　島田修三
清水良典　角田達朗　永井聖剛

【授業の概要】

主体的かつ創造的な表現に必要な人間性や知的な奥行き、そして日本の伝統文化への造詣、また国際交流に必要な異文化理解や現状認識、それに実践的処理能力など、より高度な文化創造への素養や姿勢、加えて人間の感性や理性に働き掛ける心理的・社会的状態など文化創造の根元について学ぶ。
（オムニバス方式）
（清水教授）現代日本における多様化しグローバル化した文化状況を現代文学の表現を通して学び、日本固有の文化創造の可能性を考える。
（島田教授）日本文化の伝統的特質を古典文学の表現を通して学び、日本人が歴史的に培った固有性およびグローバルな普遍性への志向を探る。
（角田教授）主として映像資料を用いて映像表現、演劇表現の特質について学び、視聴覚表現を鑑賞・創作する上での手がかりを得る。
（酒井教授）近現代日本における児童文学の展開を文化史やメディア史の視点から考察し、子どもをとりまく諸状況と文化創造との関わりを探る。
（川澄准教授）アニメーションやＣＧなどの仕組みや具体事例に触れながら、電子メディア表現が持つ創造的特質や可能性について学ぶ。
（永井准教授）都市あるいはメディアという「場」とテクスト生成との関係について分析し、文学が直面する課題について考える。

【授業の目標】

文化創造研究科での学習に必要な基本的な素養や姿勢を、各教員の研究内容に応じて修得すること。

【授業計画】

第１回　近代文学の文体創造について
第２回　現代文学の文体創造について
第３回　日本古典文学における伝統と文化の意識の発生
第４回　日本古典文学における文化的独創性の獲得
第５回　文章表現と映像表現
第６回　演劇における言語と動作
第７回　児童文学概念の発生と展開
第８回　近現代のメディアと日本児童文学
第９回　錯視現象から映像・アニメのしかけまで
第10回　ＣＧのさまざまな応用
第11回　文学と都市について
第12回　文学とメディアについて

【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとに1200字のレポートを課し、総合的に評価する

【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

各講義ごとに授業中に指示する

091370501_0020　掲載順：0020　MASTER ★

文化創造基礎Ⅰ（文学表現論）

早川由美

【授業の概要】

日本古典文学の代表的なテクストをたどりながら、古典に現れた特長的な文学表現の諸相に検討を加える。また、現代の文学表現に影響を与えている表現的特質について、相互のテクストを比較しながら、その具体的な関係を学ぶ。

【授業の目標】

松尾芭蕉の『おくのほそ道』は有名であるが、それに先行する紀行文『野ざらし紀行』を読み解き、句と文章の醸し出す世界を見ていく。
芭蕉がそれまでの俳諧とは異なる、「蕉風」という自分の世界を作り出す旅でもあるので、創作者として苦心なども作品から読んでいく。
その背景となっている中古・中世の古典作品についても見ていく。

【授業計画】

１　授業概要の説明。松尾芭蕉と元禄の時代。
２　以下、本文を順に読んでいく。

【評価方法】

レポートの評価をもってする。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

えんぴつの旅・松尾芭蕉「野ざらし紀行」普遊舎
芭蕉文集　岩波書店　古典文学大系
など

091370501_0030　掲載順：0030　MASTER ★

文化創造基礎Ⅱ（創造表現論）

小倉 斉

【授業の概要】

主として文学的な韻文および散文のテクストを教材として、創造的行為としての文学表現を構成する題材・モチーフ・テーマ・思想・方法・レトリック等の多角的な観点からつぶさに検証し、創造表現の全体像を学ぶ。

【授業の目標】

日本の近・現代を代表する短編小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化しつつ、多様な読みを生み出す分析方法を実践的に習得するとともに、書き手の意識・方法を明らかにする。

【授業計画】

＜小説の方法―テクストはどう書かれ、どう読まれるか―＞
第１回　『サラサーテの盤』精読（１）
第２回　『サラサーテの盤』精読（２）
第３回　『百萬圓煎餅』精読（１）
第４回　『百萬圓煎餅』精読（２）
第５回　『風流夢譚』精読（１）
第６回　『風流夢譚』精読（２）
第７回　『陽気な夜回り』精読（１）
第８回　『陽気な夜回り』精読（２）
第９回　『木の箱』精読（１）
第10回　『木の箱』精読（２）
第11回　『樹影譚』精読（１）
第12回　『樹影譚』精読（２）
第13回　『レキシントンの幽霊』（１）
第14回　『レキシントンの幽霊』（２）
第15回　レポート提出

【評価方法】

学期末のレポートを中心に、授業への参加状況、レジュメの内容、発表・質疑応答の様子、発表後の小レポートなどから、総合的に評価する。

【テキスト】

サラサーテの盤（内田百閒　プリント）、百萬圓煎餅（三島由紀夫　プリント）、風流夢譚（深沢七郎　プリント）、陽気な夜回り（古井由吉　プリント）、木の箱（金井美恵子　プリント）、樹影譚（丸谷才一　プリント）、レキシントンの幽霊（村上春樹　プリント）

【参考文献・資料】

引用の想像力（宇波彰　冬樹社）、花から花へ―引用の神話、引用の現在（高橋英夫　新潮社）、小説の技法―視点・物語・文体（Ｒ・サーメリアン　旺史社）、小説の技巧（デイヴィッド・ロッジ　白水社）

091370501_0040　掲載順：0040　MASTER ★

文化創造基礎Ⅲ（映像表現論）

一尾直樹

【授業の概要】

映像表現の作品、特に映画における表現の固有の性格や方法を、主として日本映画史をたどりながら考察し、同時に時代情況や時代の芸術的思潮を敏感に反映した代表的な映画理論の変遷をもとらえていく。

【授業の目標】

映画作品を分析的に見ることで、映画共通の表現法やその作品独特の表現法を発見し、言語化できるようにする。

【授業計画】

毎回、映画作品を鑑賞し、テーマに沿って解説とディスカッションを行います。
長編映画の場合は部分的な鑑賞となりますので、未見の作品である場合は各自で全編を鑑賞してください。

イントロダクション：短編映画を「見る」
映画分析の方法１：撮影を「見る」
　　ａ）構図を「見る」
　　ｂ）レンズを「見る」
　　ｃ）カメラの動きを「見る」
映画分析の方法２：光（照明）を「見る」
映画分析の方法３：編集を「見る」
映画分析の方法４：シナリオを「見る」
映画分析の方法５：非劇映画（個人映画・実験映画）を「見る」

【評価方法】

レポート（映画評論）と出席状況による。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

文化創造基礎 IV（ディベート技法論）

渡辺真澄

【授業の概要】
基礎技術として、立論の立て方、尋問の仕方、反駁・反論の仕方、試合準備の仕方、すなわち、情報収集方法や効果的なディベート技法などを指導する。

【授業の目標】
ディベートという“科学的検証のプロセス”を理解し、実践する。つまり、“ある仮説から論理的に導き出された結論を、事実の観察や実験の結果と照らし合わせて、その真偽を確かめる”検証のプロセスをオーラル・コミュニケーションを通じて実践、習得することを目標にする。

【授業計画】
ディベートの理論と実践を通してコミュニケーション技能の向上を目指す。授業では、ディベートの概要や理論の解説に加え、受講者には実際にスピーチやディベートを行ってもらい、言語運用能力、論理的な思考能力、情報収集能力などの向上を目指す。
第１講　ディベートの概要
第２講　スピーチ実践（１）：ラベリング・ナンバリングの意義
第３講　ディベートの試合の流れ：フローシートの取り方
第４講　スピーチ実践（２）：二項対立的テーマスピーチ
第５講　ディベートの論理的推論（蓋然的議論とは？）
第６講　ディベート論題決定のブレインストーミング
第７講　プレゼンテーション実践：グループ発表
第８講　グループリサーチ
第９講　立論の作成と反駁の準備
第10講　ディベート実践（１）：ディベートの試合
第11講　ディベート実践（２）：ディベートの試合
第12講　論題研究（積極的安楽死）
第13講　ディベート実践（３）：ディベートの試合
第14講　ディベート実践（４）：ディベートの試合
第15講　まとめ

【評価方法】
出席状況、授業での活動状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。毎回ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】
頭を鍛えるディベート入門（松本茂著　講談社）

詩歌創作理論 I

荒川洋治

【授業の概要】
韻文作品を成立させる方法論や、その表現技術を支える修辞学等の創作に関わる基礎的な理論を取り上げ、どのように創作理論が実際の韻文テクストを構築していくか、という問題を創作のプロセスと関連させながら考えていく。

【授業の目標】
詩論の理念や語調が、時代の流れとともに革新されるようすを感じとれるようにする。

【授業計画】
現代詩前期（明治・大正・昭和）の詩論を読む。

・漢詩、和歌、俳諧の詩学
・岩野泡鳴の詩論
・萩原朔太郎の詩論
・西脇順三郎の詩論
・小野十三郎の詩論
・伊藤信吉の詩人論
・武者小路実篤と詩語

【評価方法】
出席状況とレポートによる。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
日本文学史（小西甚一著　講談社学術文庫）
伊藤信吉著作集第４巻（沖積舎）
詩を読む人のために（三好達治著　岩波文庫）

詩歌創作理論 II

荒川洋治

【授業の概要】
韻文作品を成立させる方法論・技術論・修辞学に関する体系的理論のうち、主として現代詩に関する代表的なものを検討すると同時に、そうした創作理論と現代詩のテクストとの相互性を多角的に検証し、理論と実作の有機的な関係をとらえる。

【授業の目標】
現代の多様な詩論が、実際の作品にどのように影響したかを検証する力をやしなう。

【授業計画】
戦後の詩論を読む。

・小野十三郎の詩論
・田村隆一の詩論
・高見順「三人の詩について」
・粟津則雄の現代詩史

【評価方法】
出席状況とレポートによる。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
現代詩手帖（小野十三郎著　創元社）
高見順全集第16巻（勁草書房）

散文創作理論 I

永井聖剛

【授業の概要】
近代・現代の代表的な作家における小説作法や小説観等の創作に関わる理論的な発言を検討しながら、それらが実際の小説作品の上にどのような表現として反映されているか、という問題を解析的に考えていく。

【授業の目標】
さまざまな小説文体・方法の考察、その歴史的意義の把握。

【授業計画】
近代文学の古典ともいえるテクストの“リライティング”に着目し、リライトする行為がどのような創造性や批評性を持つのかを考察する。
1 ガイダンス
2 中島京子『FUTON』を読む①　『FUTON』と『蒲団』
3 田山花袋『蒲団』を読む①　作品からテクストへ
4 田山花袋『蒲団』を読む②　語り・人称・視点
5 田山花袋『蒲団』を読む③　それは誰の欲望か
6 田山花袋『蒲団』を読む④　〈書くこと〉の所有権をめぐって
7 中島京子『FUTON』を読む②　主題としての〈記憶〉
8 中島京子『FUTON』を読む③　『蒲団』の打ち直し方
9 村上春樹「七番目の男」を読む①　「七番目の男」と『こころ』
10 夏目漱石『こころ』を読む　主体性をめぐる問題
11 村上春樹「七番目の男」を読む②　方法としてのパロディ
12 村上春樹「七番目の男」を読む③　物語行為について
13 まとめ

【評価方法】
出席状況と期末レポートとを総合的に判断して評価する。

【テキスト】
ＦＵＴＯＮ（中島京子　講談社文庫）
蒲団（田山花袋　新潮文庫）

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

散文創作理論 II

永井聖剛

【授業の概要】
リアリズム理論をはじめとする、近代・現代の体系的な小説創作理論を検討し、創作主体の姿勢・素材の選択・主題による素材の再構成・プロットの構想・登場人物の設定等の小説を成立させる諸問題との関係を考えていく。

【授業の目標】
太宰治テクストの多様な小説文体・方法の考察、その歴史的意義の把握。
小説文体に焦点化した近現代文学史の理解。

【授業計画】
太宰治の登場は「既成の小説概念の否定・破壊」と評価されることが多い。では、彼が示してみせた「新しさ」とはどのようなものだったのか、また、それによって「否定・破壊」された「既成の小説概念」とはどのようなものだったのか。太宰の多様な方法意識がうかがわれる作品を精読することで、如上の問題に迫ってみたい。

1　ガイダンス
2　「葉」講読
3　「思ひ出」講読
4　「魚服記」講読
5～6　「道化の華」講読
7～8　「女生徒」講読
9～10　「ヴィヨンの妻」講読
11～13　「人間失格」講読
14　まとめ

【評価方法】
受講状況と期末レポートとによって総合的に評価する。

【テキスト】
晩年（太宰治　新潮文庫）
女生徒（太宰治　角川文庫）
人間失格（太宰治　新潮文庫）

【参考文献・資料】
授業中指示する。

創造表現特別演習 I（詩）-09a

荒川洋治

【授業の概要】
現代詩の優れたテクストを読みこみ、実践的な方法や技術を踏まえながら、詩作品の創作演習を行う。同時に作品に対する批評を通して、修士論文または修士制作に向けて実作と批評の基礎的な知識・技能を培う。

【授業の目標】
詩的言語の発生の事情、行分けによる展開、変転について理解を深める。

【授業計画】
現代詩（戦後）の作品をもとに、実作の基本を学ぶ。

・西脇順三郎「旅人かへらず」
・草野心平「原音」他、年次詩集
・山之口貘と詩集
・田村隆一、黒田三郎の世界
・北村太郎、石原吉郎、石垣りんの作品
・改行という思想
・飛躍とは何か
・構成と秩序
・ことばの化学

【評価方法】
出席状況とレポートによる。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
西脇順三郎詩集（岩波文庫）
草野心平詩集（岩波文庫）
山之口貘詩文集（講談社文芸文庫）
現代詩文庫・田村隆一詩集（思潮社）他

創造表現特別演習 I（詩）-09b

荒川洋治

【授業の概要】
「創造表現特別演習I(詩)-09a」に継続する演習授業。詩作品の創作演習とその批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品を目指しながら、各自のテーマに沿って修士論文または修士制作の指導を行う。

【授業の目標】
社会一般の言語と、詩的言語の対立や融和を観察する力をそだてる。

【授業計画】
1970年以降の作品を読みながら、現代詩の実作を試みる。

・飯島耕一「ゴヤのファースト・ネームは」
・永瀬清子「あけがたにくる人よ」
・鈴木志郎康「青草の上に」
・北村太郎「ぼくの現代詩入門」
・意味、リズム、呼吸
・「あたらしさ」とは何か
・時代と時間

【評価方法】
出席状況とレポートによる。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
現代詩文庫・井坂洋子詩集（思潮社）他
北村太郎の仕事第３巻（思潮社）
詩とことば（荒川洋治著　岩波書店）

創造表現特別演習 II（短歌）-09a

島田修三

【授業の概要】
主に明治新派和歌の歌人、正岡子規、与謝野晶子、石川啄木、斎藤茂吉らの代表的な歌集の講読を行い、近代短歌の諸相をたどりつつ、同時に短歌作品の創作演習を行う。提出された作品には必ず歌会形式の相互批評・鑑賞を行い、修士論文または修士制作に向けて、実作と批評・鑑賞の基本的な素養を学ぶ。

【授業の目標】
近代短歌史の具体的な諸相を学び、短歌に関する高度な専門知識を培うと同時に、実践的な創作能力を深める。

【授業計画】
第１回　授業プログラムの概説
第２回　与謝野晶子のテクスト講読１
第３回　与謝野晶子のテクスト講読２
第４回　与謝野晶子のテクスト講読３
第５回　与謝野晶子のテクスト講読４
第６回　正岡子規のテクスト講読１
第７回　正岡子規のテクスト講読２
第８回　正岡子規のテクスト講読３
第９回　正岡子規のテクスト講読４
第10回　課題創作演習１
第11回　課題創作演習２
第12回　課題創作演習３
第13回～個人指導

【評価方法】
出席状況・課題創作作品の評価・学期最終レポートの評価
以上の３点を総合して評価する。

【テキスト】
プリントその他を配付する。

【参考文献・資料】
・現代短歌全集　第１巻～第17巻（筑摩書房）
・短歌シリーズ・人と作品『与謝野晶子』、『正岡子規』（おうふう）
・現代短歌大辞典（三省堂）
その他、授業中に適宜指示する

創造表現特別演習 II（短歌）-09b

島田修三

【授業の概要】

「創造表現特別演習II(短歌)-09a」に継続する演習授業。継続的に義務づけられる、短歌作品の創作演習とその批評・鑑賞によって、文学作品としての完成度を備えた作品を目指しながら、各自のテーマに沿って修士論文または修士制作の指導を行う。

【授業の目標】

「創造表現特別演習II(短歌)-09a」に引きつづき、近代短歌史の具体的な諸相を学び、短歌に関する高度な専門知識を培うと同時に、実践的な創作能力を深める。

【授業計画】

第１回　授業プログラムの概説
第２回　石川啄木の講読１
第３回　石川啄木の講読２
第４回　石川啄木の講読３
第５回　石川啄木の講読４
第６回　斎藤茂吉の講読１
第７回　斎藤茂吉の講読２
第８回　斎藤茂吉の講読３
第９回　斎藤茂吉の講読４
第10回　近代短歌史の概説と討議
第11回　創作演習１
第12回　創作演習２
第13回～個人指導

【評価方法】

出席状況・課題創作作品の評価・学期最終レポートの評価
以上の３点を総合して評価する。

【テキスト】

プリントその他を配付する。

【参考文献・資料】

・現代短歌全集第1巻～第17巻
・短歌シリーズ・人と作品『石川啄木』、『斎藤茂吉』（おうふう）
・現代歌人文庫（国文社）
・現代短歌大辞典（三省堂）
・月刊短歌総合誌「短歌」、「短歌研究」、「歌壇」、「短歌往来」
その他、授業中に適宜指示する

創造表現特別演習 III（小説・評論）-09a

清水良典

【授業の概要】

主に戦後から現代にいたる小説と評論を読みながら、現代文学の特質を検討し、それを踏まえながら小説・評論の創作演習を行う。同時に相互間の批評を行い、修士論文または修士制作に向けて、批評眼と創作のセンスを高める。

【授業の目標】

修士論文（制作）につながる力量と見識を高める。

【授業計画】

現代小説を協議の上選定して購読しながら、並行して、学んだことを各自のモチーフに反映させた創作（10 ～ 20枚）を発表しあい、討議する。

第１～３回　現代小説購読I
第４・５回　創作討議
第６～ 11回　現代小説購読II
第12・13回　創作討議
なお、前期授業終了後の夏期休暇期間に30枚～ 50枚程度の創作を、後期に備えて執筆しなければならない。

【評価方法】

皆出席を原則とする。討議の態度と質、創作の質等を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

2週間で小説を書く!　(幻冬舎新書)
戦後短篇小説再発見１～ 18巻（講談社文芸文庫）

創造表現特別演習 III（小説・評論）-09b

清水良典

【授業の概要】

「創造表現特別演習III(小説･評論)-09a」に継続する演習授業。小説・評論の実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品を目指しながら、各自のテーマに沿って修士論文または修士制作の指導を行う。

【授業の目標】

修士論文（制作）に向けて、相互の批評を通して、創作作品を完成させる。

【授業計画】

授業に先立って、50枚程度の創作（評論作品も含む）を提出する。また、第３回終了時、第６回終了時にも、それぞれ30枚程度の創作を提出する。

第１～３回　創作合評１
第４～６回　創作合評２
第７～９回　創作合評３
第10 ～ 12回　討議
修了作品として100枚程度の創作を仕上げ、公募の新人文学賞に応募する。

【評価方法】

皆出席を原則とする。討議の態度と質、創作の質等を総合的に評価する。

【テキスト】

毎月の各文芸雑誌（『新潮』『群像』『文学界』『すばる』『文芸』等）を講読する。
特に、芥川賞、三島賞の受賞作品は必ず授業で取り上げ、討議する。

【参考文献・資料】

戦後短篇小説再発見１～ 18巻（講談社文芸文庫）

創造表現特別演習 IV（童話）-09a

酒井晶代

【授業の概要】

近代から現代にかけての童話を批評的に読むことを通して、童話に対する問題意識を高めながら創作演習を行う。同時に相互間の批評を行い、修士論文または修士制作に向けて、批評眼と創作のセンスを高める。

【授業の目標】

自らの問題意識や研究方法を明らかにしながらテキストを精読し、近代児童文学の特質や諸相を理解するとともに、研究や創作に対する実践的な力を高める。

【授業計画】

修士論文・修士制作の中間報告と草稿合評を中心に進めるが、並行して近代児童文学の作品講読を行う。「作者/読者」「子ども/大人」「文学/教育」等を着眼点としてテキストを精読し、童話・児童文学のジャンル的特質を考察したい。さらに、創作する（書く）立場からテキストに向き合うことを通して、歴史的評価の再検討や作品の読みかえを試みることができたらと思っている。
授業は、テキストに関する調査・分析や、各自の草稿を受講者全員で討議する形式で進めていく。
第１回　授業の進め方、全体計画について
第２～６回　作品の講読とディスカッション（創作演習を含む）
第７～ 12回　修士論文・修士制作の中間発表（草稿合評を含む）
第13回　全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に適宜指示する。

【参考文献・資料】

・日本児童文学大系＜全30巻＞（ほるぷ出版）
・児童文学名作全集＜全５巻＞（井上ひさし編　福武文庫）
・日本児童文学名作集＜上・下＞（桑原三郎・千葉俊二編　岩波文庫）
・日本の童話名作選＜明治・大正篇、昭和篇＞（講談社文芸文庫編　講談社）
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特別演習 IV（童話）-09b

酒井晶代

【授業の概要】

「創造表現特別演習IV(童話)-09a」に継続する演習授業。童話の実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品を目指しながら、各自のテーマに沿って修士論文または修士制作の指導を行う。

【授業の目標】

自らの問題意識や研究方法を明らかにしながらテキストを精読し、現代児童文学の特質や諸相を理解するとともに、研究や創作に対する実践的な力を高める。

【授業計画】

演習Ⅳaと同様に、修士論文・修士制作の中間報告や草稿合評と並行して、児童文学の作品講読を行う。演習IVbでは、主として第二次大戦後の作品をとりあげる。引き続き「作者/読者」「子ども/大人」「文学/教育」等への着眼を通して、現代児童文学の方法的到達点と課題を考察し、研究や創作の糧とすることを目指す。

前期と同様、授業はテキストに関する調査・分析や、各自の草稿を受講者全員で討議する形式で進めていく。

第１回　授業の進め方、全体計画について
第２～６回　作品の講読とディスカッション（創作演習を含む）
第７～12回　修士論文・修士制作の草稿合評（中間発表を含む）
第13回　全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に適宜指示する。

【参考文献・資料】

・児童文学名作全集＜全５巻＞（井上ひさし編　福武文庫）
・現代童話＜全５巻＞（今江祥智・山下明生編　福武文庫）
・新潮現代童話館＜全２巻＞（今江祥智・灰谷健次郎編　新潮文庫）
・日本の童話名作選＜戦後篇、現代篇＞（講談社文芸文庫編　講談社）
・戦後児童文学の50年（日本児童文学者協会編　文溪堂）
・キャラクター小説の作り方（大塚英志　角川文庫）
・きむら式童話のつくり方（木村裕一　講談社現代新書）
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特別演習Ⅴ（関連領域）-09a

川澄未来子

【授業の概要】

近代文学、シナリオ、コミックなど「創造表現特別演習I～IV」以外の領域に関する作品や研究論文の講読を通して、各領域の特質を検討し、それを踏まえながら作品や評論の創作演習を行う。同時に相互間の批評を行い、修士論文または修士制作に向けて、批評眼と創作のセンスを高める。

【授業の目標】

ビジュアル表現分野の研究・制作を取り扱う。研究については、実験が一通り終了し論文のドラフトを書くことを目指す。制作については、作品がほぼ完成することを目指す。

【授業計画】

個別テーマに沿って研究・制作を進める。特に次の（２）（３）を繰り返しながら、研究・制作内容を洗練していく。

（１）テーマ選定
研究・制作のテーマを選定する。目標を設定した上で、具体的な手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

（２）リサーチ
文献調査（検索・収集・講読）や実験・試作を繰り返しながらすすめる。結果について整理・分析・考察を加え続ける。

（３）進捗報告
研究・制作の進捗状況を報告し、文献調査や実験の追加・補正、次の作業や展開方向について検討する。

毎回進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。また、ツールとしてWWW、データベース、ソフトウェア（Word, PowerPointなど）を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、報告の様子などから総合的に評価する。（評価点の配分は授業にて説明する。）

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

授業内で紹介

創造表現特別演習Ⅴ（関連領域）-09a

角田達朗

【授業の概要】

近代文学、シナリオ、コミックなど「創造表現特別演習I～IV」以外の領域に関する作品や研究論文の講読を通して、各領域の特質を検討し、それを踏まえながら作品や評論の創作演習を行う。同時に相互間の批評を行い、修士論文または修士制作に向けて、批評眼と創作のセンスを高める。

【授業の目標】

映像・演劇・シナリオの特質や諸相を理解するとともに、研究や創作に対する実践的な力を高める。

【授業計画】

様々な映像または演劇作品とそのシナリオおよび原作を比較対照し、それぞれの表現の特質を分析する。

【評価方法】

討議に臨む姿勢と、創作または研究の質等を総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

創造表現特別演習Ⅴ（関連領域）-09a

とりいかずよし

【授業の概要】

近代文学、シナリオ、コミックなど「創造表現特別演習I～IV」以外の領域に関する作品や研究論文の講読を通して、各領域の特質を検討し、それを踏まえながら作品や評論の創作演習を行う。同時に相互間の批評を行い、修士論文または修士制作に向けて、批評眼と創作のセンスを高める。

【授業の目標】

修士論文・修士制作のためのテーマを見つけ､その周辺を考察・研究する。

【授業計画】

①漫画と文学、映画、テレビの関係
②テーマとアイデアの発想
③創作のための基本修得

【評価方法】

①創作態度 ②着眼力 ③独自性

創造表現特別演習Ⅴ（関連領域）-09a

永井聖剛

【授業の概要】
近代文学、シナリオ、コミックなど「創造表現特別演習Ⅰ～Ⅳ」以外の領域に関する作品や研究論文の講読を通して、各領域の特質を検討し、それを踏まえながら作品や評論の創作演習を行う。同時に相互間の批評を行い、修士論文または修士制作に向けて、批評眼と創作のセンスを高める。

【授業の目標】
批評性と独創性のある修士論文の作成に向けて、理論および表現技術の修得を目標とする。

【授業計画】
研究の個別指導が中心となる。
1　文献・資料調査に基づく研究対象およびテーマの設定。
2　研究計画の立案。
3　研究対象を分析するのにふさわしい研究方法の決定。
4　研究テーマに関する幅広い知識と理解力の修得。
5　論文の構成や展開などについての検討。
6　論文執筆に必要な表現技術の修得。
7　研究成果の中間報告と論文作成。

【評価方法】
上記の授業計画の内容に沿って、研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献・資料】
授業中、適宜指示する。

創造表現特別演習Ⅴ（関連領域）-09b

川澄未来子

【授業の概要】
「創造表現特別演習Ⅴ(関連領域)-09a」に継続する演習授業。引きつづき作品や研究論文の講読、創作演習と相互間の批評を積み重ねながら、各自のテーマに沿って修士論文または修士制作の指導を行う。

【授業の目標】
ビジュアル表現分野の研究・制作を取り扱う。研究については、学術論文として完成させることを目指す。制作については、作品に加え、制作過程レポートや取扱説明書を完成させることを目指す。

【授業計画】
（1）２ページ論文の作成
研究・制作成果を短い論文にまとめることにより、論文・作品提出に向けての骨格やストーリを作る。また、成果物の主張点や独創点を見出す。

（2）研究論文の作成、作品の制作
研究については、「背景」「目的」「方法」「結果」「まとめ」という型の中で自分の成果をまとめる。図表や参考文献を駆使して、主張点や独創点を効果的に表現する。制作については、作品に加え、制作過程レポートや取扱説明書などをまとめる。

（3）研究報告
各種メディア（スライド・ポスター・映像など）を利用して、研究成果を効果的にプレゼンテーションする。

【評価方法】
出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。（評価点の配分は授業にて説明する。）

【テキスト】
特になし

【参考文献・資料】
授業内で紹介

創造表現特別演習Ⅴ（関連領域）-09b

角田達朗

【授業の概要】
「創造表現特別演習Ⅴ(関連領域)-09a」に継続する演習授業。引きつづき作品や研究論文の講読、創作演習と相互間の批評を積み重ねながら、各自のテーマに沿って修士論文または修士制作の指導を行う。

【授業の目標】
映像・演劇・シナリオの特質や諸相を理解するとともに、研究や創作に対する実践的な力を高める。

【授業計画】
様々な映像または演劇作品とそのシナリオおよび原作を比較対照し、それぞれの表現の特質を分析する。

【評価方法】
討議に臨む姿勢と、創作または研究の質等を総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
適宜紹介する。

創造表現特別演習Ⅴ（関連領域）-09b

とりいかずよし

【授業の概要】
「創造表現特別演習Ⅴ(関連領域)-09a」に継続する演習授業。引きつづき作品や研究論文の講読、創作演習と相互間の批評を積み重ねながら、各自のテーマに沿って修士論文または修士制作の指導を行う。

【授業の目標】
テーマの独創性と完成度を高める。

【授業計画】
①得手・不得手の考察
②テーマとアイデアの創造
③作品の実践実技

【評価方法】
・独創性
・作品の完成度

創造表現特別演習Ⅴ（関連領域）-09b

永井聖剛

【授業の概要】
「創造表現特別演習Ⅴ(関連領域)-09a」に継続する演習授業。引きつづき作品や研究論文の講読、創作演習と相互間の批評を積み重ねながら、各自のテーマに沿って修士論文または修士制作の指導を行う。

【授業の目標】
批評性と独創性のある修士論文の作成に向けて、理論および表現技術の修得を目標とする。

【授業計画】
研究の個別指導が中心となる。
1　文献・資料調査に基づく研究対象およびテーマの設定。
2　研究計画の立案。
3　研究対象を分析するのにふさわしい研究方法の決定。
4　研究テーマに関する幅広い知識と理解力の修得。
5　論文の構成や展開などについての検討。
6　論文執筆に必要な表現技術の修得。
7　研究成果の中間報告と論文作成。

【評価方法】
上記の授業計画の内容に沿って、研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献・資料】
授業中、適宜指示する。

フィクション実作演習Ⅰ（短篇小説）-09

堀田あけみ

【授業の概要】
２週間程度の限定された期間で、短篇小説の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業の目標】
ことば全般に関する広い関心を保ちつつ、文章による作品の創作を目指す。

【授業計画】
ステップ１　「ことばとは何か」
ことばに関して科学的な見方のトレーニング。
人がことばを身につける過程を理解する。
ことばの理解・産出のシステムについて考える。
ステップ２　「創作と評価」
各人が小説を創作する。
同時に様々な作風の作品を、選り好みせずに鑑賞し、評価する。
ステップ３　「書くことについて考える」
創作に関する広範なレクチャー。
一方的なものではなく、意見を求めるので、積極的な議論への参加が望ましい。
ステップ４　「最終課題」

【評価方法】
ステップ２・４の作品をもとに評価する。

【テキスト】
使用せず

【参考文献・資料】
使用せず

フィクション実作演習Ⅱ（童話・ファンタジー）-09

浜たかや

【授業の概要】
３週間程度の限定された期間で、童話あるいはファンタジーの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業の目標】
文学創作の１ジャンルであるファンタジーの特殊性を理解し、その創作方法を習得する。

【授業計画】
1　書き方の基本についての講義
まずファンタジー作品の書き方の最も基本的な部分を一般論として講義することになるが、これは受講生のキャリアによって、その講義につかわれる時間も、講義の内容もことなる。

2　ストーリー・プロット・構成・文体の検討
各受講生が本講座のなかで書く作品の構想について、話させ、受講生全員でそれについて意見を述べさせる。この時間は受講生の数によって変動。
文体についても同じように検討。教室で、作品の一部を書かせて、読みあって、これも各人の意見を述べさせ、そのあと個人的な指導。

3　作品の実作
家で書いてきた作品の指導。

4　受講生が、いままでに書いた作品があれば、持ってきて読み合い、作者の個性について語り合う。

5　作品の実作と批評。各受講生それぞれの指導
この間に、一般論を講義すること、あるいは参考になる作品の紹介などを交える。

6　５を繰り返した後、総評

【評価方法】
1　物語をみつける能力、或いは作る能力　2　構成力　3　内容を深める力、あるいは内容をかるく表現する能力　4　文章力
以上の４点について採点する。

【テキスト】
特になし

【参考文献・資料】
各受講生が作品を書いていく上で、参考になる作品、あるいは評論、心理学系統の本などを推奨する。あらかじめ用意するものはなし。

現代詩実作演習-09

村岡眞澄

【授業の概要】
３週間程度の限定された期間で、現代詩の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業の目標】
近現代の優れた詩や詩論を鑑賞・検討するとともに、実際に自ら詩を創作する。また、各人の作品を互いに読んで感想を述べ合い、討議する。

【授業計画】
毎時間、講義の前半で、優れた詩や詩論を鑑賞・検討し、詩を多面的に検証する。後半で詩の実作や合評を行う。詩論は以下のものを閲読（順不同）。
1.「現代詩とは何か」「優れた詩の条件」＝吉本隆明『詩の力』（新潮文庫）
2.「散文は「異常」なものである」「最後の四冊」＝荒川洋治『詩とことば』（岩波書店）
3.「文学は実学である」＝荒川洋治『忘れられる過去』（みすず書房）
4.「詩の有用性について」＝岡井隆『詩歌の近代』（岩波書店）
5.「詩の「鑑賞」の重要性」＝大岡信『詩の日本語』（中公文庫）
6.「詩の現場がどこかにあるはずだ」＝谷川俊太郎『散文』（講談社α文庫）
7.「言葉に望みを託すということ」＝北川透『詩的スクランブルへ』（思潮社）
8.「戦後詩の代表作」＝寺山修司『戦後詩』（ちくま文庫）
9.「「地平線が消えた」自解」＝鮎川信夫『すこぶる愉快な絶望』（思潮社）
10.「小野十三郎の死」＝富岡多恵子『大阪センチメンタルジャーニー』（集英社）
＊上記のもの以外にも詩論の抜粋を随時閲読する予定。

【評価方法】
講義への出席状況、課題などの取り組み姿勢、提出作品の内容で評価。

【テキスト】
特定のものは使用せず、詩や詩論を抜粋しコピープリントを配布。

【参考文献・資料】
講義のなかで適宜指示する。

現代短歌実作演習-09

大島史洋

【授業の概要】
３週間程度の限定された期間で、現代短歌の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業の目標】
優れた短歌作品を多く鑑賞し、かつ、自らも自由に短歌を作り、考えることができるような場とする。

【授業計画】
明治時代から現代までの優れた短歌をとりあげ、それらを鑑賞しながら、自らの作歌力をつける。それが目的です。
毎回、前半を作品鑑賞、後半を提出された作品の添削と批評にあてたいと思っています。
１日目、２日目は提出作品を、数首用意してきてください。３日目以降は、前もって、私あてに作品を提出していただきます。

【評価方法】
出席状況、提出された作品の是非などを総合的に考えて評価したい。

【テキスト】
毎回、こちらで作成します。

シナリオ実作演習-09

海上宏美

【授業の概要】
３週間程度の限定された期間で、シナリオの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業の目標】
抽象的な思考と具体的な手法を往還する発想法を練習する。

【授業計画】
１．場面に奥行きを与える
２．小道具でドラマを進展させる
３．ありがちな設定を避ける
４．ありがちなオチを避ける
５．ストーリーを進めることにとらわれない
６．カメラワークを考える
７．今後の展開を予感させるドラマを心がける
８．ひとつのシーンの中でドラマを描く

【評価方法】
出席状況と提出作品で評価する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
適宜授業内で指示する。

文化創造特論Ⅰ（西洋文化論）

杉本一直

【授業の概要】
ロシア・東欧を含めた西洋現代文学の代表作品を解説する。各作品に現れている思想や構造の分析を通して、現代の西洋文化の根底に流れるさまざまな形而上の問題提起を明らかにする。

【授業の目標】
現代西洋文学に内在するいくつかの基本的主題を理解する。

【授業計画】
第１回、第２回　ロシア人作家V.ナボコフの作品を取り上げる。「過去と現在との混交」、「記憶と現実との相克」といったテーマがどのような形で具現化されているかを探る。
第３回、第４回　アルゼンチン人作家J.L.ボルヘスの作品を取り上げる。形而上的な思考の遊びに、フィクションの具象性が付与されていく創作過程を分析する。
第５回、第６回　アイルランド人作家S.ベケットの作品を取り上げる。「死」「無」「消失」へと向かう退行運動のなかで言葉が生成していくという、逆説的な創作方法を分析する。
第７回、第８回　ポーランド人作家S.レムの作品を取り上げる。SF小説の枠のなかで「他者」という概念が異様なまでに巨大化し、主体を圧迫していく構図を分析する。
第９回、第10回　チェコ人作家F.カフカの作品を取り上げる。「不条理」、あるいは「迷宮」といった言葉でしばしば形容されるカフカの作品世界を、幻想小説のひとつの原型として定義づけることを試みる。
第11回、第12回　アメリカ人作家P.オースターの作品を取り上げる。犯人も事件も存在しない形骸化された推理小説を通して、主人公を「存在と非存在の境界線」へと導く独自の物語構造を分析する。
※受講生は担当教員の指示に従って「研究ノート」を作成し、提出する。

【評価方法】
上記の「研究ノート」提出と出席状況により評価する。

【テキスト】
ロリータ（ナボコフ　新潮文庫）、ソラリスの陽のもとに（スタニスワウ・レム　ハヤカワ文庫）ほか。

【参考文献・資料】
授業において随時指示する。

文化創造特論Ⅱ（東洋文化論）

角田達朗

【授業の概要】
日本及びアジアの文化的基盤を形成している中国思想の影響の諸相を比較検討したうえで、東洋文化の特質を時に舞台芸術も材料としながら学ぶ。

【授業の目標】
東洋文化の特質を理解するとともに、比較文化の視点から文化現象を解読する能力を養う。

【授業計画】
英雄、それは超人的な活躍を見せる存在であり、神と人との中間に位置する者とも見なされるとともに、人々の多様な願望を映し出す鏡となる。この授業では、中国と日本、古典と現代という縦横の比較を軸として様々な英雄像について考察する。
第１～６回　『今昔物語集』に見る安倍清明像
第７～10回　『捜神記』に見る左慈像
第11回　夢枕漠『陰陽師』に見る安倍清明像
第12回　岡野玲子『陰陽師』に見る安倍清明像
第13回　滝田洋二郎監督『陰陽師』に見る安倍清明像
第14～15回　能『鉄輪』に見る安倍清明像

【評価方法】
レポート・平常点

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業内で適宜指示する。

文化創造特論 III（国際映画論）

平野勇治

【授業の概要】
世界の映画文化を国際的な異文化交流の視点から捉え、それぞれの国の文化特性を比較しつつ、それが普遍的な映画表現を介して受容されていく現実と将来の可能性について考える。

【授業の目標】
映画独自の表現方法を理解し、それを通じて異文化についての認識を深めること。

【授業計画】
1．授業内容について概説する。
2．最初期（発明直後）の映画における異文化の扱い方を概説する。
3．異文化社会において活動した映画人を、映画史的側面をふまえつつ概説する。
4．異文化を扱ったさまざまな映画について、具体的に概説し、討議する。
5．全体のまとめを行う。

【評価方法】
出席状況、課題への対応を考慮しつつ、最終的には学期末レポートにより評価する。
レポートのテーマについては、授業内で提示する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業内で随時示す。

文化創造特論 IV（メディア表現論）

川澄未来子

【授業の概要】
進展著しいコンピュータグラフィックス等の電子メディアを主な手がかりとして、メディア表現の具体的な技術や方法、芸術的特質や今後の可能性について、理論と実践の両面から多角的に学ぶ。

【授業の目標】
実習制作を通じて、コンピュータやマルチメディアに関する体感的な知識習得を目指す。

【授業計画】
メディア表現について概説しながら、次のトピックスについて取り扱う予定である。
（1）ピクトグラム制作
（2）紙芝居制作
（3）パラパラまんが制作
（4）効果音制作
（5）ポスター制作
（6）錯視画像制作

【評価方法】
出席状況、受講態度、提出課題、試験の総合評価によって決める。（評価点の配分は授業にて説明する。）

【テキスト】
特になし

【参考文献・資料】
授業内で紹介

創造表現特講 I（現代詩）

八木幹夫

【授業の概要】
戦後から現在までの代表的な詩や詩論を主な手がかりとして、現代詩の変遷を検証するとともに、創作理論・主題・様式・修辞といった方法を多角的に検証し、詩は時代の問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業の目標】
1 コピーやマニュアルだらけの情報社会の中で、真に創造的な仕事に関わろうとする君達にとって、「詩」はもっともクリエイティブな活動です。芸術活動の根幹には、世界を一瞬にしてとらえる言葉の問題が必ず立ちはだかります。現代の詩人たちの言葉を通して、時代の根底に流れる本質的な意味を深く読み取る能力を養いたい。
具体的には今、もっとも面白いと思われる現役詩人の作品にふれ、そこから過去の詩（近代詩・戦後詩）との対比や詩人の考え方に関連させて広がりのある学生参加の授業にしたい。

2 詩の言葉は時代とともに古びるものなのか。詩の言葉と日常の言葉はどこに違いがあるのか。卑近な例をもとに詩の在り処を探る。

【授業計画】

初回は現代詩の中でどんなものに興味を持っているかを学生から聞き取り、今後の参考とする。全員に相応しい近・現代の詩作品を一部流動的に選択する。
基本的には次の内容を骨子とする。
1　詩とは何か（二回）　2　詩の構造について（二回）
3　近代詩について（二回）4　現代詩について（二回）
5　詩と思想（二回）　6　詩と音楽と映像（二回）
7　学生自身による詩についての意見発表と討議意見交換（三回）

【評価方法】
受講後、自分の考えをまとめ、批評的な論考レポートを書かせる。

【テキスト】
コピーを使用。

【参考文献・資料】
現代詩文庫を使用。
その他の詩集。

創造表現特講 II（現代短歌）

加藤孝男

【授業の概要】
戦後短歌から前衛短歌にいたる戦後短歌史を踏まえながら、主として1980年代以降の代表的歌人の作品を題材に、その創作理論・主題・修辞といった方法を多角的に検討し、現代をどのように作品化していくかという創作方法について学ぶ。

【授業の目標】
短歌がいかなる歴史をたどって今日にいたったかを考え、創作活動に役立てたい。

【授業計画】
授業では、以下の「なにか」について考えていく。

1、はじめに
2、〈第二芸術論〉とはなにか
3、〈戦争責任〉とはなにか
4、〈戦後短歌〉とはなにか
5、〈乳房喪失〉とはなにか
6、〈前衛短歌〉とはなにか
7、〈喩〉とはなにか
8、〈身体感覚〉とはなにか
9、〈女歌〉とはなにか
10、〈口語短歌〉とはなにか
11、〈俵万智現象〉とはなにか
12、〈レトリック〉とはなにか
13、〈時代感覚〉とはなにか
14、まとめ

【評価方法】
出席状況、ディスカッションの内容などで総合評価。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
『現代短歌全集』全１６巻（筑摩書房）

創造表現特講 III（現代小説）

清水良典

【授業の概要】
戦後から現在までの代表的な創作や評論を主な手がかりとして、現代小説の変遷を検討するとともに、文学理論・主題・モチーフ・人物造型・文体といった方法を多角的に検討し、小説は時代の病理や問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業の目標】
各人のモチーフをもとに、現代小説の意欲的な解読を試みる。

【授業計画】
現代文学の代表的なテキスト(話し合いによって決める)を選び、講読と議論を主としつつ、相互の討議と調査・報告を課す。

第１回　　現代文学概論
第２～４回　テキストⅠ解読
第５～７回　テキストⅡ解読
第８～10回　テキストⅢ解読
第11～12回　総括と討議

なお、指定テキスト以外にも、現代文学関係の書籍を大量に読む必要がある。

【評価方法】
出席は皆出席を前提とする。受講態度ならびに討議の積極性、調査・報告の質等を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】
授業中に指示する。

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

創造表現特講 IV（童話）

酒井晶代

【授業の概要】
近現代の代表的な創作や児童文学論を主な手がかりとして、日本児童文学史を検証するとともに、主題・モチーフ・文体等の方法のみならず、広く社会史や文化史の視点から子ども観の変容を検討し、「子どもの文学」の創作方法とその独自性について学ぶ。

【授業の目標】
論文講読を通して児童文学研究の現状と課題を理解・考察し、自らの研究や創作に応用する。

【授業計画】
近年発表された児童文学（児童文化を含む）関係の論文を読む。
児童文学研究は作家・作品論のほか、読者論やメディア論といった社会・文化史的アプローチや、さまざまな文学理論の影響下でその幅を広げつつある。一方で、研究の深まりや多様化とともに、従来の「文学」の枠組みを解体する、より大きな視座の必要性も指摘されるようになってきた。論文の講読を通して、児童文学をめぐる言説の最前線と現代的課題を考える場としたい。
第１回　授業の進め方、全体計画について
第２回　児童文学研究の現在
第３回～論文の講読
第13回～全体のまとめ

【評価方法】
出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】
授業時に適宜指示する。

【参考文献・資料】
・研究＝日本の児童文学＜全５巻＞（日本児童文学学会編　東京書籍）
・学会誌「児童文学研究」（日本児童文学学会編）
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現各論 I（詩学）

八木幹夫

【授業の概要】
近現代の詩作品を主な手がかりとして、「ことば」をめぐる哲学や現代思想の変遷も念頭に置きながら、詩の本質や詩的言語の規制・方法に関する批評的解読の方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業の目標】
詩学なき詩は滅びよ。詩は社会への強靭な批評である。
1　現代詩に関する評論や批評文を取り上げ、時代との接点を批評的な観点から捉え直す。最近の詩や評論を具体的に取り上げ、言葉の持つ時代的な意味と問題を把握できるようにする。
2　新しい詩の出現は新しい批評と新しい詩学の出現と捉え、近代から現代にわたって書かれてきた主要な詩に関する理論を具体的な作品にそって読み取っていく作業を試みる。

【授業計画】
1．詩の無用性と有用性（二回）　2．日常の中からの詩の発見(二回)
3．言葉あそびとしての詩　（二回）　4．詩の多様化と現実の多様化（二回）
5．定型詩と口語自由詩との違い（二回）　6．詩の社会性と非社会性（二回）
7．詩の実作と理論との距離（二回）
8．まとめ　講義で扱った好きな詩についての小論発表とそれへの合同討議（一回）

【評価方法】
各講義の終了時に批評的な観点に基づいた前時のレポートを課す。

【テキスト】
近・現代詩人の理論や実作を現代詩文庫より抜粋し、コピーを使用。
その他の評論。

【参考文献・資料】
現代詩文庫（思潮社版）
その他

創造表現各論 II（シナリオ論）

海上宏美

【授業の概要】
近現代の代表的なシナリオ作品を主な手がかりとして、放送史をはじめとするメディアの変遷も念頭に置きながら、主題・ストーリー・人物造型・台詞・場面構成などの方法を多角的に検討し、シナリオ表現の特質や創作に関する諸方法について学ぶ。

【授業の目標】
言葉であるシナリオに基づいて表現された作品構造全体において、その基盤となるシナリオの言葉、そして演技がどのような機能を担っているのかを、構造（主義）・話法・技術（史）などの面から探っていく。

【授業計画】
1．メディアの変遷
2．観客の変遷
3．上演とテクストの関係
4．小説と戯曲・シナリオの違い
5．大きな物語と小さな物語の違い
6．セリフにおける口語的表現と文語的表現の違い
7．演技が意味するもの
8．表象文化・神話作用について
9．表象されるジェンダーについて
10．物語と無意識

【評価方法】
出席状況とレポート提出で評価する。

【テキスト】
授業内で適宜指示する。

【参考文献・資料】
授業内で適宜指示する。

創造表現各論 III（舞台芸術論）

角田達朗

【授業の概要】
演劇の重要な構成要素である「舞台」の歴史的展開を主な手がかりとして、様々な舞台効果にも目配りしながら、演劇空間あるいは場面転換装置としての舞台の機能や特質とその解読方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業の目標】
演劇表現の特質を理解するとともに、古典に対する解釈力を養う。

【授業計画】
能を主な題材として、主題がいかに演劇的に、また文学的に表現されるかを考察する。授業の方法としては、能の台本（能本と言われる）を読むことと、能の上演のビデオを鑑賞することが中心となる。

【評価方法】
レポート・平常点

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業内で適宜指示する。

創造表現各論 IV（アニメ・コミック）

とりいかずよし

【授業の概要】
手塚治虫作品とその影響下にある戦後漫画・コミックおよび宮崎駿などのアニメーション作品を主な題材として、広く社会史や文化史の視点も導入しながら、表象文化としてのアニメ・コミックの芸術的特質や機能を考察し、その可能性を生かした創作方法について学ぶ。

【授業の目標】
実践的創作の習得

【授業計画】
漫画と漫画の周辺
　Ａ 漫画の基本
　Ｂ ＳＦとファンタジー
　Ｃ 漫画創作

【評価方法】
個性、表現、創作、将来性等の巧拙
批評の説得力の有無

【テキスト】
その都度対応して作成

【参考文献・資料】
授業の進行に応じ準備

091471501_0010　掲載順 :0010　　MASTER ★

心理アセスメント演習

伊藤勝也　加藤正子　永田忠夫　船﨑康広　吉田 敬

【授業の概要】

（概要）心理的援助を行う場合、クライエントの情報を科学的にとらえ、多面的、総合的、全人的な角度から客観的に評価・査定することが必要である。この評価・査定の方法として、特に「面接法」「観察法」「検査法」を用いる。心理アセスメント演習では、各検査法や行動観察の構成、標準化、実施手順等について実践的に学習する。また、質問紙作成法、面接技法、資料分析の技法についても理解を深める。

（オムニバス方式）
（伊藤勝也）心理面接法
（加藤正子）発声発語検査・構音検査
（船崎康広）知能検査・言語発達検査
（永田忠夫）心理検査法全般・性格検査
（吉田敬）　高次脳機能検査・失語症検査

【授業の目標】

心理アセスメント演習では、各検査法や行動観察の構成、標準化、実施手順等について実践的に学習する。また、質問紙作成法、面接技法、資料分析の技法についても理解を深める。

【授業計画】

心理評価法
第１回－第３回　心理面接法　（伊藤勝也）
第４回－第６回　心理検査全般（永田忠夫）
言語評価法
第７回－第９回　言語発達検査（船崎康広）
第１０回－第１２回　発声発語検査（加藤正子）
第１３回－第１５回　高次脳機能検査（吉田敬）

【評価方法】

出席、演習態度、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

授業内で述べる。

091471501_0020　掲載順 :0020　　MASTER ★

心理学実験演習

井脇貴子　川嶋英嗣　高橋啓介　高橋伸子

【授業の概要】

（概要）心理学実験を通して、心理物理学的測定法や尺度構成法、独立変数の操作と実験計画、実験における統制、実験結果の処理法と結果のまとめ方、実験レポートの書き方について、実践的に学習する。

（オムニバス方式）
（井脇貴子）上下法を用いた聴覚の閾値測定
（川嶋英嗣）恒常法を用いた心理学実験
（高橋啓介）極限法を用いた心理学実験
（高橋伸子）マグニチュード推定法を用いた心理学実験

【授業の目標】

心理物理学的測定法に習熟することで、独自のテーマに対する研究を行うための基礎力を養う。

【授業計画】

第１回			オリエンテーション
第２回			実験計画の基礎/レポートの書き方
第３回	～	第５回	極限法による実験
第６回	～	第８回	上下法による実験
第９回	～	第11回	恒常法による実験
第12回	～	第14回	マグニチュード推定法による実験
第15回			まとめ

【評価方法】

出席、演習態度、課題レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指定する。

091471501_0030　掲載順 :0030　　MASTER ★

社会調査法演習

原 幸一

【授業の概要】

社会調査をするにあたって基本的な方法を習得することを目標とする。社会調査の方法は目的の性質や手続きによって統計調査や事例調査などに分けられる。統計調査においては特定化した仮説―作業仮説を立てて、それに基づき調査票を作成する。それぞれの作業仮説に適切な調査方法・質問紙の作成法・分析方法などについて、具体的に演習を行ないながら理解を深める。

【授業の目標】

調査法に関わる基礎的な知識を前提として個人またはグループで社会調査を行うことができ、また他の調査結果を解釈できるようになることを目的とする。

【授業計画】

(1)外観・調査の流れ
(2)調査の方法・データの見方
(3)調査目的の作成
(4)調査項目の作成
(5)調査方法の決定
(6)サンプリングの方法
(7)統計手法について
(8)データのまとめかた
(9)調査の実際(1)
(10)調査の実際(2)
(11)調査の実際(3)
(12)データの分析、解釈
(13)まとめ

【評価方法】

作業レポートにより評価を行う。

【テキスト】

「社会調査へのアプローチ:理論と方法」（ミネルヴァ書房 大谷他）

【参考文献・資料】

「よくわかる心理統計」（ミネルヴァ書房　山田・村井著）

091471501_0040　掲載順 :0040　　MASTER ★

医療福祉統計演習 Ⅰ

行松慎二

【授業の概要】

医療福祉分野において扱われる多様な事象について、統計的な考え方に基づいて情報を客観的に記述、解釈することは、実証的な調査研究のためばかりでなく科学的論理的思考の何たるかを知る上で不可欠である。本演習では、医療福祉に関わる統計的データ解析の基本的な考え方とその意義について理解し、表計算ソフトおよび統計解析ソフトの利用方法を習得するとともに、適切な統計的手法の選択および解析結果の解釈と推論のための技能を修得する。

【授業の目標】

１．統計的な思考に必要となる基礎的な知識を習得する。
２．統計的仮説検定の考え方の原理について理解する。
３．データの処理及び記述のためのソフトウェアの利用方法を習得する。

【授業計画】

１．統計の基礎
２．標本と母集団
３．検定の基礎
４．２群の平均値の比較
５．３群以上の平均値の比較

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度）および授業内課題により評価する。

【テキスト】

特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

参考図書、推薦図書などは授業中に随時紹介する。

医療福祉統計演習 II

奥田達也

【授業の概要】
コンピュータの利用拡大に伴って高度な統計手法が比較的容易に適用できるようになってきた。この演習では表計算ソフトおよび統計解析ソフトを利用して、多変量データを扱う場合の基本的な考え方と各種統計モデルおよびその応用について理解し、出力された分析結果の基本的な解釈の方法について習得するとともに、統計モデルの適用限界の理解と、誤用を避けるための的確な処理イメージの構築を目標にする。

【授業の目標】
医療福祉の領域では多種多様な社会統計が現場の実務に用いられる。しかしこのような公的な統計データの他にも、医療福祉現場ではクライアントのニーズを直接調査しなければならない状況も頻繁に生じる。この演習では、そうした調査の企画・設計と、そこから得たデータから何を読み取るかを中心に進めていく。そのための方法の一つとして多変量解析によるデータ解析を実習することを目的とする。

【授業計画】
1.　はじめに：講義概略の説明、受講者の基礎知識の確認
2.　調査法の基礎（1）：調査実施方法
3.　調査法の基礎（2）：標本抽出法とサンプリング
4.　質問紙作成技法（1）：質問紙の設計
5.　質問紙作成技法（2）：質問紙のワーディング
6.　質問紙作成技法（3）：質問紙の構成
7.　多変量解析の基礎（1）：多変量解析とは何か
8.　多変量解析の基礎（2）：多変量解析の種類と適応
9.　多変量解析の実習（1）：SPSSを用いた多変量解析
10.　多変量解析の実習（2）：分析結果の読み取り
11 ～ 14.　実習

【評価方法】
各自のデータに基づいた実習を行いレポートを作成する

【テキスト】
特に定めない（必要な資料は講義中に指示する）

【参考文献・資料】
すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析（内田治　東京図書）
SPSSでやさしく学ぶ多変量解析（室淳子・内田治　東京図書）
誰も教えてくれなかった因子分析（松尾太加志・中村知靖　北大路書房）

医療福祉英語演習 I

LEWIS, Paul

【授業の概要】
医療福祉分野やその関連分野についての最新の研究成果や先行研究についての情報を得るためには、英語文献を検索し、必要な英語文献を読みこなす必要がある。医療福祉英語演習Iでは、医療福祉分野の英語文献講読のための基礎について学ぶ。演習形式による医療福祉分野の英語文献の講読を行い、講読を通して英語原著論文を正確に読むために必要な専門的術語の知識やスキル、論文の構成の基本について実践的に学習する。

【授業の目標】
医療福祉分野の英語原著論文の講読を通して、各自の研究テーマに沿った先行研究原著論文を読みこなすための基礎力を養う。

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回～第３回　文献検索
第４回～第13回　原著論文の講読
第14回～第15回　まとめ

【評価方法】
出席、演習態度、テストにより総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
必要に応じて、授業中に指定する。

医療福祉英語演習 II

LEWIS, Paul

【授業の概要】
英語論文を読むための知識の向上と、英語論文を書くための基礎、英語での発表やプレゼンテーションなどにおける話すこと・聞くことの基本について習得する。専門性の高い医療福祉分野の英語論文を演習形式によって講読し、英語論文を読む技術と語彙力を高めるとともに、英語論文の内容把握や要約、ヒアリングの技術と語彙力を養う。また、英語論文や英語による要約の作成、英語プレゼンテーションのために必要な英語の基本を習得する。

【授業の目標】
各自の研究テーマに沿った先行研究原著論文を読みこなす力を高めるとともに、英語論文作成および英語でのプレゼンテーションの基礎を習得する。

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回～第３回　英語論文作成の基礎
第４回～第５回　英語プレゼンテーションの基礎
第６回～第９回　原著論文の講読
第10回～第13回　原著論文の報告
第14回～第15回　まとめ

【評価方法】
出席、演習における報告およびレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
必要に応じて、授業中に指定する。

医療福祉政策特論

小山秀夫

【授業の概要】
日本の医療福祉政策の実際について理解を深めるとともに、健康保険制度や年金制度などの国際比較に関する特論である。まず日本の医療政策・医療制度・健康保険制度・年金制度についての現状を学ぶ。さらにアメリカ・ヨーロッパ、アジアの諸国における医療福祉の実際についても概観し、日本医療福祉の現状と比較を行なう。

【授業の目標】
医療福祉政策の基本理念、戦略、原理国民生活への影響について正確に理解し、政策科学と経営科学理論との関連について科学的分析を進めることを目標にする。

【授業計画】
1．わが国の医療福祉政策の歴史的展開（２回）
2．ニューパブリックマネジメントと医療福祉政策
3．医療保険医療政策、介護保険制度の探究（４回）
4．政策科学と経営科学手法からの分析方法（４回）
5．まとめと総合討論

【評価方法】
出席点が40点、
レポート評価ABCDランク（40,30,20,10）、
分析および意見発表のABCDランク（20,15,10,０）

【テキスト】
すべての講師がパワーポイントで用意必要情報については、WWWの情報提供

【参考文献・資料】
基礎学力レベルに応じて講師が紹介する。

091471501_0090　掲載順 :0090　MASTER ★

医療福祉倫理学特論

伊藤春樹

【授業の概要】
医療および福祉に携わるものにとって、倫理の問題は非常に重要になってきている。医療・福祉サービスを行なうにあたって、当事者の自己決定権、個人の尊厳、プライバシーなどを真の意味でいかに守るかという問題は等閑視できない。これらの概念とともに、どのような制度や仕組みによってそれらが守られているかを学ぶ。また、盲聾者・視覚障害者・肢体不自由児・精神障害者・高齢者などの置かれている現状を知り、倫理の問題について考える。

【授業の目標】
1、医療・福祉にかかわる基本的概念の理解を深める
2、医療・福祉を利用する人々の理解を深める
3、医療・福祉サービス提供者と利用者の関係を把握する
4、サービス提供者としての個人の尊厳、利用者としての個人の尊厳
5、情報の医療・福祉における意味を理解を深める
6、倫理的に医療・福祉を再考する

【授業計画】
1）健康の概念
2）障害の概念
3）高齢者とは
4）弱者とは
5）治療とは
6）介護とは
7）支援とは何か
8）自己決定が治療や介護にとってどのような意味を持つのか(1)
9）自己決定が治療や介護にとってどのような意味を持つのか(2)
10）治療や介護における個人の尊厳とは何か(1)
11）治療や介護における個人の尊厳とは何か(2)
12）治療や支援とその情報、情報テクノロジーにおける倫理問題
13）情報公開条例と個人情報保護条例
14）個人と社会（倫理的側面から）
15）医療と福祉を倫理の側面から

【評価方法】
主に出席、授業への参加態度とレポートにて総合して評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業の際に、必要に応じて紹介する。

091471501_0110　掲載順 :0110　MASTER ★

発達障害学特論

渡邊一功

【授業の概要】
小児神経科学的立場から神経系の発達の諸問題について学ぶ。てんかん、脳性麻痺、精神遅滞、言語発達遅滞、自閉症、学習障害、染色体異常、先天性代謝異常、変性疾患、末梢神経疾患や筋ジストロフィーを含む筋疾患等、小児期に見られる様々な神経、筋肉の疾患や発達障害に関する知識を習得し、その診断方法や各疾患に対応した治療方法について学ぶ。そして、運動や知的発達の遅れ、及び言語発達障害について探求し、その問題点についても考えていく。

【授業の目標】
脳性麻痺、精神遅滞、言語発達遅滞、てんかん、広汎性発達障害、注意欠陥障害、学習障害、染色体異常、先天性代謝異常、変性疾患、神経筋疾患など、広義の発達障害に関する知識を習得し、その診断方法や各疾患に対応した治療方法や問題点について理解する。

【授業計画】
第１回　発達障害の概念・遺伝子異常
第２回　先天代謝異常
第３回　先天性脳形成異常
第４回　染色体異常
第５回　先天奇形症候群・胎内環境の異常
第６回　周生期脳障害・出生後脳障害
第７回　精神遅滞・言語発達遅滞・学習障害
第８回　広汎性発達障害・注意欠陥障害
第９回　脳性麻痺・不随意運動
第10回　神経筋疾患
第11回　てんかん
第12回　発達障害児の医療的ケア(1)
第13回　発達障害児の医療的ケア(2)
第14回　発達障害児の療育
第15回　試験

【評価方法】
出席状況と期末試験による

【テキスト】
発達障害児の医療・療育・教育（松本昭子・土橋圭子編　金芳堂 ISBN:4－7653－1063－9）

【参考文献・資料】
発達障害医学の進歩1-20　（診断と治療社）
小児神経学(加我牧子　稲垣真澄　有馬正高編著　診断と治療社 ISBN:9784787816559）

091471501_0100　掲載順 :0100　MASTER ★

障害学特論

伊藤春樹　谷口明広

【授業の概要】
（概要）「障害」という問題にたいして、どのように捉え、考えていくか。既成の概念にとらわれずに、その根本から考え直していく。そのことから、現代の障害者の置かれている状況や、これからの目標について学ぶ。

（オムニバス方式）
（伊藤春樹）障害の問題を基本的に学んだ後、さらに、障害のうちでも、特に視覚障害や精神障害などを中心に学ぶ。
（谷口明広）障害のうち、知的障害、身体障害について探求する。さらに、その現状の問題点についても考えていく。

【授業の目標】
1、「障害」の捉え方と考え方の理解を深める。
2、歴史的な障害者支援方法の理解を深める。
3、障害者が抱える問題と自立支援法の狙いの理解を深める。
4、本来あるべきとらえかた、考え方を模索する。

【授業計画】
1）「障害学」とは何か（ＩＣＦを基本にして）
2）障害をどのように理解するか（視覚障害を中心に）
3）視覚障害とは
4）障害をどのように理解するか（精神障害を中心に）
5）精神障害とは
6）障害をどのように理解するか（知的障害を中心に）
7）知的障害とは
8）障害をどのように理解するか（身体障害を中心に）
9）身体障害とは
10）施設収容、コロニー、在宅支援（視覚障害、精神障害支援の歴史から）
11）施設収容、自立生活運動、地域生活支援（知的障害、身体障害支援の歴史から）
12）障害をもつ人たちに対する制度（支援費制度から自立支援法）
13）脱施設化の意味（視覚障害、精神障害を中心に）
14）地域移行の意味（知的障害、身体障害を中心に）
15）障害者支援の問題と展望

【評価方法】
主に出席と個人発表、期末レポートを総合して評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業中、適宜紹介する。

091471501_0120　掲載順 :0120　MASTER ★

発達心理学特論

久世淳子

【授業の概要】
胎児期から老年期までの各発達段階における心理的特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな発達理論について学習し、医療福祉分野における発達の基礎的事項について理解を深める。具体的には、身体、心理、運動、言語、感覚・認知、パーソナリティ、社会性などの諸側面の発達について、医療・福祉との関連を視野に入れながら、そのメカニズムや問題点について理解を深める。

【授業の目標】
人の一生について学び、発達の諸相を理解する。

【授業計画】
以下の５つのトピックについて１－５回の授業をあてる。
1）発達とは
2）発達の理論
3）各発達段階とその特徴
4）諸側面の発達
5）発達と医療福祉

【評価方法】
レポートを課す。また、講義中に報告を課す。評価のポイントや課題などについては授業にて説明する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
授業にて適宜紹介する。

老年学特論

井口昭久

【授業の概要】
高齢者の心身の変化について、基礎的に学ぶ。加齢によって、聴覚・視覚など、様々な感覚が変化する。また、精神的にも大きな変化が起こってくる。これらの変化について、基礎的・生物学的側面から理解し、その行動面・心理面の理解につなげていく。

【授業の目標】
現代社会における高齢者像を把握して、日本の今後の超高齢社会のあるべき姿を思考できるようになる。

【授業計画】
1：高齢者疾患総論

2：高齢者の疫学
　1：過去半世紀の人口動態
　2：我が国と諸外国の平均寿命の年次推移の比較
　3：日本人女性の生存率曲線の推移
　4：主要死因の変遷

3：高齢者と疾患

　1：高齢者疾患の特徴
　2：老年症候群
　3：高齢者のかかりやすい疾患
　4：高齢者の癌
　5：高齢者の検査
　6：寝たきり
　7：高齢者と薬剤
　8：高齢者の栄養

4：多元的高齢者総合機能評価

【評価方法】
レポートによる

【テキスト】
これからの老年学。井口昭久編。名古屋大学出版。

【参考文献・資料】
老年医学テキストブック。日本老年医学会編。メジカルビュー社。

ターミナルケア特論

大野竜三

【授業の概要】
自尊の心を持って人生をまっとうするため、告知や蘇生術受け入れ、死を迎える場所について、自分らしい逝き方をしたい人のためのケア方法について学ぶ。現在の日本における癌医療やホスピスの実際について知り、終末期医療にのぞむにあたり、当事者・家族・医療スタッフが置かれている状況について学ぶ。さらに、スタッフとしての心構え対応法などについて、相互に意見交換しながら考えを深めていく。

【授業の目標】
医療福祉の現場において必ず直面するであろうターミナルケアについて、医療福祉スタッフとして知っておくべき終末期医療の実態を理解する。
画一的にくくれない個々の現場に遭遇したとき、どのように対応するのが当事者・家族にとって最良であるかを自ら考えることができるような専門スタッフになれることを目標とする。

【授業計画】
受け身の講義ではなく、院生が下記の課題をインターネットを中心に調査し、それを毎回発表することにより、自ら学習・理解・発表できる能力を養う。講義形式ではなく、院生全員がインターネット画面を操作しつつ行うセミナー形式により授業を進める。

第１回　ターミナルケア総論
第２回　射水市民病院事件の問題点
第３回　死：心臓死と脳死
第４回　平均寿命と健康寿命
第５回　死のむかえ方
第６回　延命治療とターミナルケア
第７回　ホスピス
第８回　インフオームドコンセントと自己決定権
第９回　自然死、尊厳死と安楽死
第10回　リビングウイル
第11回　終末期医療についての意識調査
第12回　終末期医療についてのガイドラン
第13回　終末期医療の医療費

【評価方法】
出席状況、発表内容、レポートの成績を総合して評価する。
期末試験は実施しない。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
大野竜三 「自分で選ぶ終末期医療」 朝日新聞社
岡村昭彦 「ホスピスへの遠い道」 春秋社
インターネットを活用する。

医療福祉環境デザイン特論

藤本尚久

【授業の概要】
高齢者や障害のある人などのQOLの視点によって生活環境を見直すバリアフリーから、すべての人が快適に生活するためのユニバーサルデザインへと広がった環境デザイン分野について概観し、それを適用することが大きな意味を持つ、福祉・医療・居住にかかわる施設の機能と空間構成を中心に、住環境・都市環境の形成のされ方についても学習する。また、そのための建築・都市計画・環境デザインにおける表現手法や技術的なチェック方法についても考える。

【授業の目標】
福祉と医療の施設と住居空間の成り立ちを理解し、よりよい施設と環境空間の機能とデザインについて考える基礎力を身に付ける。

【授業計画】
1）医療福祉環境デザインの理念と領域
2）福祉施設の成り立ちと歴史
3）医療施設の成り立ちと歴史
4）現代の医療施設の機能と空間構成
5）住宅・都市と集住の歴史
6）居住空間の原理と建築人間工学
7）福祉環境の設備と機器
8）高齢者福祉と住居のデザイン
9）高齢者福祉の施設空間計画
10）児童福祉と施設空間のデザイン
11）ハンデキャップと住居・施設空間のデザイン
12）歩行安全環境と公共施設の計画
13）交通施設・交通機関のバリアフリー
14）サインのユニバーサルデザイン
15）まとめと試験

【評価方法】
期間中に適宜行う小演習の成果と最終時の試験とを合わせて評価する。

【テキスト】
福祉空間学入門－人間のための環境デザイン－（藤本尚久編著　鹿島出版会刊）

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

自助活動特論

谷口明広

【授業の概要】
同じ悩みを話し合うことで仲間がいることを確認する。当事者情報により疾病に関することばかりでなく、将来をも含めた生活全般に関する幅広い情報を得るなどの効果・意義が自助活動にある。自助活動を社会資源としてとらえ、適切に活用できるようなシステム作りや、運営者への負担増大、活動のマンネリ化という活動上の問題点、そして自助活動を支えるシステムについて先行研究を概観し、今後の関わりにおける方向性を考察する。

【授業の目標】
1.自助組織や活動には、どのようなものが存在するのかを知る
2.自助活動の歴史を知り、差別や偏見と戦ってきた変遷を確認する
3.自助活動の中にある様々な援助技術論的アプローチを勉強する

【授業計画】
１回目　授業のガイダンス（自助集団の重要性を語る）
２回目「自助」とは何か、を知る
３回目「自助」「共助」「互助」「公助」の違いを知る
４回目「自助組織」や「自助グループ」のあらまし
５回目　自助組織で用いられる技術や技能
６回目　セルフヘルプ・グループの組織化過程を探る
７回目　ピアカウンセリングの歴史
８回目　ピアカウンセリングの効用と問題点
９回目　自助組織への参加体験と発表①
10回目　自助組織への参加体験と発表②
11回目　自助組織への参加体験と発表③
12回目　具体的なソーシャル・アクションに学ぶ①
13回目　具体的なソーシャル・アクションに学ぶ②
14回目　自助集団の問題点と課題
15回目　まとめとして

【評価方法】
出席を評価の中心とし、授業中の積極性やフィールド調査への参加も考慮する。そして、単位論文による評価を加えて、総合的に考えていきたい。

【テキスト】
受講生の関心に応じてテキストを考えていきたい。

【参考文献・資料】
「セルフヘルプ・グループの理論と展開　わが国の実践をふまえて」
久保紘章 著　石川到覚 編　　中央法規出版　1998年

感覚代行特論

青木 久

【授業の概要】

ヒトの感覚機能や運動機能の一部あるいは全部に障害がある場合、その機能を電子・機械的に代行して、生活の質(ＱＯＬ)をたかめる技術があります。そのような技術は、アシスティブテクノロジー（Assistive Technology: AT）と呼ばれています。一般的にテクノロジーは、道具や機器を開発する技術が中心となりますが、アシスティブテクノロジーでは機器の開発ばかりではなく、開発した機器を障害を持つ人に有効に利用されるように適合させ、自立した生活を支援することが重要な使命となります。

この講義では、障害を持つ人達や高齢者の生活を支援する「心」を理解して、コンピュータをはじめとする様々な補助器具とそれらを操作する技術や利用環境を学習し、アシスティブテクノロジーの現状と今後に関して講義を進めます。

【授業の目標】

高齢者や障がい者の生活を支援するための知識と技術を習得し、支援する際の技術的、社会的問題点を把握して、支援方法を論じられる基礎力を身に付けることを目指します。とりわけヒトの感覚機能障害を補助・支援するハード及びソフトについて学ぶことを目的とします。

【授業計画】

パワーポイントによる解説と機器の試用を行い、対話形式により意見を交換して、アシスティブテクノロジー（ＡＴ）の理解を進めます。具体的には、以下の項目を予定しています。

・重症心身障害児施設におけるＡＴの導入と利用事例を具体的に紹介し、機器導入により障碍児・者がどのように変化するかを解説します。
・ＡＴ機器の基礎的専門知識を習得するために、機器・ソフトウェアの実習をします。
・内外の研究論文を基にして、Neural InterfaceやBrain Computer Interfaceなど最新のＡＴ研究を解説します。

【評価方法】

講義や討論への参加およびレポートから総合的に判断します。

【テキスト】

使用しない。資料を随時配布する。

【参考文献・資料】

適宜指示します。

091472002_0010　掲載順：0010　MASTER ★

社会福祉原論

岡本民夫

【授業の概要】
社会福祉の理念と概念、思想と価値およびその歴史的変遷、西欧・日本・アジア等における社会福祉の歴史的展開など社会福祉の基礎を踏まえ、社会福祉の原理と体系を学ぶ。これまで構築されてきた様々な社会福祉学領域における理論や学説を学ぶとともに、新たな分析概念と理論枠組みの構築による社会福祉研究方法論の開発等による今後の社会福祉の課題と展望を検討する。

【授業の目標】
社会福祉の本質を究明していくための原理、理論、歴史、学説及び研究方法論について学ぶ。

【授業計画】
1）社会福祉の基本概念の検討
2）社会福祉の理念、思想、価値、専門性
3）社会福祉的援助の原理
4）社会福祉学・研究方法論の検討
5）対象認識
6）視点
7）方式
8）手法
9）評価と検証
10）社会福祉における歴史的認識（外国の場合）
11）社会福祉における歴史的認識（日本の場合）
12）社会福祉の学説史
13）社会福祉の機能と分野
14）社会福祉の方法と過程
15）総括と課題

【評価方法】
レポートと出席点

【テキスト】
社会福祉原論（岡村重夫　全国社会福祉協議会出版部　1968年）

【参考文献・資料】
社会福祉原理（岡本民夫・小林良二・高田真治編著　ミネルヴァ書房　2007年）
社会福祉原論　第３版（社会福祉士養成講座編　中央法規　2005年）

091472002_0020　掲載順：0020　MASTER ★

社会福祉方法特論

春見静子

【授業の概要】
ソーシャルワークの価値、知識、技術の相互関連、およびソーシャルワークの主な構成要素について体系的に習得する。また、ソーシャルワークの歴史的な変化の中での、現代の制度について検証する。中でも障害者福祉におけるソーシャルワークのあり方について学ぶ。障害児・障害者とその家族のためのソーシャルワークの原則・課題・ケースマネジメントのあり方について具体的に考えることにより、理解を深める。

【授業の目標】
1　ソーシャルワーク理論の発展について理解する
2　ソーシャルワーク理論のモデルを理解する
3　ソーシャルワークの体系を理解する
4　ソーシャルワークの方法について理解する
5　障害のある子どもとその家族のソーシャルワークの実際を学ぶ

【授業計画】
1　アメリカにおけるソーシャルワークの発展と今日の動向
2　ソーシャルワークのさまざまなアプローチ、心理・社会的アプロー問題解決アプローチ、危機介入アプローチ、課題中心アプローチなど
3　ソーシャルワークのアセスメントの方法
4　事例検討

【評価方法】
講義への参加状況とレポートにより総合的に評価する

【テキスト】
社会福祉援助技術論（深澤里子、春見静子編著　光生館）
ソーシャル・アセスメントー利用者の理解と問題の把握（Ｊ．ミルナー／Ｐ，オバーン著　ミネルヴァ）
社会福祉援助技術演習（深澤里子、スーザン・ヴォーゲル監修　光生館）

【参考文献・資料】
授業時にその都度紹介する

091472002_0030　掲載順：0030　MASTER ★

社会福祉制度特論

所 道彦

【授業の概要】
社会福祉制度の体制について、政策原理に基づきその全体像を把握する。さらに各制度の目的・対象・給付などについて学ぶ。また、日本の社会保障制度の基本構造（年金保険・医療保険・介護保険・健康保険など）とその特質について、歴史的な展望や国際的な比較のなかで、明らかにしていく。福祉サービスのあり方について、権利擁護、苦情解決、契約手続きなどについても理解を深める。

【授業の目標】
現代福祉国家における社会福祉制度の役割・機能を整理するとともに、日本における近年の制度改革を踏まえて、行政の新たな役割、利用者、サービス提供者との三者間の関係をめぐる問題を分析し、今後の制度的課題を明らかにする。

【授業計画】
1）社会福祉制度分析の枠組み
2）社会福祉におけるニード
3）社会福祉における資源
4）資源の供給主体
5）資源の再分配と福祉国家
6）資源供給の方法と原理
7）社会保険と税
8）選別主義と普遍主義
9）福祉国家の類型
10）日本型福祉システムの発展過程
11）社会福祉基礎構造改革
12）社会サービスと市場原理
13）日本の社会福祉の将来展望

【評価方法】
レポートを課す（評価のポイントについては授業にて説明する）

【テキスト】
テキストは指定しない。
授業中に資料を配布する。

【参考文献・資料】
授業の最初に指示する。
授業中に資料を配布する。

091472002_0040　掲載順：0040　MASTER ★

家族福祉特論

佐々木政人

【授業の概要】
社会福祉実践の目標は、地域・家庭における日常生活上の家族問題の解決にあるといえる。本特論では、様々な地域・家庭生活上の問題把握及びその解決に向けての家族ソーシャルワークの研究に焦点を当て、地域・家庭生活における人間行動の把握・分析のための基礎理論を基盤に、２１世紀におけるソーシャルワーク実践のあり方を模索する。

【授業の目標】
1．福祉援助方法論に関する歴史的経緯の理解
2．エコロジカル・ソーシャルワーク（ライフモデル）の理解
3．ライフモデルにおける家族問題の把握と援助展開過程の理解
4．家族支援技法の把握

【授業計画】
1．福祉援助方法論の歴史的経緯
2．福祉ニーズの把握とソーシャルサービスプログラム開発の意義
3．ライフモデルの基本枠組（個人・家族ニーズのアセスメントを中心に）の把握
　1）個人の成長にともなう変化と家族ニーズ（発達理論の理解）
　2）ライフサイクル上の家族変化と家族ニーズ（家族ストレス論の理解）
　3）社会的地位・役割上の変化と家族ニーズ（役割理論の理解）
　4）危機的出来事と家族ニーズ（危機理論の理解）
4．家族支援の援助過程
　1）出会い
　2）交わりと協働
　3）別れと旅立ち
5．振り返りと評価

【評価方法】
出席状況、クラスでの発表・貢献、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
（1）The Life Model of Social Work Practice (Germain, C.B. & Gitterman, A. Columbia Univ. Press　1996年)
（2）ソーシャルワーク実践と生活モデル（上）（下）（キャレルＢ．ジャメーン他著　ふくろう出版　2008年）
（3）家族と生活ストレス（石原邦雄著　放送大学教育振興会　2000年）
（4）家族支援ハンドブック（インスー・キム・バーグ著　磯貝希久子監訳　金剛出版　2002年）
（5）その他、授業の際、随時紹介する。

地域福祉特論

柴田謙治

【授業の概要】

地域福祉理論を構成する価値、思想、構成要件を明らかにし、その運営と実践についての理論を学ぶ。まず社会福祉において、地域福祉がどう位置づけられているか、その概念、理念の発展と現状を理解する。さらに地域福祉推進のための社会資源や推進方法を概観し、地域福祉推進のための知識について理解を深める。また先進的な地域福祉について事例を学ぶことで、具体的な地域福祉の手法についても学習する。

【授業の目標】

まず日英のセツルメントの歴史から、社会福祉における地域福祉の位置づけや歴史、発展を学ぶ。続いて日本の社会福祉協議会から地域福祉の運営と実践の理論と実際を理解し、社会福祉協議会の歴史から地域福祉理論を構成する価値や思想、構成要件を学ぶ。そしてイギリスの社会福祉協議会の事例から地域福祉を推進する方法を学ぶ。

【授業計画】

1　社会福祉と地域福祉:東京帝国大学セツルメントと興望館の自律支援
2　社会福祉と地域福祉:横須賀基督教社会館と名古屋キリスト教社会館
3　社会福祉の開発的機能と社会資源:トインビーホールとバーミンガム・セツルメント
4　日本の社会福祉協議会の成立と発展
5　住民主体の思想
6　地域組織化の方法
7　地域組織化の機関
8　イギリスにおける社協とコミュニティワークの技術
9～13　受講者が関心のある分野についての先進事例の報告

1～8回は柴田が講義形式ですすめ、9～13回は受講者が先進事例を調べて報告する形式をとる。

【評価方法】

9～13回の発表とそれをもとにしたレポートによる。評価のポイントは授業中に説明する。

【テキスト】

柴田謙治著「貧困と地域福祉活動―セツルメントと社会福祉協議会の記録」みらい、2007年、3,000円

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

精神保健福祉特論

瀧 誠

【授業の概要】

精神保健福祉は、精神障害者の福祉問題に限定されたものではない。様々な社会福祉実践現場では、メンタルな問題を抱える対象者に対する援助・支援場面において苦慮している。なぜそのような問題が起きるのかを構造的に問い直すための一助なる取り組みを受講生と行いたい。

本講座においては、まず精神障害者を含むメンタルな問題を抱える人々の福祉問題を各福祉分野の現状から確認し、各福祉分野における制度、援助支援機能についての確認を進める。精神科医療、精神保健、精神保健福祉各機能の手段、方法の根拠及び理論を学ぶ。学習したことをもとに再度各福祉分野に起きる問題を、制度、システム、方法から検討する。

よって受講生の関心に取り扱う問題を決める。

【授業の目標】

1．精神医療、保健、福祉機能の基礎的理解
2．様々な社会福祉分野における援助支援機能についての基礎的理解
3．1及び2の間における問題の認識の共有
4．問題解決のための方法の検討

【授業計画】

1．精神科医療、精神保健機能の基礎的理解及び現状と課題
2．精神保健福祉機能の現状と課題
3．社会福祉分野におけるメンタルな問題を抱える人々の現状と課題
　　子育て、介護、貧困、労働、生活支援などから
4．問題解決のための方法の検討

初期においては講義形態で行うが、個々の課題を検討、指示したうえで発表及びディスカッションを中心に行う。

【評価方法】

与えられた課題に対する取り組み、発表、ディスカッションなどの参加状況から総合的に評価する。

【テキスト】

我が国の精神保健福祉　精神保健福祉ハンドブック　平成20年度版（精神保健福祉研究会編　太陽美術）

その他その都度指示

【参考文献・資料】

その都度案内する。

精神保健特論

諏訪真美

【授業の概要】

（概要）青年期および成人期の精神障害・メンタルヘルスについて学ぶ。

心の構造や病気についてテキストを通して学習する。さらに、基本的な障害から、現代病ともいわれる精神保健の問題まで、時代の病理・現状を通して考えていく。

【授業の目標】

精神保健に関して基本的な知識を学び、この問題に対する広い視点や考え方を身につける。

【授業計画】

1．精神の成り立ちについて
2．青年期・成人期の精神医学な諸問題について
　・統合失調症
　・うつ病
　・ひきこもり
　・高機能自閉症
3．実際の事例について検討する

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神科臨床とは何か（星和書店）

【参考文献・資料】

随時授業内で指示する

精神科医療特論

舟橋龍秀

【授業の概要】

精神科医療においてその対象となる症状及び疾患、特に統合失調症と感情障害について詳しく学ぶ。また病院における、治療対応・病院チーム医療、精神科医・精神保健福祉士・作業療法士・看護師などの役割やおかれている現状などについて学ぶ。さらに、応急入院、措置入院における治療対応、および司法精神科医療についても実際の事例を通して理解する。

【授業の目標】

1．精神障害と自己決定権、責任能力論の基礎を学び、精神科医療におけるインフォームド・コンセント、成年後見制度について概観する。
2．精神科精神保健福祉法、心神喪失者等医療観察法に基づいた精神科医療と精神保健福祉士の果たすべき役割について学ぶ。
3．これらを通して精神科医療における精神障害者の人権の保証について考察する。

【授業計画】

講義では、以下の７つの主題について解説する。

第一主題　精神の異常とはどういうことか
第二主題　精神医学概論
第三主題　患者の自己決定権とインフォームド・コンセント
第四主題　成年後見制度について
第五主題　精神保健福祉法に則った医療について
第六主題　精神障害と刑事責任能力論
第七主題　心神喪失者等医療観察法に則った医療について

【評価方法】

与えられた課題についてのレポートによる評価（筆記試験は行わない）
授業への出席も評価の対象となる。

【テキスト】

とくに指定しない。必要な資料は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

高齢者援助技術演習

神波幸子

【授業の概要】
高齢者ソーシャルワークについて文献購読や事例研究を通して、地域に暮らす認知症高齢者のケアマネジメント、施設におけるソーシャルワークやケアマネジメントのありかた、介護者家族の支援の在り方、ソーシャルサポートネットワークのありかたなどについて学び検討していく。

【授業の目標】
1．高齢者ソーシャルワークを理解する
2．高齢者ソーシャルワークの特殊性を学ぶ
3．高齢者のエンパワーメントの方法を学ぶ
4．高齢者のケアマネジメントの方法を学ぶ
5．介護者家族への支援方法を学ぶ
6．地域におけるインフォーマル・フォーマルサポートネットワークの構築法を学ぶ
7．在宅及び施設における高齢者ソーシャルワーク、ケアマネジメントを学ぶ

【授業計画】
受講者の関心に即して、決めていく。

【評価方法】
授業への参加状況とレポートの報告により評価する

【テキスト】
授業時に紹介する

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する

家族・児童援助技術演習

佐々木政人

【授業の概要】
児童福祉の分野における福祉援助について、文献講読や事例検討など具体的なテーマを通じて学んでいく。まず家族、家庭、家庭機能、家庭養育機能、ファミリーサービスなどの概念を整理する。そして現代の子ども家族のおかれている状況、離婚家族や高齢者や障害者などを抱え課題を負った家族などの実態を深く理解し、家族援助の視点を高める。さらに家族機能を改善することをめざすソーシャルワークについて具体的に学んでいく。

【授業の目標】
1．さまざまな家族問題の理解と支援モデル（家族エンパワメント）の把握
2．家族支援技法の理解と開発
3．家族支援サービスの理解と開発
4．海外における家族支援サービスの動向把握

【授業計画】
1．家族問題の事例研究をとおし、各種の家族支援モデルを体験的に振り返る
2．FGCからの学びをとおして家族支援サービスのあり方を模索する
　1）支援サービス理念の理解
　2）支援サービス目標の理解
　3）支援サービスを支える理論的把握
3．FGCからの学びをとおして家族支援過程を探る
　1）ステップI（家族合意の段階）
　2）ステップII（FGC 開催の段階）
　3）ステップIII（フォローアップとアフターケアの段階）
4．各自が関心を持っている家族問題の発表
　1）ニーズ　2）支援目標　3）支援モデル　4）支援過程　5）支援サービス　6）支援技法
5．各自が関心を持っている家族問題に対応するための支援サービスモデルの開発

【評価方法】
出席状況、クラスでの発表・貢献、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
（1）ファミリー・グループ・カンファランス（マリー・コノリー　&　マーガレット・マッケンジー著　高橋重宏監訳　有斐閣　2005年）
（2）スクールカウンセリング・ワークブック（黒沢幸子著　金子書房　2002年）

障害者援助技術演習

春見静子

【授業の概要】
身体障害者・知的障害者福祉の分野における援助について、文献講読や事例検討など具体的なテーマを通じて学んでいく。特に障害者のエンパワーメントやアドボカシーについて、その理念をしっかりと理解するとともに、具体的な事例を通して学習をする。さらにこれらの日本での実践、海外での実践について国際的な比較を行ない、幅広い視野から障害者の問題について考察を深める。

【授業の目標】
1　障害を理解する
2　障害のある人を理解する
3　障害のある人とのコミュニケーションの方法を学ぶ
4　障害のある人のエンパワメントの方法を学ぶ
5　障害のある人のアドボカシーの方法を学ぶ
6　障害のある人の家族の援助の方法を学ぶ
7　障害のある人のケアマネジメントの方法を学ぶ

【授業計画】
1　障害の理解：医学、教育学、社会福祉学からの理解　WHOの理解
2　障害のある人の理解：障害のある人の視点からの援助とはどのようなものか、障害のある人の生活の質を高めるために必要なことは何か
3　障害のある人とのコミュニケーション：面接やグループワークの実際
4　障害のある人のエンパワメント：インテグレーションの支援、就労支援、事例検討
5　障害のある人のアドボカシー：権利擁護事業、成年後見制度とソーシャルワーク
6　障害のある人の家族への援助：家族療法と家族ソーシャルワークの適用
7　障害のある人のケアマネジメント：ケアマネジメントの過程、ケアマネジメントの実際

【評価方法】
授業への参加状況と、リポートの提出を求める

【テキスト】
授業の中で紹介する

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する

精神障害者援助技術演習

伊藤勝也　吉田みゆき

【授業の概要】
（概要）精神保健援助について文献講読を行なう。また病院での援助や地域援助に関する具体的な事例検討などを通じて学んでいく。

（オムニバス）
（伊藤勝也）地域精神保健の立場から生活支援を中心に検討する。保健所・市町村・精神保健福祉センターの機能を学び、そこでの精神保健福祉士の役割について考え、地域連携について学んでいく。
（吉田みゆき）医療の立場から見た生活支援を中心に検討する。特にSSTなどグループワークの技法を詳しく学ぶ。さらに医療機関と地域の社会復帰施設や行政機関とのかかわりについても理解を深める。

【授業の目標】
精神障害者の自立生活支援をめぐって、精神障害者の生活の現実を把握するとともに、地域現場の役割、医療現場の役割を整理し、精神保健福祉士としての専門援助技術の理解を深める。

【授業計画】
I　1　精神科医療の動向と精神保健福祉士
　　2　相談援助
　　3　精神科リハビリテーションとグループワーク
　　4　チームワーク
　　5　地域関連領域との連携
II　1　市町村を中心とした精神障害者福祉施策展開について
　　2　ケアマネージメント　ネットワークキング　コンサルテーション　啓発・普及活動
　　3　当事者活動　家族会　ボランティア
III　事例検討

【評価方法】
レポート　出席状況

【テキスト】
特に指定しない

【参考文献・資料】
随時紹介

091472002_0130　掲載順 :0130　MASTER ★

ソーシャルサービス研究

井口昭久　伊藤春樹　大野竜三　神波幸子　佐々木政人
諏訪真美　高橋俊彦　瀧 誠　谷口明広　永田忠夫　春見静子

【授業の概要】

（概要）社会福祉および精神保健福祉の研究テーマについて担当教員がそれぞれの研究テーマについて解説する。その後、各自が研究計画の発表を行ってアドバイスを受け、研究の方向性および所属ゼミを決定する。

（オムニバス方式）
（井口昭久）　老年学について解説
（伊藤春樹）　障害論を中心に解説
（神波幸子）　高齢者福祉政策について解説
（大野竜三）　ターミナルケアおよび医療福祉政策について解説
（佐々木政人）児童福祉および家族療法について解説
（谷口明広）　身体障害・知的障害について解説
（春見静子）　社会福祉の基本について解説
（諏訪真美）　精神保健について解説
（高橋俊彦）　精神病理学について解説
（永田忠夫）　心理学研究について解説
（瀧誠）　　精神保健福祉についての解説

【授業の目標】

本研究科ソーシャルサービス専攻における各教員の専門分野について概観することによって、学生が所属すべきゼミナールの選択のための情報を提供する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション（春見静子／諏訪真美）
（第１部）
第２回　老年学（井口昭久）
第３回　社会福祉と障害論（伊藤春樹）
第４回　終末期医療とターミナルケア（大野竜三）
第５回　高齢者福祉（神波幸子）
第６回　児童福祉と家族援助（佐々木政人）
第７回　心理学研究（永田忠夫）
第８回　身体障害・知的障害　（谷口明広）
第９回　社会福祉学（春見静子）
第10回　精神医学・精神保健学（諏訪真美）
第11回　精神医学・精神病理学（高橋俊彦）
第12回　精神保健福祉学（瀧誠）
（第２部）
第13回　研究領域とテーマについて話し合い（関係教授）
第14回　研究テーマの決定（各指導教授）
第15回　まとめ（各指導教授）

【評価方法】

出席、演習態度とレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内で指示する。

091472002_0140　掲載順 :0140　MASTER ★

社会福祉研究 I

井口昭久　伊藤春樹　大野竜三　神波幸子
佐々木政人　谷口明広　永田忠夫　春見静子

【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。社会福祉研究Iでは、テーマの選択、事前調査、関連文献の調査を中心に、修士論文作成に向けての先行研究・関連研究の調査と問題点の整理に重点を置いた指導を行う。

【授業の目標】

１　修士論文の作成を支援する
２　文献研究の方法を理解する
３　量的調査および質的な調査の方法を理解する
（アンケート調査　インタビュー、ヒヤリング、参加観察の方法等）

【授業計画】

イ　修士論文のテーマの選定
ロ　先行研究のレビュー
ハ　文献引用の仕方
ニ　論文の構成　論理性とオリジナリティ
ホ　研究方法　　仮説の検証　文脈からの読み取り　新しい概念や理論の構築を学ぶために
１　各自が関心のあるテーマに関する主要な国内、海外の論文を講読する
２　主要な質的研究方法について文献から学ぶ

【評価方法】

授業への参加状況とリポートによる

【テキスト】

授業時に紹介する

091472002_0150　掲載順 :0150　MASTER ★

社会福祉研究 II

井口昭久　伊藤春樹　大野竜三　神波幸子
佐々木政人　谷口明広　永田忠夫　春見静子

【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。社会福祉研究IIでは、社会福祉研究Iを踏まえて課題の問題点を整理し、研究計画作成の指導、中間発表会による修士論文の研究計画の問題点の検討と修正、研究計画の実施・研究データの収集について指導する。

【授業の目標】

１　修士論文の作成を支援する
２　プレゼンテーションの方法を学ぶ

【授業計画】

１　論文作成に関係のある基礎文献の購読
２　論文の進捗状況を発表し討議する
３　中間発表の準備と支援

【評価方法】

授業にて明示する。

091472002_0160　掲載順 :0160　MASTER ★

社会福祉研究 III

井口昭久　伊藤春樹　大野竜三　神波幸子
佐々木政人　谷口明広　永田忠夫　春見静子

【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。社会福祉研究IIIでは、社会福祉研究IIの研究計画実施によって収拾したデータの分析、解釈、先行研究や関連研究を踏まえた考察、問題点について、発表会等を通じて検討し、修士論文としてまとめるための支援や指導を行う。

【授業の目標】

修士論文の完成に向けての支援を行う

【授業計画】

１　論文作成上でぶつかる困難や問題を個別に指導する
２　参考文献作成の方法を学ぶ
３　公開発表の準備と支援

【評価方法】

授業にて明示する。

精神保健福祉研究 I

諏訪真美　高橋俊彦　瀧 誠

【授業の概要】
院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。精神保健福祉研究Iでは、テーマの選択、事前調査、関連文献の調査を中心に、修士論文作成に向けての先行研究・関連研究の調査と問題点の整理に重点を置いた指導を行う。

【授業の目標】
修士論文作成のため院生各自の研究テーマについて、先行研究の知見を学ぶことによって絞込みを行い、具体的な研究課題を決定する。

【授業計画】
1　修士論文のテーマの選定
2　先行研究のレビュー
3　文献引用の仕方
4　論文の構成　論理性とオリジナリティー
5　研究方法　仮説の検証　文脈からの読み取り　新しい概念や理論の構築を学ぶために、
　・各自が関心のあるテーマに関する主要な国内、海外の論文を講読する
　・主要な質的研究方法・量的研究方法について学ぶ

【評価方法】
出席、演習態度、課題レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】
授業時に紹介する。

【参考文献・資料】
授業の際、随時紹介する。

精神保健福祉研究 II

諏訪真美　高橋俊彦　瀧 誠

【授業の概要】
院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。精神保健福祉研究IIでは、精神保健福祉研究Iを踏まえて課題の問題点を整理し、研究計画作成の指導、中間発表会による修士論文の研究計画の問題点の検討と修正、研究計画の実施・研究データの収集について指導する。

【授業の目標】
1　修士論文の作成を支援する
2　プレゼンテーションの方法を学ぶ

【授業計画】
1　論文作成に関係のある基礎文献の購読
2　論文の進捗状況を発表し討議する
3　中間発表の準備と支援

【評価方法】
授業にて明示する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
随時指定する。

精神保健福祉研究 III

諏訪真美　高橋俊彦　瀧 誠

【授業の概要】
院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。精神保健福祉研究IIIでは、精神保健福祉研究IIの研究計画実施によって収拾したデータの分析、解釈、先行研究や関連研究を踏まえた考察、問題点について、発表会等を通じて検討し、修士論文としてまとめるための支援や指導を行う。

【授業の目標】
修士論文の完成に向けての支援を行う

【授業計画】
1　論文作成上でぶつかる困難や問題を個別に指導する
2　参考文献作成の方法を学ぶ
3　公開発表の準備と支援

【評価方法】
授業にて明示する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
随時指定する。

言語心理学特論

天野成昭

【授業の概要】
音声の知覚、音声発達の縦断的音響特徴分析、新しい音声処理技術の応用、基本語彙データベースや音声データベースの構築などのテーマについて研究を進める際の信頼性と妥当性ある手順として、実際的なモデルを用いての作業仮説の設定、課題の提示、人間の反応の観測、作業仮説の検証などの言語心理学的手法について理解を深める。

【授業の目標】
音声を中心とした言語の認知と生成に関する基礎知識を獲得し、人間の言語情報処理について理解する。

【授業計画】
1．音声とは
2．音響音声学の基礎
3．母音の知覚
4．子音の知覚
5．カテゴリー知覚(範疇知覚)
6．音声知覚の運動理論
7．弁別的素性と音声素性検出器
8．音響的不変性の理論
9．両耳分離聴
10. 並列分散処理モデル:ボトムアップ対トップダウン
11. 乳児の音声知覚
12. 音声知覚の発達
13. 動物の音声知覚
14. 音声知覚の障害
15. 言語能力の測定

【評価方法】
テストまたはレポートを課す。

【テキスト】
音声知覚の基礎　（ジャック・ライアルズ著　今富・荒井・菅原監訳　海文堂）

【参考文献・資料】
特になし。

言語聴覚病理学特論 I

八田武志

【授業の概要】
左右の脳機能の違いやその相互関係に関すること、左ききの認知機能・行動特性について検討する。きき手に関すること、脳損傷による非言語性認知障害および認知リハビリテーションを検討する脳損傷と認知機能に関すること、認知心理学的評価テストや人間関係構造の把握検査の開発などメンタル・ストレスに関することなど、最新の研究を通して、 神経心理学的な側面から言語聴覚病理学についての理解を深める。

【授業の目標】
神経心理学的な側面から日本語認知特性の特徴を理解しつつ、それらの知識に基づく講師自身の研究を通して、 言語聴覚病理学についての理解を深める。

【授業計画】
1．離断脳研究について（動物研究、離断脳患者を中心に）
2．視覚機能における左右脳機能差（ラテラリティ）
3．聴覚機能における左右脳機能差（ラテラリティ）
4．左右脳機能差（ラテラリティ）の性差と発現メカニズム
5．左右脳機能差（ラテラリティ）の発達とその障害
6．学習経験・訓練と左右脳機能差（ラテラリティ）
7．利き手の起源とその評価方法
8．左利きの脳機能
9．認知機能の神経心理学的評価
10. 中高年者と脳損傷者の認知機能
11. 日本語認知処理の特性
12. 脳損傷による認知機能障害と認知リハビリテーション
13. 医療現場での人間関係の把握とメンタルストレスの評価

【評価方法】
平常点と発表などから総合的に評価する

【テキスト】
とくに指定しないがレジュメやスライドを適宜準備する。

【参考文献・資料】
脳のはたらきと行動のしくみ（八田武志　医歯薬出版　2003）
左ききの神経心理学（八田武志　医歯薬出版　1996）
左対右　きき手大研究　(八田武志　化学同人社　2008)

言語聴覚病理学特論 II

大井 学

【授業の概要】
小児期に生じる多様な発達障害について、それぞれが示す言語とコミュニケーションの困難の特徴を、事例の会話記録（ビデオを含む）を用いながら、理論的かつ実践的に理解する機会を提供する。ここでいう発達障害には最重度から軽度までの知的障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害、ＳＬＩを含む。受講者は、会話の記録の多角的な分析を追体験し、各種障害の根幹にかかわる臨床的洞察とそれを裏付ける研究知見の統合をはかるように期待される。

【授業の目標】
自然な会話は、メッセージの送受信の失敗などで崩壊する場合以外、そのプロセスの進行を自覚することはほとんどない。ところが発達障害を持つ個人と我々との会話では、メッセージの確実な相互理解が脅かされている事態そのものが、大人によって見過ごされがちである。これについての感受性を高める方法の一つは、大人が会話者としての自己の振る舞いと内面についての内省をリアルタイムで行うことである。それによって、各種発達障害の基本的な性質に応じた、まさしく、特定の個人同士の偶発的場面依存的な伝達行動への、会話を通じた支援の糸口がひらかれる。その瞬間を、さまざまなビデオ資料などから追体験し、発達障害の性格理解と各受講者に固有の伝達方略とのクロスを見出すこと。

【授業計画】
1．重度知的障害と言語・コミュニケーション
2．上記についての文字転写と会話分析の試み
3．重度知的障害における言語と非言語伝達
4．重度知的障害における明確化技能形成のための実験的介入
5．中度知的障害と言語・コミュニケーション
6．上記についての文字転写と会話分析の試み
7．中重度知的障害とAAC
8．知的障害を持つ自閉症と言語・コミュニケーション
9．上記についての文字転写と会話分析の試み
10. 知的障害をもつ自閉症児の言語獲得・コミュニケーション戦略
11. 高機能自閉症とアスペルガー症候群の言語とコミュニケーション
12. 上記のついての文字転写と会話分析の試み
13. 長い時間にわたるアスペルガー症候群の個人と家族へのコミュニケーション支援
14. 語用論と会話の障害
15. まとめ（受講生による課題への解答）

【評価方法】
出席、質疑応答への参加５０％
課題への解答成績５０％

【テキスト】
子どもと話す：心が出会うINREALの会話支援（大井学・大井佳子共編、ナカニシヤ出版）
講義の一部しかカバーしませんが、発達障害を持つ子どもと大人がどのように会話を通じて出会うか、そこから何が見えてくるかについての、基本的な考え方をつかんでください。

【参考文献・資料】
当日配布します

言語聴覚療法特論

渋谷直樹

【授業の概要】
言語障害に対して言語的手段を用いる治療法は、いかなる機制で成立するのか、また言語障害の性質を分析し、実際の言語治療を展開する上で各治療理論から導き出される実際的で根拠に基づいた方法論や治療手技について、具体例を交えながら理解を深める。また、失語と合併しやすい失行・失認について症状分析を行い、失語との鑑別ができるよう実際の事例を通して理解する。

【授業の目標】
障害された言語様式に対して、その障害構造を分析することにより適切な治療理論を選択し、また言語治療プログラムの例を文献研究することによって、訓練の効果や妥当性、マネジメントの適切性について失語を例に考察できる。また、失語周辺領域である失行・失認症状を分析することによって、失語との鑑別について学修し、それらの障害構造を明らかにする仮説設定を試みる。

【授業計画】
1）２）３）４）５）失語の言語治療の方法と適用
（１）刺激・促通法
（２）認知神経心理学的アプローチ
（３）実用・グループ訓練
（４）失語の言語治療例の例示
６）７）８）９）10）失語の言語治療に関する抄読

11）12）13）14）15）　失行・失認の症状分析と仮説設定の実際

【評価方法】
レポートを課す。

【テキスト】
失語症臨床ガイドブック（竹内愛子編集　協同医書出版社、2003）
￥5500＋税

【参考文献・資料】
高次脳機能障害学（石合純夫著　医歯薬出版株式会社、2003）
￥4000+税
その他、講義にて資料を配布する

091472503_0050　掲載順 :0050　MASTER ★

摂食嚥下障害学特論

長谷川和子

【授業の概要】
神経学的疾患や構造的原因による摂食・嚥下障害の発生のメカニズム、検査法・評価法、治療・訓練（間接訓練・直接訓練）、マネジメント、チーム医療について学ぶ。

【授業の目標】
摂食嚥下障害の神経学的・生理学的・心理学的発生機序について学び、様々な臨床像を分析し対応できる能力を養う。

【授業計画】
下記の項目について、体験や実技を交えて理解を深めながら講義する。
　摂食嚥下機能の神経学的過程
　摂食嚥下障害の様々な病態
　評価と分析
　治療法

【評価方法】
出席状況、授業態度、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業の際、随時紹介する。

091472503_0060　掲載順 :0060　MASTER ★

視覚心理学特論

河本健一郎

【授業の概要】
人間の「見え」の機能とそのメカニズムの基礎について概説する。明るさの知覚、色覚、人間の色弁別特性、形の知覚、図と地の分化、錯視、運動視、奥行き視に関するトピックを取り上げ、その現象と理論について学ぶとともに、視覚心理学の研究法、視覚心理学の応用、高齢者やロービジョン者の視覚特性の測定・評価について理解を深める。

【授業の目標】
視覚心理学の概要を理解するとともに、視覚心理学の知見を臨床・応用に役立てるための方法について検討を深める。

【授業計画】
1）視覚系の構造
2）明るさの知覚
3）色覚１
4）色覚２
5）形の知覚
6）運動視
7）立体視
8）視知覚と認知機能
9）高齢者・ロービジョン者の視覚情報受容特性
10）色覚のバリエーション
11）色の知覚と情報伝達
12）工学・臨床との接点
13）視覚研究の方法１
14）視覚研究の方法２
15）まとめ

【評価方法】
出席、討論と質疑応答 70%
期末レポートによる評価 30%

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
予習用として以下の書籍を紹介する。
大山　正著，視覚心理学への招待，サイエンス社
大山　正著，色彩心理学入門，中公新書，1169

091472503_0070　掲載順 :0070　MASTER ★

生理光学特論

鵜飼一彦

【授業の概要】
眼球光学系の特徴やその生理機能の基礎について学び、屈折異常や調節、瞳孔対光反応、眼球運動、輻輳の機能について理解を深める。また、調節と輻輳、調節と老視、調節と弱視、調節と輻輳における順応、ヘッドマウントディスプレイの使用による屈折・調節・輻輳機能への影響、眼精疲労、映像酔いなどのトピックについても取り上げ、解説する。

【授業の目標】
生理光学は、眼球の光学と視機能の基礎を扱う学問分野である。この分野に関しては、視能矯正学の基礎であり、すでにひととおり学習している事と思うが、そこで扱われているのは何十年も前に明らかにされた事が主で、最新の知見はわずかしか含まれていない。この分野も視覚に関する研究の進展とともに新しい知見が続々と得られており、それらについてともに考えて行きたい。

【授業計画】
1）光学の基礎（波としての光、幾何光学）
2）視覚の基礎　1．眼球光学
3）視覚の基礎　2．屈折と調節
4）視覚の基礎　3．眼球運動
5）視覚の基礎　4．両眼視機能
6）視覚の基礎　5．形態覚
7）視覚の基礎　6．運動視
8）学生による論文紹介
9）平衡覚と視覚
10）自律神経と視機能
11）視機能臨床検査と視覚の基礎
12）視覚人間工学
13）学生による論文紹介

【評価方法】
いくつかの候補の中から各自で選んだ論文の内容を発表する。発表の際に基礎的事項をどの程度理解しているかを評価する。

【テキスト】
なし

【参考文献・資料】
Vision Research, Journal of Vision, Ophthalmic and Physiological Optics, Investigative Ophthalmology, Optometry and Vision Science, などの雑誌に掲載された論文

091472503_0080　掲載順 :0080　MASTER ★

視覚病理学特論 I

大庭紀雄

【授業の概要】
臨床上重要な眼疾患の病態、特に遺伝性の眼底疾患の臨床と研究の動向について概説し、その検査法、治療法について理解を深める。眼科領域にはさまざまな遺伝性の眼底疾患があるので、眼の発生と遺伝について基本的事項を説明するとともに、網膜色素変性症をはじめとする視細胞変性、脈絡膜変性、硝子体網膜変性の各種症候群について実際の症例を示してその成因、病態、診断について解説する。

【授業の目標】
1．眼の発生についての基本事項を理解し説明することができる.
2．眼の遺伝についての基本事項を理解し説明することができる.
3．眼の発生異常についての基本事項を理解し説明することができる.
4．眼の遺伝性疾患についての基本事項を理解し説明することができる.
5．眼の発生や遺伝や、それぞれが関わる疾病の問題点を明らかにすることができる.
6．眼の発生や遺伝の未解決問題を指摘し、研究すべき課題を検討することができる.

【授業計画】
1．眼球、附属器、視路、視覚中枢の発生に関する基礎的知識
2．眼の発生に関する基礎的知識
3．眼の遺伝病についての基礎的知識
4．眼の先天異常や遺伝病についてのカウンセリングについての基礎的知識
5．眼の先天異常の研究方略
6．眼の遺伝病の研究方略
7．眼の発生や遺伝に関する研究論文の探索
8．眼の発生や遺伝に関する研究論文の読解
9．網膜色素変性の臨床像
10．網膜色素変性の症状と経過
11．網膜色素変性の検査と診断
12．網膜色素変性の遺伝
13．網膜色素変性の分子病理
14．網膜色素変性の予防と治療
15．授業のまとめ

【評価方法】
出席状況、受講態度、レポート、論文および筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業の際、随時紹介する。

視覚病理学特論 II

三宅養三

【授業の概要】
電気生理学的な検査による糖尿病黄斑症など黄斑部の臨床疾患や、黄斑手術に伴う黄斑部の機能変化について概説し、ヒトの視覚機能において重要な役割を担う網膜黄斑部の電気反応と疾患の関係について解説する。また、視器の解剖学、電気生理学、病態生理学的な基礎について学ぶとともに、臨床上重要な眼疾患の病態、その検査法、治療法の概要についても理解を深める。

【授業の目標】
1．視覚の生理についての基本事項を理解し説明することができる。
2．網膜視覚電気生理検査の基本事項を理解し説明することができる。
3．網膜疾患の基本事項を理解し説明することができる。
4．黄斑部疾患の診断と治療の基本事項を理解し説明することができる。

【授業計画】
1．視覚の生理に関する基礎的知識
2．網膜の機能生理に関する基礎的知識
3．網膜疾患についての基礎的知識
4．黄斑部疾患についての基礎的知識
5．網膜、黄斑部疾患の生理学的研究法

【評価方法】
出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を融合して評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業の際、随時紹介する。

視覚障害学特論

小田浩一

【授業の概要】
視覚障害者の障害の特性や心理的社会的側面における現状と課題について学習する。具体的には、視機能の特性や高次の認知機能に関する障害の基礎について学ぶとともに、弱視レンズや各種補助器具の特徴と問題点について取り上げ、障害の特性に応じた教育的支援・福祉的支援、中途失明者のリハビリテーション訓練、視覚障害者の福祉的支援のあり方について理解を深める。

【授業の目標】
視覚機能が低下したとき我々の行動はどうなるのか？特に、コミュニケーションや読書がどの変化するのか？補助具の開発や選定という解決策を、視覚科学・感覚知覚・認知心理学的にどう理解し、どう改善していくのか考える。

【授業計画】
1．ロービジョンと視覚障害
2．視覚障害による生活への影響と、補助具の意味
3．目が悪いと視覚障害の関係、視力とは？屈折異常とは？
4．視覚障害の公的定義と公的サービス
5．ロービジョンのタイプ分け-1/4：視力低下
6．ロービジョンのタイプ分け-2/4：コントラスト低下
7．ロービジョンのタイプ分け-3/4：視野狭窄と中心暗点
8．ロービジョンのタイプ分け-4/4：照明への不適応
9．ロービジョン・シミュレーションと補助具による困難の解消-1/3
10．ロービジョン・シミュレーションと補助具による困難の解消-2/3
11．ロービジョン・シミュレーションと補助具による困難の解消-3/3
12．全体のまとめ

【評価方法】
講義の途中で行う発表や議論、実習や課題の内容を評価する。

【テキスト】
特に使用しない。ハンドアウトを用いる。

【参考文献・資料】
眼科プラクティス14 - ロービジョンケアガイド（樋田哲夫編　文光堂 2007）／ロービジョン　新編感覚知覚ハンドブック　P.229-236（小田著　大山・和気編　誠信書房 2007）／視覚情報処理ハンドブック 13章 発達・加齢・障害　P.519-561（小田著　日本視覚学会編　朝倉書店 2000）

言語発達障害学演習

中嶋理香　船﨑康広

【授業の概要】
（概要）小児の言語発達とその遅れについて理解を深める。まず、健常児の音韻、語彙、文法、意味、語用の発達を学習する。しかる後に、言語発達の遅れの原因にそって状態像の特徴、評価と診断の方法、治療の方策について最新の研究を探り、遅れの改善のあり方を考察する。

（オムニバス方式）
（船﨑康広）発達障害について学ぶ。
（中嶋理香）言語発達障害児の言語発達と言語獲得について、障害別の特徴、評価、およびアプローチの実際について学ぶ。

【授業の目標】
1．健常児の言語発達と言語運用などについて理解する。
2．言語発達障害児の言語発達と言語獲得の特徴について理解する。
3．障害別の特徴、評価法、アプローチの実際について学ぶ。

【授業計画】
前半７回（船﨑）発達障害に関する論文の講読。
後半８回（中嶋）言語発達障害に関する論文の講読。

【評価方法】
宿題およびレポートにもとづく。

【参考文献・資料】
『よくわかる言語発達』（岩立志津夫・小椋たみ子編　ミネルヴァ書房）

発声発語障害学演習

織田千尋　加藤正子

【授業の概要】
（概要）言語聴覚障害の中で音声言語の産生に関して学ぶ。機能性構音障害や口唇口蓋裂、舌切除後、鼻咽腔閉鎖不全などの器質性構音障害、および脳血管障害に派生する運動性構音障害など発声発語障害を主症状とする成人及び小児の言語障害について理解を深める。発声発語障害の評価・診断・治療に対する原理と具体的な方法などを文献と事例に基づき検討する。

（オムニバス方式）
（加藤正子）小児の構音障害と言語管理について
（織田千尋）成人の構音障害

【授業の目標】
発声発語の産生機序について学ぶ。
成人と小児の構音障害の評価・診断・治療に対する原則と臨床について、理解する。

【授業計画】
1．発声発語の産生の基礎知識
構音器官の解剖・生理
臨床音声学
構音障害の発症原因

2．小児の構音障害
小児の構音とその障害について理解する。
音の誤りの分析、評価法、診断法、治療法について学ぶ。

3．成人の構音障害
成人の構音障害の中でも、特に運動障害性構音障害について理解する。
構音障害の種類、評価法、診断法、治療法について学ぶ。

【評価方法】
出席、演習態度とレポートにより総合評価する。

【テキスト】
授業内で指示する。

【参考文献・資料】
授業内で指示する。

高次脳機能障害学演習

阿部順子　吉田 敬

【授業の概要】
失語症や遂行機能障害等の高次脳機能障害の症状、評価法、指導法などについて考える。履修者による文献研究ないし臨床研究の発表をもとに討論を行い理解を深める。

【授業の目標】
高次脳機能障害の各領域について、受講者の研究テーマを深める。

【授業計画】
1．高次脳機能障害の研究の概略
2．コミュニケーション障害
3．注意障害
4．記憶障害
5．遂行機能障害
6．その他の高次脳機能障害

【評価方法】
授業内での研究発表、期末レポートにより評価する。

【テキスト】
受講生の興味に応じて決定する。

【参考文献・資料】
授業内で指定する。

聴覚障害学演習

井脇貴子　丹羽英人

【授業の概要】
（概要）聴覚障害について医学的見地から障害のメカニズムについて学び、聴覚障害の原因、その聴覚検査法に基づく評価、および一次および高次聴覚野の機能、抹消と中枢での聴覚の役割について理解を深める。また言語面から聴覚障害について評価、聴覚補償、聴覚活用、アプローチの方法について検討する。

（オムニバス方式）
（井脇貴子）言語聴覚障害学の立場から聴覚障害者の心理的サポート、言語聴覚環境の整備、語音聴取評価と日常聴覚活用訓練プログラムの実際について学ぶ。
（丹羽英人）聴覚医学の立場から聴覚障害の機序についての基礎、およびその検査・診断と治療について学ぶ。

【授業の目標】
医学的側面と言語聴覚学的側面から聴覚障害について学び、独自のテーマに対する研究を行うための基礎力を養う。

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回～第７回　聴覚医学の基礎を中心とする事例を取り上げ講義する。
第８回～第13回　Audiology、Speech pathologyの観点から、講義形式と討論形式で授業を行う。
第14回～第15回　まとめ

【評価方法】
出席、態度、課題レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
必要に応じて、授業中に指定する。

視覚心理学演習

高橋啓介　高橋伸子

【授業の概要】
視覚心理学の現象と理論について基礎を学び、運動知覚、奥行知覚、形の知覚、視空間、明るさの知覚、色の知覚、体制化、視覚記憶のトピックについて文献講読を中心とする演習を通じて、人間の「見え」の機能とメカニズムに関する理解を深める。
（高橋啓介）視覚的枠組みと視空間の知覚、奥行き知覚、明るさの知覚、色の知覚。
（高橋伸子）運動知覚、形の知覚、統合と体制化、視覚記憶。

【授業の目標】
当該分野における最新の知見について知識を深め、研究の基礎能力を高める。

【授業計画】
第１回　オリエンテーション
第２回～第８回　原著論文の講読 (高橋伸子)
第９回～第15回　原著論文の講読 (高橋啓介)

【評価方法】
出席、演習態度とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
必要に応じて、授業中に指定する。

視能検査学演習

田邊宗子

【授業の概要】
視器の解剖学、生理学の知識を基礎として、主に眼科における写真学を中心に学ぶ。眼科写真学の基礎、一眼レフを使用したものから細隙灯写真及び、眼底カメラの応用による前眼部写真の技法の習得、また、カラー眼底写真から蛍光眼底撮影（フルオレセイン蛍光眼底造影・ICG（indocyanine green）蛍光眼底造影）及びその他特殊撮影（単色光撮影、立体撮影）について概説し、造影検査を含む眼底写真による検査方法とその評価の仕方について理解を深める。

【授業の目標】
視器の解剖学、生理学の知識を基に各疾患にあった客観的な記録及び診断に必要な写真を撮るための技法の習得。

【授業計画】
1）外眼部撮影
2）９方向眼位
3）細隙灯写真及び、眼底カメラの応用による前眼部写真
4）眼底写真
　1)カラー眼底写真（後極部・パノラマ）
　2)蛍光眼底造影（FA・ICG)
　3)特殊撮影（単色光撮影・立体撮影）

*受講人数により、講義の方法内容が一部変わることがあります。

【評価方法】
出席状況・受講態度・レポート及び筆記試験

【テキスト】
適宜プリントを配布

【参考文献・資料】
授業の際、随時紹介

視能矯正学演習

平井淑江

【授業の概要】
通常ヒトは２つの眼球が6cm程離れて眼窩に収まっているのにも係わらず単一眼として働いている。その単一眼は一つ眼小僧のように顔の中央、鼻根部にあって、身体の中心として位置関係を的確に認識している。演習では、この問題に関するケプラー、ニュートン、ヘリング、ヘルムホルツから最近に至る文献講読を通して両眼視機能について学び、また、身近な材料を用いた両眼視機能検査用具の作成を試みる。

【授業の目標】
両眼視研究の起源から現代までの流れを文献購読を通して理解する。
両眼視に関する独自なテーマを考える。

【授業計画】
単眼視と両眼視の違いを理解する。
両眼視についての文献を読む。
両眼視検査のための各眼分離の方法を考える。
両眼視機能検査用具を作成する。

【評価方法】
理論的思考・独自性等を総合的に判断する。

【テキスト】
特になし。国内外の論文を購読する。

【参考文献・資料】
特になし

視覚障害学演習 I

川嶋英嗣　田中恵津子

【授業の概要】
視覚障害者の障害の特性や心理的社会的側面における現状と課題について演習を通じて実践的に学ぶ。演習では障害に応じた視機能の特性や文字の読みをはじめとする認知機能の特性、障害に応じて必要な補助器具や教育的支援・福祉的支援について実際の器具や実例をもとに解説し、理解を深める。
演習の運営や指導のための必要から、二人の担当者が同時に担当する。

【授業の目標】
ロービジョンの行動評価の方法について理解するとともに、個々の視機能の特性に応じた支援のあり方について考える力を養う。

【授業計画】
下記の内容について集中授業を行う予定である。
授業に必要な準備については追って指示する。

・ロービジョンに関する行動評価の実際
・ロービジョンに関する最新知見の文献購読

【評価方法】
出席、演習態度、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
必要に応じて、指示する。

視覚障害学演習 II

川瀬芳克

【授業の概要】
光学的補助具の特性をレンズ光学および眼光学の立場から解説し、網膜像の拡大および波長の選択性について演習する。

【授業の目標】
１．各種レンズの光学的特性の理解
２．網膜像の拡大および縮小の方法とその効果および限界の理解
３．波長特性のあるフィルターの分光特性と視機能の関係の理解

【授業計画】
１．光学的補助具
　１）レンズの基本
　２）各種補助具の光学的特性
　３）光学的補助具の選択と指導
２．波長特性と視機能
　１）波長特性のあるフィルターの基本
　２）差明、コントラストと波長特性の関係
３．光学的補助具選定の実際

【評価方法】
光学的補助具に関しテーマを選択し、データに基づく実験的なレポートをまとめて発表することを課題とし、その達成度により評価する。その他、出席も含め総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】
必要に応じて、授業内で指示する。

コミュニケーション障害学研究

井脇貴子　大庭紀雄　加藤正子　川嶋英嗣　川瀬芳克　高橋啓介　高橋伸子
丹羽英人　平井淑江　船﨑康広　三宅養三　吉田 敬　渡邊一功

【授業の概要】
（概要）言語聴覚学および視覚科学の研究テーマについて広く学習し、各自の研究テーマの方向性を検討して所属ゼミを決定する。

（オムニバス方式）
（井脇貴子）聴覚言語障害学
（加藤正子）構音障害
（丹羽英人）聴覚医学
（船﨑康広）言語発達障害学
（吉田敬）　高次脳機能障害学
（渡邊一功）発達障害学
（大庭紀雄）遺伝性疾患と視覚病理学
（川嶋英嗣）視覚障害学と視覚心理学
（高橋啓介）視空間知覚・奥行き知覚と視覚心理学
（高橋伸子）運動知覚・形の知覚と視覚心理学
（平井淑江）視能矯正学
（三宅養三）電気生理学的検査と視覚病理学
（川瀬芳克）ロービジョンと支援

【授業の目標】
本研究科コミュニケーション障害学専攻における各教員の専門分野について概観することによって、学生が所属すべきゼミナールの選択のための情報を提供する。

【授業計画】
第１回　オリエンテーション（平井淑江）
（第１部　言語聴覚学領域）
第２回　発達障害学（渡邊一功）
第３回　言語発達障害学（船﨑康広）
第４回　高次脳機能障害学（吉田敬）
第５回　聴覚医学（丹羽英人）
第６回　聴覚言語障害学（井脇貴子）
第７回　構音障害（加藤正子）
（第２部　視覚科学領域）
第８回　視覚障害学と視覚心理学（川嶋英嗣）
第９回　視空間知覚・奥行き知覚と視覚心理学（高橋啓介）
第10回　運動知覚・形の知覚と視覚心理学（高橋伸子）
第11回　電気生理学的検査と視覚病理学（三宅養三）
第12回　遺伝性疾患と視覚病理学（大庭紀雄）
第13回　視能矯正学（平井淑江）
第14回　ロービジョン（川瀬芳克）
第15回　まとめ（平井淑江）

【評価方法】
出席、演習態度とレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】
必要に応じて、授業内で指示する。

091472503_0210　掲載順 :0210　MASTER ★

言語聴覚学研究 I

井脇貴子　加藤正子　丹羽英人　船﨑康広　吉田 敬　渡邊一功

【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。言語聴覚学研究Iでは、テーマの選択、事前調査、関連文献の調査を中心に、修士論文作成に向けての先行研究・関連研究の調査と問題点の整理に重点を置いた指導を行う。

【授業の目標】

修士論文作成のための学生各自の研究テーマについて、先行研究の知見を学ぶことによって絞込みを行い、具体的な研究課題を決定する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回～第４回　研究テーマの決定
第５回～第８回　先行研究原著論文の購読
第９回～第12回　研究計画の策定
第13回～第15回　予備的調査・実験

【評価方法】

出席、演習態度、課題レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内で指示する。

091472503_0220　掲載順 :0220　MASTER ★

言語聴覚学研究 II

井脇貴子　加藤正子　丹羽英人　船﨑康広　吉田 敬　渡邊一功

【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。言語聴覚学研究Ⅱでは、言語聴覚学研究Iを踏まえて課題の問題点を整理し、研究計画作成の指導、中間発表会による修士論文の研究計画の問題点の検討と修正、研究計画の実施・研究データの収集について指導する。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

授業にて明示する。

【評価方法】

授業にて明示する。

091472503_0230　掲載順 :0230　MASTER ★

言語聴覚学研究 III

井脇貴子　加藤正子　丹羽英人　船﨑康広　吉田 敬　渡邊一功

【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。言語聴覚学研究IIIでは、言語聴覚学研究IIの研究計画実施によって収拾したデータの分析、解釈、先行研究や関連研究を踏まえた考察、問題点について、発表会等を通じて検討し、修士論文としてまとめるための支援や指導を行う。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

授業にて明示する。

【評価方法】

授業にて明示する。

091472503_0240　掲載順 :0240　MASTER ★

視覚科学研究 I

大庭紀雄　川嶋英嗣　川瀬芳克　高橋啓介
高橋伸子　平井淑江　三宅養三

【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。視覚科学研究Iでは、テーマの選択、事前調査、関連文献の調査を中心に、修士論文作成に向けての先行研究・関連研究の調査と問題点の整理に重点を置いた指導を行う。

【授業の目標】

修士論文作成のための学生各自の研究テーマについて、先行研究の知見を学ぶことによって絞込みを行い、具体的な研究課題を決定する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回～第４回　研究テーマの決定
第５回～第８回　先行研究原著論文の購読
第９回～第12回　研究計画の策定
第13回～第15回　予備的調査・実験

【評価方法】

出席、演習態度、課題レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内で指示する。

視覚科学研究 II

大庭紀雄　川嶋英嗣　川瀬芳克　高橋啓介
高橋伸子　平井淑江　三宅養三

【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。視覚科学研究IIでは、視覚科学研究Iを踏まえて課題の問題点を整理し、研究計画作成の指導、中間発表会による修士論文の研究計画の問題点の検討と修正、研究計画の実施・研究データの収集について指導する。

【授業の目標】

修士論文作成のための実験・調査等を実施してデータを取得し、それらの分析を通して、修士論文研究を展開する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回～第15回　研究指導

【評価方法】

出席、演習態度、毎回の研究報告によって総合的に評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内に指示する。

視覚科学研究 III

大庭紀雄　川嶋英嗣　川瀬芳克　高橋啓介
高橋伸子　平井淑江　三宅養三

【授業の概要】

院生各自の研究テーマを検討し、計画に基づき討議していく。テーマに沿った調査や学習も行なう。そして、修士論文の中間発表会、関連学会等の発表なども利用して、院生の研究活動を指導し、修士論文の完成を支援する。視覚科学研究IIIでは、視覚科学研究IIの研究計画実施によって収拾したデータの分析、解釈、先行研究や関連研究を踏まえた考察、問題点について、発表会等を通じて検討し、修士論文としてまとめるための支援や指導を行う。

【授業の目標】

修士論文作成のための実験・調査等を実施してデータを取得し、それらの分析を通して、修士論文研究を展開し、修士論文を作成する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回～第15回　研究指導

【評価方法】

出席、演習態度、毎回の研究報告によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業内に指示する。

091573001_0001　掲載順 :0005　　MCode:090107515_0010 ★

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】
学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功実例を紹介し学習する。

【授業の目標】
司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】
第１時限　講義の進め方と評価の方法などについて
第２時限　あなたにとって「本を読む」とは、「図書館」を利用するということは
第３時限　学校図書館の理念と教育的意義
第４時限　学校図書館法とは（学校図書館法の展開と改正）
第５・６時限　学校図書館の歴史と現状、制度、法規、基準（施設、設備など）
第７時限　教育行政と学校図書館
第８時限　学校図書館の「経営」とは（学校図書館に関わる人びと）
第９時限　学校図書館の経営要素（資料、施設・設備、予算、図書館サービス）
学校図書館メディアの内容と構成
第10時限　司書教諭の役割とその問題点
第11時限　生徒たちに対する読書指導のあり方
・君達が読ませたいと思う本、君達に読んでもらいたい本
第12時限　レファレンスのあり方
何をどう調べるか
第13時限　学校図書館の国際的動向と先進事例
第14時限　いま「本の世界」で問題になっていること
最終回　試験

【評価方法】
課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

091573001_0002　掲載順 :0015　　MCode:090107515_0020 ●

学校図書館メディアの構成

担当者未定

【授業の概要】
情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】
詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

091573001_0003　掲載順 :0025　　MCode:090107515_0030 ▲

学習指導と学校図書館

枝元益祐

【授業の概要】
学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、（1）学校の教育課程の展開に寄与するとともに、（2）生徒の健全な教養を育成することを目的としている。
この授業では、（1）の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。
また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】
学校において行われる教育活動全体の中での学習指導の位置付けと機能とを学校図書館が担う教育活動に関連付けることによって、その重要性を浮き彫りにする。
そこで、カリキュラム展開の中での学校図書館が学習指導に果たし得る効果を教育制度とストリートレベルとの双方の観点から捉えるとともに、メディア活用能力の重要性とその涵養、発展方法について論及、考察する。

【授業計画】
1．学校教育における学習指導の位置付けとそこに果たす学校図書館の役割（総論①）
2．社会教育と学校教育の関連性（総論②）
3．司書教諭の専門性と学習支援
4．専門性の醸成と実践活動プロセス
5．専門性の醸成の場としての学校図書館
6．学習理論の観点から見る学習行動及びそこに果たす学校図書館の役割
7．発達段階に応じた学校図書館メディアの活用
8．情報メディア活用能力と学校図書館活動
9．学校図書館における情報サービスと学習指導
10．公教育と学校図書館及び学習指導の意義
11．公教育と私教育との関連及びそれぞれの評価過程
12．学習支援としての学校図書館活動

【評価方法】
授業内での課題：40%
期末試験：60%

【テキスト】
使用しない。適宜教材資料等を配布する。

【参考文献・資料】
学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著　第一法規）

091573001_0004　掲載順 :0035　　MCode:090107515_0040 ★

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】
現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。
児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】
人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。
人間精神と読書との関わりを、実例によって見ながら、学校図書館および学校図書館司書が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】
1．読書のよろこび
（1）読書との出会いとよろこび――先人の読書経験から学ぶ
2．人間形成と読書
（1）幼児期における読み聞かせの教育的意味
（2）少年期・青年期における読書との出会い
（3）読書による、内省、思索の意義
3．学校教育における読書指導
（1）教師による本の紹介、読み聞かせ
（2）「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4．読書と仲間作り
（1）家庭・友人間での読書、対話、読書会
（2）学区図書館を利用した共同研究
5．読書の技術
（1）情報収集のための「読書」と思索のための読書
（2）愛読書、好きな作家

【評価方法】
出席状況及びレポートによる。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
プリントを配布する。

情報メディアの活用

担当者未定

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

091573502_0110　掲載順 :0110　MCode:090109519_0020 ★

英語海外セミナー II（オーストラリア）

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

091573502_0120　掲載順 :0120　MCode:090109519_0030 ★

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group（CSCG）との共同プログラムとして、毎年２月中旬から約１ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group（CSCG）

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの５日間のインターン・１日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

091573502_0130　掲載順 :0130　MCode:090109519_0040 ★

英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England.
The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students....they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.
In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

【Course schedule】

The programme is scheduled to include:
Lessons: - English for work/General English/British Culture
Internship - At least 48 hours of work-experience
Trips / activities (often including other International Students)
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater,beach BBQ, ice-skating, karaoke evening(with hostparents),luncheon(with Internship Supervisors)

【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

091573502_0140　掲載順 :0140　MCode:090109519_0070 ★

Get together and Talk I

HARRIS, Richard S.

【Course description】

"One World Cultural Exchange" Get Together and Talk I seminar, 2009

<Course outline>
Students are provided with ample opportunities to improve their English communication skills through dialog with international students. All lectures and activities will be conducted in English. This 2-credit intensive English course is offered to all departments

Students must be available for the full length of the program and they must be motivated to improve their speaking skills in English while actively participating in all aspects of the program.

Course size is limited to 30 students.

【Course objectives】

Course objective is to participate in a cultural exchange with people from other parts of the world. Learn about international societies from native people from Asia Africa, and Europe. Your guide through this lecture Series is Richard S. Harris an American who has been teaching in Japan for over 21 years.

【Course schedule】

<Class activities and assignments>
1) International students give presentations on their cultures and participate in Group discussions.
2) Japanese students will be required to do two short written assignments about culture, one is pre seminar survey and the other is post seminar assignment.

【Assessment】

Course Assement

60% of grade will be based on course participation.
40% of grade will be based on assesment of written assignments

【Textbooks】

not required

Get together and Talk II

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。
Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。
さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【Course objectives】

There are three main objectives.
1．To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2．Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3．Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【Course schedule】

This lesson will be held on Tuesdays over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50, Wednesdays 4th and 5th Periods 3.00-6.10pm and Thursdays 3rd and 4th Periods 1.20-4.30pm.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch/or break! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.
Time Will be used for real time chat with Australian University students.Topics for discussion will differ week to week. Some example topics are listed below.

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【Assessment】

Assessment will be based on
50% Topic preparation
50% Participation

【Textbooks】

No text

【Reference】

http://www.apple.com/support/isight/

コミュニティ・サービスラーニングIB（社会貢献実習）

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域（コミュニティ）には、多様なニーズに対応した地域活動（サービス）が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。
コミュニティ・サービスラーニング IBでは､IAでの企画･運営を受けて、地域で活躍するボランティア団体や行政等と協働しながらEXPOエコマネーを活用した環境活動の他、ボランティア啓発活動などの具体的な運営を行います。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1．オリエンテーション
（本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明）
2．ラーニングI
　1）地域活動とは？
　2）地域活動の意義とその役割
　3）地域活動参加にあたっての心構え
　4）参加学習と各自の専攻との関連
3．ラーニングII
　地域活動参加学習（活動期間等は内容により異なります）
4．ラーニングIII
　活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題により､「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加（出席）、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献：ボランティア・ＮＰＯ用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

コミュニティ・サービスラーニングIA（社会貢献実習）

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域（コミュニティ）には、多様なニーズに対応した地域活動（サービス）が展開されています。本講義では、受講生全員が地域（学外）における実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。
具体的な実践活動としてIAでは、地域で活躍するボランティア団体や行政などと協働しながら、EXPOエコマネーを活用した環境活動、ボランティア啓発活動などの企画を行いながら、実践へ繋げていきます。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1．オリエンテーション
（本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明）
2．ラーニングI
　1）地域活動とは？
　2）地域活動の意義とその役割
　3）地域活動参加にあたっての心構え
　4）参加学習と各自の専攻との関連
3．ラーニングII
　地域活動参加学習（活動期間は、内容により異なる）
4．ラーニングIII
　活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題（レポート、発表）により､「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加（出席）、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

ボランティア・ＮＰＯ用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

コミュニティ・サービスラーニング IIA（企業のCSR活動）

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会では積極的にCSR活動に取り組む企業が増加している。
また、企業の不祥事が相次ぐ中、CSR活動の重要性が高まっている。
本講義では、受講生が特定企業におけるCSR活動の企画立案に参加し、プレゼンテーションを行なう。学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を習得する。

【授業の目標】

授業前半でCSR活動の基本的知識の習得を目指し、授業後半では、前半で養った知識を活かし学外の場で発表をする。講義と学外活動を通してプロジェクトの企画・提案を創出するプロセスを把握し、必要な能力を養うことを目標とする。

【授業計画】

1　ガイダンス
2　CSR活動とは
3　企業のCSR活動（事例報告）
4　CSRに関する調査活動
5　CSR活動の企画立案
6　プレゼンテーション
7　総括

【評価方法】

出席状況と授業中の態度による。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介。

091573502_0190　掲載順 :0190　　MCode:090109519_0120 ▲

コミュニティ・サービスラーニング ⅢA（地域メディア実習）

小川明子　小島祥美

【授業の概要】

・さまざまな産業の労働者として、日本にも多くの外国人が暮らすようになりました。しかし、私たちは、買い物や交通機関などで、彼らと日常的に顔を合わせながら、その生活がどのようなものなのか、よく理解できずにいます。そして残念ながら、こうした文化や思いへの無理解や行き違いが、ときに地域社会において問題化したりします。
・この演習では、地域において、その地域に暮らす住民たちと在住外国人が、よりよく互いを理解するためのお手伝いをします。具体的には、外国人（主に、ブラジル、フィリピン）の中高生たちが、普段の暮らしのなかで伝えたいことを写真やことばを用いて映像作品にし、それをケーブルテレビやウェブサイトなどの地域のメディアで表現することでより多くの人びとに視聴してもらう現場実践型プログラム、そのお手伝いです。
・この演習では、自分たちがそれぞれの学部や専攻において、これまでの授業のなかで学んだことを積極的に生かしていってほしいと思います。（たとえば、語学、映像編集、異文化コミュニケーション、アーカイビングなど）
・この実習は昨年に続き2年目です。すべては参加者の皆さんのやる気次第ですが、きっと思い出に残る実習になると思います。このプロジェクトを面白いと思い、夏休みの一週間をそれにあててみようと考える積極的な学生さんにぜひ集まってほしいと思っています。

【授業の目標】

1）日本の地域における外国人をめぐる状況を把握する。
2）地域におけるメディアやコミュニケーションの重要性、可能性について考える。
3）大学での学習と、地域の現場との往復を通じて、実践型参加型の学習のありかたについて考える。
4）参加者間のコミュニケーションを通じて、自らプロジェクトを立案し、遂行する能力を身につける。

【授業計画】

●プレセミナー
　プレ1日目　4月（場所、日程等、詳細は学生課横ＣＣＣ掲示板にて提示）
　授業内容詳細の提示、サービス・ラーニング準備
　プレ2日目　7月（場所、日程等、詳細はＣＣＣ掲示板にて提示）
　事前調査発表
●8月集中講義日程（場所、日程等、詳細は学生課横ＣＣＣ掲示板を確認のこと）
　１日目　アイスブレーキング　グループ分け
　メディア技術研修（長久手キャンパス）
　２日目　参加学生作品制作
　３日目　現地ワークショップ1日目
　４日目　現地ワークショップ2日目
●振り返り
　9月または10月

【評価方法】

出席、授業態度/参加意欲、授業をめぐるレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

・「在日外国人―法の壁、心の溝」岩波新書 田中 宏 (著)
・「日本の中の外国人学校」明石書店　月刊『イオ』編集部 (編集)
・「メディア・ワークショップ」 東京大学出版会（2008年出版予定）
・「メディア・プラクティス」 せりか書房

【参考文献・資料】

適宜指定する

091573502_0200　掲載順 :0200　　MCode:090109519_0130 ▲

地域活動総合演習 ⅠA

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。
本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な視点から学ぶ。
また、病院施設の現場見学や老人保健施設でレクリエーションの企画・発表を行い、地域における医療機関のあるべき姿を考察する。

【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。
また、学外活動やグループワークを通して、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】

1　ガイダンス
2　医療を取り巻く環境について
3　現代の医療の問題
4　病院見学
5　レクリエーションの企画・発表
6　グループワーク

【評価方法】

出席と授業態度の評価による。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

091573502_0205　掲載順 :0205　　MCode:090547523_0120 ★

地域活動総合演習 ⅡA

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。
本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。
本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会学的に見る方法を学習します。
また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。
これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、ⅠBの実践的な活動運営まで発展させていきます。
なお、具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）
日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

091573502_0208　掲載順 :0208　　MCode:090547523_0130 ★

地域活動総合演習 ⅡB

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。
本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。
本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会学的に見る方法を学習します。
また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。
これらⅠAの学習を通じ、実践的な活動運営を行います。なお具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）、日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

障がい者支援ボランティア入門

石黒文子

【授業の概要】

大学で学ぶ学生の中には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害などにより制限を受けているために、授業や学生生活においてノートテイク、手話通訳等の授業支援を必要とする人たちがいる。そこで、本授業では、これら障害のある人についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障害のある人への学生支援ボランティア活動の活性化と充実及び共に学ぶ場を作り出していくことをめざすことを目的とする。

【授業の目標】

（1）障害学生支援に関心をもち、障害のある人のニーズについて学ぶ。
（2）障害のある人への支援技術を身につけ、共に学ぶ実践を実行する。
（3）授業で学んだ内容を実際の支援ボランティア活動に結びつけ、共に学ぶ場を作っていく。

【授業計画】

1．授業のガイダンス
2．現代社会と障害のある人を取り巻く環境
3．肢体に障害がある人の理解と支援方法
　(1) 肢体障害者の理解
　(2) 肢体障害者の支援方法（生活介護）
4．視覚障害者の理解と支援方法
　(1) 視覚障害者の理解
　(2) 視覚障害者の支援方法（点字、移動問題、授業の解説）
5．聴覚障害者の理解と支援方法
　(1) 聴覚障害者の理解
　(2) 聴覚障害者の支援方法（手話通訳･ノートテイク）
6．障害学生支援ボランティア活動の実際
7．愛知淑徳大学における支援のシステム
8．共に生きる社会を目指して

【評価方法】

1.出席を評価の中心とする。
2.ボランティアの体験レポート
3.最終レポートの提出

【テキスト】

毎回の講師が指定する資料やレジュメがテキストとなる

入門ボランティア

小島祥美

【授業の概要】

1997年11月の国際連合総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提唱国を得て、「2001年ボランティア国際年(International Year of Volunteers)とすることを宣言する」という決議が採択されました。1995年の阪神・淡路大震災以後、日本国内においてはボランティア活動に対する関心と理解が高まり、各地に多種多様なボランティア活動が展開されています。本講義では、ボランティア活動についての理解と認識を深め、地域での実践事例を通じ、「ボランティア活動の魅力」について学びます。なお、地域で活躍するボランティア活動実践者をゲストスピーカーとしてお招きする他、受講生全員でボランティアを体験できる場も設定する予定です。

【授業の目標】

ボランティア活動の「魅力」を学び、ボランティア活動の「楽しさ」を知り、実践活動への「参加」へ繋げることを目指します。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．ボランティア活動に参加することの意義を考える
3．基本的な用語とキーワードを学ぶ
4～8．地域で活躍するボランティア活動から学ぼう
9～11．企業の社会貢献とは？
　※企業の社会貢献事業を学ぶ場として学外による活動を予定しています
12．行政とボランティア団体とのコラボレーションとは？
13．ボランティア団体の抱える課題とは？
14．地域にあるボランティア･市民活動推進機関とは？
15．総括

【評価方法】

毎回出席確認を兼ねた感想文の他、授業態度、レポート課題により、総合的に評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

入門ボランティア

橋本吉広

【授業の概要】

自分自身の周りにある壁を破って、ボランティアの世界に入っていくことを「入門」と位置付けてみます。ボランティア活動の実際を紹介することで、そこにある問題を自分の力で発見し、どのような活動につなげていったらいいか、ボランティア発想を鍛える自問型授業とします。

【授業の目標】

ボランティアの現場を取り巻く状況に視点をあて､ボランティアとは何か、なぜボランティアが必要とされているかなどを考えながら、ボランティアの世界に踏み出す心構えと作法を身につけることをめざします。

【授業計画】

1　ようこそ　ボランティアの世界へ　セカンド・ハーベストの実践
2　生死と関わるボランティア- 国境なき医師団の活動
3-4　住まうこととボランティア- 高齢期の住まい・宅老所の実践
5-6　ワーキングプアの生活支援・ホームレスの自立支援
7-8　自然災害と向き合うボランティア- 災害救援活動 / 災害復興・まちづくり
9　ボランティアの現代（中間まとめ）

10-11　自然環境と向き合うボランティア- 霞ヶ浦での自然再生/ 風力発電への取り組み
12　ボランティアとNPO・市民事業～ボランティアとして働く
13　ボランティア活動のマネジメント 資金調達の世界/ボランティア組織のガバナンス
14　さあボランティアの世界へ
15　試験

【評価方法】

授業にもとづくレポート提出を数回求め、その提出状況を評価の基礎に置きます（25％程度)。期末試験を実施し、学習の成果を確認します(75％程度)。

【テキスト】

授業毎に資料を配布します。

【参考文献・資料】

『ボランティア学を学ぶ人のために』(内海成治他編　世界思想社)

初級簿記（３級程度）　＊基礎総合

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。前期は２コマ（３時間）ずつ週２回のペースで、後期は２コマ（３時間）ずつ週１回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定３級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定３級に合格すること。

【授業計画】

第１回　簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
第２回　試算表・商品売買の記帳方法、現金預金の記帳
第３回　手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
第４回　その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
第５回　主要簿および補助簿、伝票
第６回　直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
第７回　決算整理（売上原価)、英米式決算法、精算表
第８回　決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
第９回　決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
第10回　直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
第11回　直前答練第１回、解説
第12回　直前答練第２回、解説
第13回　直前答練第３回、解説
第14回　全国公開模擬試験、解説
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（２級程度）Ａ　＊商業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定３級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定２級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく２級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（２級程度）Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

第１回　簿記一巡、固定資産
第２回　減価償却、銀行勘定調整表、引当金
第３回　その他の引当金、商品の評価、税金
第４回　株式の発行、利益処分
第５回　会社の合併、社債の発行、決算整理
第６回　社債の償還、決算法、財務諸表
第７回　伝票会計
第８回　帳簿組織
第９回　特殊商品売買
第10回　仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
第11回　債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
第12回　本支店会計
第13回　総まとめ（１）
第14回　総まとめ（２）
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（２級程度）Ｂ　＊工業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定３級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定２級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく２級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（２級程度）Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

第１回　工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
第２回　材料費会計
第３回　労務費会計
第４回　経費会計、製造間接費会計
第５回　工企業の財務諸表
第６回　部門別会計、工場会計
第７回　工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
第８回　単純総合原価計算
第９回　減損および仕損
第10回　組別・等級別原価計算
第11回　標準原価計算
第12回　損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
第13回　総まとめ（１）
第14回　総まとめ（２）
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（２級程度）Ｃ　＊実践

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は中級簿記（２級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

第１回　直前答練第１回、解説
第２回　直前答練第２回、解説
第３回　直前答練第３回、解説
第４回　直前答練第４回、解説
第５回　全国公開模擬試験、解説
第６回　ファイナルチェック問題、解説
第７回　直前総まとめ
第８回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）Ａ　＊商業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　総論、企業会計原則、簿記一巡
第２回　一般販売、特殊商品売買I
第３回　特殊商品売買II
第４回　特殊商品売買III
第５回　棚卸資産
第６回　固定資産I
第７回　固定資産II
第８回　減損会計、繰延資産
第９回　研究開発費、引当金I
第10回　引当金II、退職給付会計I
第11回　退職給付会計II、社債I
第12回　社債II、資本I
第13回　資本II
第14回　合併会計、会社分割
第15回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）Ｂ　＊会計学

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。講義は前期集中授業期間で行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　現金および預金、債権、有価証券
第２回　金融資産および金融負債、デリバティブ取引
第３回　ヘッジ会計、為替換算会計
第４回　外貨建取引処理基準、為替予約
第５回　税効果会計、一時差異等の会計処理I
第６回　一時差異等の会計処理II
第７回　本支店会計
第８回　連結会計、取得日連結
第９回　連結会計、取得後連結I
第10回　連結会計、取得後連結II
第11回　連結会計、持分の段階取得、売却、増資
第12回　持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
第13回　キャッシュ・フロー会計
第14回　連結キャッシュ・フロー会計
第15回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）Ｃ　＊原価計算

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。講義は前期集中授業期間で行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　総論、原価・営業量・利益関係の分析I
第２回　原価・営業量・利益関係の分析II
第３回　予算編成
第４回　予算統制I
第５回　予算統制II、売上数量差異の分析
第６回　事業部制、セグメント別損益計算
第７回　業務的意思決定I
第８回　業務的意思決定II
第９回　業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
第10回　構造的意思決定I、設備投資の意思決定
第11回　構造的意思決定II
第12回　構造的意思決定III
第13回　戦略的原価計算I、品質原価計算
第14回　戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
第15回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）Ｄ　＊工業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（１級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　総論、単純個別原価計算
第２回　部門別個別原価計算
第３回　部門別計算I
第４回　部門別計算II
第５回　実際総合原価計算I、総論
第６回　全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
第７回　実際総合原価計算II、減損、仕損
第８回　実際総合原価計算III、異常減損・仕損
第９回　工程別総合原価計算
第10回　組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
第11回　標準原価計算I
第12回　標準原価計算II、歩減が発生する場合
第13回　標準原価計算III、配合差異・歩留差異
第14回　工程別標準原価計算、直接標準原価計算
第15回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）Ｅ　＊実践

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は上級簿記（１級程度）A、B、C、Dのうちいずれか１つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　直前答練第１回、解説
第２回　直前答練第２回、解説
第３回　直前答練第３回、解説
第４回　直前答練第４回、解説
第５回　全国公開模擬試験、解説
第６回　ファイナルチェック問題、解説
第７回　直前総まとめ
第８回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

091573502_0240　掲載順 :0335　　MCode:090109018_0100 ▲

初級簿記演習

三浦克人　藤原英賢

【授業の概要】
この授業は，初級簿記（３級程度）の単位を修得した学生で，簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。２コマ（３時間）ずつ，週１回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

【授業の目標】
日商簿記検定３級に合格すること。

【授業計画】
１．商品売買
２．手形取引
３．有価証券
４．固定資産
５．決算手続き
６．精算表の作成
７．単位認定試験

【評価方法】
出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】
日商簿記3級過去問題集（大原簿記学校著　大原出版）

【参考文献・資料】
大原簿記専門学校のテキスト

091573502_0241　掲載順 :0345　　MCode:090109018_0110 ▲

中級簿記演習Ａ　＊商業簿記

藤原英賢

【授業の概要】
この授業は，中級簿記（２級程度）ＡまたはＢの単位を修得した学生で，簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。２コマ（３時間）ずつ，週１回のペースで講義を行う。日商簿記検定２級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく２級の範囲である「工業簿記」は，中級簿記演習Ｂで取り扱うので，同時履修が望ましい。

【授業の目標】
日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】
１．商品・特殊商品売買取引
２．手形取引
３．株式会社会計
４．本支店会計
５．帳簿組織
６．決算整理
７．単位認定試験

【評価方法】
出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】
日商簿記2級過去問題集（大原簿記学校　大原出版）

【参考文献・資料】
大原簿記専門学校のテキスト

091573502_0242　掲載順 :0355　　MCode:090109018_0120 ▲

中級簿記演習Ｂ　＊工業簿記

三浦克人

【授業の概要】
この授業は，中級簿記（２級程度）ＡまたはＢの単位を修得した学生で，簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。
２コマ（３時間）ずつ，週１回のペースで講義を行う。日商簿記検定２級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。
同じく２級の範囲である「商業簿記」は，中級簿記演習Ａで取り扱うので，同時履修が望ましい。

【授業の目標】
日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】
1.工業簿記の基礎，材料費・労務費・経費の計算
2.製造間接費の計算，部門費の計算
3.個別原価計算
4.総合原価計算
5.標準原価計算
6.直接原価計算
7.単位認定試験

【評価方法】
出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】
別途指示する。

【参考文献・資料】
大原簿記学校のテキスト

091573502_0010　掲載順 :0365　　MCode:090104509_0100 ★

Advanced General English IG

鈴木久子　太田晶子　今井加寿

【授業の概要】
TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English Ⅰ」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English Ⅱ」から成る。最高、半期に２コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）まで、４年間続けて何度でも履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】
学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】
第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
・演習（リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　リーディング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】
出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】
掲示・配布物で確認すること。

091573502_0020　掲載順：0375　　MCode：090104509_0110 ★

Advanced General English IH

鈴木久子　太田晶子　今井加寿

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English Ⅰ」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English Ⅱ」から成る。最高、半期に２コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）まで、４年間続けて何度でも履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
・演習（リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　リーディング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

091573502_0030　掲載順：0385　　MCode：090104509_0120 ★

Advanced General English IIG

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B.　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English Ⅰ」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English Ⅱ」から成る。最高、半期に２コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）まで、４年間続けて何度でも履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
・演習（リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　リーディング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

091573502_0040　掲載順：0395　　MCode：090104509_0130 ★

Advanced General English IIH

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B.　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English Ⅰ」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English Ⅱ」から成る。最高、半期に２コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）まで、４年間続けて何度でも履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
・演習（リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　リーディング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

091573502_0050　掲載順：0405　　MCode：090104509_0140 ★

Advanced Academic English 09A

BROWNING, Jeremy S.　WRINGER, Paul

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09A」は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

Wringer
1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning
Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Wringer
Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning
Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every　2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「Advanced Academic English 09A」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日５限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日１限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer：To be announced.
Browning: Handouts will be provided

091573502_0060　掲載順 :0415　　MCode:090104509_0150 ★

Advanced Academic English 09B

BROWNING, Jeremy S.　WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目「Advanced Academic English 09B」は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。４年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every　2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「Advanced Academic English 09B」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日５限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日１限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer：To be announced.
Browning: Handouts will be provided

091573502_0080　掲載順 :0435　　MCode:090104509_0170 ★

Advanced Academic English 09D

横山綾子　DAVIES, Alun

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09D」は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。４年間続けて履修できる。

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第１回　通訳一般概論　Sight translation
第２～10回　The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation,　メモ取り、逐次通訳演習、
同時通訳入門

Davies

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「Advanced Academic English 09D」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日１限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日２限（担当教員：横山綾子）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：*The Student Times*　その他
Davies: No text is required.

091573502_0070　掲載順 :0425　　MCode:090104509_0160 ★

Advanced Academic English 09C

横山綾子　DAVIES, Alun

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09C」は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第１回　通訳一般概論　Sight translation
第２～10回　The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、
同時通訳入門

Davies

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「Advanced Academic English 09C」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日１限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日２限（担当教員：横山綾子）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：*The Student Times*　その他
Davies: No text is required.

091573502_0090　掲載順 :0445　　MCode:090104509_0180 ★

Advanced Academic English 09E

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09E」は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran

To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子

英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子

・スラッシュ・リーディングによる頭からの情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
(2)単語チェック
(3)日本語への逐次通訳練習を中心として演習を行う。
内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

火曜日２限（担当教員：難波豊子）、木曜日２限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

Advanced Academic English 09F

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09F」は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。４年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran

To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子

英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibity for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子

・スラッシュ・リーディングによる頭からの情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
(2)単語チェック
(3)日本語への逐次通訳練習を中心として演習を行う。

内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

本科目は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日２限（担当教員：難波豊子）、木曜日２限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

091574003_0110　掲載順 :0110　MCode:090109519_0020 ★

英語海外セミナー II（オーストラリア）

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

091574003_0120　掲載順 :0120　MCode:090109519_0030 ★

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group（CSCG）との共同プログラムとして、毎年２月中旬から約１ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group（CSCG）

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの５日間のインターン・１日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

091574003_0130　掲載順 :0130　MCode:090109519_0040 ★

英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England.
The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students....they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.
In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

【Course schedule】

The programme is scheduled to include:
Lessons: - English for work/General English/British Culture
Internship - At least 48 hours of work-experience
Trips / activities (often including other International Students)
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater,beach BBQ, ice-skating, karaoke evening(with hostparents),luncheon(with Internship Supervisors)

【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

091574003_0140　掲載順 :0140　MCode:090109519_0070 ★

Get together and Talk I

HARRIS, Richard S.

【Course description】

"One World Cultural Exchange" Get Together and Talk I seminar, 2009

<Course outline>

Students are provided with ample opportunities to improve their English communication skills through dialog with international students. All lectures and activities will be conducted in English. This 2-credit intensive English course is offered to all departments

Students must be available for the full length of the program and they must be motivated to improve their speaking skills in English while actively participating in all aspects of the program.

Course size is limited to 30 students.

【Course objectives】

Course objective is to participate in a cultural exchange with people from other parts of the world. Learn about international societies from native people from Asia Africa, and Europe. Your guide through this lecture Series is Richard S. Harris an American who has been teaching in Japan for over 21 years.

【Course schedule】

<Class activities and assignments>

1) International students give presentations on their cultures and participate in Group discussions.
2) Japanese students will be required to do two short written assignments about culture, one is pre seminar survey and the other is post seminar assignment.

【Assessment】

Course Assement

60% of grade will be based on course participation.
40% of grade will be based on assesment of written assignments

【Textbooks】

not required

Get together and Talk II

小沢 茂

【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。
Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。
さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【Course objectives】

There are three main objectives.
1．To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2．Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3．Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【Course schedule】

This lesson will be held on Tuesdays over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50, Wednesdays 4th and 5th Periods 3.00-6.10pm and Thursdays 3rd and 4th Periods 1.20-4.30pm.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch/or break! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.
Time Will be used for real time chat with Australian University students.Topics for discussion will differ week to week. Some example topics are listed below.

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【Assessment】

Assessment will be based on
50% Topic preparation
50% Participation

【Textbooks】

No text

【Reference】

http://www.apple.com/support/isight/

コミュニティ・サービスラーニングIA（社会貢献実習）

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域（コミュニティ）には、多様なニーズに対応した地域活動（サービス）が展開されています。本講義では、受講生全員が地域（学外）における実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。
具体的な実践活動としてIAでは、地域で活躍するボランティア団体や行政などと協働しながら、EXPOエコマネーを活用した環境活動、ボランティア啓発活動などの企画を行いながら、実践へ繋げていきます。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1．オリエンテーション
（本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明）
2．ラーニングI
1）地域活動とは？
2）地域活動の意義とその役割
3）地域活動参加にあたっての心構え
4）参加学習と各自の専攻との関連
3．ラーニングII
地域活動参加学習（活動期間は、内容により異なる）
4．ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題（レポート、発表）により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加（出席）、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

ボランティア・ＮＰＯ用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

コミュニティ・サービスラーニングIB（社会貢献実習）

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域（コミュニティ）には、多様なニーズに対応した地域活動（サービス）が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。
コミュニティ・サービスラーニング IBでは、IAでの企画・運営を受けて、地域で活躍するボランティア団体や行政等と協働しながらEXPOエコマネーを活用した環境活動の他、ボランティア啓発活動などの具体的な運営を行います。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1．オリエンテーション
（本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明）
2．ラーニングI
1）地域活動とは？
2）地域活動の意義とその役割
3）地域活動参加にあたっての心構え
4）参加学習と各自の専攻との関連
3．ラーニングII
地域活動参加学習（活動期間等は内容により異なります）
4．ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加（出席）、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献：ボランティア・ＮＰＯ用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

コミュニティ・サービスラーニング IIA（企業のCSR活動）

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会では積極的にCSR活動に取り組む企業が増加している。
また、企業の不祥事が相次ぐ中、CSR活動の重要性が高まっている。
本講義では、受講生が特定企業におけるCSR活動の企画立案に参加し、プレゼンテーションを行なう。学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を習得する。

【授業の目標】

授業前半でCSR活動の基本的知識の習得を目指し、授業後半では、前半で養った知識を活かし学外の場で発表をする。講義と学外活動を通してプロジェクトの企画・提案を創出するプロセスを把握し、必要な能力を養うことを目標とする。

【授業計画】

1　ガイダンス
2　CSR活動とは
3　企業のCSR活動（事例報告）
4　CSRに関する調査活動
5　CSR活動の企画立案
6　プレゼンテーション
7　総括

【評価方法】

出席状況と授業中の態度による。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介。

コミュニティ・サービスラーニング ⅢA（地域メディア実習）

小川明子　小島祥美

【授業の概要】

・さまざまな産業の労働者として、日本にも多くの外国人が暮らすようになりました。しかし、私たちは、買い物や交通機関などで、彼らと日常的に顔を合わせながら、その生活がどのようなものなのか、よく理解できずにいます。そして残念ながら、こうした文化や思いへの無理解や行き違いが、ときに地域社会において問題化したりします。
・この演習では、地域において、その地域に暮らす住民たちと在住外国人が、よりよく互いを理解するためのお手伝いをします。具体的には、外国人（主に、ブラジル、フィリピン）の中高生たちが、普段の暮らしのなかで伝えたいことを写真やことばを用いて映像作品にし、それをケーブルテレビやウェブサイトなどの地域のメディアで表現することでより多くの人びとに視聴してもらう現場実践型プログラム、そのお手伝いです。
・この演習では、自分たちがそれぞれの学部や専攻において、これまでの授業のなかで学んだことを積極的に生かしていってほしいと思います。（たとえば、語学、映像編集、異文化コミュニケーション、アーカイビングなど）
・この実習は昨年に続き2年目です。すべては参加者の皆さんのやる気次第ですが、きっと思い出に残る実習になると思います。このプロジェクトを面白いと思い、夏休みの一週間をそれにあててみようと考える積極的な学生さんにぜひ集まってほしいと思っています。

【授業の目標】

1）日本の地域における外国人をめぐる状況を把握する。
2）地域におけるメディアやコミュニケーションの重要性、可能性について考える。
3）大学での学習と、地域の現場との往復を通じて、実践型参加型の学習のありかたについて考える。
4）参加者間のコミュニケーションを通じて、自らプロジェクトを立案し、遂行する能力を身につける。

【授業計画】

●プレセミナー
　プレ1日目　4月（場所、日程等、詳細は学生課横ＣＣＣ掲示板にて提示）
　授業内容詳細の提示、サービス・ラーニング準備
　プレ2日目　7月（場所、日程等、詳細はＣＣＣ掲示板にて提示）
　事前調査発表
●8月集中講義日程（場所、日程等、詳細は学生課横ＣＣＣ掲示板を確認のこと）
　１日目　アイスブレーキング　グループ分け
　メディア技術研修（長久手キャンパス）
　２日目　参加学生作品制作
　３日目　現地ワークショップ1日目
　４日目　現地ワークショップ2日目
●振り返り
　9月または10月

【評価方法】

出席、授業態度/参加意欲、授業をめぐるレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

・「在日外国人―法の壁、心の溝」岩波新書 田中 宏 (著)
・「日本の中の外国人学校」明石書店　月刊『イオ』編集部 (編集)
・「メディア・ワークショップ」 東京大学出版会（2008年出版予定）
・「メディア・プラクティス」 せりか書房

【参考文献・資料】

適宜指定する

地域活動総合演習 IA

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。
本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な視点から学ぶ。
また、病院施設の現場見学や老人保健施設でレクリエーションの企画・発表を行い、地域における医療機関のあるべき姿を考察する。

【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。
また、学外活動やグループワークを通して、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】

1　ガイダンス
2　医療を取り巻く環境について
3　現代の医療の問題
4　病院見学
5　レクリエーションの企画・発表
6　グループワーク

【評価方法】

出席と授業態度の評価による。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

地域活動総合演習 IIA

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。
本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。
本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会学的に見る方法を学習します。
また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。
これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、IBの実践的な活動運営まで発展させていきます。
なお、具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）
日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

地域活動総合演習 IIB

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。
本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。
本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会学的に見る方法を学習します。
また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。
これらIAの学習を通じ、実践的な活動運営を行います。なお具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）、日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

091574003_0210　掲載順 :0210　　MCode:090109519_0140 ★

障がい者支援ボランティア入門

谷口明広　石黒文子

【授業の概要】
大学で学ぶ学生の中には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害などにより制限を受けているために、授業や学生生活においてノートテイク、手話通訳等の授業支援を必要とする人たちがいる。そこで、本授業では、これら障害のある人についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障害のある人への学生支援ボランティア活動の活性化と充実及び共に学ぶ場を作り出していくことをめざすことを目的とする。

【授業の目標】
（１）障害学生支援に関心をもち、障害のある人のニーズについて学ぶ。
（２）障害のある人への支援技術を身につけ、共に学ぶ実践を実行する。
（３）授業で学んだ内容を実際の支援ボランティア活動に結びつけ、共に学ぶ場を作っていく。

【授業計画】
１．授業のガイダンス
２．現代社会と障害のある人を取り巻く環境
３．肢体に障害がある人の理解と支援方法
　(1) 肢体障害者の理解
　(2) 肢体障害者の支援方法（生活介護）
４．視覚障害者の理解と支援方法
　(1) 視覚障害者の理解
　(2) 視覚障害者の支援方法（点字、移動問題、授業の解説）
５．聴覚障害者の理解と支援方法
　(1) 聴覚障害者の理解
　(2) 聴覚障害者の支援方法（手話通訳･ノートテイク）
６．障害学生支援ボランティア活動の実際
７．愛知淑徳大学における支援のシステム
８．共に生きる社会を目指して

【評価方法】
1.出席を評価の中心とする。
2.ボランティアの体験レポート
3.最終レポートの提出

【テキスト】
毎回の講師が指定する資料やレジュメがテキストとなる

091574003_0010　掲載順 :0235　　MCode:090104509_0100 ★

Advanced General English IG

鈴木久子　太田晶子

【授業の概要】
TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English Ⅰ」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English Ⅱ」から成る。最高、半期に２コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）まで、４年間続けて何度でも履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】
学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】
第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
・演習（リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　リーディング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
　（合計　７時間×13回＝91時間）
　リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
　（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】
出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】
掲示・配布物で確認すること。

091574003_0220　掲載順 :0220　　MCode:090109519_0150 ★

入門ボランティア

小島祥美

【授業の概要】
1997年11月の国際連合総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提唱国を得て、「2001年ボランティア国際年(International Year of Volunteers)とすることを宣言する」という決議が採択されました。1995年の阪神・淡路大震災以後、日本国内においてはボランティア活動に対する関心と理解が高まり、各地に多種多様なボランティア活動が展開されています。本講義では、ボランティア活動についての理解と認識を深め、地域での実践事例を通じ、「ボランティア活動の魅力」について学びます。なお、地域で活躍するボランティア活動実践者をゲストスピーカーとしてお招きする他、受講生全員でボランティアを体験できる場も設定する予定です。

【授業の目標】
ボランティア活動の「魅力」を学び、ボランティア活動の「楽しさ」を知り、実践活動への「参加」へ繋げることを目指します。

【授業計画】
１．オリエンテーション
２．ボランティア活動に参加することの意義を考える
３．基本的な用語とキーワードを学ぶ
４～８．地域で活躍するボランティア活動から学ぼう
９～１１．企業の社会貢献とは？
　※企業の社会貢献事業を学ぶ場として学外による活動を予定しています
１２．行政とボランティア団体とのコラボレーションとは？
１３．ボランティア団体の抱える課題とは？
１４．地域にあるボランティア･市民活動推進機関とは？
１５．総括

【評価方法】
毎回出席確認を兼ねた感想文の他、授業態度、レポート課題により、総合的に評価します。

【テキスト】
適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】
ボランティア・NPO用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

091574003_0020　掲載順 :0245　　MCode:090104509_0110 ★

Advanced General English IH

鈴木久子　太田晶子

【授業の概要】
TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English Ⅰ」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English Ⅱ」から成る。最高、半期に２コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）まで、４年間続けて何度でも履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】
学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】
第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
・演習（リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　リーディング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
　（合計　７時間×13回＝91時間）
　リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
　（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】
出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】
掲示・配布物で確認すること。

091574003_0030　掲載順 :0255　　MCode:090104509_0120 ★

Advanced General English IIG

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English Ⅰ」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English Ⅱ」から成る。最高、半期に２コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）まで、４年間続けて何度でも履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
・演習（リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　リーディング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

091574003_0040　掲載順 :0265　　MCode:090104509_0130 ★

Advanced General English IIH

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English Ⅰ」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English Ⅱ」から成る。最高、半期に２コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）まで、４年間続けて何度でも履修できる。週１回の授業で２単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習
第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
・演習（リーディング・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　リーディング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

091574003_0050　掲載順 :0275　　MCode:090542513_0140 ★

Advanced Academic English 09A

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09A」は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran
To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子
英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran
Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子
・スラッシュ・リーディングによる頭からの情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
(2)単語チェック
(3)日本語への逐次通訳練習
を中心として演習を行う。
内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

本科目は、週２回コースの授業で４単位の科目である。月曜日５限（担当教員：難波豊子）、木曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

091574003_0060　掲載順 :0285　　MCode:090542513_0150 ★

Advanced Academic English 09B

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目「Advanced Academic English 09B」は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。４年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子
英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran
In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibity for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子
・スラッシュ・リーディングによる情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
(2)単語チェック
(3)日本語への逐次通訳練習
を中心として演習を行う。
内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

本科目は、週２回コースの授業で４単位の科目である。月曜日５限（担当教員：難波豊子）、木曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。